

やまなみ

第 18 号



岳人みびこ



JINABIKOGAKUJINABIKOGAKUJINABIKO

千葉県勤労者山岳連盟

会員登録

岳人あびこ

やまなみ

第18号



手賀沼湖畔

「やまなみ 18 号」発刊に寄せて

2020 年 1 月からの 1 年余、新型コロナウィルスに明け暮れた私たちの暮らしは否応なく新しい日常の生活様式へと変えざるを得ませんでした。今やマスク無しの生活は考えられず、手洗い、消毒の励行と人との距離、常にコロナウィルスにおびえるような毎日でした。

一方、今まで山の自然に包まれ、新緑や紅葉、雪や沢、花を愛でながら仲間で歩くことの楽しさや素晴らしさが、これほど自分の人生にかけがえのない大切なものだったことが身に染みました。このような状況の中、緊急事態宣言の合間に縫って定例・準定例を合わせて 19 回実施できたことは山行部をはじめとする会員の皆さんのが勇気と努力の賜物であったといえます。2019 年度分を合わせての 2 年間のやまなみの記録をじっくり、何度も読ませていただきます。ご多忙の中、貴重な時間を割いて編集いただいた矢野貞子やまなみ編集長をはじめ、編集委員の皆様に厚く御礼を申し上げます。

また会の活動として、山行実施の無い中でも機関紙「やまたん」を一度も絶やさず発行し続けたこと、ホームページをたゆまず更新し、会員共有の記録を発信したこと。コロナ状況に合わせて、密にならないような会議室の確保や Zoom を利用しての Web 会議の実施等、コロナ禍ならではの試みができたこと、そしていつも参加し続けてくださった会員の皆さん、これから山行を考える 3 つのワーキンググループの討議が続いていることも特筆すべきことです。時間をかけてゆっくりと会員の皆さんお一人お一人がこれから安全登山を自立した登山者として考え、組織を創り上げる新たな取り組みができたこともコロナ禍でのピンチをチャンスに変えた逆転の発想ともいえます。

こうして挙げただけでも岳人あびこの会員・会友の皆さんの視点と見識の高さを感じずにはいられません。コロナ禍だからこそ本物の価値を認識できたといえます。発刊される「やまなみ 18 号」への特別な感慨を胸に刻んで、改めて皆様に感謝いたします。



ありがとうございました。

岳人あびこ会長 高橋芳恵

やまなみ 第18号 目 次

「やまなみ第18号」発刊に寄せて

平成31年～令和2年度会長 高橋芳恵

平成31年(2019年)3月～令和2年(2020年)2月

No.	山 名	山域	月 日	執筆者	頁
1102	奥日光スノーシュートレッキング	日光	3/9～10	藤家 一仁	1
1103	愛宕山～比叡山	京都北西部	3/9～11	室崎 宏治	2
1104	伊豆ヶ岳～子ノ権現	奥武藏	3/17	小野 泰子	4
1105	百蔵山～扇山	中央線沿線	3/24	一氏 照美	5
1106	宝篋山（新人歓迎山行）	筑波山系	4/7	やまたんより 転載	7
1107	神成山 (県連ウィークデー山行)	西上州	4/11	石塚 あさ子	10
1108	御岩山～高鈴山	常陸	4/12	新谷 直恵	12
1109	笛子雁ヶ腹摺山	中央線沿線	4/13	小林 安代	13
1110	加波山～筑波山	筑波山系	4/14	郷田 進	14
1111	日光高山	日光	4/19	林 敏生	16
1112	城山～発端丈山 ・沼津アルプス	伊豆	4/21～22	一氏 照美 高橋 芳恵	18
1113	堂所山～景信山	中央線沿線	5/14	小山 三恵	20
1114	丹沢山～蛭ヶ岳～檜洞丸	丹沢	5/17～18	矢野 貞子	22
1115	玉原高原	上信越	5/18	村松 敏彦	24
1116	那須茶臼岳～朝日岳 (市民山行)	那須	6/2	やまたん特集号 より転載	25
1117	庚申山	足尾山系	6/16～17	高橋 芳恵	35
1118	岩手山	奥羽山脈	6/20～21	佐藤 清宏	37
1119	和賀岳・女神山	真昼山塊	7/4～6	武内 勇二	39
1120	天狗岳（八ヶ岳）	八ヶ岳	7/20～22	小島 洋子	42
1121	日光高山	日光	7/21	飯塚 秀子	44
1122	白山（御前峰）	白山	7/21～23	桐生 恭子	45

No.	山名	山域	月日	執筆者	頁
1123	鳥海山	出羽山地	7/25~27	矢野 朝水	48
1124	黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	7/28~31	佐藤 清宏	50
1125	会津駒ヶ岳	南会津	8/4~5	土田 義二	52
1126	北岳～間ノ岳	南アルプス	8/24~26	松下 寿男	54
1127	木曽駒ヶ岳～越百山	中央アルプス	8/24~27	北田 仁則	56
1128	道東三山 (羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳)	北海道	9/5~9	大平 太計夫 外崎 蓮 武内 勇二	59
1129	池の平湿原 ・竜ノ登山～水ノ塔山	上信越	9/14~15	小島 徹	64
1130	金峰山	奥秩父	10/19~20	田嶋 まり	65
1131	黒檜山～駒ヶ岳	上州	10/20	高橋 富美子	67
1132	三峰山～妙法ヶ岳	奥秩父	11/1	新谷 直恵	69
1133	乾徳山	奥秩父	11/1	小島 徹	70
1134	表妙義自然探勝路（中間道）	上州	11/9	村越 百々代	72
1135	石垣山	小田原	11/30	箕輪 完二	73
1136	手賀沼クリーンハイク	我孫子・柏	12/8	小島 洋子	75
1137	丹沢大山	丹沢	12/14	本田 愛子	76
1138	竜ヶ岳・足和田山 (クリスマス山行)	富士周辺	12/21~22	齊田 記代美	77
1139	景信山～陣馬山	中央線沿線	1/12	秋山 稔	79
1140	上州武尊山	上信越	1/19~20	郷田 進	81
1141	北八ヶ岳（茶臼岳～縞枯山）	八ヶ岳	2/7~8	矢野 裕子	83
1142	幕山～南郷山縦走 (新人卒業山行)	箱根	2/8	土田 義二	85
1143	曾我丘陵	小田原	2/15	小山 三恵	87
1144	丹沢山	丹沢	2/20~21	田村 光子	88
1145	足和田山	富士周辺	2/28	藤家 一仁	90
	岳人祭開催				91

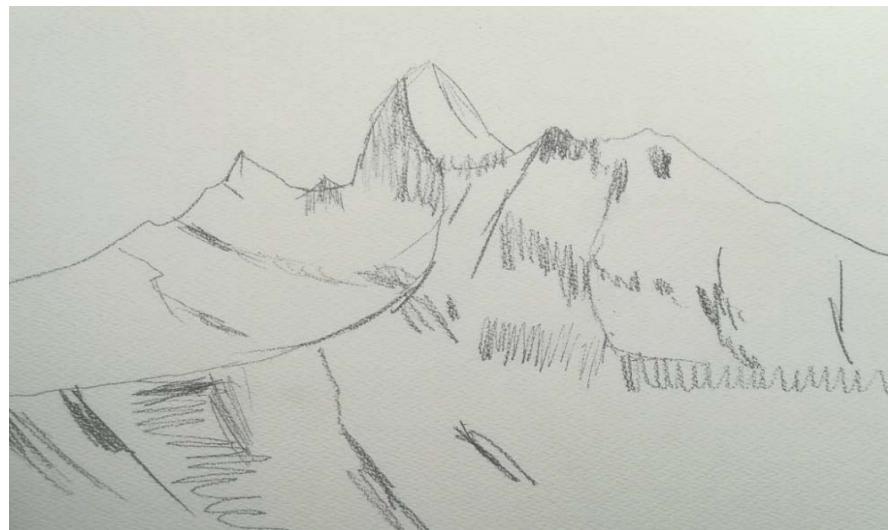
令和2年(2020年)3月～令和3年(2021年)2月

No.	山名	山域	月日	執筆者	頁
1146	鋸山	房総半島	7/5	白崎 哲史 高橋 富美子	95
1147	日光高山	日光	7/19	川村 あき子	98
1148	御岳山～日の出山	奥多摩	8/10	土田 義二	100
1149	半月山～阿世潟峠 ・切込湖～刈込湖	日光	8/21～22	矢野 朝水	101
1150	高妻山～乙妻山・飯縄山	北信	9/10～12	北田 仁則	103
1151	磐梯山	会津	9/27	藤家 一仁	106
1152	焼岳	北アルプス	9/29～30	中村 育子	108
1153	日光白根山	日光	10/2～3	細谷 秀次	110
1154	那須岳（沼原湿原）	那須	10/11～12	大山 冬臣	112
1155	信越トレイル (涌井～鍋倉山～関田峠)	信越	10/15～16	秋山 稔	115
1156	檜洞丸	丹沢	10/21～22	外崎 蓮	117
1157	大杉谷～大台ヶ原 (日出ヶ岳)	南紀台高山脈	10/29～ 11/1	高橋 芳恵	119
1158	横尾山・瑞牆山	奥秩父	10/30～31	郷田 進	122
1159	滝子山	中央線沿線	10/31	吉川 みよ子	124
1160	大菩薩嶺	大菩薩	11/8	蟹江 和子	126
1161	北高尾山稜	中央線沿線	11/14	森岡 正和	127
1162	筑波山 (県連交流山行)	筑波山系	11/15	深草 茂美	129
1163	手賀沼クリーンハイク	我孫子・柏	11/22	高橋 英雄	131
1164	小櫃川（四郎治沢）	房総半島	12/19	千葉 有子	132
寄稿	心に残っている山	岩と雪の殿堂「剣岳八ツ峰」登攀			村松 敏彦
					135

No.	山名	山域	月日	執筆者	頁
寄稿	心に残っている山	思い出の山 「八ヶ岳」		石垣 吉朗	137
寄稿	心に残っている山	日本百名山制覇達成を目指し 15日間の「東北・北海道一周」の山旅		矢澤 節雄	138
寄稿	個人山行	奥利根 檜俣川本流遡行		小林 隆	142
寄稿	個人山行	秋田森吉山 桃洞沢遡行～赤水沢下降		白崎 哲史	143

表紙 ⇒ 上州武尊山のやまたんより転載

室崎 宏治氏 スケッチ題「アマダプラム（6512m）」



写真提供 (P94 岳人あびこ富嶽集) 深草 茂美氏

土田 義二氏

**平成 31 年度
(令和元年度)**

2019(平成 31 年)3 月～

2020(令和 2 年)2 月

<1102>

奥日光スノーシュートレッキング

藤家 一仁



湯の湖を望む

スノーシュートレッキングに参加して

スノーシューには以前から興味があり、今回スノーシュートレッキングに参加させて頂いた。岳人あびこ山行の定刻でもある我孫子 5:31 発、今回の参加は男性 2 名女性 4 名で北千住経由で奥日光へ向かう。奥日光へは「まるごと日光東武フリーパス」を購入。日光市内のバスが 4 日間乗り放題となり大変お得なチケットである。初日は奥日光湯元周辺のスノーシューコース、3 本のコースは、位置番号表の他にコース毎に色別の布リボン目印がつけられている。日光湯元ビジターセンタでスノーシューをレンタルし、敷地内の別棟にある無料休憩所（コインロッカー・電子レンジ・更衣室有り）で軽く昼食を済ませた後、1 日目は石楠花平コースから、蓼ノ湖へのコースを楽しむことを全員で確認しフィールドへ。初めて履くスノーシュー、最初は少し違和感を覚えたが、それも最初の 4~5 分で慣れた。適度な斜面と雲一つない青い空と、白い雪とのコントラストが鮮やかに作り出す美しい景観に魅せられ、自然と一体となった静寂の中で一同感嘆の声を上げ気持ちよく自然を楽しめた。すっかりスノーシュートレッキングの魅力にはまった。今後も機会があれば是非参加・計画したいと思います。

初日のトレッキングは 15 時半で終了し、日光湯元ビジターセンタへレンタル品を返却後、温泉宿へ。日光湯元温泉の宿は「おおるり山荘」。リーダーの説明会時には食事には期待出来ないと事だったが、朝夕ともバイキング形式で夜はアルコール付きでとても満足できる宿であった。が、残念な点は設備・備品等が部屋により濃淡があり中々そこまでは手が回らないのかなと感じた。泉質は大満足で、3 月の割安宿泊プランであり大変満足いく宿であった。

食事後、皆さんで集まり翌日のプランを検討。当初から天気、コンディションによりスノーフィールドを検討することとしており、戦場ヶ原・光徳コースはコンディションも悪そうなことから、日光市内の滝尾神社を中心とした日光歴史散策を行うこととした。

翌朝、日光市内へ戻り滝尾神社へ。神橋から 30 分ほど歩き、生い茂る木々の中に立つ二荒山神社の別院である。境内には 3 体の御神木があり近年パワースポットとして注目されているとのことで、観光客も訪れていた。また、境内では「ミソサザイ」を初めてみた。小さな体に似合わない大きな美声で長くさえずっており、とても癒やされる半日であった。

見事な杉林のなか花粉症の方には少しつらい時間でもあったが、日光の街並みを散策し、café で反省会を行い帰路に着いた。

たまには、こんな山行もいいですね！ 参加者全員の感想であった。

概 要

山名	奥日光スノーシュートレッキング		
月日	2019 年 3 月 9 日(土)～10 日(日)		
山域	日光	地形図 1/25000 男体山	
形式	民宿泊 1 泊 2 日	グレード	1 A
目的	スノーシューで蓼の湖へ 冬の自然を楽しむ		

費用	約 13000 円	交通機関	J R 東武鉄道 東武バス		
日程	一日目	3/9 我孫子 5:31→北千住 5:53/6:11→南栗橋 7:03/8:00→東武日光 9:16⇒JR日光駅バス停 9:32→湯元温泉 11:00⇒ビジターセンター 11:10/30⇒休憩所 11:35/12:10⇒金精の森入口 12:30/35⇒石楠花平コースを経て蓼の湖入口 13:00/05⇒蓼の湖 13:40/14:00⇒蓼の湖入口 14:40/45⇒ビジターセンター 14:55/15:05⇒おおるり山荘 15:15			
	二日目	山荘 8:15⇒湯元温泉 8:20/36→バス→東武日光 9:43/10:05→バス→神橋 10:10⇒滝尾神社 11:00/30⇒輪王寺 12:00/13:10⇒明治の館 13:45/14:32⇒東武日光駅 14:35/57→北千住 16:32/38→我孫子 16:59			
ルート状況	奥日光湯元周辺のスノーシューコースは、3本あります。 石楠花平コースを経て蓼の湖へ 後にビジターセンターへ戻るコースを選ぶ。 コース上 国道120号線は雪の吹き溜りがあった。 蓼の湖の近くには、小さな雪崩跡も見受けられた。				
参加者	中村八郎 北田史郎 矢野裕 田嶋 村越 藤家 男2 女4 計6名				



「蓼の湖へ 木立の影」

<1103>

愛宕山～比叡山
(924m) (848m)

室崎 宏治



愛宕山神社本殿前

京都の山を歩く

京都西北部を貫く幹線山脈の祖父谷峠より飯森、天童、東股を経て衣笠峠の鞍部で旭日峯に接続し一躍隆起して愛宕山となり清滝川に消えるまでの一連の山群の盟主とも言えるべきが愛宕山である。地蔵山を初め、三頭山、竜ヶ岳、朝日山等みなこの山の支峰的存在である。以上を以ってしても山容の大なることは想像に難しく無からう。というと、とても優秀な山に聞こえるが、豈図らんや、ケーブルがあり、頂上の遊園地化した状態を見ればゲッソリする。だが一步歩を転じてその裏山に足を踏み入れよう。愛宕山にこんな所があったのかしらん、というところがある。あるいは群篠風になびき静寂の気全山に漲り、北山連山にも劣らぬような光景が、あるいは峰に、あるいは谷に満ちているのである。この愛宕の俗化云々は自然と念頭を去るであろう。

月輪道は往時この道が愛宕山の本道であったが、行路峻険を以ていまの本道に変わったそうである。

確かに、今の表参道ののんびりした登りに比べると傾斜はきつい。しかし、きびきびした登り

を楽しめる。清滝から 1 時間ほどで登ってやや汗をかいたころ月輪寺に着く。少し長い休憩をしてお寺を拝観する。この寺は法然、親鸞、空也上人の練行の地、九條兼実の遁世の地とか言われており、国宝数点があるらしい。この神社は「火迺要慎火の用心」のお札が有名である。愛宕大権現は、古来火伏せの神として尊崇されてきた。神社のあるところが最高点九二四メートル、ル三角点のピークは八四〇メートルと低い。これはちょっと不思議な気がするが、三角点の権威者に聞くと、このような例は日本中いくつもあるそうだ。理由として、最高点に神社・仏閣がある場合と、測量の見通しのよさの二つが考えられるとのことである。愛宕山は前者なのだろうが、後で三角点に行くと、後者も関係しているように思えた。そして神社のほうは山城、三角点は丹波に別れている。

昔アタゴスキーチ場へ行く道だったらしい広い道を北に行き、10 センチほど雪の積もっている杉林に入り、ややガレ場状となった尾根を抜けて三角点に着いた。明るく見晴らしは良いのだが、三角点は崖上にありいまにも落ちそうである。この一帯は砥石の採石場で、二〇年くらい前から五年ほど前まで掘られ、削り削られて現状になったそうである。記念撮影の行事を終えて下る。ピークから砥石を採った跡のガレ場を南東に下って道に出る。

横川 御神籤の元祖

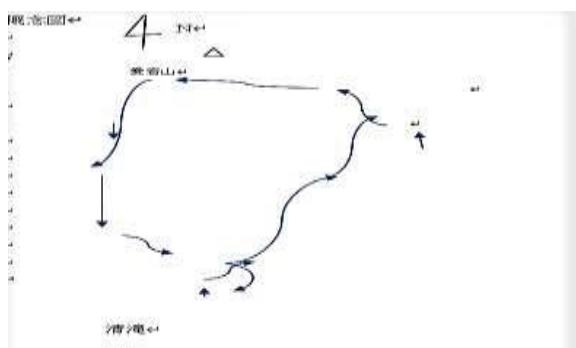
石山寺 源氏物語の構想を練った一部執筆した処 部屋がある 紫式部日記

概 要

山名	愛宕山～比叡山		
月日	2019 年 3 月 9 日(土)～11 日(月)		
山域	京都北部 西部	地形図 1/25000 京都北山	
形式	宿坊泊 2 泊 3 日	グレード	2 A
目的	京都探訪		
費用	35000 円	交通	J R、タクシー

		機関
日程	一日目	我孫子5:31→日暮里→東京駅発6:26 →京都9:16→嵯峨野9:55→タクシ ー→清滝 10:12/22 ⇒ 10:57/11:02 (休) ⇒ 5合目11:38/50 ⇒ 水尾分か れ12:10/20 ⇒ 愛宕神社13:10/20 ⇒ 拝殿13:25 ⇒ 月輪寺14:34 ⇒ 駐車場 15:33 ⇒ 清滝16:00 ⇒ 嵯峨野→比 叡山口 ⇒ 比叡山→宿 <歩行時間 6 時間 38 分>
	二日目	宿6:00 ⇒ 京都駅→湖西線→坂本→比 叡山→タクシー→石山寺→京都⇒ 宿
	三日目	宿6:55 ⇒ 京都駅→下鴨神社⇒ 京大⇒ 吉田山⇒ 真如道⇒ 黒谷⇒ 御所→京 都駅→我孫子19:30 <歩行時間 5 時間>
ルート 状況	愛宕山参道はよく整備されている	
参加者	室崎 L 外崎 SL 小野 石塚 男 1 名、女 3 名 計 4 名	

概念図



愛宕神社境内前

<1104>

伊豆ヶ岳～子ノ権現
(851m)

小野 泰子



伊豆ヶ岳山頂

正丸駅にて下車。早春のおだやかで明るい陽光のもと歩き始める。山間の集落のゆったりとした佇まいの庭ではウメ、フクジュソウ、フキノトウ。道沿いではヤブツバキ、キブシが目に入る。登山道に入ると杉林の中の登りとなる。結構な勾配。大藏山、五輪山を越え、いよいよ伊豆ヶ岳へとなる。鎖の岩場コースは通行禁止。女坂を登り伊豆ヶ岳山頂(851m)へ到達。予定よりかなり速いペース。山頂に説明板があり伊豆ヶ岳の名の由来が3説紹介されていた。①山容を表すアイヌ語の「イズ」から説 ②快晴の日、山頂から伊豆まで見えるから説 ③柚の木由來說。ここは「関東ふれあいの道」なので環境庁、埼玉県が設置している。面白く楽しめる。

早い到着だったので昼食は先延ばしにして歩き始める。古御岳を通過してから昼食となる。途中行き交う登山者は少なかったがここまでくると流石に人は多い。次第に雲が広がり太陽が隠れる。歩き出し高畑山通過、天目指峠到着。ここにも説明板設置。なんと山中のうなぎ伝説。タブーの鰻を採って食べたため部落が流されたという

話である。単なる案内板でなくちょっとしたお話を記載されている。

杉林では植生が単調だが植林されていないところでは色々楽しめる。アセビの花、標高の高いところは蕾で低くなると開花が多い。気温の影響と考えられる。日陰は花付きが悪く、日向の花付きは良い。当たり前だが光合成で養分を蓄えないと花芽は作れないと感じる。途中雪が舞い、雨も落ちてくる。どちらも長続きしない降りで助かった。次の目的地「子ノ権現」をめざす。登り降りを繰り返しようやく到着。足腰の神様なので奉納されている大草鞋、大下駄、ハイヒールにびっくり。しっかりとお参りしました。落雷のため燃えた大木にも驚かされる。伊豆ヶ岳、子ノ権現をまわり帰路の西吾野駅を目指し歩き出す。ヤブツバキ、シダのイノモトソウなどを眺めながら降る。とにかく歩く。15.8Kmのロングコースは無事終了。リーダーを含め17人の参加者の皆様、好調なペースで頑張りました。天候は快晴、晴れ、雪、雨とさまざま楽しめました。伸びやかな風景の中の一日、とても楽しかったです。皆様に感謝です。

概 要

山名	伊豆ヶ岳～子ノ権現		
月日	2019年3月17日		
山域	奥武蔵	地形図	1/25000 伊豆ヶ岳、原市場
形式	日帰り	グレード	2A
目的	早春の奥武蔵ロングコースを歩く		
費用	2,500円	交通機関	JR・西武池袋線
日 程	我孫子 5:31→柏 5:35→日暮里→池袋 6:22/7:05→正丸駅 8:30/45 ⇒分岐 9:10/15⇒稜線（五輪山へ）10:25⇒伊豆が岳 10:35/55⇒古御岳 11:18/50 昼食)⇒高畑山 12:28⇒中ノ沢の頭 12:55⇒天目指峠 13:20/25⇒子ノ権現 14:38/58⇒西吾野駅 16:23/52→池袋 18:12→柏(19:01/反省会/20:10解散) <歩行時間 6時間 20分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・奥武藏の人気コースなので登山道は分かりやすく迷うことはなかった。 ・伊豆ヶ岳の山頂はあまり広くないので山頂直下又は先のピーク古御岳が静かで広く休憩には良い。 ・縦走路の高畑山から中ノ沢の頭の辺りが植林やアンテナ工事で工事車の道が登山道の横にあった。 ・正丸駅から子ノ権現までロングコースでトイレがない為、多くの登山者が途中お花摘みに行くので天目指峠の林道沿いにトイレがあると助かる。
参加者	<p>本田 L 箕輪 SL 北田 大平 田村 矢野裕 森岡 石塚 秋山 蟹江 高橋富 小島徹 矢野朝 大畠 田嶋 小野 箕輪カ (会友) 男7 女10 計17 (会友1)</p>

概念図



子の権現境内 金のわらじ前

<1105>

百蔵山～扇山
(1003m) (1138m)

一氏 照美



扇山山頂

百蔵山から扇山への縦走

あなたの行きたい山のアンケートで “百蔵山から扇山” を提案させていただきましたところ、さっそく3月23日に実行していただきました。

百蔵山は大月市秀麗富岳一二景の七番目に選ばれている山です。前山を従えて十二单を着たような富士山が眺められるのが特徴です。

急登ありアップダウンありと、なかなか難しい山ではあるのですが富士山を背景に登っていくので、心が癒されて苦にはなりません。

3月23日の予定でしたが、お天気があまりよくなく24日に変更したので当日は抜けるような青空の天気となり最高の登山日となりました。

まず、浄水場登山口で地図読みの講習です。プレートコンパスの持ち方、正置の方法のレクチャーを受けました。机上講習よりも実際の山を前にして受ける講習は大変良く理解できました。

9時30分登山開始です。はじめて先頭を歩かせていただいたのですが、歩く速さ、目印を見逃さないかと緊張でいっぱいでした。

コンパスで進行線を調整しながら百蔵山、コタラ山、大久保山と急登アップダウンを経て扇山に

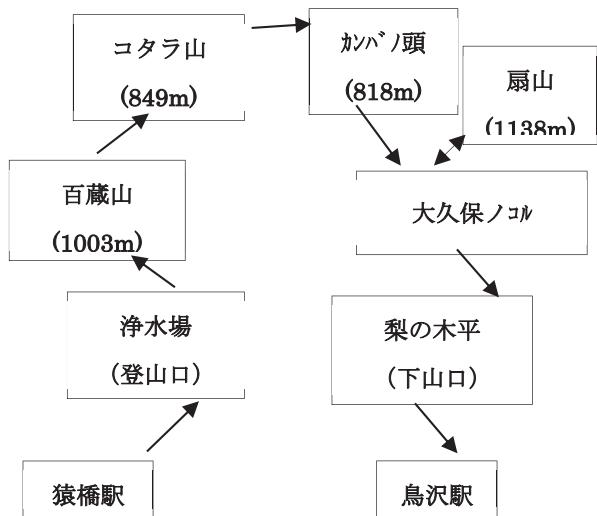
到着しました。ここでも素晴らしい富士山を眺めて鳥沢へと下りました。

6時間を超える山行でしたが、満開の梅の木、きれいな富士と大変楽しい山行でした

概要

山名	百蔵山～扇山		
月日	2019年3月24日(日)		
山域	中央線 沿線	地形図	1/25000 関本
形式	日帰り	グレード	2A
目的	富士山展望、里山の景色		
費用	3,000円	交通機関	電車、タクシー
日程	我孫子駅 5:33→猿橋駅 8:11(タクシー) → 浄水場(登山口、地図読み) 8:26/40 ⇒ 地 図読み 9:19/29 ⇒ 百蔵山(地図読み) 10:20/28 ⇒ コタラ山 ⇒ 宮谷分岐 11:03 ⇒ カンバノ頭 11:33/37 ⇒ 大久保山(昼食) 12:23/50 ⇒ 大久保ノコル 12:55 ⇒ 扇山 13:03/20 ⇒ 大久保ノコル 13:27 ⇒ 梨の 木平 14:25/35 ⇒ 鳥沢駅 15:25/33 → 高 尾駅(反省会・花見) 16:10/17:59 → 我孫子 19:49 <歩行時間: 5時間20分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 浄水場登山口～百蔵山へのルートは、地形図に表記はないが、立派な登山道である。 下山使用の急勾配、訓練を兼ねあえて選択。百蔵山から扇山縦走路で途中の大久保山(1109m)は高低差300m以上あり直登ルートでかなり厳しい。百蔵山、扇山とも山頂部分は広く富士をはじめ多くの山々が眺められる。梨の木平経由で鳥沢まで徒歩で下山、少し時間を要するが問題はない。 		
参加者	郷田L 一氏SL 小島徹 深草 小林安 蟹江 男3、女3 計6名		

概念図



富士の眺め最高(百蔵での集合写真)



樹齢400年の桜(高尾駅前)

<1106>新人歓迎山行

宝篋山 (461m)

秋山 稔
川村 あき子
土田 義二
富井 容
布能 英子
増田 なをみ



頂上全員集合

新人歓迎会宝篋山に参加して

秋山 稔

楽しいの一言に尽きる山行でした。

単独、2~3名では味わえない楽しい山行でした。感謝 感謝。久しぶりのBBQ 火起こしに悪戦苦闘 着火成功も疲労困憊、山登りより疲れ。その後 吞んで食べるだけの体たらく。4班のメンバーにご迷惑をかけてしまいました。ただ食後にドリップコーヒーを入れ、挽回。重い道具を持っていって本当に良かった！食後のゲームでは 童心に返り夢中になり、結果は2位でハイタッチ。

会員の皆は春の息吹を感じながら景色に花に「ウグイスカグラの木は珍しい！」など、余裕をもって山行を楽しんでおられました。

私もゆったりとした 年相応の楽しみ方を深めたいと思っております。

宜しくご指導のほどよろしくお願ひ致します。

追記

B B Q で余った野菜をポリ袋一杯頂きました。翌日から6日間、手を替え、品を替え毎日食べさせられました。有り難う御座いました。お腹一杯だ！

川村 あき子

当日は好天に恵まれて、又新人歓迎山行に参加させて頂きましてありがとうございました。宝篋山は友人に誘われてからは、一人でも登る事が出来る山でしたので臆せずのぞむ事が出来ました。山は、新緑の様相を呈して、山桜を見たり、春の芽吹を感じながら、下山出来ました。その後、バスの車窓からは、春爛漫の景色が飛び込んで来ました。ワクワクしながら一路、筑波山神社より懇親会会場の「筑波ふれあいの里」へと歩みを進めて行きました。楽しみにしていたBBQで歓待を受けました。カンパイの後の食べきれないほどのご馳走を頂きました。終わりは、ゲームで盛り上がりしました。帰りは、バスのなかで、色々お喋りして、楽しく過ごさせて頂きました。会員の皆様方には、本当にお世話になりました。これからは、1Aから頑張って、ついていきたいと思います。

どうか、ご指導のほど宜しくお願ひ致します。

土田 義二

4月7日早朝6時きっかりに我孫子駅近くの集合場所からバスが出発して、一路筑波山の一角宝篋山、小田休憩所の登山口に。私は筑波山には2度ほど登ったことがありましたが、その周辺の山々に登るのは初めてでした。高度は低いですが、小さな滝や花も楽しめて家族で行くには適当な山だと思いました。そして、筑波山周辺の山に登る人が多いのにも驚きました。新会員歓迎登山に会員総数の8割近い43名が参加していただき、その人数の多さにビックリです。BQの準備は勿論、ゲームまで用意されていて大変和やかな雰囲気で過ごすことができました。更にあらかじめ5つの班決めがされていて、その班ごとの行動を確認され、新会員にとって自分の班の方々と、取り敢

えず親しくなる様にと、木目細かく心配りがされていました。新人研修、定例研修等大変真面目に運営されていて、新しい人にも皆さま気配りしていただいてこれから活動が楽しみになる歓迎登山でした。今は準会員ということで、山行き2回で正会員と聞きましたので、早く正会員になれるよう、あと一回の山行きに早く参加したいと思いますので、先輩諸氏の方々、宜しくお願ひ申し上げます。

新人歓迎山行に「ありがとう」の一言

富井 容

新人を暖かく迎えていただきありがとうございます。

我孫子駅から集合場所に行く間に、既に山行は始まっていました。スーパーの前で食材について楽しそうな会話が聞こえ、いっぺん岳人あびこの皆さんだと思いました。いつも思いますが、登山は仲間と会った時の楽しい会話から始まるんですね。

バスの中でも楽しい会話の花盛り、車中より桜並木を眺めながら新たな出会いと思い出が増えることを楽しみにしていました。

車中からは、色とりどりの花たちに囲まれている山を見て、今からあの中に私も包まれに行くんだと、心がうきうきして早く皆さんと登りたいという気持ちが湧いていました。

山は、鳥のさえずりと花々で私たちを迎えてくれ、川のせせらぎと木々を流れる風が音楽を奏で、心を癒してくれました。霞ヶ浦を一望できる景色は、山に来なければ見ることができない風景です。

ここに来られて幸せだと思える瞬間のために、汗を搔き疲労と戦いながら頂上を目指して登り続ける楽しさが素晴らしいと思っています。

また、一番最後の下山となり、大変申し訳ありませんでしたが、時間が許される範囲での寄り道も楽しかったです。元禄こぶしの花の下でのひと時や頂上の砦跡の散策など、班の皆さんと一緒に良い思い出が作れたと思っています。

下山後のバーベキューは、盛り沢山の食材と飲み物で、食事作りや会話を楽しみ、大勢で協力し合って食事の輪を囲むことができたことが楽しく、岳人あびこの皆さんの結びつきの強さを知ることが出来ました。ゲームは、工夫を凝らしていて、酔っていても楽しく騒げて、性格が解る内容で楽しかったです。流石ですね。

岳人あびこの皆さんの山行への準備に対する手際の良さと前向きな気持ち、組織力には驚かされました。そして、新人への細やかな配慮に感謝いたします。

私は、一年前に病氣で三回手術して、四か月ほど入院をしていました。

今、こうして登山ができ、皆さんと楽しいひと時を過ごすことができたことは、夢のようです。これから皆さんと一緒に山行の多くの思い出を心に刻んで行きたいと思っています。

今後ともよろしくお願ひいたします。

新人歓迎山行に参加して

布能英子

岳人あびこに入会させていただき、新人歓迎会をかねた宝篋山登山とバーベキューを開催して頂き誠にありがとうございました！一言御礼申し上げます！

私は登山が好きで、偶然友人の紹介で岳人あびこに入会させていただきました。はじめは不安だらけでしたが、今回の歓迎会を通して、皆様がとても優しく接していただき不安を解消することができました！

登山に対しては初心者ですので何かとご迷惑をおかけすることもあるかもと思いますが一生懸命皆様に付いて行きますので今後とも宜しくお願ひします！

宝篋山新人歓迎山行の感想

増田なをみ

新人歓迎山行では大変お世話になりました。色々と盛り沢山の楽しい一日でした。

桜の開花後、寒い日が続いたため、あちこちで咲いている桜を宝篋山へ向かうバスの車窓より楽しむ事が出来ました。宝篋山は、低山ながら変化に富んで、私の好きな山の一つです。

小さな沢を渡ったり、足元に小さな白や紫の花を見つけたり、せせらぎの音や野鳥のさえずりを聞きながらの里山歩きは、春をいっぱい感じました。

また、下山後のBBQでは、皆様の温かい心遣いを感じ、ゲームのジャンケン大会では大いに盛り上りました。

皆様の用意周到な準備やご苦労があつての事だと感謝してます。有難うございました。

概要

山名	宝篋山		
月日	2019年4月7日(日)		
山域	筑波山系	地形図 常陸藤沢	1/25000
形式	日帰り	グレード	1A
目的	新人歓迎山行及び会員親睦		
費用	6250円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子駅北口ふれあい広場前 6:00→ 柏IC→北土浦IC→宝篋山小田休憩所 7:10/16⇒極楽寺コース白滝 7:50 ⇒ニコニコ岩 8:00⇒常願寺コース交流点 8:35⇒宝篋山頂 8:45/9:20⇒常願寺コース合体木 9:40⇒尖浅間山頂 9:47⇒ザル池 10:35⇒宝篋山小田休憩所 10:40/11:20→筑波山神社入口⇒筑波ふれあいの里(昼食・懇親会)⇒筑波山神社入口 16:30→北土浦IC 17:10→谷和原IC→我孫子駅北口ふれあい広場前 19:00 (歩行時間3時間)		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山コースは、全部で6コースあり、登山道は良く整備されている。 極楽寺コースは、小さな滝がところどころあり、心が癒やされる。 		

	・標高461mの山であるが関東平野を一望できる。
参加者	1班: 藤家GL 外崎SL 矢野貞 郷田 田嶋 小野 板倉 小島徹 川村 2班: 北田L 高橋芳SL 箕輪 矢野裕 小島洋 森岡 室崎 増田 飯合(会友) 3班: 小林安L 武内SL 中村八 中村育 大平 佐藤 松下 富井 4班: 蟹江L 桐生SL 高橋英 村越 深草 白崎 一氏 秋山 5班: 高橋富GL 村松SL 本田 齊田 林 石塚 小林隆 土田 布能 男21 女22 計43(会友1)

概念図



<1107>県連ウイークデー山行

神成山

(321m)

石塚 あさ子



神成山(竜王ピーク)にて

第 21 回県連ウイークデイ山行

前日の夜中まで激しく振っていた雨も嘘のように晴れ上がった朝、7時30分我孫子を出発しました。県連のウイークデイ山行、私達のバスは、松戸山の会5名、東葛山の会27名、岳人あびこ6名、かがりび山の会2名の計40名です。他千葉発のバスと合わせて総勢66名の大所帯の山行です。すっきりとした空気の澄んだ晴天で高速道路からは先日の雪で真っ白な頭の富士山が良く見えました。途中の高速道路のSAで合流した千葉発のバスと共に宮崎公園の駐車場に着きました。

桑原会長さんの挨拶のあと出発です。一班は岳人あびこ6名とかがりび山の会2名で先頭です。西中学校の脇を通り登山道に入りました。登山道はよく整備されていて歩きやすいです。神成山は神成山9連峰別名富岡アルプスとも言われている山で幾つもの小ピークがあり、最初ピークの見晴し台からは麓の街並み、雪景色の上州の山々が良く見えます。そしてピンクのミツ葉ツツジが迎えてくれました。地元の山だけあっていくつもの登山道がありますが、しっかりと可愛らしい道標が

あります。また道標の下には春蘭が可愛らしく咲いていました。

本丸跡地で衣服調整の休憩をとり宇芸神社分岐を過ぎ、今までなだらかな稜線歩きが続いていましたが、急なアップダウンの道になりました。一気に登って神成山山頂に到着。周りにはミツ葉ツツジのピンクの花が盛りです。いくつかの小ピークを越え吾妻山へ。吾妻山の手前の鞍部にオキナグサの保護地があり綺麗にはずかしそうに下向きに咲いていました。絶滅危惧種だそうです。感激です。吾妻山から今日の山行で一番急な下り坂を下って、新堀神社に到着です。大きな桜の木の花も満開です。気温の低い日が続いたので、散らずに花をつけていてくれました。ここで昼食タイムです。テーブルや椅子に見立てた丸太があり皆で囲み食事しました。

新堀神社から旧姫街道と呼ばれている一般道に降りる途中に、オキナグサの保護地があり、沢山のおきなぐさが可憐な花を付けていました。今がちょうどいい花の時期の様です。街道の交差点の右角の家の庭に本当に大きなサボテンがありました。ガイドブックにも載っているほど有名ですが、残念ながら誰も住んでいないようです。

サボテンの家を左に曲がり、出発地の宮崎公園に戻ります。道すがらどの家の庭にも沢山の花々が手入れされており、目を楽しませてくれました。中には花桃の木の上に猫が乗っていたりしてびっくりさせられました。途中、羽根つきの羽の錘に利用される大きなムクロジの木がある宇芸神社で休憩し、記念写真を撮った後に、満開のツツジが咲く宮崎公園に戻りました。宮崎公園の案内板にはミツ葉ツツジと思っていた花がイワツツジと書かれていました。

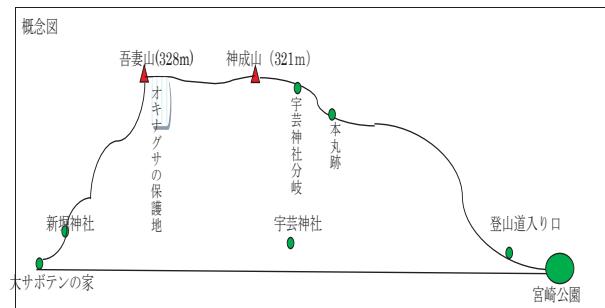
日本一美しいハイキングコースと書かれた看板が隋所にあり、まさに看板通り地元の方々の山に対する愛着とやさしさの感じられる、春爛漫のハイキングコースでの山行でした。そしてそれぞれのバスに揺られて帰路につきました。県連ハイキング委員としての役割、又当山行の主幹として

先頭を任せられ常に周りに気を配られた深草さん
お世話になりました。有難うございました。

概要

山名	神成山		
月日	2019年4月11日(木)		
山域	西上州	地形図 馬頭	1/25000
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	“県連ウイークデー山行” 「花咲く 日本一美しいハイキング コースを歩く」		
費用	5000円	交通機関	貸切バス
日程	我孫子 7:30→宮崎公園 10:25/45⇒本丸跡 11:10⇒神成山 11:25/35⇒宇芸神社跡 12:00⇒打越の御嶽さん⇒吾妻山 12:27/40⇒新堀神社(昼) 12:44/13:10⇒大サボテンの家(休憩) ⇒宇芸神社 13:40/14:00(休憩)⇒宮崎公園 14:20/35→我孫子 17:00 <歩行時間3時間30分>		
ルート状況	ハイキングコースとしてよく整備されている。分岐等誤り易い箇所には全て道標が設置されている。この時期は桜、やま躑躅、二ホンオキナガサ等の花々が多数咲いている。		
参加者	深草L 高橋芳 SL 齋田 石塚 川村 箕輪カ(会友) 男1 女5 計6名(会友1) *全体参加者 9団体 66名 <当会以外参加者数> 松戸山の会 5名、かがりび山の会 2名、 東葛山の会 28名、千葉こまくさHK 6名 千葉ケルン山の会 1名、茂原道標山の会 1名、 ちば山の会 4名、ふわくハイキング 13名		

概念図



絶滅危惧種二ホンオキナガサの花



参加者全員の集合写真宇芸神社にて

<1108>

御岩山～高鈴山
(492m) ~ (623m)

新谷 直恵



高鈴山

常陸最古の靈山を歩き

日立市にある御岩山は、縄文時代の祭祀が出土する常陸最古の靈山と言われるだけあって莊厳な雰囲気。しかも山自体がご身体となっていて、188の神様が祀られているという。日立駅前からバスが出ているが、今回は予約したジャンボタクシーで神社前まで行く。

神社入口には樹齢600年を超える3本杉があり、何本かの鳥居をくぐって大木の連なる山道を登っていく。麓の池へと流れる小川のせせらぎが心地よい。登るにつれて山道は岩場に。奥の院のある山頂部は巨岩となっていて、普段はロククライミングの練習をする人たちがいるが、今回は崩落があったようでロープが貼られ、残念ながら山頂へは立ち入り禁止だった。頂上付近にはイワウチワの群生があるというが、下で見た可憐なイワウチワで想像を膨らませながら高鈴山へと向かう。その途中馬酔木のトンネルがあり、花はまだチラホラとしか咲いていながら、なんともいえない花の香が風に乗って漂ってくる。そうだ、ここは田中澄江さんが名付けた花の百名山だった。高鈴山の山頂からは視界が開け、百態観音、おむすび池を通って

助川城市公園に出ると、眼下に日立市が一望に広がる。その途中に咲く桜は満開。そのまま市街に降ると、そこは恒例の日立市桜祭り。桜の立派な古木が満開で、その花の下をひたすら駅まで歩き、駅前のお蕎麦屋さんで楽しかった1日の打ち上げをする。

概 要

山名	御岩山～高鈴山		
月日	2019年4月12日		
山域	常陸	地形図	1/25000 常陸
形式	日帰り	グレード	1A
目的	常陸最古の靈山を歩き、花を楽しむ		
費用	約3000円(反省会費用を除く)	交通機関	JR、ジャンボタクシー(3800円)
日程	我孫子 5:42→水戸 6:58/7:03→日立 7:33/40→タクシー→御岩神社 8:00/ 15出発⇒奥の院 8:55/9:05⇒御岩山 9:50/10:00⇒高鈴山 10:40/11:05⇒百体観音 12:05/10⇒おむすび池 12:45/50⇒おむすび山 13:05/18→助川城址公園(通過)14:00→駅前通り桜祭りを見ながら日立駅 14:43/15:47→水戸 16:17/31→我孫子 17:58		
ルート状況	御岩山頂上へ到る道が途中崩落し通行禁止になっていた。		
参加者	新谷L 大平SL 武内 矢野貞 本田林 中村育 矢野裕 男3 女5 計8名		



<1109>

笛子雁ヶ腹摺山
(1358m)

小林 安代



急登と秀麗富士と笛子餅

桜が咲く晴れた4月13日、3日前に降った雪の為、軽アイゼンを携行しての山行になった。笛子雁ヶ腹摺山は、お坊山とともに大菩薩嶺と御坂山地をつなげている。中々急峻な山並みにある。

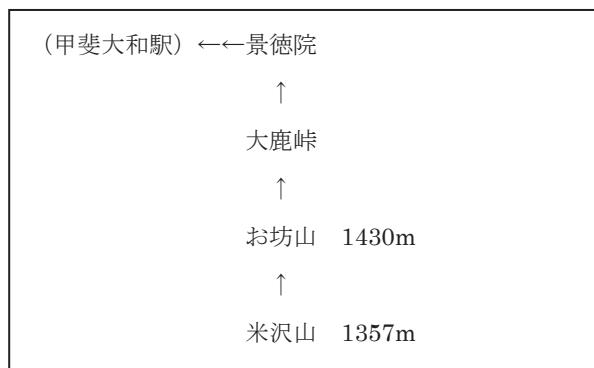
登山口からひたすら登り続け、頂上直下は急登だったがまだ皆元気で山頂までコースタイムで登る事ができた。秀麗富士十二景4番に選定されている頂上からは綺麗で大きい富士山と、遠方に南アルプス、八ヶ岳がはっきり見えた。ここで早めの昼食をとり、リーダーから笛子駅前で購入の笛子餅をいただき、力を付けてこれからアップダウンの厳しい登山道を歩き始めた。現在は山の下を何本ものトンネルが通じている事を考えると、この地域が甲州街道の難所であったことがうかがえる。尾根に出ると雪がまだ残っていたがさほどでもなかった。しかし北斜面になると腐った雪が深く滑りやすかったので、心配な人は軽アイゼンを付け、他の人は踵を使ったキックステップで慎重に急坂を下った。雪深かったのはこの斜面だけだったのでアイゼンを外した。米沢山までアップダウンの連続でやせ尾根やクサリ場があったため注意して通った。更に急登でお坊山山頂

(1430m)まで頑張ると、ご褒美のように展望が良く八ヶ岳もくっきり見え、甲府盆地がとても広く感じられた。大鹿峠から最後の長い急階段を登り途中、リーダーの声掛けで『足が轡らないようにゆっくりと』。タイミング良い気配りが有難かった。階段が終わるとそこから景德院までは、歩きやすい下山道だった。景德院で歴史にふれ、道路沿いにある古戦場跡を見て甲斐大和駅まで歩いた。それにもしても秀麗富士は素晴らしかった。

概要

山名	笛子雁ヶ腹摺山		
月日	2019年4月13日(土)		
山域	中央線沿線	地形図	1/25000 笛子
形式	日帰り	グレード	2B
目的	富士山展望と歴史にふれる		
費用	3,230円	交通機関	JR
日程	我孫子 5:33→新松戸→西国分寺→高尾→笛子駅 8:28/45⇒登山口（新中橋） 9:25⇒笛子雁ヶ腹摺山 11:25/45⇒米沢山 13:12/23⇒お坊山 14:17/24⇒大鹿峠 15:06⇒景德院 16:18/37⇒甲斐大和駅 17:05/57→高尾 19:06→立川 19:26→西国分寺 19:36→新松戸 20:39→我孫子 20:52 <歩行時間 7時間25分>		
ルート状況	登山口から笛子雁ヶ腹摺山まではひたすら登りで、頂上近くから振り返ると秀麗富士が大きく間近に見られる。頂上からは南アルプスや八ヶ岳の展望がよい。笛雁から米沢山まではアップダウンの連続で、やせ尾根やクサリ場では緊張を強いられる。お坊山からの展望もよい。大鹿峠には樹林の中、落葉を踏みしめて歩く。景德院への下りはよく整備されている。		
参加者	佐藤L 北田SL 外崎 小島洋 小林安一氏 布能 男2 女5 計7名		

概念図



<1110>

加波山～筑波山
(709m) (877m)

郷田 進



頂上にて



裏筑波 ニリンソウ

春の妖精たち (スプリング エフェメラル) と
山桜とともに



富士山

毎年春先恒例の新人歓迎・花見山行を行った宝篋山に続いての筑波山周辺での花を愛でる山行である。前週つくば市内は桜満開の中、山一面を山桜の淡いピンクが染めた素晴らしい里山の眺めであった。今週は、ピンクが更に濃く染まった山桜に抱かれての加波山～筑波山へのロングトレイルである。女性8名男性3名の女性中心の山行である。

季節はまさに春爛漫、道道には多くの花々（カタクリ、二輪草、キクザキイチゲなど）を愛でることができた。特に、植物知識が豊富な小野さんの話を拝聴しながら、道道の花々、そして頭上の山桜などを愛でての山行は、多くの幸せな気分にさせてくれた。

行動時間8時間、累積高低差1,100m、加波山、筑波山ともこの地域ではそれぞれ名山だが、この両山を繋ぐ縦走路（？）があるとは知らなかった。初めて乗る水戸線電車の車窓いっぱいに広がる両山の眺めは、本当に素晴らしい

が一方本当にこの間を歩けるのかとの想いであった。

大畠Lの下見の成果かタクシーで加波山5合目付近まで進む（通常はここまで来ない）。加波山は、修験道の靈山であるが、明治初期に起きた加波山事件でも歴史に登場する。各種の祠や石塔などを眺めながらそして歴史を感じながらの加波山登頂後、アップダウンを繰り返し、途中の足尾山で昼食をとる。素晴らしい里山と関東平野の景色が広がる。しかし筑波山ははるかかなたの遠さである。

足尾神社下から裏筑波取りつきまで約2時間の山道歩きを強いられるものの、各種の春の草花（スプリングエフェメラル）や鳥のさえずり（もうちょいもうちょいの鳴き声）などに励まされ、長い行程を予定通りの時間で全員が歩き通すことができた。各人、夏山に向けて自信を深めたものと思う。

裏筑波から、スプリングエフェメラルを楽しみながら、女体山に登る。下山は、時間的・体力的理由からロープウェイを利用、バス、つくばEXPを乗り継ぎ我孫子に戻る。

2週続けての春先の筑波周辺の散策であったが、多くの草花や山桜に新緑の山々など、このエリアの良さを再認識させてくれた山行であった。

概要

山名	加波山～筑波山		
月日	2019年4月14日(日)		
山域	筑波山系	地形図	1/25000 真壁、加波山、筑波
形式	日帰り	グレード	2A
目的	地元の山を繋ぐ縦走		
費用	約4,500円	交通機関	JR・タクシー 東武線・バス ロープウェイ

日程	我孫子 5:42→友部 6:43/48→岩瀬 7:13/25→タクシー→加波山 5合目登山口 7:50⇒加波山神社里宮 8:50⇒加波山神社奥宮 9:00/10⇒丸山 9:35/40⇒一本杉峠 9:55/10:05 ⇒足尾山 10:40/11:10⇒足尾神社 11:15⇒きのこ山 12:00/10⇒上曾峠 12:40/50⇒湯袋峠（筑波山取り付き）13:35/45⇒裏筑波野営場 14:40/50⇒女体山 15:50/16:05⇒筑波山ロープウェイ駅 16:10/20→バス 16:30→TXつくば 17:41→流山おおたかの森 18:10/57（反省会）→柏→我孫子 19:12 <歩行時間 約7時間>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 登山口から約1時間で加波山神社親宮の鳥居に到着。そこから先は次々と社や祠が現れる禅定道になっている。 筑波連山第2の高峰、加波山から足尾山までの登山道は舗装された北筑波稜線林道に何度も寸断されている。時折、車も通るので注意が必要。 足尾神社下から裏筑波取りつきまで約2時間の林道歩きを強いられる。 寸断された林道から登山道に入る標識はあまりない。下調べが必要。 林道からきのこ山への標識は【休憩所】になっている。 このルート上のトイレは足尾神社の簡易トイレ1か所のみ。
参加者	大畠L 高橋芳 SL 田村SL 矢野貞 桐生 郷田 石塚 小野 藤家 秋山 高橋富 男3 女8 計11名



加波山頂上神社にて
概念図



満開のカタクリ

<1111>

日光高山
(1667m)

林 敏生



悪戦苦闘です

早春の日光高山

桐生リーダーの山行計画書を初めて手にしたとき、歩行時間4時間とあり、時間潰しにいいなあといった感覚で申込(スイマセン)。登山口(滝上バス停)も竜頭の滝の上流にあり、これまで滝下からは何度も見上げていましたが、『上からの景色も見られる』と楽しみも。

今回の山行は、例年に比べて降雪が4月になつてもあり、高山頂上からの30分の下りが残雪と急斜面で要注意と聞いていました。

竜頭の滝を出発前に急いでひとりで視察?し、登山開始。登りは90分のコースタイムで、軽い気持ちで一步踏み出しましたが、なんと、残雪が、それも進めば進むほど深くなりました。

皆さんもこの残雪に我慢ができなくなりアイゼンを装着、予期していなかった斜面での装着は、結構腰に負担がかかりつらかったです。

登山道も完全に雪で不明な箇所も多く、ただ頂上を目指して上へ、上へ。予定の時間を大幅に超えて登頂。山頂は、今までのコースは何だったんだろうと思うほど初夏の様相。男体山もニッコリ。

下山は、南斜面に面していて、登山道も雪は無し、アイゼンは念のため装着したままで下山しました。ぬかるんだ、急斜面は続いたが、下りにアイゼンがこんなに歩きやすいとは、知らなかつた。登りの時間ロスを取り戻すかのように快調な足取りで戦場ヶ原へ。戦場ヶ原の名前の由来は何だろうと考えていたら、男体山と赤城山の神様が大蛇と大ムカデに化けて戦った場所と、途中の案内板に書いてあつた。またひと雑学が増えました。

下山終了後は、赤沼バス停から、貸し切りバス(路線バスの乗車は我々だけ)で、日光駅へ。途中、中禅寺湖から40人程度の乗車がありました。中国人と韓国人の方が30名、西洋人が5名、日本人數名と平日の日光は異国です。

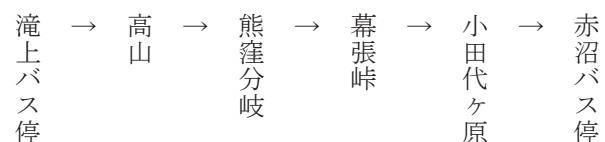
桐生リーダー、ちょっと季節外れの残雪には、難儀しましたが楽しく山行を終えられて感謝しています。

概要

山名	日光高山		
月日	2019年4月19日(金)		
山域	日光 地形図 1/25000 男体山		
形式	日帰り	グレード	1B
目的	早春の奥日光		
費用	5,240円	交通機関	東武鉄道・東武バス
日程	東武柏 5:47→春日部→南栗橋→東武日光 8:16⇒JR 日光駅バス停 8:37→滝上バス停 9:37/50⇒休2回⇒高山山頂 12:06/30⇒小田代ヶ原休憩所 13:45/14:20⇒赤沼バス停 15:10/33→東武日光 16:45/18:11→春日部 19:27/36→柏 20:17 <歩行時間約4時間>		
ルート状況	・4月9~10日の降雪の影響で滝上バス停から少し登った処から登山道が凍っていた。安全のため全員アイゼンを付けた。溶けているところもあつた		

	が高山を降りるまでアイゼンは点けたままにした。 ・山頂直下の斜面は雪が多く残っていた。2回ほどトラバースした。雪は腐っていて中は空洞になっていたので時々太股辺りまで潜った。登りに2時間ほどかかった。
参加者	桐生L 蟹江SL 矢野貞 常井 村松林 男3 女3 計6名

概念図



高山頂上

<1112>

①城山～葛城山～発端丈山
②沼津アルプス

一氏 照美
高橋 芳恵



沼津アルプス城山から発端丈山へ

2日間の予定で1日目の日帰り組4名、2日間通して14名と計18名の縦走となりました。3班に分けて皆さん和気あいあいと過ごした山旅でした。

一日目 城山～葛城山～発端城山

一氏照美

城山登山口から葛城山を目指します。途中、レンゲ畠があつて春を感じながらの登山開始です。また、新緑の中所々にあざやかなツツジの木があり疲れが癒されました。城山には岩登りの人たちがいて、高い岩壁を登っているその姿に、みんな驚嘆していました。

急登を経て葛城山へ。頂上はツツジの花が咲いていて庭園のようでした。ロープウェイがあるので簡単に頂上に行ける為大勢の人が集っていました。ここには、「幸せの鐘」があつて「恋人の聖地」のプレート(??)

葛城山から発端丈山へ、あいにく霞みがかかつて富士山は見えませんでしたが、駿河湾が手に取るように見えました。

下山後、日帰りの方たちと別れて宿泊先へ

宿泊先の温泉が素晴らしい、お料理も美味しいいただき、心も体もほぐれてほっこりとしました。明日への期待を胸に一日目が終わりました。

二日目 沼津アルプス

高橋芳恵

昨夜は4部屋に分かれて宿泊し、温泉でのんびり過ごすことができた。皆さんの満足そうな様子を見て安心した。本日は低山だが悔れない沼津アルプスを皆で縦走する。

宿近くの総合会館前からバスに乗り、8:50 多比バス停から登山開始となる。最初は大平山を目指した。①大平山(356m)は木に囲まれてそれほどの展望は望めないが、広場になっているここから 7山 11峰が開始となる。この小さな山々にこの岩稜かと思われる岩稜帯に気を付けながら 11:20 ②鷺頭山(396m) 山頂到着。山頂には緑の桜が咲いていた。このあたり山桜の古木が多く、花の時期の再訪を誓った。ここから③小鷺頭にかけての急下降が本日の見どころで、先頭を北田 SL にお願いし、ロープではなく三転確保のサポートをいただいた。ロープの急降下の先には洞窟が出現し、赤い格子がついていた。

この洞窟に平重衡が捕らえられ、切腹に及んだと伝えられる中将さんの史跡の祠で説明文を読みながらの小休止。加納の里にかくまわれた平重衡が源氏の追っ手から逃れるためここまでたどり着いたという。かの時代のこの辺りはどんなに大変だったか、今も中将さんと慕われ祭られている中将さんはどんな人だったかと思いをはせた。

この先は志下峠、④志下山(214m)が続きアップダウンの連続だが、駿河湾の展望と海風が心地よく感じられるようになった。特に千金岩付近の駿河湾の眺望は絶景でさすがに値千金と名付けた千金岩付近である。この縦走中の私の最もお気に入りの場所でもある。しおみち広場で昼食・大休止。この辺りは第二次大戦中、防空壕から敵の飛行機を迎撃した放射台が残っている。村の子供たちの遊び場だったとも。今は縦走路はすべてが

自然林であり、沼津の街からこれほど近くに自然林に恵まれているこの地域の自然の豊かさがうらやましかった。急斜面を上り切ったところが⑤徳倉山(256m)、木々に覆われて展望が望めないが、本来は展望の山である。ここからは急斜面を下り、さらに急な坂を上る。ここが一番苦しいと感じた頃⑥横山(183m)頂上へ。同行の皆さんの中にもやっと笑みが。「や一大変でしたー」ここまで2日間にわたって常に先頭を歩いていた箕輪さんにお礼の一本締めをお願いした。

みんなで『よー！ポン！』と締めて八重坂峠までひたすら転げる様子に下った。

ここからはバスで沼津駅に向かう人と最後の⑦香貫山に登る人に分かれる予定のため、参加者の意向を伺った。当然最後まで『行きます』と言われると思ったものの誰も首を縦に振らず、皆さん揃ってタクシーで駅まで出ることになった。結局、7山11峰の7座目が未踏に終わったが、皆さん十分歩いたと感想を言い合っていた。

沼津のお寿司屋さんで反省会を行いみんなで仲良く帰路に就いた。実に充実した2日間であった。これほどの幸せが他にあろうかと思ったのは私一人か？

皆様、お世話様でした。またご一緒ください

概要

山名	①城山～葛城山～発端丈山 ②沼津アルプス		
月日	2019年4月21日(日)～22日(月)		
山域	伊豆	地形図	1/25000 沼津・三島 韭崎・修善寺
形式	旅館 1泊2日	グレード	2B
目的	富士の展望とかけ流しの温泉		

費用	約15,000円(宿泊) 8,000円(日帰り) ジパング利用者	交通機関	JR・新幹線・伊豆 箱根鉄道・ バス・タクシー
日程	我孫子 5:31 柏 5:35→上野 6:04/17→ 東京 6:22/33→新幹線→三島 6:24/44→大仁 8:17/30⇒城山登山口 8:55/9:10⇒城山峠 9:35⇒城山 10:20 ⇒城山峠⇒林道峠⇒葛城山分岐⇒葛城 山 12:09/43⇒益山寺分岐⇒発端城山 14:13/45⇒シーパラダイス駐車場 15:40/16:00→古奈温泉南 16:20 (宿泊組)・伊豆長岡 日帰り組 →三島→東京・我孫子 19:20 <歩行時間6時間>	一日目	
	宿 8:20 総合会館 8:28→多比 8:50⇒多 比口峠⇒大平山 10:02⇒多比口峠⇒鷺 頭山 11:21⇒小鷺頭山 11:48⇒志下山 12:40⇒志下坂峠⇒しおみち広場 13:18/40⇒徳倉山 14:00⇒横山 15:03 ⇒八重坂峠 15:33→15:40→タクシー →沼津 16:10(反省会) 17:25→熱海→ 上野→柏→我孫 20:35 <歩行時間6時間>	二日目	
ルート状況	・両日ともコース標識はしっかりとおり 迷うことはないが、葛城山へは麓を外回り で時間を要した。発端丈山下のすべりやす い下り道は乾燥のため比較的楽に下った。 ・沼津アルプスの大平山～志下山までは 岩稜と急傾斜の登山道となる。雨天時要 注意		
参加者	高橋芳 CL 大畠 L 田村 L 箕輪 SL 室崎 SL 北田 SL 齊田 石塚 本田 新谷 高橋富 一氏 矢野朝 箕輪力(会友) ・日帰り 矢野貞 林 小島徹 松下 男7 女性11 計18名(会友1)		

概念図



< 1113 >

堂所山 ~ 景信山
(731m) (727m)

小山 三恵



夕焼け焼け小焼け～北高尾山

入会して初めて参加した山行だ。まず、リーダーから届いた丁寧な山行計画書を見てびっくり。手元に地図を広げてコースを確認すると、未知の登山口から登り北高尾山稜の一般道に出るらしい。わ~い、楽しそう！早起きできるか心配だけれど頑張ろう。

当日は高尾駅から路線バスで夕焼け小焼け下車。管理棟のある広場で朝食や身支度を整えて出発。参加人数が多いので2班に分かれた。1班リーダーは矢野貞さん。2班は佐藤さん。歩き出してすぐに登山道入口（？）に着いた。ここで村松さんに『コンパスを使っての地図読み』を教えていただく。う~ん、難しい。この登山口には標識はない。コンパスだけがここから登ることを教えてくれていた。

落葉いっぱいの山道を登る。足跡はない。ほどなくしてツチラ山（470m）に着く。この山名は地図には載っていなかった。佐藤さんが「地図で自分の場所を確認できる？」と教えてくれた。次の到着点の大嵐山も地図にはなく地図確認とコン

沼津アルプス千金岩付近



駿河湾を望む

バスのレクチャー。繰り返すことでやっと使い方を知る。小雨が少し強くなった。中村リーダー「堂所から景信へとコースを変えます」。

整備された痩せた尾根を歩き、三本松山を左折し堂所山へ。そして景信山の茶屋で昼食時間。小雨はほぼ止んでいたが霧が立っている。茶屋は休業。自分たち以外は誰もいない。とても静かだ。これがあの賑やかな景信山？霧から望む下界の風景も初めて見る印象だ。景信から小仏バス停へ下山。ここでも登山者は皆無だった。

沢山の青葉に囲まれて歩いた。この日は小雨が時折弱く降ったが、空は明るく、冷たい風が気持ちよく、新緑の香りをいっそう濃く感じた。幸せな五月の山行だった。企画ありがとうございました。

概要

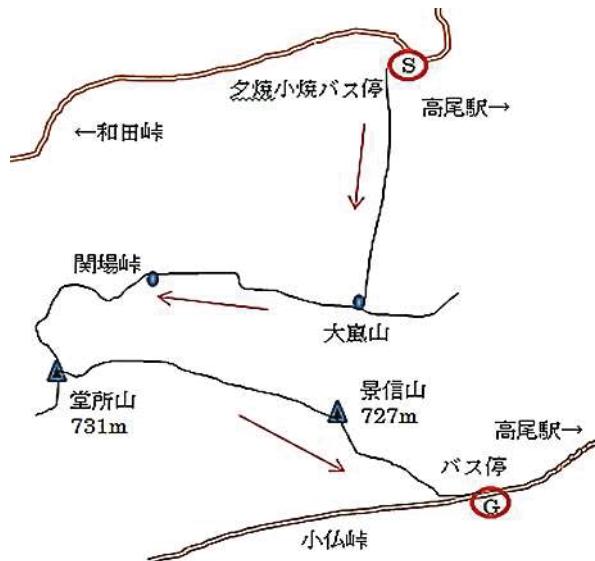
山名	堂所山～景信山		
月日	2019年5月14日(火)		
山域	中央線 沿線	地形図 25000/1	与瀬 八王子
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	静かな山歩き、地形図を読む		
費用	4,000円	交通機関	JR、西東京バス
日程	我孫子駅 5:34→新松戸→西国分寺→高尾駅北口 7:16/35（バス）→夕焼小焼バス停 8:05/地図読み 8:35⇒取りつき口 8:40/地図読み 9:00⇒大嵐山 10:00/地図読み 10:20⇒三本松山 10:40⇒堂所山 11:40/55⇒景信山 12:50（昼食）13:40⇒景信山登山口 14:25/30⇒小仏バス停 14:35/40→高尾駅・反省会 15:10/16:28→西国分寺→新松戸→我孫子駅 18:11 <歩行時間 4時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 北高尾山稜と奥高尾ルートは、共に登山道がよく整備されており、標識がしっかりとある。 夕焼小焼バス停から大嵐山までの 		

	バリエーションルートは1/25000の地図にないが、道はあるので問題はない。ただし、落ち葉が多かった。
参加者	中村育 L 村松 高橋英 中村八 矢野貞 SL 本田 石塚 林 高橋富 北田 佐藤 SL 森岡 小山 矢野朝 高橋芳 桐生 新谷 秋山 矢野裕 男8 女11 計19名



登山口で地図読み

概念図



<1114>

丹沢山～蛭ヶ岳～檜洞丸
(1567m) (1673m) (1601m)

矢野 貞子



丹沢山山頂

新緑と満開の桜

シロヤシオを見たくて企画したが、1週間程早かった。歩いた事の無い宮ヶ瀬湖から丹沢三峰を経て丹沢山を目指した。1300mの高度を6時間かけて登る。蛭に注意の情報を得て、怯えてしっかりと蛭対策の支度をした。登り始めてしばらく行くと、佐藤さんが白く干からびた蛭を拾って見せてくれた。土が乾いているのでたぶん大丈夫と安心する。宮ヶ瀬湖からの登りは一か所鎖があるが特に危険な場所もなく新緑の広葉樹林帯を楽しめた。何個もの頂を上り下りするのだが、私以外の4人はみんな元気で、一人遅れ気味でやつとのことで頂上に着いた。丹沢山頂上は豆桜が満開だった。花の時期に来ないと、大木の桜がある事など分からなかったと思う。前日みやま山荘に電話した時、シロヤシオは20日過ぎだよ、今は桜だよ。と言っていた意味が理解できた。翌日蛭ヶ岳へ向かう間も桜が沢山あり花のトンネルになっている所もあった。足元にはピンクの小岩桜も満

開で、頭上と足元がピンクに彩られた。蛭ヶ岳頂上で雨が降ってきた。蛭ヶ岳から臼ヶ岳に向かう道はガレ場が多く慎重に足を進めた。そこを過ぎると新緑がまぶしい尾根道で登り下りの繰り返しだ。檜洞丸の手前でNHKの撮影隊と遭遇した。ドローンを飛ばしていたので、どんな映像が見られるのか放送が楽しみだ。檜洞丸には11時過ぎに到着。ゆっくり昼食を取り下山開始。下り始めの木道では、多くの登山者とすれ違う。今日は土曜日。檜洞丸を日帰りで楽しむ人達だ。展望園地までは急な下りで階段も多い。予定時間より早いので何回か休みながら西丹沢自然公園に到着。バスが停車していたので急いで着替え帰路に就いた。

頂上付近のシロヤシオには10日程早かったが、丹沢山への登り、本間ノ頭辺りで満開のシロヤシオを見る事が出来た。檜洞丸に向かう尾根道でも膨らみかけた蕾に何回も出会った。遠くに駿河湾を望みながら、芽吹いたばかりの新緑に囲まれた尾根道歩きは気持ちが良かった、丹沢=シロヤシオと思っていましたが偶然にも丹沢にも桜が沢山あることが分かり観賞できたのはラッキーでした。

概要

山名	丹沢山～蛭ヶ岳～檜洞丸		
月日	2019年5月17日(金)～18日(土)		
山域	丹沢	地形図 1/25000	青野原、大山、中川
形式	山小屋泊 1泊2日	グレード	3B
目的	シロヤシオを楽しむ		
費用	14,500円	交通機関	JR、小田急、タクシー、バス

日程	我孫子 5:34→代々木上原→ 本厚木 7:46/8:00→タクシ→三叉路 8:45/9:00 ⇒高畠山 10:30/34⇒金冷やし先(昼食) 11:20/35⇒本間ノ頭 12:50⇒無名の頭(1300m)13:00⇒円山木ノ頭 13:20/26⇒太礼ノ頭 13:45/51⇒瀬戸沢ノ頭 14:07/13⇒丹沢山 14:54 みやま山荘 <歩行時間 5 時間 30 分>
二日目	丹沢山 6:05⇒不動/峰 6:55⇒蛭ヶ岳 7:50/8:15⇒臼ヶ岳 9:19⇒金山谷乗越 9:43⇒檜洞丸 11:10/50⇒ゴーラ沢出合 12:40⇒展望園地 12:55⇒西丹沢自然教室 14:25/40→バス→新松田 16:00/17:05→代々木上原→我孫子 19:42 <歩行時間 7 時間 30 分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 本厚木から三叉路登山口までのバスは1時間に1本毎時40分発 宮ヶ瀬湖からの登りは長いが広葉樹林帯なので秋の紅葉は期待できる 蛭ヶ岳から檜洞丸へ向かう下りは急な下りで崩れている。注意が必要 標識はしっかりし、迷うことなし
参加者	矢野貞L 佐藤S L 田村 小林安秋山 男2 女3 計5名



満開のマメザクラに感激



小岩桜



エビネ

<1115>

玉原高原
(1200~1550m)

村松 敏彦



集合写真(左から二人目が坪田氏)

癒しの森、玉原高原

「坪田さん、貴殿が長い間、研究しているブナについて我々の会の仲間にも魅力とか、美しさとか、教えてもらいませんか？う～んそうだなあ～、じゃ～今度、新緑の美しい時に、玉原高原でも行きましょうか。」

春の夕暮れ迫る、我孫子の居酒屋でのビールを飲みながらの話が、この山行の発端でした。

坪田さんは、30数年ブナの研究に没頭され、5月から11月までは会津に住み、冬は我孫子で冬眠生活を過ごして、生活の全て（お金も）をブナの研究に注いでいた人物です。その坪田氏の案内のものと、新緑の5月、会の仲間12名で玉原高原に日帰り登山を行いました。（坪田さんは当会でも何回か講演、山行をお願いした方です）

玉原高原は行くには、まだシーズンオフのため、交通の便が非常に悪い。（そのため、入山者が少ないメリットがあるが）バスの発着が沼田駅のみで、3時間の鈍行電車に耐えなければならない。それから1時間以上のバスに揺られ、10時30分にや

っと（シーズン中は新幹線の上毛高原からの発着がある）終点のセンターハウスで降りて、玉原高原に向かう。

麓では春、真っ盛りですが、山はやっと長い眠りから覚めて、若葉が美しいライトブルーの葉を付け本当に美しい。緩やかなブナ林の中の道をゆっくり歩む。急いで歩くともったいない。

所々で同行をお願いした坪田氏のブナに関する詳細な解説が続く。彼もすっかりブナの木に魂を取られたごとく顔が輝いている。昔から人はブナの木に疲れた心を癒してきたとの言葉に頷く。

途中、玉原高原で最も大きいブナの木にタッチして今後も元気に育ってくださいと心の中で祈る。

そこから、しばらくして驚く光景が目の前に現れた。

ブナの大木の下に「ブナ地蔵」という標識が立っていた。お地蔵さんにそっくりで思わず頭をなぞってみたが、なんか違う。裏

に回ってみると倒れたブナの根が絡んでお地蔵さんそっくりの形をしているのだった。思わず笑ってしまう。

約5時間、ブナ林の中を歩き、ゆったりした時間の中に身を委ね、時の流れと静寂な自然の中にいる精神状態も体もリフレッシュされる。また長い鈍行電車に揺られて現実の世界に戻った。



概要

山名	玉原高原		
月日	2019年5月18日（土）		
山域	上信越	地形図	1/25000 藤原湖
形式	日帰り	グレード	1A
目的	1. 新緑のブナ林を歩く。 2. ブナ及び樹々の生態を学ぶ		

費用	7000 円	交通機関	J R, 関鉄バス
日程	我孫子駅発 5:31→上野駅発高崎行 6:15→高崎駅 8:01/24→沼田駅 9:12/ 関鉄バス 9:20→玉原センターハウスバ ス停 10:30/35⇒センターハウス 10:50 ⇒玉原湿原 12:10/45⇒玉原高原で最も 大きいブナの木観察 14:50⇒ブナ地蔵 14:55⇒センターハウス 15:50/バス停 16:42→沼田駅 17:50/19:01→高崎駅 19:48/20:07 → 上野駅→我孫子駅 22:38		
ルート 状況	・玉原高原遊歩道として、よく整備さ れていて、道標、ルート問題ない。 ・シーズンオフのため交通機関の便が 悪い。直通運転バスは沼田駅のみの発 着で1日3本、乗客は我々のみ、但 し、ラベンダーの咲く季節（6月下旬 頃）では新幹線の上毛高原駅から発着 の直通バスがあるので新幹線が利用出来 、大幅に短縮できる。		
参加者	村松 L 武内 箕輪 本田 SL 齋田 中村育 高橋富 深草 新谷 田嶋 布能 坪田（講師） 男5 女7 計12名		



< 1116 >市民山行

那須茶臼岳～朝日岳
(1915m) ~ (1896m)

やまたん特集号より転載



事故無く登山できたことに感謝

市民登山実行委員長

藤家 一仁

2019市民登山を、参加ゲスト及び参加会員の皆様のご協力により事故なく無事に終えることが出来ましたこと御礼申し上げます。

市民登山は、岳人あびこにおいて、例年6月の第1週の日曜日に、地元に根付いた山岳会として市民（ゲスト）の皆様に自然の美しさ、登山の楽しさを体験して頂くことを目的に会創設時から継続して実施している公開山行となります。岳人あびこに入会後2年間実行委員に携わって来ましたが、今年は室崎副会長が多忙との事でリーダーを引き受けさせて頂きました。

実行委員は8名選出いただき、2月の行先の検討から始まり、我孫子市教育委員会への後援申請や山行ルートの下見、雨天時のルート検討、事前説明会、山行当日の実行委員の役割分担等全員協力して取り組む事が出来ました。特に印象深いエピソードですが・・・雨天時の那須温泉の場所を探しているとき、60名近い団体の扱いでも可能なホテルで交渉時に、雨天時には、お弁当を持ち込

んで食べさせてもらう話まで纏め上げた女性実行委員の行動力と情熱？に敬服するとともに、とても心強かったです。

今年の市民登山はゲストの方から 27 名くらいの問い合わせを受けましたが、危険個所の説明等をした結果 18 名の参加をいただくことができました。

ツアーワークでもないため、すべての皆様に満足いただくような行程、準備となりませんでしたが、一定程度の満足はいただけたものを感じております。

岳人あびこでは、今後も市民（ゲスト）登山の目的を継承し公開登山を実施してまいりますので、今後も機会がありましたら引き続きご一緒させていただけましたら幸いです。

最後に岳人あびこ会員の皆様には、山行中のゲスト様への声掛けをはじめとして、安全登山に対するアドバイス、バス乗車の振分け、留守宅のお願い等ご協力いただきありがとうございました。改めて岳人あびこの団結力等チームワークの良さを感じました。

参加ゲストの皆様、岳人あびこ会員の皆様有難うございました。

1 班



荒々しいが、沢山の花咲く山

1班リーダー 佐藤 清宏

那須ロープウェイ山頂駅を出ると、やや冷たい風が頬を撫でました。曇り空で日差しは弱く、展望はいまひとつですが絶好の登山日和です。準備運動をしてしっかり足元を固めスタート。1班はゲスト2名（ご夫婦）と会員6名の8名でした。バス内での会話からゲストは登山経験が豊富なことを知り、この登山でどんな楽しみを持ち帰ってもらえるだろうと考えました。主峰茶臼岳は活火山です。20分もすると噴石のゴロゴロした急登になり、やがて旧火口の縁に出ました。そこで“三角点探し”をしました。ここは四等です。一等三角点は、今回は登らない最高峰の三本槍岳にあります。頂上のごつごつした溶岩の上で休憩しました。以前登った時は下からゴーッという音が聞こえたのですが。すり鉢状の縁を峰の茶屋跡に下る途中で、白煙のあがる噴気口や黄色の地肌を見せる硫黄採掘跡をながめました。剣ヶ峰のトラバースは3週間前の下見の時、まだ雪が残っており落石も心配で緊張したところでしたが、雪は解けそのまま下から可愛らしいイワカガミが顔をのぞかせていました。中には白花もあります。トラバースを終えたところに奇岩（恵比寿大黒岩）がそびえていて、別名トロ岩だそうです。朝日岳の肩へは赤茶色の土を踏み、いくつかのクサリ場を越えてたどり着きました。肩にザックを置き、朝日岳の頂上へはほんの数分でした。頂上からの眺めは格別です。間近にいま登った茶臼岳、北に三本槍岳、足元の駐車場には乗ってきたバスも見えました。もっと眺望が良ければ、関東平野や雪を被った福島県の山々が望めるのですが。肩に戻り昼食です。下山は浮石に注意して慎重に下りました。中の茶屋跡付近では白花のイワカガミの群落（ヒメイワカガミ？）、樹林帯に入ると濃紫のムラサキヤシオ、足元にはこれから白い花を付けるマイヅルソウの群落を見るることができました。鳥居をくぐってゴール。安全登山で良かったです。

茶臼岳から1班がしんがりを務めたため、朝日

の肩での昼食時間が短くなってしまい申し訳なかったです。

那須岳は活火山の荒々しさを体験できるだけでなく、お花もたくさん見られる山でした。秋にしか登ったことのない私には新鮮な驚きでした。今回の登山で、ゲストの皆さんに新たな山の楽しみを得たと感じていただければ、実行委員としてたいへん嬉しく思います。また、一緒にできることを楽しみにしております。

市民登山に参加して

福山 幸代

その日私は溜まったビデオを見ようとしてテレビをつけていました。選んだのは「BS 日本百名山」の那須岳。さだまさしの曲と共に茶臼岳 朝日岳 三本槍岳の映像を見て ここに行きたい！と思ったその日、市民登山お誘いのハガキが…なんという偶然！すぐさま申し込んだのは言うまでもありません。

登山当日は風もなく穏やかな天気。快適に歩くことが出来ました。赤土と大きな岩がゴロゴロ現れ、目の前に茶臼岳が見えてきたときは、そのどっしりとした姿に圧倒され、硫黄の臭いとモクモクと上がる蒸気に活きてる山を実感しました。茶臼岳山頂を背に切り立った道から鎖場を抜け登頂した朝日岳からの景色は圧巻で、最近山を始めたばかりの主人も今までに見たことのない景色に大変感動していました。

1班の皆さんには登山中の的確なお声掛け、お花の話や興味深い山の話など大変親切にして頂き本当に感謝しております。「岳人あびこ」には山は



ヒメイワカガミ(全体に小ぶりで白い)

もちろん気象や地質、植物など様々な分野に精通している方が沢山いらっしゃるとお聞きしました。私はまだ山を始めて3年目。皆さまからもっと色々なお話を聞きして山のことを学びたいと思いました。本当に楽しい山行ありがとうございました。

2班



市民登山を終えて

2班リーダー 外崎 蓮

毎年参加して下さっている市民の方々のお顔を思い出しながら、実行委員8名で市民登山の準備を始めたのが3月。計画を立てる上で重要なのが雨の日の行動です。雨が降っても観光バスはキャンセル出来ませんので、降り方（しとしと・ザーザー）によって行程を変えることにしました。大勢が休憩できる温泉や見学場所等の下調べは欠かせません。こうして準備をしておいて迎えた当日は、雲が多いながらも登山日和となりました。人気の山だけあって登山者が多いこと、岩場の通過で擦れ違いに時間がかかるなどを考慮し、班の人数を絞って、その分7班体制にしました。今回の山は二山とも赤茶けた火山の山で、ゆで卵の匂いが微かに。茶臼岳の山頂には鳥居と祠があり、その傍らで白装束の山伏がほら貝を吹いている光景を目にしたのは初めてです。何よりもホッとしたのは、朝日岳に向かう登山道の雪が消えていたことでした。5月の下見の時には2ヶ所に雪が

残ついて、こわごわ通過したからです。2班の水牧さん・富田さん・吉本さんは3人とも健脚ぞろいで、岩場も鎖場も何の心配もありませんでした。赤い屋根の峰の茶屋跡に全班が無事に下りて来た時には、思わず胸をなでおろしました。帰りの高速道路は渋滞もなく、ほぼ予定通りに着き、実行委員の一人として皆さまのご協力に大変感謝しております。

茶臼岳朝日岳の市民登山に参加して 富田 マキ

説明会でまず岳人あびこの説明書に目を通す。岳人という名に誇り高さを感じ、難易度の高い山行を行う会なのかとまず思いました。しかし、私達は安全第一で行いますとの説明で、自分達が山に出かける時も同様なので一安心。

当日は登山向きの曇り空。グループ毎に登り始めるが、昨秋以来の山なので、つい大股になってしまふ。浮き石など注意しながら登る。茶臼岳の頂上は低いので中間地点という感じ。そこから尾根伝いに朝日岳を目指す。自分達女性3人組の高山植物を楽しむ山行でも鎖場は経験しているが朝日岳はややハード。要所々でリーダーが都度声掛けして下さる。片側はザラザラ石の深い谷で、山を下りる人とすれ違う時には慎重に立ち止まる。道を譲る。下見の時あったという雪渓もなく、リーダーの後について進んでいたら、いつの間にか頂上に到達。足元ばかり見てきたけれど、頂上のこの解放感。やっぱり達成感があります。

帰りのバスは皆心地よい疲れと満足感でいっぱい。その上何とビールが配られ、乾杯！でした。飲めない私でも心地よくなり、会の細やかな心配りで、楽しい山行となりました。

※市民登山は何かと準備が大変だったのでと思ひます。ありがとうございます。それと岳人あびこは何よりまとまりが良いと思いました。会長さんはまとめ上手に感じたし、皆さんがそれぞれが役割をこなして私達初参加のゲストに良くしてくださいました。リーダー外崎さんに大感

謝。また、グループの方、他の皆さんにも感謝しております。

そして私も岳人あびこに参加させていただけたらと思っています。

3班



リーダーのメモ

3班リーダー 桐生 恵子

- ・3班は市民2名（李さん、何さん）と会員5名の構成だ。お二人とも何度か市民登山に参加されているためか、会員の中に顔見知りがいて一年ぶりの再会に話が弾んでいた。
- ・山頂駅までスムーズに移動ができ、ここでメンバー紹介、今日の役割の確認をする。
- ・山頂駅を出るとすぐに砂礫の登りが始まる。最初は息が上がらないように意識して、できるだけゆっくり歩き始める。半分くらい過ぎると体も慣れてきたようだ。
- ・茶臼岳山頂で写真撮影後、休憩をしっかりとり、お釜を回って峰の茶屋に向かう。峰の茶屋は風の強いことで知られているが幸運なことに今日は風が心地よかった。
- ・峰の茶屋からの朝日岳の荒々しさに感嘆の声が上がる。狭い登山道に注意し、急登もゆっくりと声をかけながら全員でクリアした。
- ・朝日岳からは三本槍が岳に続く登山道がよく見

えた。

- ・朝日岳の肩で昼食をとり全員で記念写真、その後下山開始。登山は下山が7割ともいわれている。慎重に下り峰の茶屋まで戻ってきてほつとした。
- ・携帯等で写真を写す人が多くなり途中で撮影のための渋滞が起きていた。特に登山客の多いところでは市民を見失わないように常に注意した。最後まで気を抜くことなく峠の茶屋駐車場に戻ってきた。
- ・一日曇天であったが良い登山日和になり、市民、会員の協力を得て無事に終了できたことに感謝しています。

市民登山に参加して

李 莉萍

山へ行って森の中で、自然のを感じた！

石の形や色など凄く綺麗でした。大きく地面が凹んでいる様子をみて、昔の火山の凄さを感じた。今は静かに寝ている様な山の姿がとても美しく優しさに癒やされました。

市民登山に参加したおかげで、私と主人は楽しく大満足の一日でした。

心から皆様に感謝しております。

4班



市民登山に参加して

李 莉萍

山へ行って森の中で、自然のを感じた！

石の形や色など凄く綺麗でした。大きく地面が凹んでいる様子をみて、昔の火山の凄さを感じた。今は静かに寝ている様な山の姿がとても美しく優しさに癒やされました。

市民登山に参加したおかげで、私と主人は楽しく大満足の一日でした。

心から皆様に感謝しております。

好天に恵まれた那須岳市民登山

4班リーダー 郷田 進

登山愛好家との交流を目的に始めた当会の市民登山も25回を数える。今回は、百名山で人気の那須岳（茶臼岳～朝日岳）である。

4班の編成は、会員5名と市民3名の計8名、市民3名のうち東別府さんと伴田さんは前回（大菩薩嶺）に続いての参加、山下さんは広報を見ての挑戦？である。

幸い天候に恵まれバスの中から山の楽しみなどに話が咲く、懸念された道路状況やロープウェイの混雑もなく、予定通り山頂駅に立つ。

自己紹介の後、登山開始である。茶臼岳までのよく整備された登山道、活火山の雰囲気と周りの景色を楽しみながら山頂に到着する。その後、約200Mを下り、分岐点で途中下山者を確認するも、皆ある程度の経験者のため順調な足取り、当然全員で朝日岳を目指す。朝日岳の登山路は、危険個所も多くあるものの、天候（雨、風）に恵まれたこと、鎖の設置等比較的安全に通過することができた。朝日岳で四方の山々を眺望し、集合写真をおさめ、朝日岳の肩でゆっくり昼食・休憩を取ることができた。皆那須岳が登頂できた満足感を味わったことと思う。



帰り乗車区分を変更し、柏・我孫子に向かう。各人の協力でほぼ予定通りの行程で進めることができ大きな渋滞に嵌ることもなく、柏・我孫子に無事到着する。

往復のバス車中を含め市民登山の目的を十分達成できたものと思います。市民登山へのご参加ありがとうございました。そして来年もご一緒に登山を楽しみましょう。

4班　山下　真紀

広報で茶臼岳山行を知り、あっ！行きたいくと思いました。でも久々の登山、初めての山の会、一人での参加、登山靴全てが不安でした。

ロープウェイから火口をまわるコースは、初めてだったのですが良かったです。朝日岳に向かう鎖場や峰の茶屋からの下山、21年前は天候不順で大変だった事など思い出しました。

朝日岳の滞在時間が短くて、周りを見渡す事が出来なかったのが残念でした。簡単なストレッチしてほしかったです。

入浴出来たらビールが2～3倍美味しく頂きましたね。年間登山計画観て、行きたい山々が沢山ありました。

久々の山行が岳人会の茶臼岳で良かったです。



5班



リーダーのメモ

5班リーダー 森岡 正和

5班は会員5名に市民参加3名の8人編成。懸念していたお天気は薄曇りで茶臼岳～朝日岳への登山に支障がなさうなので一安心する。

ロープウェイで那須山頂駅に到着後、軽くストレッチをして、ゲスト参加者を挟みSLに最後尾をお願いし登山開始。下見での経験より茶臼岳までの登りはスローペースを心掛けたつもりであったが、後方より、「もっとゆっくり！」の指示が飛ぶ。先頭はついついペースが速くなりがちを反省する。

茶臼岳山頂からは緩やかに下り、峰の茶屋跡の広い鞍部に到着。これより朝日岳の肩まで剣が峰の中腹を横切り、足元が切れ落ちたところを通り鎖場となる急斜面を登るが、5月の下見で懸念していた。

トラバースでの雪渓は全てなくなっていた。朝日岳の山頂を極め暫し眺望を楽しみ朝日岳の肩で昼食、集合写真を撮る。その場所は風の通り道で長い時間の休憩では体が冷える程。

峰の茶屋跡まで慎重に下り、後は県営駐車場までのなだらかな歩きやすい道を下っていく。

茶臼岳、朝日岳は荒涼とした火山岩が連なるが、駐車場までの下りには下山道沿いにあでやかなアカヤシオの花が心を癒してくれる。

岩稜の火山に終盤には花を楽しむ事が出来、市民参加者の方々も一日山を楽しんで貰え主催者側としても充実の日を過ごすことが出来た。



の頂上に到着。朝日岳の肩に戻ってから集合写真を撮り、ウグイスの声を聞きながら昼食となりました。

帰りは、元来た鎖場を峰の茶屋跡まで下り、そこから峠の茶屋まで新緑とアカヤシオの美しい景色に心癒されながら下山しました。

少し雲もありましたが、終始好天に恵まれ、大変気持ち良く山を満喫しました。

今回も夫婦揃って楽しい山行に参加させていただきありがとうございました。

6 班



市民登山感想

6 班リーダー 北田 仁則

市民登山は会創立以来25回目を数えるそうで、随分長いこと続けているものだと感心する。私個人としては入会以来、毎年参加しており、今年で5回目となった。今回は参加者数56名でバス2台、7班編成という、今までにない大規模なものとなり、面食らった。

狭い登山道を、これだけの人数が登るのは大変だと改めて感じた。また、全員に統括リーダーの話がなかなか伝わらず、集合写真をとるのに手間取ったり、ロープウェイに全員が一度に乗り切れるのかとやきもきしたりもした。

しかし終わってみれば、ほぼ計画通りに、なんの事故もなく全員が無事に登山を楽しむことができ、「岳人あびこ」の組織の力を強く感じることが

5班 向 治男
通算5回目の市民登山です。いつもの通り、朝4時前に起きて成田線の1番電車で湖北駅から我孫子駅へ。我孫子からは、バスで北柏を経由して一路那須へ。

私は妻と5年前に山麓駅→峠の茶屋→峰の茶屋跡→朝日岳→峰の茶屋跡→茶臼岳→山頂駅→(ロープウェイ)→山麓駅という今回と逆のルートで登りました。

今回は、山頂駅までロープウェイで一気に293mを上ってしまう為、5年前と比べて少しあは楽な気がしますが、体力の衰え+昨年の市民登山以後、全く山登りをしていないので、一抹の不安が・・・!
まずは、ロープウェイを山頂駅で降りてザレ場からスタート、茶臼岳の頂上を目指します。茶臼岳頂上で集合写真を撮り、次のピーク朝日岳を目指します。茶臼岳の火口を巻いて、峰の茶屋まで荒涼としたガレ場ザレ場を一旦下り、朝日岳の肩まで登り返します。

峰の茶屋跡を過ぎると、登山道の雰囲気が変わり道沿いに低木が生え、イワカガミが咲いているところもあり、ホトトギスやウグイスの鳴き声に癒されます。ホッとしているのも束の間、今度は鎖場が待っています。何とか鎖場をやり過ごし、朝日岳の肩でザックをデポして第2のピーク朝日岳

できた。これは実行委員長の藤家さんはじめ実行委員メンバーによる事前準備やきめ細かい工夫、さらには全会員のチームワークがあってこそその結果だと思う。

25回も続いているこの年中行事は、これからもノウハウを引き継ぎながら、さらに充実させてていきたい。



2019年市民登山に参加して

小林 真三

登山と言える山行はかれこれ10年ぶりでした（夫婦で参加）。説明会でのトラバース部の残雪については不安があり、場合によっては朝日岳の頂上は断念することも考えていた。

当日は天候にも恵まれ（麓はガスで残念）久々に楽しむことが出来た。ロープウェイを降りた最初の休憩までの登りは体が慣れていたことから息が切れていた。一番きつかったのは急斜面の岩場でした。心配していた残雪もなく気づいたら朝日岳の肩に到着していた。途中でのイワカガミやヤシオで和む場面もあった。登るときは「あそこまで行くの」下山したら「あそこまで行ったの」といつも思う。

今回、6班のリーダー、サブリーダ他「岳人あびこ」のみなさまのお陰で無事に頂上に行くことが出来た。ありがとうございました。

また、機会があれば市民登山に参加したいと思います。

7班



市民登山（茶臼岳～朝日岳）のメモ

7班リーダー 武内 勇二

- ・曇天ながら時折薄日が洩れる登山日和に恵まれ、市民参加者2名・会員6名、計8名でロープウェイ山上駅を出発。さすが人気の山だけに、家族連れやハイカーで賑わっている。
- ・広い階段状の道も、牛ヶ首方面への分岐を分けるとようやく登山道らしくなる。砂礫交じりの踏み跡を辿りながら、息が切れないと、ゆっくりペースで登る。
- ・那須岳神社の鳥居を潜り、祠に手を合せて無事故のお祈りを捧げた後、茶臼岳山頂の標識を挟んで6班のメンバーと合同で記念の写真を撮った。
- ・山頂の小さなカルデラを一周した後、峰の茶屋へ向けて下る。荒々しい朝日岳の山容が眼前に広がる。
- ・峰の茶屋は風の通り道。強風で難渉することもあるが、幸いにも今日は殆んど風もなく、ゆっくりと休憩できた。
- ・前回の市民登山時には残雪があり、安全のためロープを張って通過したこともある剣ヶ峰のトラバース道の雪は完全に消えていた。また、引き続く鎖場の難所も乾いていてスリップの危険も少なく、ラッキーだった。

- ・朝日岳の頂上からは、先ほど登った茶臼岳はもとより、那須連峰の最高峰の三本槍岳やもう一つの旭岳が望めた。しかし靄っていたため、それ以上の眺望は無理だった。
- ・昼食後の“魔の一時間”も何事もなく、順調に峠の茶屋駐車場に戻り、帰途に就いた。事故・ヒヤリハットなく、今年も無事に市民登山を終えることが出来て、本当に良かったと思う。



るのも良いものだなあ～と思いました。特に、帰路車中で飲むビールは最高ですね。一人では味わえない、至福のひとときでした。また、ご一緒できると良いですね。11月の公開山行(?)、来年の市民登山など時間と余裕があれば、参加してみたいと思っていますので、その折はよろしくお願ひいたします。皆様、ご健勝で登山を楽しめることをお祈りいたします



峰の茶屋と朝日岳



朝日岳をバックに合同写真

市民登山実行委員

藤家（委員長） 佐藤 森岡 松下 室崎
蟹江 小野 外崎

朔晦 正志
我孫子在住の朔晦（たちごり）と申します。市民登山ではお世話になりました。心配だった風も穏やかで陽射しもそれほど強くなく、最高の日和の中で楽しく登山ができました。武内様をはじめ7班の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。那須茶臼岳は今回で4度目でしたが、朝日岳には行ったことが無く、かねてから登ってみたいと思っていたところ、市の広報に掲載された今回の募集が目に留まり、参加してみようと思い立ちました。説明会では雪が残っていると伺いドキドキわくわく。軽アイゼンを調達し持つて行ったのですが、使う機会がなくて残念！（楽しみは、今後にとっておきます。）峰の茶屋跡から朝日岳までの行程では、いろいろな岩を交えた風景を楽しめて、とても良かったです。普段は、バイクでツーリングがてら、見晴らしの良い場所を求めて、その場で思い立ったら山に登ることが多いのですが、大勢でおしゃべりしながら登山す

概要

山名	那須茶臼岳～朝日岳		
月日	2019年6月2日（日）		
山域	那須	地形図	1/25000 那須岳
形式	日帰り	グレード	1B
目的	市民登山 市民とふれあい、那須茶臼岳～朝日岳に登る。		
費用	10,000円	交通機関	バス、ロープウェー
日程	我孫子南口 5:40→北柏南口 5:50→佐野 SA7:06/17→那須 IC8:17→ロープウェイ山麓駅 8:52/9:20→ロープウェイ山頂駅 925/30自己紹介、準備体操ロープウェイ山頂駅出発 9:30⇒衣服調整9:45⇒茶臼岳山頂 10:15/25⇒峰の茶屋跡 11:15/25⇒朝日岳の肩 12:05/休⇒朝日岳山頂 12:15/休⇒朝日岳の肩(昼食) 12:30/45 集合写真・出発⇒峰の茶屋跡 12:30/40 駐車場 14:15/30→コンビニ 15:15/28→那須 IC15:34→上河内 SA16:07/25→羽生 SA→北柏南口 19:00→我孫子北口 19:10 <歩行時間 約4時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> コース中は道標もしっかりと整備されており道迷いは無い。 ロープウェイ山頂駅を出るとコース中にトイレ・水場はない。 峰ノ茶屋からトラバース道が終わると足元が切れ落ちたところを通って鎖がかかる急斜面を登る。 		
参加者	藤家 CL 村松 CL <1班>佐藤 L 村越 SL 箕輪完 小山 齊田 深草 <ゲスト>福山智 福山幸 <2班>大平 L 矢野裕 SL 外崎 一氏 <ゲスト>水牧 富田 吉本 <3班>桐生 L 中村八 SL 板倉 布能 田嶋 <ゲスト>李 何		

参加者	<4班>郷田 L 高橋芳 SL 小林安 富井 小野 <ゲスト>東別府 伴田 山下		
	<5班>森岡 L 矢野貞 SL 増田 高橋富 高橋英 <ゲスト>塩原 向治 向智		
	<6班>北田 L 田村 SL 新谷 松下 飯合(会友)<ゲスト>吉川 小林廣 小林真		
<7班>武内 L 本田 SL 石塚 常井 蟹江 小島徹 <ゲスト>朔晦 内藤			
参加者	会員 男16 女21 計37名 ゲスト 会友1 市民18 計19名 計56名		

概念図



朝日岳の岩場、慎重に歩きました

<1117>

庚申山
(1892m)

高橋 芳恵



絶滅危惧種コウシンソウを探しに

この地域でしか見られないコウシンソウを見ることを目的に、山の造詣の深い大平リーダーが企画された山行に参加させて頂いた。通常はわたらせ鉄道の通洞駅から入山が多いが、日光駅からルートで途中食料を調達して庚申山荘に向かった。すっかりリニューアルされた国民宿舎かじか荘が管理している避難小屋で、かじか荘隣が駐車場になっている。ほとんど林道歩きであったが、小雨が降ったりやんだり、緑のシャワーを浴びるように心地よく、庚申七滝に立ち寄った。ここから鳥居をくぐって山道となる。途中警察や山岳救助隊に会ったが、このところ鋸尾根での滑落事故や行方不明者の事故が相次いでいるとのこと。

機関紙登山時報8月号にこの滑落事故はココへリ加入者であり自宅に発信機を置いたままの遭難で5日目に死亡が発見された労山加入者であったとのこと。登山はリスクの高いスポーツであり常に安全登山に心がけねばと話し合った。

15:40 庚申山に向けて出発。小雨模様の中、急傾斜の岩道やはしごをいくつも越えてコウシンソウを探しながらの道のりは険しかった。山頂には16:35、展望なく、すぐ引き返したが雨の中、

鉄梯子が滑るため十分気を付けて下山し、予定より時間を要した。

18:00、山荘に帰り夕食の準備に取り掛かり、食事担当の矢野朝水さんが自宅から用意された食材でおいしい味噌汁風鍋、合わせてワインのサービス、秋山さんがキュウの酢の物、矢野貞子さんが上手にご飯を炊いてスーパーで買ったお惣菜を加え豪華な夕食となった。時間が遅くなつたため、翌朝早く皇海山に向かう他の登山者は休む時間となり「静かにしてください！」との苦情を訴えられたことには大いに反省点が残つた。

庚申山荘自体が神社であり神殿が祭られている。山荘内は管理人が管理しているため清潔に維持され、台所には水も引かれている。私たちは男女別に使用することができ、布団も利用できた。トイレは戸外のバイオトイレとなっている。

庚申山は766年、勝道上人によって開山され江戸時代から明治にかけては庚申講登山が盛んにおこなわれていた。途中鏡岩と呼ばれる「孝子別れの処」があり猿に助けられた父親の身代わりとなり三女が別れたという悲話が残っている。お山めぐりの途中には滝沢馬琴の南総里見八犬伝、犬飼現八山猫退治の場と言われる江戸時代の名勝が残っている。実に興味ある、由緒正しき歴史の宝庫の庚申山なのである。

翌日は晴れ、昨夜に続き矢野朝水さんにラーメンを作ってもらい私は食べるだけの最高の役目で日常ではありえない体験ができた。昨日とは逆に猿田彦神社跡から宇都宮大学嶺峰山荘わきから尾根道を上り50分ほどのところで岩にへばりつくようなコウシンソウを発見。植物の専門家である小野女史が「2個体発見！」とのたまうと本当に恭しく岩の上に咲く2個体を眺めた。実に小さなかわいい個体であった。世界中にこの周辺にしかないコウシンソウである。会えたことの喜びは筆舌しがたいものであった。ここではコウシンコザクラの美しい桜色の花々を飽きるほど見ることができた。

残念なことに昨日から食事担当に励まれていた矢野朝水さんが激務の疲れか、コウシンソウを見るこ

とができず、昨日から花を見るに懸命だっただけに申し訳なかった。

快晴の中昨日の道を一路銀山平、かじか荘で宿泊料を支払い、庚申の湯には入浴せず日光を目指した。反省会は日光で行い早めのご帰還。リーダーはじめ同行の皆様に心より感謝申し上げます。



急登続く

	<ul style="list-style-type: none"> ・一ノ鳥居で庚申七滝を見学できる。以降庚申山荘までは沢沿いの山道。奇岩が多いが歩きやすい。 ・庚申山荘は日光市の施設。40名収容寝具、炊事場あり。1人1泊2,050円。 ・庚申山は岩場の急登。梯子や鎖もあり慎重に登らねばならない。 ・お山巡りのみちは上級コースで急登ですが庚申山より安全でした。
参加者	大平L 高橋芳SL 矢野朝 秋山 桐生 矢野貞 石塚 小野 男3 女5 計8名

概念図

概要

山名	庚申山		
月日	2019年6月16日(日)～17日(月)		
山域	足尾山系	地形図	1/25000 皇海山、足尾
形式	山小屋 1泊2日	グレード	2B
目的	コウシンソウ咲く庚申山に登り庚申山荘に泊まる		
費用	約10,000円	交通機関	JR、東武鉄道、レンタカー
日程	一日目 我孫子5:31→柏→春日部→日光8:16 (レンタカー・買物)9:15→銀山平 10:00/20⇒一ノ鳥居11:45(昼食・庚申七滝見学)12:20⇒鏡岩13:10⇒庚申山荘 14:20/40⇒お山巡り分岐15:40⇒庚申山16:35/40⇒お山巡り分岐 17:20⇒庚申山荘18:10		
	二日目 庚申山荘6:05⇒コウシンソウ自生地 7:05/25⇒庚申山荘8:10/40⇒鏡岩 9:25/30⇒一ノ鳥居10:05⇒銀山平 11:25/40→日光12:30/13:30→柏→我孫子16:40		
ルート状況	・銀山平から一ノ鳥居まで林道、小雨中、新緑と渓谷を見下ろしての歩行。		



<1118>

岩手山
(2038m)

佐藤 清宏



お花畠から岩手山を振り返って

宿題の山はお花満開

関東は曇り空だったが、盛岡駅に降り立つと初夏の眩しい太陽が降り注いだ。馬返し登山口から5分で鬼又清水。美味しい水が吹き出していく喉を潤す。近くに「余力のある人はマキを小屋まで運んで」の看板があり沢山積んでいたが、避難小屋泊りの重いザックに余力はなかった。登山届をポストに入れ八合目避難小屋を目指して柳沢コースに分け入る。深緑の中は清々しい。40分で0. 五合目の大きなブナの木の下に着き昼食。一合目の祠に安全登山を祈願する。二合目あたりからお花が現れた。タニウツギ、ヤマオダマキ、マルバシモツケ。二・五合目から旧道と新道に分かれる。旧道は“急峻な露岩帯を通る”と地図にあるので、樹林帯の新道を行く。マイヅルソウ、エンレイソウ、サンカヨウ、ウラジロヨウラク、ミヤマスミレ、ウコンウツギ、(後で名前を確認した)オオバキスミレ、ヤマハタザオ、ミヤマハンショウウヅルなど、多くのお花が咲いていた。五合目付近からは登山道の両脇にシラネアオイが咲き乱れ、まさにシラネアオイロード。そんなくさ

んの青紫色の群落の中に“白い貴婦人”を発見！白花をつけたシラネアオイであった。白花はたいへん珍しいそうだ。七合目の手前は、シラネアオイ、サンカヨウ、エンレイソウの大群落だった。16時前に八合目避難小屋に到着。小屋の前には御成清水が二本の蛇口から勢いよく湧水を出していた。飲んでみるとほんのり甘く柔らかい。お土産に水筒に汲んで持ち帰った。

翌日は4時起床、6時前に出発。15分で不動平に着く。ここにザックを置き、頂上をめざす。ザクザクの登山道は富士山と同じだ。逆時計廻りで山頂の薬師岳に向かう。お鉢の縁に着くと、足元の赤茶けた溶岩の中に白い花の群落が広がっていた。イワテハタザオか？北上盆地上空に広がる雲海を見ながら進む。爽やかな風と朝の太陽の日差しが心地よい。頂上近くで、コマクサが数株現れたがお花はまだだった。頂上からは360度の大展望。南東の雲海の上に早池峰山が見えた。お鉢を一周して不動平に戻る。ここはミヤマキンバイ、タカネスミレの黄色尽くし、イワウメも見られた。西岩手の広大な火口に向けて下りていく途中にもシラネアオイ、サンカヨウ、そしてツバメオモト。80分程で着いたお花畠はチングルマ、ハクサンチドリ、火口湖の御苗代湖に行く途中の湿地にはヒナザクラが満開だった。大地獄分岐上部のイワカガミの群落の中で昼食。西岩手の外輪山に上ると、八幡平からの裏岩手連峰縦走コースが見渡せた。姥倉山手前の登山道のそばで蒸気が出ている穴を見つけた。地図に地熱ありと出ている。岩手山は活火山であることを実感した。網張温泉へはスキー場のゲレンデの長い長い下りだったが、ここでもマイヅルソウの大群落とシラネアオイ、ヤマオダマキが疲れを癒してくれた。

一昨年の山行では、早池峰山と岩手山の計画だったが岩手山はカットになり、昨年の裏岩手縦走は中止になったので、岩手山は私にとって宿題の山だった。今回、お花満開の岩手山に登ることができて、北田Lと同行して下さった皆さんに大感謝である。



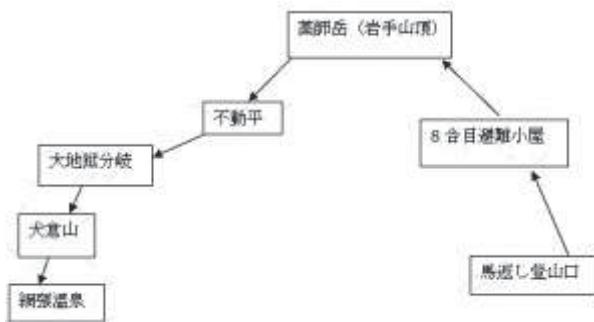
岩手山頂上

概要

山名	岩手山		
月日	2019年6月20日（木）～21日（金）		
山域	奥羽山脈 地形図 1/25000 大更		
形式	山小屋1泊2日	グレード	2B
目的	① 日本百名山である東北の秀峰に登る。 ② コマクサを見る。		
費用	約25000円	交通 機関	東北新幹線、タクシー
1 日 目	柏駅 6:45→上野駅 7:42→新幹線→9:52 盛岡駅 10:05→タクシー→10:45 馬返し 登山口 11:00⇒11:45 2合目手前（昼食） 12:05⇒2～6合目は新道経由⇒15:45 8合目避難小屋 <歩行時間4時間25分>		
日程 2 日 目	小屋 5:50⇒6:10 不動平（頂上まで空身往復）⇒7:00 岩手山頂上（薬師岳）7:25⇒7:45 不動平 8:00⇒お花畑 9:20⇒御釜湖・御苗代湖往復⇒10:40 大地獄分岐 11:00⇒姥倉山分岐⇒大倉山分岐 13:00⇒14:50/16:00 網張温泉→タクシー→盛岡駅 17:40/18:40→新幹線→上野駅 21:54/22:03→柏駅 22:31 <歩行時間8時間>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> この時期は、残雪はわずかに残っているだけでアイゼンは必要なし。 柳沢コースから入山した。2～6合目は新道を利用したが登山道は整備されていて歩きやすかった。 8合目避難小屋は、翌日から管理人が常駐することだが、きわめて清潔に保たれていて、とても無人小屋とは思えないほどだった。特に、トイレの状態は感激するほどきれいだった。また、水場も近くて豊富、1組500円で毛布の貸し出しがあるなど、小屋は快適な環境にあった。協力金として一人1700円支払った。 岩手山頂上の火口巡りは、展望に恵まれて最高に気分が良かった。中央火口丘の妙高岳南西斜面で見られる「笑う岩手山」は面白かった。 全行程で見られたシラネアオイをはじめとする可憐な高山植物が素晴らしい、岩手山が花の山でもあることにも気づかされた。
参加者	北田L 佐藤SL 本田 齊田 石塚 高橋富 小林安 男2 女5 計7名

概念図



<1119>

和賀岳・女神山
(1440m) (956m)

武内 勇二



白糸の滝をバックに

白糸を紡ぐような美しさ

和賀岳には約 10 年前の秋に岩手県側の高下登山口から登ったことがある。紅葉真っ盛りの頃で、朝日を浴びて金色に輝くブナの紅葉はとても印象的ではっきりと鮮明に記憶に残っている。今回は新緑の季節、ブナ林に加えお花畠も同時に楽しもうと、秋田県側の甘露水登山口からの登山を計画した。甘露水登山口から和賀岳を往復すると、歩行距離は 15.5 km、累積標高差は ±1425m と厳しいので、1 日目に登山口より約 1.5 時間登って滝倉避難小屋跡にテントを張り、2 日目の和賀岳登山に時間的に余裕を持たせた計画を作成して参加者を募った。参加希望者は 10 名、テント 3 張りの大型パーティとなった。天気予報に一喜一憂しながら山行期日が近づいたが、秋田地方の予報に傘マークが現れた。雨中のテント泊は避けたいとの思いで、計画段階では念頭になかった甘露水登山口近くの避難小屋泊りも選択肢に加えた。出発当日の朝「お昼過ぎまで雨」の予報だったため、迷うことなく宿泊予定地を甘露水登山口近くの避難小屋に変更することをパーティメンバーに

伝えた。避難小屋前の駐車場に到着した時には晴れ間も覗いていたが、再度変更することなくそのまま小屋に泊まることにした。避難小屋は小振りながら、2 階と合わせ、10 名程度は宿泊可能で、建物内にトイレもありきれいに使われていた。先客もなかったので、誰に気兼ねすることなく小屋を使用できた。

翌日、計画より手前で宿泊した遅れを挽回するために、3 時 15 分に小屋を出発した。まだ夜は明けておらず暗い。ヘッドランプの灯りを頼りに林道を歩き、10 分ほどで甘露水登山口に着き、鬱蒼とした登山道に足を踏み入れた。急な登りで、やがて深いブナの森に変わってゆく。期待のブナだが、曇り空のせいか鬱蒼と暗い。木肌も黒く苔がついている木が多い。地形的に湿り気が多いせいだろうか。薬師岳まで高低差 760m、ジグザグを繰り返しながらの急な登りが続く。ブナ台、滝倉の水場を過ぎると、当初の幕営予定地の滝倉避難小屋の跡地に着いた。小屋は取り壊されており、詰めればテント 3 張りは可能な空き地があったが、テント装備をここまで持ち上げるにはかなり難渋したことだろう。年齢も考えれば当初計画が甘すぎたと反省する一方で、登山口に避難小屋があつてよかったとつくづく思った。

滝倉避難小屋跡地で朝食をとった後、登りを再開。倉方を過ぎ樹林帯を抜けた辺りから小雨が降り出した。薬師岳手前の甲山方面への分岐を分けると、10 分ほどで薬師岳に着いた。頂上の手前にすぐ下に小さな祠が祀られている。

薬師岳を過ぎると、ようやく緩やかな下り道となる。薬師平にかけての緩やかな斜面には、ニッコウキスゲやイブキトラノオが咲き乱れていた。ハクサンフーロやハクサンチドリも見られた。草は刈り掃われていないので、露でビッショリとなりながらもお花畠の稜線歩きを楽しんだ。雨は上がったが霧のため展望はない。薬師平を過ぎ、緩やかに登って行くと小杉山。ここで白岩岳への分岐を左に分け、稜線伝いに和賀岳を目指す。途中、小鷲倉のピークを越えてゆく。ゆったりとした稜

線を、小さなアップダウンを繰り返しながら和賀岳の頂上に到着した。

和賀岳の山頂は広く展望を遮るものは何もない。晴れていれば名だたる東北の山々が一望できるはずだが、残念ながら山頂付近はガスっていた。雨は完全に上がり上空には青空も見え始めたので、もう少し頑張れば雲も取れ、大展望を楽しめるとの期待もあったが、あまり長居をすると下山後の次の宿泊予定の志賀来キャンプ場到着時間が遅くなるため、心を残しながら山頂を後にした。予想通り、山頂を後にして程なく山頂を隠していた雲がとれ、和賀岳や周辺の山々が見えだした。和賀岳は別名大鷲倉(倉は岩場の意)とも呼ばれるが、鷲が羽を広げ悠然と飛ぶ様な山容から来ているのだろう。薬師岳から和賀岳に続く長大な縦走路も俯瞰できた。歩いてきた道の長さに感激するとともにこれからあの道を戻らねばいけないと思うと多少うんざりの感もある。

小鷲倉、小杉岳、薬師平と来た道を戻る。陽が射してきたので、ニッコウキスゲの黄色を始めとする草原の花々が鮮やかに見える。薬師岳を過ぎると急坂の下りが始まった。濡れて滑り易い道を慎重に下る。樹林帯に入り、滝倉の水場で休憩をとった後、一気に甘露水避難小屋に戻ってきた。所要時間 11 時間 15 分の健脚コースだったが、それほど疲労感は感じなかった。まだ暫くは山を楽しめそうだ。

小屋の後片付けを入念にチェックして、今夜の宿泊地である志賀来キャンプ場に向けて出発した。真木渓谷沿いの道は、舗装されておらず狭い。運転には随分と神経を使つただろう。幸いにも、係員誘導の下で大型ダンプ 1 台とすれ違った以外は、対向車もなく無事に平地に下りることが出来た。道の駅とコンビニに寄り食材やビールを調達し、まだ明るいうちに志賀来キャンプ場に到着した。沢内バーデン(バーデンはドイツ語で浴場を意味する地名)受付でテント泊の申込を済ませ、直ぐ近くの草原のテント場へ車を乗り入れた。週末でもなく、雨季もあるので、他のキャンペー

はいなかった。テント設営後、沢内バーデンの温泉施設「お米の湯」で汗を流して、さっぱりしたところで炊事棟で食事とした。野菜たっぷりのサラダと、フランクフルトのスープが主でとても美味しかった。食事の後、テントの横で星空を眺めながら、しばらく歓談した。クリスマス山行以来の約半年ぶりのテント、とても快適でくつろいだ。

翌朝、5 時 30 分女神山に向けてキャンプ場を出発。「白糸の滝」の道標に導かれて狭い林道に入り、30 分ほどで駐車場に到着した。階段状の登山道を下り、白糸の滝分岐を過ぎると、程なく女神山登山口がある。いきなりの急登で高低差 200m 程登ったところで、ようやく緩やかな明るいブナ林の道となり、先日の研修で学んだブナの復習をしながら楽しく歩く。県境コース分岐で一呼吸入れた後、約 20 分の登りで女神山山頂に着いた。岩手県側の木が切り払われているが、残念ながら霧のため展望は無かった。

女神山一帯は深いブナの森。登山路のどこを歩いていてもブナ林が途切れることはない。分岐に戻り岩手・秋田両県を分ける尾根を辿りながらブナ見平へ向かう。広く緩やでふかふかの道はとても歩きやすい。ブナの枝の熊棚を探したが見つからなかった。道端のブナは根元から 3m 位までは木肌が白い。冬の積雪がそれ位あると推測した(勉強の成果)。

ブナ見平を過ぎると急な下りとなる。分岐で大きく左に回り下降を続けて、沢まで下りると女神靈泉と呼ばれる滝がある。少し上流にも岩清水と呼ばれる滝があり、両方とも岩から水が吹き出し滝となって流れ落ちている。さらに上流に行くと降る滝と呼ばれる名瀑もあるが今回は割愛した。この辺り翁滝、姥滝、姫滝などあちこちに滝がある。

先ほど登った女神山登山口を過ぎ、白糸の滝分岐に戻って滝への道を下降する。油断すると転げ落ちそうな急坂で、滝見物は一般観光客にはとても無理で、登山者にのみに開放されているといってよい。苦労して下った甲斐あってとても美しい

滝に出会った。一枚岩の滑らかな斜面を、水がまさに糸を紡ぐごとく滑り落ちている。たっぷりとマイナスイオンを吸い込み、とても清々しかつた。

駐車場に戻ると、我々以外に2台駐車していた。登山中人に会うことがなかったので、同じルートで女神山に向かったのだろう。駐車場を出て、対向車が来ないようはらはらしながらダートな林道を進み、県道に出てホッとする。30分ほどで、JR北上線ほっとゆだ駅（旧名：陸中川尻駅）に到着。駅舎内にあるユニークな温泉で、浴室に信号機がある。青はまだ当分は列車は来ない、黄色は間もなく到着、赤は15分以内に到着・・・。ゆっくり汗を流した。

北上駅でレンタカーを返却して新幹線に乗り込み山旅を終えた。健脚者向けの長大なルートのテント山行にも拘らず、大勢参加していただいて有難う。東北の山旅は楽しめましたか。ダートな難路にも拘らず、3日間にわたり車を運転してくれた郷田さん、佐藤さんを始め、美味しい食事の準備をしてくれた女性の皆さん、そして直前の計画変更にも早起きするなど柔軟に対応してくれた全ての仲間たちに感謝します。

概念図



和賀岳山頂にて

概要

山名	和賀岳・女神山		
月日	2019年7月4日(木)～7月6日(土)		
山域	真昼山塊	地形図	1/25000 大神成、北川舟、真昼岳、左草
形式	避難小屋・テント泊 2泊3日	グレード	3B
目的	東北の山を楽しむ(ブナとお花畠)		
費用	約30,000円	交通機関	JR(新幹線)、レンタカー
1日目	我孫子発 6:28→上野 7:01/22→新幹線→北上 9:38/10:00→レンタカー→北上江釣子IC→横手IC→和賀岳甘露水登山口避難小屋 12:45(避難小屋泊) <歩行時間なし>		
日程	避難小屋 3:15⇒和賀岳甘露水登山口 3:30⇒ブナ台 4:05/10⇒滝倉避難小屋跡 4:45/5:10(朝食)⇒倉方 5:50⇒薬師岳 6:45/7:05⇒薬師平 7:20⇒小杉山 7:50/8:00⇒小鷲倉 8:30/35⇒和賀岳 9:25/45⇒小鷲倉 10:20/35⇒小杉山 10:55/11:00⇒薬師平 11:30⇒薬師岳 11:50/12:00⇒倉方 12:35⇒滝倉 13:20⇒ブナ台 13:50⇒和賀岳登山口 14:15⇒避難小屋・駐車場 14:30/45⇒レンタカー→志賀来キャンプ場 17:00(テント泊) <歩行時間:9時間>		
2日目			

3 日 目	<p>キャンプ場 5:30→レンタカー→白糸の滝駐車場 6:05/15⇒女神山登山口 6:30⇒県境コース分岐 7:40/50⇒女神山 8:05/15⇒県境コース分岐 8:25⇒ブナ見平 9:20/25⇒滝分岐 9:35⇒女神靈泉 9:50⇒女神山登山口 10:00⇒白糸の滝⇒駐車場 10:40/11:00→レンタカー→ほつと湯田温泉 11:30(入浴・食事)/13:00→レンタカー→北上駅 14:15(レンタカー返却)/15:29→新幹線→上野駅 18:18/29→我孫子駅 19:05</p> <p><歩行時間: 3 時間 10 分></p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 和賀岳甘露水登山口の避難小屋は小振りながらきれいに使われている。2階と合わせ、10名程度は宿泊可能。 登山口から薬師岳まで、高低差 760m のほぼ一辺倒の登りが続く。途中、滝倉避難小屋跡地に 3 張程度テントが可能な平地がある。(水場まで 10 分程度下る) 薬師岳～小杉山～和賀岳間は展望の開けた稜線の道。薬師岳から薬師平に下る道はお花畠。日光キスグや伊吹トラノオが咲き乱れていた。 女神山は深いブナの森林の山。白糸の滝分岐を過ぎて程なく登山口がある。いきなり高低差約 200m の急登が始まるが、登りきるとあとは緩やかな登り道となる。県境コース分岐より約 15 分の登りで女神山山頂に着く。 県境コース分岐～ブナ見平はブナ林の中の緩やかな道。 白糸の滝に下る道は、一般観光客を拒む急な難路。滝底から見上げる白糸の滝は真に美しい。
参 加 者	武内L 大平 郷田 佐藤 外崎 桐生 矢野貞 高橋富 小島洋 小林安 男4 女6 計10名

<1120>

天狗岳（八ヶ岳） (2646m)

小島 洋子



みんな元気です 天狗岳

天狗岳山行に参加して

「千里の道も一歩から」長い縦走の時は、無心にタンタンと歩くことにしております。

さて、前日夜行のバスで桜平口に 5 時 13 分到着、林道を 6 キロ歩きました。緩い上り坂です。車に追い越され、この道を短縮出来たらどんなに良いだろうな…と思いながら行きました。前日の雨のせいか、樹木がとても美しい。やっと山道に入りました。シャクナゲが咲いておりました。苔もきれい。夏沢鉱泉に 7 時 25 分到着、リーダーは念願のお風呂に入りご満悦。30 分ほど休憩し、オーレン小屋に向けて出発、箕冠山を通過、ここよりガレバでコマクサが咲いておりました。条件の悪いところに健気に咲いているのに感動。根石山山荘を通り東天狗、西天狗、岩場なので緊張を強いられます。お昼を食べ、夏沢峠を超えて本沢温泉に 14:22 到着。緩い上り坂ですが、行程が長いので早く着かないかと思いながら歩きました。露天風呂が見えてきました。ああもう少し、やっと本沢温泉に着きました。温泉があり、疲れた体を癒してくれました。男女別々の部屋になり、お客様も少なかったので、のんびり過ごせました。トイレ

もきれいでした。夕食と朝食に味噌汁が出るので、土鍋で出てくるので、暖かい味噌汁を飲むことが出来ました。

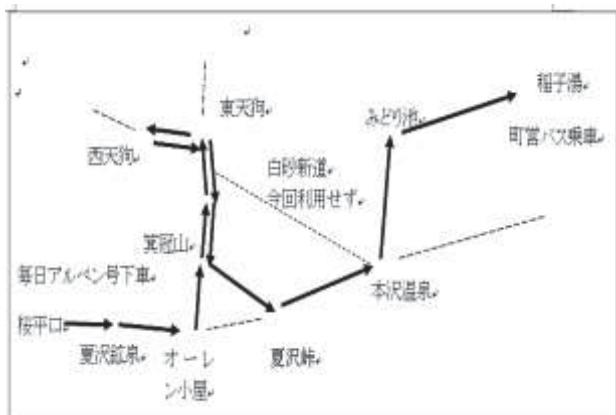
2日目、6時に朝食、6時20分に出発、穏やかな下りでした。みどり池に7時35分到着。クリン草が咲いておりました。クルマ百合も見かけました。平坦な道でおしゃべりも弾みました。稻子湯に8:58分到着。とっぷり湯に浸かり汗を流しました。バスで松原湖に出てあずさに乗り我孫子に16時ごろ着きました。梅雨が明けきらず、天候不順でしたが雨にも当たらず楽しい山行になりました。参加のみなさまありがとうございました。

概要

山名	天狗岳（八ヶ岳）		
月日	2019年7月20日(土)～22日(月)		
山域	八ヶ岳	地形図	1/25000
形式	山小屋泊 1泊2日	グレード	2B
目的	日本最高所（2150m）の露天風呂に浸る。		
費用	25,500円	交通機関	毎日アルペン号、小梅町営バス、JR
一 日 目	竹橋駅毎日新聞社集合22:00/ 23:00発→		
二 日 目	桜平口5:18⇒6:54 桜平⇒夏沢鉱泉（入浴）7:25/53⇒オーレン小屋 8:40/55⇒ 箕冠山 9:50⇒根石岳⇒東天狗岳 10:50/57⇒西天狗岳 11:15/25⇒東天 狗岳 11:42/50⇒根石岳（昼食）12:20/41⇒夏沢峠 13:10⇒14:22 本 沢温泉泊 2150m（日本一高所の露天風 呂） <歩行時間：7時間30分>		
三 日 目	本沢温泉 6:25⇒みどり池 7:35/43⇒ 8:58 稲子湯（町営バス）8:58/10:25⇒ 松原湖駅 10:48/11:25→12:31 小淵沢 駅 12:52→特急→14:41 新宿→我孫子 15:45 <歩行時間：2時間20分>		

ルート状況	東天狗岳から本沢温泉への白砂新道ルート（50分）は昨年の台風と大雨の影響で荒れしており、小屋のアドバイスは危険とのことで、回り道夏沢峠経由（プラス60分）にしたが、ほとんどの登山者が白砂新道を利用していた。 今回のコースタイムは、子供連れに配慮しているかと思うほど、標準タイムより大分早く行動できた。 毎日アルペン号を利用し、桜平口（小屋の方は分岐と伝えないと通じない）から二時間半退屈な車道を歩いたが、電車（茅野下車）、送迎バス利用より天狗岳に三時間程度早くたどりつける
参加者	林L 森岡 村越 小島洋 布能 男2、女3 計5名

概念図



ひっそり?と みどり池

<1121>

日光高山
(1658m)

飯塚 秀子



竜頭の滝

夏山トレーニング(山と温泉)

今回の目的は暑さを意識しての山行になると
思いましたが、いざ週間予報を見ても一向に梅雨
明けの気配がありません。20(土)の予定が21日
(日)に順延になりました。

当日の天気は曇り。メンバーは総勢9名(男3名、女6名)栃木駅で吉澤さんと合流し日光駅からバスに乗り「竜頭の滝」で下車。滝を間近に見ながら階段を上がり「高山登山口」に入る。この時点での標高は1350m、日光高山は1658m。時折涼しい風が吹き順調に進みます。

S Lの足跡を追って(歩幅を狭くリズムを崩さず)研修で習ったことを思い出しながらペースもゆっくり歩いて頂きました。頂上まであと0.5kmの看板を見て安心したのも束の間、急坂が目の前に・・・最後のひと踏ん張りでした。

頂上に到着し三角点をタッチ、他に登山者はおらず貸切です。周りには木々があり景色は望めませんがここで昼食をとり下山。

途中に広い白樺林を抜け高山を背景に写真。幕

張峰で休憩を入れ少し林道を歩き小田代ヶ原へ入ります。広々とした湿原のなか木道をしばらく歩くと青色のアヤメ、紫色のノハナショウブ、黄色のニッコウキスゲが咲いていました。

鹿の防護柵をくぐり湯川沿いの歩道を歩いていると小学生の団体とすれ違い「こんにちは」挨拶を交わし湯滝に到着。ここからバス通りすぐ脇の湯ノ湖の遊歩道を歩きます。「途中バスが来れば乗りましょう」となりましたがバス停を見つけられずそのまま湯元温泉まで歩きました。

到着後すぐにお風呂へ。硫黄臭と白濁の湯はカラダの疲れをときほぐしてくれる気持ちのよい温泉でした。お風呂上りに水分補給し暫しの団らん。外の天気は薄陽が射していました。

湯元温泉バスターミナルから16:45発のバスに乗り込みます。途中小雨がパラパラし始めたかと思うと「いろは坂」を走っているうちに霧が立ち込め先が見えないほどに。日光駅に着いた時この日初めて雨に当りました。

東武日光駅で特急に乗り春日部、柏経由で電車のつなぎもよく我孫子駅には20:36着。1時間も早く到着です。

車内では向い合せの席を作り軽食をとりながら談笑。反省会の為にワイン持参してくれていました。チャーミングなゲストさん、その場の雰囲気を和らげてくれた優しい皆様と事故もなく山行を終えることができたのは、お天気に恵まれたことも含め皆様の常日頃の行いの成果であると思います。

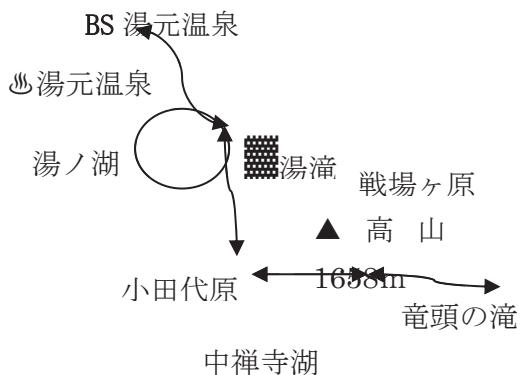
ありがとうございました。

概 要

山名	日光高山		
月日	2019年7月21日(日)		
山域	日光	地形図	1/25000 男体山
形式	日帰り	グレード	2A
目的	夏山トレーニング(山と温泉)		
費用	5,340円	交通機関	電車 バス

日程	我孫子 5:31 → 東武柏駅改札 5:40 集合 / 5:53 → 春日部 6:34 / 44 → 南栗橋 7:01 / 02 → 栃木 7:32 → 東武日光 8:16 → JR 日光駅 / 8:36 → バス → 竜頭滝 9:37 / 55 ⇒ 高山登山口 10:05 ⇒ 高山山頂 11:45 / 12:05 ⇒ 小田代が原 13:20 ⇒ 湯滝 14:50 / 15:00 ⇒ 湯元温泉 15:35 / 16:35 (入浴) ・湯元温泉 / 16:45 バス → 東武日光駅 18:11 (特急) → 栃木 → 春日部 → 柏 20:05 <歩行時間約4時間30分>
ルート状況	概ね観光客が通る自然探勝路であり、危険個所はなかったが、山頂付近に鎖がかかる。シャクナゲの木が多く時期にはたくさんの花が見られそう。
参加者	高橋芳L 矢野裕SL 深草SL 吉澤富井 飯塚 秋山 飯合(会友) 金(ゲスト) 男3 女6 計9名 (会友1、ゲスト1)

概念図



< 1122 >

白山 (御前峰)
(2702m)

桐生 恒子



最高峰 御前峰登頂

白山は立山と同じく、白山という山はない。御前峰、大汝峰、剣ヶ峰の三主峰とその周辺の山々からなる連峰の総称だそうだ。

今年は昨年と違って雨が多い。そろそろ梅雨明けかと思われるが、なかなか梅雨が明けない。天気予報は傘ばかりがならんでいる。

7月 21 日

出発時はどんよりとした暑い雲が覆っていた。今日は一日こんな天気なのだろうか。南竜山荘まで登り3時間ほどだが雨が降らないといいなあと思った。金沢駅からレンタカーで市ノ瀬へ、ここで土日祝の入山規制の為(マイカー)12時まで食事をしながら待機、規制解除になり「別当出会い」まで車で入る。ここから南竜山荘まで砂防新道と呼ばれる登山道を歩く。曇天で樹林帯の中は蒸し暑く汗がしたり落ちる。花は丁度見ごろを迎えた時期で次々と現れて楽しませてくれた。お花が次々に現れるので、立ち止まることが多く中々進まない。リーダーから今日は小屋までなのでゆっくり花を楽しみながら行きましょうと声がかかる。さすが花の百名山だ。クルマユリ、イワカガ

ミ、ニッコウキスゲ、ハクサンボウフウ、ハクサンフウロ、キヌガサソウ、カラマツソウ、トリアシショウマ、ゴゼンタチバナ、ミヤマキンバイ、センジュガンピなど次々に新しい花を見つけてはみんな歓声をあげる。皆で花を楽しみながら南竜山荘に到着。

山荘は、布団はフカフカ、トイレは水洗で素晴らしい宿泊施設だった。お陰でゆったり過ごせた。夜、自然観察員のスライドと解説を聞きに行く。クロユリは最初、雄花で数年たつと両性花になり実ができる。キヌガサソウはガクと葉の数が同じ、コバイケイソウは一株に雄花と雌花が咲くなどおもしろい話を聞くことが出来た。

22日

天気予報通り朝からかなり強い雨となる。山荘の職員のアドバイスもあり当初予定していた展望新道をやめエコーラインを使って室堂に行く事にした。午後から雨脚が弱くなりそうなので出発を10時に変更した。登山道は小川になりまるで川の中を歩いている様だった。しかし、ここでもたくさんの花に迎えられて雨の中であったが花を楽しみながら歩く事ができた。

風と雨は、強くなったり弱くなったりしていた。それでもお花があるとつい足が止まってしまう。弥陀ヶ原まで上がってくると木道の両側はコバイケイソウがたくさん咲いていた。今年はコバイケイソウの当たり年のように、ガスに煙って咲いている様子は幻想的な雰囲気だった。

1時間半ほどで室堂に着き、昼食後大汝峰を目指し奥宮の脇から登る。ここはコバイケイソウとクロユリのお花畠になっていた。千蛇ヶ池、翠ヶ池、御前峰とめぐり御前峰登頂は4時頃だった。それまで雨が降ったりやんだり目まぐるしい天候だったが御前峰に着いた時ちょうど雲の切れ間から青空が顔を出した。今日初めての青空だった。ここでは、クロユリ、コバイケイソウ、クルマユリ、イワツメクサ、アオノツツジ、コイカガミ、ハクサンフウロ、イワキキョウ、マイヅルソウ、白山シャクナゲ、ツガザクラ、イワウメ、イワヒゲなど

の花が見られた。

23日

ご来光が見えるようなら4時半ごろから行動と言わされたが、3時頃からまた雨音が聞こえていた。7時30分出発。安全のため、観光新道を辞めて黒ボコ岩から砂防新道を下山した。このコースはミヤマダイモンジソウがたくさん見られた。

途中延命水を飲み、甚之助避難小屋辺りまで下りてくると日が差し始め、天気が急速に回復してきた。21日は砂防工事がなかったので静かな登山道だったが、今日は盛んに砂防工事が行われていた。下山時にウバユリ、タマガワホトトギス、キツリフネソウ、シナノキンバイなど今まで見られなかった花が咲いていた。

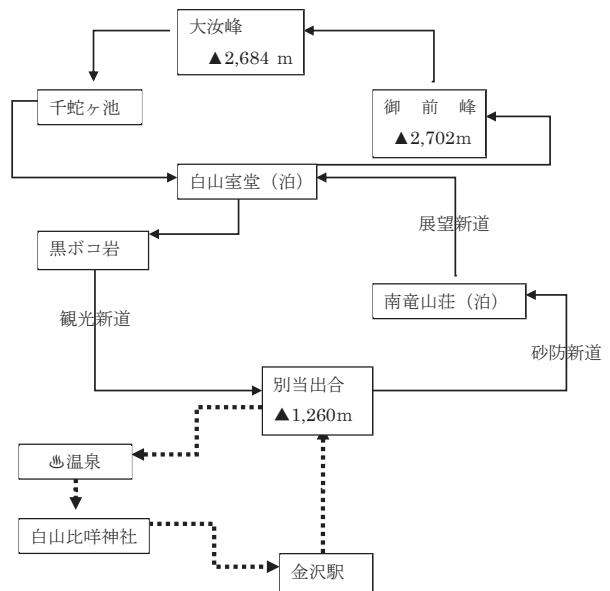
三日間とも雨にたたられた山行だったが花の多さに感動した。機会があれば今度は晴天の中を歩いてみたいと思った。下山後温泉で汗を流し本宮の「白山比咩神社」を参拝し、無事下山できたお礼と報告をした。

概要

山名	白山（御前峰）		
月日	2019年7月21日（日）～23日（火）		
山域	白山	地形図	1/25000 白山
形式	小屋泊	グレード	2B
目的	高山植物のお花畠、豊かな自然の恵を楽しむ		
費用	約44,000円 (ジパング利用)	交通機関	北陸新幹線・レンタカー
日程	一日目	我孫子駅5:31 → 上野駅6:04/22→新幹線→金沢駅8:46/9:30→レンタカー→11:10市ノ瀬（マイカー規制のため12:00スタート）→12:15別当出合(1,260m)12:30⇒砂防新道⇒中飯場13:20⇒別当覗14:20⇒甚之助避難小屋15:15⇒16:15南竜山荘2,080m) ＜歩行時間：3時間40分＞	

	<p>南竜山荘 10:00 ⇒ エコーライン ⇒ 11:20 室堂 (2,450m) (昼食) 13:15 ⇒ 千蛇ヶ池(雪渓トラバース) ⇒ 14:40 大汝峰(2,684m) ⇒ 翠ヶ池 ⇒ 16:10 御前峰(2702m) ⇒ 17:00 室堂 <歩行時間： 5時間></p>
二日目	<p>白山室堂 7:30 ⇒ 黒ボコ岩 8:55 ⇒ (砂防新道) 延命水 ⇒ 甚之助避難小屋 9:15 ⇒ 中飯場 10:50 ⇒ 別当出合 11:45 → レンタカー → 13:05 温泉 14:05 → 白山比咩神社 14:45 → 15:50 金沢 17:07 → 新幹線 → 上野 19:38/54 → 20:29 我孫子 <歩行時間： 4時間></p>
三日目	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝はマイカー規制があり、市ノ瀬のゲートは12時に開く。 ・ルート・標識ともに整備されており、迷うところはない。 ・水が豊富で、休憩等の各か所に水の補給できる施設あり。 ・二日目のお池めぐりは、残雪がありトラバースする箇所が数か所あったが、ツボ足で問題なし。 ・南竜山荘は、毛布はふわふわ、トイレはウォシュレット、山小屋の方の対応も親切、夜はスクリーンを使っての花の説明会があり、参考になった。(自然観察員の方の自然観察会も催行している) ・白山室堂は、一番トイレに近い部屋だったせいか、一晩中廊下を歩く音が絶えなかった。現在、室堂ビジターセンター前にトイレを建設中。来年度は快適なトイレになるかもしれません(?)
ルート状況	<p>齊田 L 新谷 SL 桐生 石塚 蟹江 田嶋 佐藤 小野 箕輪カ (会友) 男 1 女 8 計 9名 (内会友1)</p>
参加者	

概念図



クロユリ



無事下山を総宮にお礼

<1123>

鳥海山
(2236m)

矢野 朝水



心字雪渓

1日目 (7月25日)

5:31 我孫子発。同行は高橋芳L、常井猛、矢野朝水。上野から東北新幹線で新庄を経て、11:19酒田到着。駅にリュックを預け、鮭屋で昼食。次いで、「本間家旧本邸」、「山居倉庫」、「土門拳記念館」を見学。酒田駅に戻り、16:00 酒田合同タクシーで「滝ノ小屋登山口」へ向かう。一人片道3,000円。16:50 「滝ノ小屋登山口」(1202m) 到着。ブナ林の道を登り、17:20 今夜の宿「滝ノ小屋」に到着。ミヤマトウキの白い花やハクサンフウロの紫の花が咲き、雪渓をわたる風は涼しい。

「雪渓の優しき風や山の宿」

2日目 (7月26日)

4:15 起床。朝焼けの中、紫の雲がたなびく。天気よし。「朝焼けに紫雲たなびく鳥海山」
朝食後、5:40 出発。「八丁坂」を登る。眼下には酒田の町や日本海が広がる。遠く霞むのは月山か。ウグイスの声が聞こえる。ウゴアザミ、イワヒゲ、クルマユリ、トウゲフキ、ハクサンシャジン、ツマトリソウ、モミジカラマツ、チングルマ、ハクサンシャクナゲ、マイヅルソウ、オタカラソウ・・・次々と花が迎えてくれる。

「こだまする夏鶯や花の山」

7:00 「川原宿」到着。チングルマ、イワイチョウ、イワカガミ、ミヤマカラマツ、ミヤマキンポウゲ、オヤマリンゴなどの花を見ながら、「心字雪渓」「小雪渓」を越え 9:05 「薊坂入口」に到着。

「雪渓を踏み込み目指す花の峰」

「薊坂」は急な登りが続く。下を見下ろすと青い山並みの中に「心字雪渓」をはじめ雪渓が点々と広がり、青と白のコントラストが実に美しい。

「青山に雪渓織りなす山のなみ」

10:20 「薊坂」を登り「伏拝分岐」に到着する。外輪山の稜線を歩き、10:33「伏拝岳」、10:55「行者岳」(2159m) を過ぎ、11:40「七高山」(2229m) 頂上に達する。途中、稜線の脇には、チョウカイアザミ、ダイモンジソウ、ウサギギク、コバイケイソウ、イワカガミ、チョウカイフスマ、イワギキョウ、イワブクロ、オヤマリンゴ、ハクサンチドリ、アオノツガザクラ、ミヤマキンバイ、ミヤマコウゾリナなど。「七高山」を下り、11:50「新山・外輪分岐」で昼食。雲が押し寄せ「新山」を覆い、視界が悪くなる。

「雲の峰崩れて煙る鳥海山」

食後、急な岩の小道を下り、「大物忌神社」に参拝後鳥海山の最高峰「新山」(2236m) にアタック。霧深い中、山頂とおぼしき岩山で写真を撮り下山する。13:45「大物忌神社」から「千蛇谷コース」を辿り下山する。左には大雪渓が聳え、断崖を削り千蛇谷に落ち込んでいる。「大雪渓断崖削り谷に落つ」。千蛇谷を横断し「七五三掛」から「御田ヶ原」に至ると視界が開け、山麓一帯にニッコウキスゲやチングルマ、トウゲブキの群生が広がり、ベニバナイチゴ、チョウカイアザミ、チョウカイフスマ、ハクサンシャジン等々。来たかいがあつたと感激する。「山麓を黄金に染めるお花畠」左下に「鳥海湖」を見下ろしながら 17:10 今日の宿「御浜小屋」に到着。夕食後外出すると、日本海に赤い一筋の帶を引いて夕日が沈みゆく。

「暑き日や夕日落ちゆく日本海」

3日目 (7月27日)

4:00 起床。真っ赤な太陽が鳥海山の山頂付近

に上るが、すぐ雲に隠れる。鳥海山はたちまち雲に覆われ、雨交じりの風が冷たい。

「雲湧きて風雨頬刺す御来光」

6:00 山小屋出発。本日は鳥海湖周辺を巡る予定だったが、風雨のため予定を変更し、「鉢立」に下りる。8:05 「鉢立」着。タクシーに乗り、8:45 「道の駅 象潟ねむの木の丘」着。日本海を見下ろす展望温泉に入った後、市場で岩ガキとビールで乾杯。タクシーで象潟駅に行き、11:27 象潟発。新潟、上野を経由して 16:43 我孫子着。

「これまで山は沢山登ったけど、今回ほど綺麗な花をたくさん見たことはなかった」(高橋芳恵 L)。

概要

山名	鳥海山		
月日	2019年7月25日(木)~27日(土)		
山域	出羽山地	地形図	1/25000 鳥海山・小砂川・湯の台
形式	小屋泊 2泊3日	グレード	3B
目的	東北の名峰の花を訪ねる		
費用	40,000円	交通機関	JR・新幹線・タクシー
一日目	我孫子 5:31 → 上野 6:04/18 新幹線 → 新庄 9:55/10:15 → JR → 酒田 11:19 → ※観光 → (乗合タクシー) 15:50 → 駐車場 16:50 ⇒ 滝の小屋 17:30 ※酒田観光(本間邸・山居倉庫・土門拳記念館) <観光時間+歩行時間 30分>		
二日目	滝の小屋 5:40 ⇒ 河原宿 7:00 ⇒ 心字雪渓 ⇒ 薊坂入り口 9:00 ⇒ 伏拝岳 9:30 ⇒ 行者岳 10:55 ⇒ 七高山 11:50/12:05(昼) → 大物忌神社 12:20 ⇒ 新山 13:00 ⇒ 大物忌神社 13:45 ⇒ 千蛇谷 ⇒ 七五三掛 16:00 ⇒ 八丁坂(御田ヶ原分岐) 16:15 ⇒ 御浜小屋 17:05 (泊り) <歩行時間 約8時間30分>		

三日目	御浜小屋 6:05 ⇒ 6合目賽の河原 ⇒ 鉢立展望台 8:00 ⇒ 鉢立 8:10 → タクシー → ねむの里道の駅 8:45(入浴・食事)/ 10:45 → タクシー → 象潟 11:00/27 → 特急 → 新潟 14:05/13 → 新幹線 → 上野 15:54 → 我孫子 16:30 頃 <歩行時間 2時間20分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 湯の台コースからの大雪渓・渓・千蛇谷は例年に比べて残雪が多く、アイゼンを使用したが小雪渓からはストックだけで歩行した。 七高山から新山の間の谷にはかなりの雪があり、雪渓沿いに頂上を目指す人が多かったが、我々は大物忌神社から濃霧の中を白いペンキを頼りに山頂に向かった。 海の近くにそびえる鳥海山は濃霧はつきものと考えなければならない。 千蛇谷コースを下山したがこちらも雪渓をロープに沿って何度も横切った。雪渓をそのまま下った方が早かったかもしれない。
参加者	高橋芳 L 矢野朝 SL 常井 男2 女1 計3名

概念図



<1124>

黒部五郎岳～笠ヶ岳
(2840m) (2898m)

佐藤 清宏

黒部五郎岳～笠ヶ岳 山行記

数年前、裏銀座コースを歩いた際に水晶岳から黒部五郎岳のカールを間近に見た。さらに、笠ヶ岳の尖がった山容を遠望した。その時からいつかは登ってみたいと念願していた百名山の2座である。今回の山行でその念願がかない、たいへん感激している。

1日目 富山駅からタクシーで1時間余り、折立登山口に着いた。曇り空の中、シラビソとクロベの樹林帯の太郎坂を登る。すぐに汗が噴き出した。下山者と次々にすれ違うが雨具着用で靴はドロまみれだ。台風6号の影響で昨夜はかなりの雨だったようだ。三角点に着くと視界が開け、整備された広い道になる。後ろを振り返ると有峰湖も見えた。天候回復の兆しかと思いきや、登山道に雷鳥が姿を現した。笹原の中にニッコウキスゲ、足元にはチングルマを見ながら4時間余りで太郎平小屋に着いた。ビールで乾杯していると雨が降り出した。小屋は満員で布団2枚に3人が寝る。夕食は三交代だった。

2日目 5:35 霧の中を出発。このコースは西銀座ダイヤモンドコースといわれているらしい。太郎山を過ぎると少し明るくなり気持ちの良い稜線歩きとなった。北ノ股岳手前はハクサンイチゲの大群落。これほどの大群落は初めてだ。北ノ股岳を過ぎると雨が降り出しが、黒部五郎岳の下に着く頃には青空も見えだした。山の天気は変わりやすい。肩までの急登を喘ぎながら登る。肩に上がると黒部五郎岳の頂上と憧れのカールが目に飛び込んできた。ザックを置いて頂上を往復す



黒部五郎岳とお花畠

る。黒部五郎岳はゴーロゴーロの山だった。コバイケイソウの中をカールの底に下り、そこで休憩。リーダーがガスとコッヘルを取り出して、雪渓から流れ出てきたばかりの水を汲みに行く。この水を沸かしてコーヒータイムとなる。各自が好きなコーヒーを持ってきていた。私はキリマンジャロだ。岩壁とお花畠に囲まれたカールの中で、至福の時を過ごした。小舎への登山道の周りは、ハクサンイチゲ・ムシリスミレ・ミヤマキンポウゲ・シナノキンバイ・チングルマ、そしてコバイケイソウの大群落がカールの壁の上部まで広がっている。黒部五郎小舎はとても雰囲気の良い小舎だった。8室あり、鳥の名前がついている。私たちの部屋はアマツバメ、26人を入れるところに9人だった。スタッフが親切で靴箱や乾燥室の使用などに細かい心配りがされていた。夕方には視界が良くなり、笠ヶ岳がのぞめた。

3日目 5:05 霧の中を出発。樹林の中の急登を三俣蓮華岳に向かう。霧が晴れず、逆に濃くなって頂上を見逃すところだった。双六岳へのルートでは足元に雪渓も現れだした。中道分岐を過ぎてすぐ、クロユリの群生が見られた。双六岳頂上では休憩せずに広い尾根道にはいる。急にガスが切れて鷲羽岳方面が見えだした。ここからの槍ヶ岳と北鎌尾根を見たかったので、「風よ、もっと吹いてガスを吹き飛ばせ」と念じたのだが・・・ 双六岳もコバイケイソウの群落が素晴らしい。弓折乗越で昼食の後、笠ヶ岳への登山道に入るが

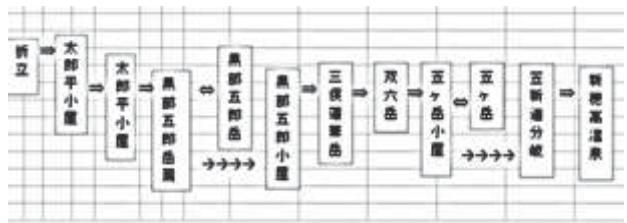
登山者はあまりいなかった。その代わり？雷鳥の親子と、続いて登山道で砂浴びをしている2羽

(夫婦か)に出会った。2羽は、近づくとどんどん登山道を先に進んでいき、まるで道案内をしてくれるかのようだった。秩父平もコバイケイソウが見事だった。抜戸岳へのハイマツ帯をすすみ、笠新道分岐に至る。ここから笠ヶ岳がドーンと臨めるはずだが、ガスの中だった。途中で抜戸岩を通る。まるで笠ヶ岳への門だ。笠ヶ岳山荘に着いた時には雨粒が落ちてきたので荷物を置いてすぐに、平たい岩が積み重なったところを頂上に向かう。17時過ぎに登頂する。播隆上人がここから槍ヶ岳を見て開山の大願を起こしたそうだ。(槍ヶ岳も笠ヶ岳も氷食尖峰でマッターホルンと同じだそうだ) 頂上は少し広くなっているが、縁に寄って下を覗くと高度感満点だ。急に暗くなり途端に雨が強く降ってきた。頂上の祠(播隆が仏像を安置)にお参りして速攻で下山した。そこにも雷鳥が！山荘の夕食はハンバーグカレー、朝食には生卵がでた。スタッフの笑顔の対応が印象的だった。

4日目 5:43 今日も霧の中を出発。笠新道の途中から少し視界が開け、八ヶ岳が一瞬遠望できた。杓子平のお花畠はコバイケイソウがいっぱい。今年はコバイケイソウの当たり年のようなようだ。杓子平からの下山は、急坂で、濡れたゴロゴロした岩が多く、3日間歩き疲れた体に緊張を強いた。途中の2000m草付きでササユリが見られホッとさせられる。長い長い下りの後によくやく登山口にたどり着いた。冷たい流水と涼しい風穴からの風で喉と体を癒し、新穂高温泉へバスの時間を気にしながら砂利道を急いだ。

4日間、霧と曇りの天候で、期待した眺望は得られなかつたが、ハクサンイチゲやコバイケイソウなど多くの高山植物と雷鳥たち、そして五郎カールでのコーヒータイムに癒された。念願をかなえてくださった、矢野貞Lと同行の皆さんに感謝の山旅だった。

概念図



概要

山名	黒部五郎岳～笠ヶ岳		
月日	2019年7月28～31日(日～水)		
山域	北アルプス	地形図	1/25000 有明湖、薬師岳、三俣蓮華岳 笠ヶ岳
形式	小屋泊 3泊4日	グレード	4C
目的	黒部五郎岳カールを歩く		
費用	約54,000円 (ジパング利用)	交通機関	JR、タクシー、バス
一日目	我孫子 5:31→上野→北陸新幹線→富山駅 8:26/36→折立 9:52/10:05⇒三角点(1870m) 11:46/12:0⇒(2133m) 13:12/17⇒(2220m) 13:57/14:02⇒太郎平小屋 14:25 <歩行時間3時間25分>		
二日目	太郎平小屋 5:36⇒太郎山 5:46⇒神岡新道分岐 7:25⇒北ノ股岳 7:30/40⇒赤木岳 8:28⇒中俣乗越 9:00⇒休憩 9:14/20⇒黒部五郎の肩 10:58/11:05⇒黒部五郎岳 11:16/24⇒肩(昼食) 11:34/12:02⇒カール 12:30/57⇒黒部五郎小舎 14:22 <歩行時間7時間25分>		
三日目	黒部五郎小舎 5:05⇒三俣山荘分岐 6:25/30⇒三俣蓮華岳 7:11/14⇒双六岳 8:30⇒休憩 9:03/10⇒双六小屋 9:49/10:05⇒黒百合ベンチ 10:48/53⇒弓折乗越 11:25/45⇒大ノマ乗越 12:14⇒休憩 13:04/09⇒休憩 13:42/47⇒秩父平 13:58⇒抜戸岳下 14:58⇒笠新道分岐 15:14⇒笠ヶ岳山荘 16:42/51⇒笠ヶ岳 17:07⇒山荘 17:20 <歩行時間10時間40分>		

四日目	山荘 5:43⇒休憩 6:46/51⇒笠新道分岐 6:55⇒お花畑 7:45/55⇒杓子平 8:10⇒ 休憩(ササユリ)8:56/9:03⇒休憩 (1800m)10:28/33⇒休憩(1600m)11:15/ 20⇒登山口 11:48/55⇒新穂高ロープウ エイ 12:40/55→平湯温泉 13:28/14:50 →松本 16:15/17:18→新宿→我孫子 20:20 <歩行時間6時間10分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・太郎小屋から黒部五郎までは特に危険なところなし ・黒部五郎岳への登りがきつい ・双六小屋から笠ヶ岳までは何回も登り下りがあった。双六小屋から笠ヶ岳まで6時間半と小屋に案内があった。 ・3日目は距離16.2キロ標高差プラス1612m、-1139mとかなり厳しかった。 ・笠新道は分岐から登山口まで急坂の連続。1800m地点まで岩場である。 ・黒部五郎小屋は労山カード割引があるうえ、ロケーションが素晴らしい、食事美味しい、サービス良、スタッフの対応申し分無く、気持ち良かった。もう一度行ってみたいと思った。 ・すべての小屋で水の心配無し、笠ヶ岳小屋は雨水浄化水で無料。
参加者	矢野貞 L 佐藤SL 小林安 秋山 男2 女2 計4名



笠ヶ岳頂上

<1125>

会津駒ヶ岳
(2132m)

土田 義二



素晴らしい晴天 駒ヶ岳山顶

8月4日

長い梅雨が開けると同時に連日猛暑日が列島を覆う中、会津駒ヶ岳登山がリーダー石塚さん、サブリーダーの矢野貞さんを中心に、女性7人男性3人の総勢10名で決行されました。私は会津駒ヶ岳は初めてでしたが、BS放送の日本百名山ビデオを観て、ネットで調べるとそれ程手強い山ではないと密に踏んでいました。しかし30度を超す暑さの中の登山ではとても初心者向けとは思えませんでした。

<1日目>上野発6時24分の新幹線やまびこ201号で那須塩原駅へ駅前の日産レンタカーが8時開店なので30分程時間待ちして2台借りて、2時間30分程先の駒ヶ岳登山口とキリンテ駐車場の2か所に分けて車を駐車。10時50分に登山開始。先頭をサブリーダーの矢野貞さん、健脚の矢野さんの抑え役を外崎さん、しんがりをリーダーの石塚さんとベテランの藤家さんが護りながら、行程の中程の水場を目指します。初日12時30分には駒の小屋に着き、昼食をして、駒ヶ岳山顶の登頂を予定していましたが、酷暑に前半の急登ヶ所で苦戦した事と、駒の小屋が見える直前で、

雷と俄か雨に見舞われたことから、駒ヶ岳山頂は明日、早朝に変更されました。因みに駒の小屋到着は15時10分でした。

猛暑と単調な登り続きに水場が本当に遠く感じられ、水場に下りて冷たくて美味しい水を飲み、水に手を添え、顔を洗うと生き返る想いでした。本来は樹林帯を抜けると直ぐに見えるはずの駒ヶ岳頂上も雨に降られ見えませんでした。会津駒ヶ岳の山小屋、「駒ヶ岳山荘」は食事が付かないので、水場から各自20の水を運んできたのでお湯を沸かして持参の食糧をベースに自炊の食事をとり、早く就寝します。この山小屋では1人に一枚の布団が保証されているそうです。

惜しむらくは乾燥室のボイラーが休止していたため、汗と雨に濡れた衣類が乾かせなかつたことです。そのせいか、私を始め半分以上の人人が小屋のTシャツを買うことになりました。これもまた、記念品ですね。

<2日目>翌日は見違える程の晴天、朝4時30分から準備して5時25分駒ヶ岳頂上を経由して中門岳を目指します。前日の雨のため、木道が濡れています最初すこし歩きにくい状態ですが、20分程で山頂。記念写真を撮って中門岳に向かう。途中で燧ヶ岳、至仏山、白根山等が眼前に広がる絶景に思わずウォー！中門岳までは、高層湿原が続き、コバイケイソウの群生等に眼を見張ります。今回は「高層湿原に咲く花々をめでる」目的が示され、会員で花の専門家の小野さんが実際に適切な説明をしてくださいます。丁寧な花の説明を真剣に聴きながらも3歩歩けば名前を忘れる私などにも、一登山一つだけ覚えていけば大丈夫と励ましてくださいます。6時40分、中門岳の標識に到着すると、もう少し上があるのでそこまで行くことに。10分ほど上がると更に広がる絶景。駒の小屋に戻り、小休憩して帰りは富士見林道、大津枝峠を経てキリンテ登山口の駐車場を目指します。帰りもある水場を楽しみにしていたので残念と思っていたら、このコースがまた素晴らしい。途中までは燧ヶ岳に向かって尾根道を歩い

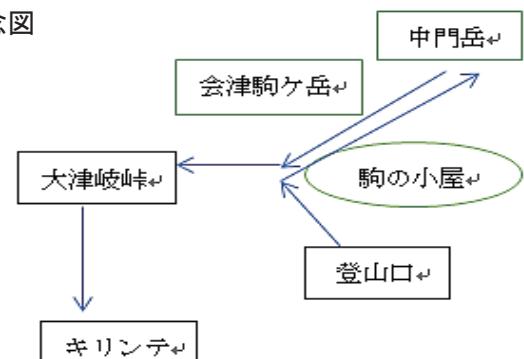
て行く気持ち良いコースでした。最後の下りは、長いけど歩きやすいコースで十分堪能できた山行でした。キリンテ駐車場から3人が車で駒ヶ岳登山口駐車場までもう一台の車を取りに行き、私は20分程休憩して車を待つことが出来ました。会津駒ヶ岳はもう一度行ってみたいと思わせられた素晴らしい山行でした。

最後に運転して頂いた藤家さん、矢野さんそして企画して頂いた石塚さん本当に有難うございました。



稜線に行く

概念図



概要

山名	会津駒ヶ岳		
月日	2019年8月4日(日)～5日(月)		
山域	南会津	地形図	1/25000 会津駒ヶ岳・檜枝岐
形式	山小屋泊1泊2日	グレード	2B
目的	高層湿原に咲く花々をめでる。		
費用	約13,000円	交通機関	JR・新幹線・レンタカー

1 日 目	我孫子駅 5:31→上野駅 6:04/24（新幹線）→那須塩原 7:32/レンタカー 8:00→会津田島道の駅→駒ヶ岳登山口 10:20(車に荷物)/10:50⇒駒の小屋 15:10 <歩行時間:4 時間>
日 程	駒の小屋 5:25⇒会津駒ヶ岳 5:45⇒中門岳 6:40⇒中門岳の丘 6:50⇒会津駒ヶ岳分岐⇒駒の小屋 8:00/30⇒大津枝峠 9:45/10:00⇒キャンプ場 12:30→燧の湯 13:00（入浴）/50→レンタカー返却 那須塩原 16:45/17:05→新幹線→我孫子 19:08 <歩行時間:6 時間 30 分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・レンタカー 2 台で、駒ヶ岳登山口と下山口のキャンプ場に分散して置いた。 参加者は国道の登山口より上の駐車場まで歩いて、その間に下山口に車を置きに行き、下山時の時間短縮をした。 ・林道終点の駐車場はすでに満車状態であったが、丁度 1 台下山する車があって駐車出来た。 ・駒の小屋は食事の提供はないが、中に食事出来る所があり他の人と交代で食事をとった。雨は上がっていたので、外で食事するグループもいた。 ・2 日目は天気も良かったが、前日の雨の影響で木道が滑りやすかった。駒の小屋より富士見林道を通りキャンプに下りる大津枝峠の分岐には、大きな標識があつてわかりやすかった。
参加者	石塚 L 矢野貞 SL 外崎 桐生 藤家 小野 田嶋 土田 渡辺香 秋山 男 3 女 7 計 10 名

< 1126 >

北岳～間ノ岳
(3193m) (3190m)

松下 寿男



北岳登頂

待望の北岳へ

7月から8月は比較的雨天の日が多く、今回天候によっては中止の心配があったが、運よく前日から天気は回復し、8月24日当日の我孫子の天気は快晴となり絶好の登山日和となりました。

我孫子駅から新宿駅、新宿駅からカイジ73号に乗り甲府駅。甲府駅で広河原行きのバス停に向かうが、さすがに登山シーズン尚且つ週末晴天の予報のせいか、同じ目的らしき多くの人々がバス停周辺でバスを待っている。その為か、広河原行きの臨時バスが急遽用意された。甲府駅でもたもたしていると乗り遅れる危険がある。駅から出てすぐさまバス停に並んだため、無事臨時バスに乗ることができた。多くの登山者と共に甲府駅出発し、2時間程山道に揺られながら広河原に到着。広河原から今日の目的地である白根御池小屋に向け歩行開始。結構急な上り坂が断続的に続く。しかしながら思ったほど道は荒れていない。最近の降雨により登山道は

荒れ更にぬかるんでいると思いきや、結構まともでした。これには助かりました。

白根御池小屋に近づくと尾根が見えてきた。その尾根の先には、なんと雲一つない青空。これを見たくて登山しているといつても過言ではない、そのくらい見事に綺麗な青空でした。

二日目、白根御池小屋をまだ薄暗いうちに出発。本日も晴天。本日も結構急な上り坂をひたすら歩く。肩の小屋あたりからか、秋の花を見かけるようになった（と、草花に詳しい女性陣から）。いままでは夏の花ばかりであったが、さすがに標高が高くなったのと、今年は冷夏の影響もあると思われ、秋の花の開花が比較的早いらしい。さていよいよ待望の北岳山頂に到着。当然ですが360度の大パノラマ。富士山山頂よりは若干低いのですが、ここからの眺めは、まるで富士山を見下ろしているかのように見えます。流石富士山に次ぐ標高の山です。

今朝は快晴でしたが、北岳から下山の頃から雲が出てきた。中白根山、間ノ岳と歩くにつれ雲が増え、間ノ岳から小屋に向かう頃には下界は一面雲で覆われてきました。あと徐々に寒くなってきた。山の天気は変わりやすいし、やはり午後は雲がでる。急いで山小屋に帰りました。三日目は日の出を見たくて早く起きた。山小屋から外に出て下を見るとそこは一面の雲海。その雲海から富士山の頭が島のようにちょこっと出ていました。その雲海の端から出る日の出、なにもかも初めての体験で感動しました。

朝ご飯を食べ山小屋を出、もう一度北岳山頂に行き、右俣コースで下山。すでに二日経ち足は相当疲労している。その中、漸く広河原山荘に到着。あとはここからタクシーを使って甲府市へ戻る。甲府市街地に到着し銭湯に入る。これが昭和の頃からそのままの姿を残している銭湯で、三日分の汚れと疲れを洗い流してくれるだけでなく、心も癒してくれそうな昔懐かしさ漂う銭湯でした。銭湯から上がり帰りの電車を待つまでサイゼリアで反省会。十分反省し帰りました。

した。

楽しい時間ありがとうございました。

概要

山名	北岳～間ノ岳		
月日	2019年8月24日(土)～26日(月)		
山域	南アルプス	地形図 1/25000	千丈ヶ岳・鳳凰 三山・白峰三山
形式	山小屋泊 2泊3日	グレード 3B	
目的	昨年のリベンジ		
費用	約34,000円	交通 機関	JR・バス・タクシー
一日目	8/24 我孫子駅 5:31→新宿駅 6:33/7:03 →特急→甲府駅 8:39/9:00→バス→ 野呂川広河原インフォメーションセンター(昼食)10:57/11:30⇒広河原山莊⇒白根御池小屋 14:45(泊) <歩行時間3時間>		
二日目	8/25 白根御池小屋 5:45⇒草すべり⇒ 小太郎尾根分岐 8:15⇒北岳肩ノ小屋 8:55/9:17⇒北岳 10:10/10:33⇒北岳 山荘(昼食)11:55/12:30⇒中白根山 13:06/13:10⇒間ノ岳 14:10/14:20⇒ 中白根山 15:30⇒北岳山荘 16:00(泊) <歩行時間8時間45分>		
三日目	8/26 北岳山荘 5:30⇒北岳 7:10⇒肩 の小屋 7:50/8:00⇒右俣コース⇒二俣 10:15⇒大権沢⇒広河原山荘(昼食) 12:40/13:39→タクシー→甲府市内銭 湯(入浴)15:10/16:00→タクシー→甲府駅 (切符購入・反省会)16:10/17:36→特急 →新宿駅 19:08→我孫子駅 20:07 <歩行時間6時間30分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 初日は広河原からいきなりの急登で御池小屋の手前まで3時間ほど続く。 2日目も早朝からの草すべりルートは3時間近くの急登である。 <p>北岳から北岳山荘へは下りだが、岩稜帶やザレについて注意が必要。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・北岳山荘から間ノ岳は見た目より長く勾配がきついルートである。 ・3日目の二俣から広河原への下山時間は、標識では2時間で昭文社の地図は1時間半となっているが、実際には2時間かかった。 ・大樺沢の登山道は沢に沿って歩くので気持ち良く歩くことが出来る。 ・分岐には標識があり道迷いすることはない。 ・どちらの小屋も水とお湯が無料でもらえる。 ・御池小屋は建てたばかりできれい、スタッフの応対も良い。
参加者	田村L 高橋芳 SL 大畠 桐生 深草 松下 布能 男2名 女5名 計7名



間ノ岳頂上



青空の下、北岳を目指す

<1127>

木曽駒ヶ岳～越百山
(2956m) (2614m)

北田 仁則

充実の中央アルプス主脈縦走



(1日目) バスタ新宿は週末とあって、早朝から混雑していた。また、中央高速では調布、国立付近が渋滞しており、下車予定の駒ヶ根インター到着がかなり遅れるのではと危惧させられた。しかし、東京を抜けると渋滞はなくバスは30分遅れで到着、ここからしらび平まではリーダーが手回しよく、タクシーを予約してくれてあり、乗り換えバス利用の他の登山客をしり目に一足早くロープウェイ乗り場に到着し、ロープウェイへの乗り継ぎもスムーズにいった。降り立った千畳敷カールは標高2612メートル、眼前の青空をバックに天を指す剣のような宝剣岳をまじかに見るのは、50年ぶりでなつかしかった。標高差約300メートルの急な登りは家族連れや軽装の大勢の登山者でにぎわっていた。宿泊の「宝剣山荘」到着後、足慣らしを兼ねて木曽駒山頂を空身往復した。残念ながら頂上ではガスがわいてきて眺望はなかったものの、ここに固有種である「ヒメウスユキソウ」の群落を見る事ができた。山小屋は予想通りごった返しており、我々のあて

がわれた狭い部屋には6人押し込められ、寝る場所は他のパーティ3人とのジャンケンになった。

(2日目) 朝食は弁当にしてもらい、薄暗くガスと強風の悪条件のなかを出発した。いきなり宝剣岳の鎖場をよじのぼり頂上に向かう。こんな急な岩場で、仲間が数年前に落雷にあったことが思い出され、その怖さにおもいをめぐらせた。

宝剣岳を通過するころからガスが消えて風も弱まり、やがて夜明けを迎えた。3千メートル近い稜線からの眺めは、いつみても素晴らしい。目の前の三ノ沢岳が大きくそびえている。学生時代にここから空身往復したことが懐かしく思い出される。50年まえに今回とほぼ同様に、木曽駒から南駒までをテントを担いで縦走、しかも、木曽駒まではロープウェイを使わずに、麓から重いキスリングを背負ってやった。よくやったものだとふりかえる。それに比べて、今回はこのあとの長い縦走路で足がつり始め、木曽殿山荘までは大変なブレーキとなり、同行の二人の足手まといとなってしまった。

この縦走路は宝剣を通過後も急な岩場や鎖場が続き、アップダウンを繰り返すのでかなりきつい。ザックの重みが肩に食い込む。必死の思いで木曽殿山荘にたどり着いた。それでも、13時に着いたのだから、佐藤さん、矢野さん二人の歩くペースが、いかに速かったか知った。到着時にはガスで視界がなかったものの、夜中に小屋を出てみると、満天の星空で、伊那谷の灯りと木曽側には遠く名古屋の夜景まで眺められた。

(3日目) 木曽殿山荘から空木岳へはいきなり急な登りとなる。しかし、前夜はゆっくり眠れて疲れもとれ、しかも朝から好天に恵まれたので快調にすすんだ。ここでも、鎖場や岩場が連続しており、こうした登りに不慣れな初心者がいるとすぐに渋滞する。中央アルプスのこのコースは鎖場や岩場が多く、初心者には不向きである。頂上手前で日の出を迎え、空木岳頂上からは360度の大展望が望めた。昨日歩いた稜線の先に、大きくそびえる御嶽山、乗鞍岳、その奥に槍穂が見える。

右手には八ヶ岳、南アルプスの主峰の連なり、富士山がその上に頭を少し出している。木曽殿山荘に泊まっていた客が次から次と頂上にやってきたので、我々は早々に頂上を立ち去った。ほとんどの登山者は池山尾根を下山する。ここからさらに縦走を続ける登山者は少なく、静かな山歩きができる。南駒ヶ岳山頂でも素晴らしい眺めで、ほとんど我々3人だけでゆっくりと楽しめた。昨夜泊まった木曽殿山荘の黒い屋根と今日泊まる越百小屋の赤い屋根の両方が見えてうれしかった。南駒ヶ岳から仙崖嶺を越える縦走路も大変だった。仙崖嶺は大きくえぐれており、ルートが急な上り下りを繰り返す難路だった。しかし、ここでは静かな山歩きが楽しめる充実感がある。越百山に着くころには、晴れていた天気はすっかりガスに覆われて、視界が全くなかった。空木岳、南駒ヶ岳の山頂で天気が良かったことは実にラッキーだった。

越百小屋は南駒ヶ岳で見た印象と異なって、思っていた以上にこじんまりしていた。しかし、トイレはピカピカで気持ちよく、照明はランプでいかにもレトロな山小屋の雰囲気を醸し出していた。夕食は山小屋にしては手の込んだちらし寿司がでて感心させられた。水場もない小屋でうれしいサービスだった。宿泊者は10名で、うち4人は単独行。食後に彼らと、宿のおかみさんが格安の価格で提供してくれたウイスキー「コスモ」を飲みながら、山談義にふけったことも忘れられない思い出となった。

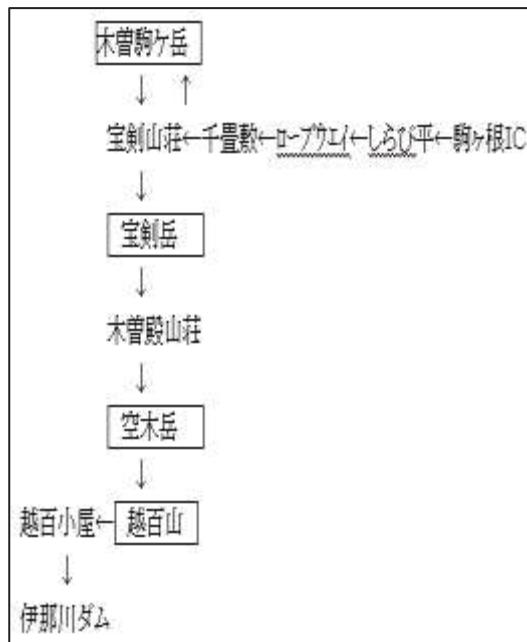
(4日目) 越百小屋からはひたすら樹林帯を下山する。途中の水場で、久しぶりにたっぷり水を使って、のどを潤したり顔を洗ったりして生き返る。出発するときには晴れていたが、天気はどんどん下り坂となっていき、登ってきたパーティとの会話で、明日は土砂降りの予報だと聞き、改めて我々はラッキーだったと気づかされた。下山口のそばの福橋から長い林道歩き、木曽谷を流れる伊奈川にそってダムの下まで歩く。ここは去年の豪雨による落石や洪水で道路が大きく損

傷して、痛々しい姿をとどめていた。下山後のフォレスパ木曽あてら荘での入浴は格別、4日分の汗を流し充実した山旅を振り返りながら帰途についた。

縦走路から空木・南駒を遠望



概念図



概要

山名	木曽駒ヶ岳～越百山
月日	2019年8月24日(土)～27日(火)

山域	中央アルプス	地形図	1/25000 木曽駒ヶ岳・空木岳
形式	山小屋泊 3泊4日	グレード	4C
目的	中央アルプス縦走		
費用	47,000円	交通機関	JR・高速バス・タクシー
1 日 目	我孫子 5:31→柏→日暮里→新宿・バス タ新宿南口 6:55→〈中央高速バス〉→ 駒ヶ根 IC 10:53/55→〈タクシー〉→しらび 平 11:22/39→駒ヶ岳ロープウェイ→千畳敷 11:47/12:05⇒宝剣山荘 12:53 (受付) 13:08⇒中岳 13:21⇒木曽駒ヶ岳 13:45/14:15⇒馬ノ背⇒中岳巻道⇒宝 剣山荘 15:00 泊 [歩行時間 2時間10分]		
2 日 目	宝剣山荘 5:00⇒宝剣岳 5:16⇒極楽平 6:00⇒濁沢大峰 7:11⇒檜尾岳 8:33/43 ⇒熊沢岳 10:42/11:00⇒東川岳 12:31/40⇒木曽殿山荘 13:02 泊 [歩行時間 6時間45分]		
日 程 3 日 目	木曽殿山荘 5:25⇒空木岳 6:55/7:10⇒ 赤柳岳 8:25/35⇒南駒ヶ岳 9:21/45⇒ 仙涯嶺 11:03/20⇒越百山 12:42/13:00 ⇒越百小屋 13:45 泊 [歩行時間 6時間29分]		
4 日 目	越百小屋 5:30⇒上の水場 6:20/30⇒上 のコル 7:19/25⇒下のコル 7:46⇒福橋 橋 8:23/35⇒今朝沢橋 9:12⇒伊那川ダム 9:34⇒ゲート 9:43/10:06→〈タクシ―〉→フォレスパ木曽あてら荘 10:40/12:10→〈タクシ―〉→12:15→ 野尻駅 12:30⇒塩尻 13:49/14:35⇒上 諏訪 14:56/15:12⇒特急⇒新宿 17:26→日暮里→柏 18:26→我孫子 18:30 [歩行時間 3時間45分]		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・千畳敷～木曽駒ヶ岳は、八丁坂が急で登山・下山者が多く混雑したが、他は問題なし。 ・宝剣岳～越百山は、なだらかなハイマツの稜線と、宝剣岳・熊沢岳・空木岳・南駒ヶ岳・仙涯嶺の急峻な岩場が交互に現れて、中央アルプス縦走の醍醐味を堪能できた。 ・越百小屋からは樹林帯の中をひたすら下山、オコジョ平付近でリスを見る。 ・伊那川林道は昨年夏の豪雨によるケサ沢の氾濫で何箇所か崩落し、ダム上駐車場へは通行止めのため、伊那川ダム下のゲートまで歩いた。
	参加者 佐藤 L 北田 SL 矢野貞 男2 女1 計3名



青空に映える宝剣岳



木曽駒ヶ岳固有種ヒメウスユキソウ

<1128>

道東三山（羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳）
(1661m) (1547m) (1499m)

大平 太計夫
外崎 蓮
武内 勇二



羅臼岳山頂

<羅臼岳>

大平 太計夫

道産子の私は今まで北海道の山々を個人山行やツアーや添乗で何回も登っています。昨年は岳人あびこの仲間と大雪山に行きましたので今年は道東三山を企画しました。秋の気配が漂う9月5日に早起きし始発の常磐線で羽田へ。女満別空港に飛び、9名で荷物も多いので大きめのレンタカー2台を借りて5日間交代で運転し行動しました。

1日目は世界自然遺産、知床の観光です。先ずは産まれた川に3～4年振りに戻ってきた鮭が見られる遠音別川の河口で産卵の為上流に向けて泳ぐ、命のドラマを見学しました。その後オシンコシンの滝を見、道の駅で知床の味覚で昼食とし、知床峠で明日登る羅臼岳を眺め、知床五湖も散歩しました。自炊の食材を求めてスーパーや鮮魚店、コンビニを回り今夜の宿、素泊まりの山小屋、木下小屋に向かいました。羅臼岳登山口にあ

る小屋は25年前に利用した時と変わらず古い小さな小屋で四井さんという管理人が常駐していました。源泉かけ流しの温泉露天風呂があるので交代で入浴後に皆で調理し明日からの登山の成功を期して乾杯、夕食としました。早朝からの活動で寝不足なので早めに持参の寝袋に潜り込みましたが夜中に闖入者があり、柱時計が30分置きになる音もあり熟睡できませんでした。

3時起きし、お湯を沸し簡単に朝食を食べサブザックで日の出前に歩き始めました。広葉樹林のジグザグの歩きやすい道をゆっくり歩きオホーツク展望台で一服し、更に1時間程で冷たい水が湧く弥三吉水。手や顔を洗って休憩。温度は15℃程度と快適であまり汗もかかない。積雪の影響で樹木が垂れ下がっていて「頭注意」の声が頻繁に飛ぶ。沢水の銀冷水は水量が少ない。大沢入口からは急坂で岩がゴロゴロで歩き難い。羅臼平からはハイマツ林に実るコケモモの赤い実をついばみながらの歩行となった。頂上まで岩峰320mの急登。久し振りに1500m近い標高差を登った疲労で足が動かない。個人的には5回目登頂の頂上では四囲の海岸、知床連山と国後島が大きな姿を見せていて皆で「島を返せ」と叫んだ。明日から登る斜里岳や阿寒の山々も見えた。地元ガイドが国後島の爺爺（チャチャ）岳と羅臼山を解説してくれた。30分余景観を堪能しての下山は岩稜の急降下なので慎重に。疲れ切っての下山は辛いけど登頂した喜びもあり軽快に歩を進めた。朝がたに比べ温度が上昇し、やけに喉が乾く。弥三吉水ではエキノコックスの危険を振り払って冷水をごくごくと飲んでしまった。登山口では四井さんに「1時間半遅かったね」と言われた。

車に荷を積み知床に別れを告げ75km先の清里町に向かう。途中、今夜の自炊材料等を購入して小雨降る中、清岳荘に着いたら薄暗くなっていた。女性の管理人さんが心配して待っていてくれた。立派な施設でゆったり自炊し羅臼岳の登頂を祝し乾杯。寝床は広いスペースでゆったり眠れた。



斜里岳山頂から大雪山を遠望する

<斜里岳> (9/7)

外崎 蓮

昨日の夕方、斜里岳の麓に建つ素泊まりの山小屋「清岳荘」に移動。山小屋と呼ぶにはふさわしくないほどきれいで設備も良く、室内でのガスの使用も許された。清里町観光協会が管理しているという。

今朝（7日）も晴れている。朝食後、清岳荘を出発。森を抜けてしばらく林道を行くと、突端に広場があった。旧清岳荘の跡地で、私が平成9年に訪れたときには確かに建物があった。登山道はやがて一ノ沢の沢の中に入って行く。対岸の赤いリボンを目当てに、沢の中の石を伝って右岸左岸と何度も渡り返す。時には川岸の岩をへつたり、よじ登ったり。水量がさほど多くはないので何とも楽しい。10箇所は渡渉したろうか。やがて沢ルートである旧道と、沢を離れて斜面を登る新道との分岐点、下二股に着いた。ここは標高800m地点で、山頂まで半分登ったことになる。ここからは安全面を考慮して右手斜面の新道に移った。だが、こちらもジグザグに付けられた険しい道である。一步足を踏み外せば、沢に真っ逆さま。見上げれば天まで続くと思われるほどの急登が延々と伸びていた。430mを一気に登って熊見峠で一休みする。沢用語で言えば、いわゆる「高巻き」をして、再び沢に下り立ったところが上二股である。下二股から上二股までが沢の核心部で、以前訪れたときは沢ルートを登った。今回もチャレンジしたかったが、連続する滝を登っていればもっと時間がかかったであろう。上二股からは次第に

水流が消え、源頭部特有の胸突き八丁の登りになった。登りついたところが馬の背で、やっと稜線に出た。時折白いガスが山肌を覆い、視界が消えることもあるが、稜線歩きは気持ちがいい。さらにガレ場を一登りして 10:15、ついに斜里岳に到着した。出発後のちょっとしたトラブルも入れると 5 時間かかったことになる。山頂では 360 度の眺めが待っていた。北面のオホーツク海に飛び出した知床半島には、ひときわ高く羅臼岳が聳えていたし、東の海には野付半島や国後島が霞んで見えた。西方には大雪山の山々も。今月末には初冠雪の便りがあるかも知れない。三度来ることのない斜里岳の標柱を愛おしく撫でた。

下山はハイマツに覆われた道を上二股まで戻った。このまま旧道、つまり沢ルートを下るには装備の面でも無防備状態である。危険なことから左手の新道へ。ここから熊見峠までは高低差のない稜線をゆく。コース中でほっと出来るのはこの稜線歩きかも知れない。熊見峠からはダケカンバにつかりながら下二股に向かって急坂を一步一歩慎重に下った。一ノ沢に下り立つと、沢の流れが今朝より穏やかに感じられた。

15:10、レンタカーに分乗して清岳荘をあとにする。ドライバーの方々には本当にお世話になりっぱなし。広い北海道を移動するには、これしかないのだから。明日、三山目の雌阿寒岳に登るために、マリモで有名な阿寒湖温泉に向かう。夕方、ひときわ賑やかな商店街通りを抜けて、民宿山口に着いた。何といっても宿泊代が安いのには驚く。居心地の良さも人気を呼んでいるのかも知れない。夕食の食卓に焼きたての初さんまが登場して大いに感激した。声も出さずに、あつという間に平らげた。家庭的なご馳走が何よりも嬉しい。夕食後、アイヌコタンを散策した。広場の両側には、伝統の民芸品や木彫りの商品を所狭しと並べた店が軒を連ねていた。アイヌシアターでは、美しい映像と舞踊も観劇した。

＜雌阿寒岳＞

武内 勇二

羅臼岳、斜里岳に続いて、道東 3 山の締め括りは雌阿寒岳。今日も天気は良さそうである。7 時前に民宿山口を出発、20 分程で雌阿寒温泉登山口に到着した。駐車場付近に白濁の温泉が流れ、硫黄の臭気が漂う。

大きな「登山口」の道標に導かれ、アカエゾマツの純林に足を踏み入れる。案内板によると「エゾアカマツは、湿原、火山灰、火山礫地など他の樹木が生育しにくい特殊な土壤に純林が出現する」とのこと。直ぐに 1 合目の道標があった。山頂まで 2.9 km、登山口まで 0.4 km とあった。山頂までの高度差 793m、距離 3.3 km、登りのコースタイムは約 3 時間である。

3 合目に大きな岩がゴロンと横たわっていた。いつのまにか樹相は背の高いハイマツに変わり、岩がゴロゴロした登山道になる。4 合目あたりで森林限界を過ぎて展望が開け、オンネト一や大雪山系の峰々を遠望出来るようになった。登るにつれハイマツの背が低くなり、そして次第に疎らになり、やがて砂礫の道となった。砂地にはガンコウランが黒紫色の実をつけている。数粒取って口に含み甘酸っぱい味を楽しんだ。僅かながらもメアカンフスマの可憐な花も残っていた。

7 合目あたりから、雄阿寒岳や阿寒湖が見えてきた。9 合目付近で外輪山の一角に取りつく。恐る恐る覗き込むと、巨大なクレーターを思わせる火口はほぼ垂直に切れ落ちている。外輪山に囲まれた大きな火口は 2 段底になっており、低い底には不気味な色の赤沼が、少し離れた高い方の火口には神秘的な青沼の 2 つの火口が見えた。赤沼近くの火口壁からは、今でも轟々と音を立てながら噴煙を吐き出しており、凄まじい地球のエネルギーに圧倒される。噴煙を気にしながらさらに歩を進めると、間もなく雌阿寒岳山頂である。山頂からの展望は、まさに雄大そのもの。噴煙越しに端正な阿寒富士が聳え、反対側に目を転じると、剣ヶ峰から阿寒湖、雄阿寒岳、その奥に昨日登った斜里岳が望めた。

外輪山を半周して、オンネトー登山道の8合目に下りた。ここは、阿寒富士への分岐点でもある。1時間チョイで阿寒富士を往復できることから、3名（佐藤、矢野、布能）がアタックを希望、登頂後、他の6名（大平、北田、白崎、外崎、桐生、武内）とは7合目で合流することとして出発して行った。残留組は8合目で大休憩。木も草もない砂礫の阿寒富士にジグザグに切られた登山道を行くアタック組の動きを追いながらのんびりした時間を過ごした。アタック組が阿寒富士から下り、7合目へ向かう姿を確認したところで、残留組も行動再開、予定通り7合目で合流した。ハイマツ帯から樹林帯に入り、剥き出しの木の根っこや昨日来の筋肉痛に悩まされ、先行の8名と離れがちになるので何回か待ってもらいながらも、オンネトー登山口（キャンプ場）に下り立った。

オンネトーの西岸の車道歩きの途中、林の切れ目から湖に下り、オンネトーの湖面越しに、雌阿寒岳・阿寒富士を眺めた。登ってきた山を麓から見るのは楽しい。登頂の満足感があるからだろう。加えて、2山が湖面に投影する景色はとても素晴らしい。計画では、オンネトー登山口から雌阿寒温泉まで、1時間の車道歩きの予定だったが、佐藤君、矢野さんの両名が他のメンバーより先に下山し、雌阿寒温泉に駐車した車をピックアップして、迎えに来てくれたので、単調な車道歩きが大幅にカットされたのは嬉しかった。阿寒湖畔の民宿山口に戻り、温泉で疲れを癒した。こじんまりとしているが贅沢なほど豊富な湯量で源泉かけ流し。食事も美味しく感じの良い女将さんのもてなしを受けてほっこりとした民宿の味わいを楽しむことが出来た。

最終日、予定した3山を全て登り終え、今日は羽田行きの最終便（20：10）に間に合うよう、女満別に戻ればよいだけである。摩周湖、硫黄山、能取湖（サンゴ草）などの観光地を巡りながら網走市内の「流氷街道道の駅」に車を止め、市内の目抜き通りの和食屋で昼食を取った。その後、天都山にあるオホーツク流氷館の屋上展望台から

展望を楽しんだ。薄曇りで霞んでいたが、羅臼岳・斜里岳そして阿寒岳が見渡せた。

昨夜から早朝にかけ、台風15号が関東地方を直撃した影響で羽田到着が30分遅れ、常磐線もトラブルのため我孫子到着は午前様となったが、事故なく3山を踏破出来た満足感につつまれながら充実した山旅を終えた。



オンネトーに投影する雌阿寒岳と阿寒富士

概念図



概要

山名	道東三山（羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳）		
月日	2019年9月5日（木）～9月9日（月）		
山域	北海道	地形図	1/25000 羅臼、斜里岳、雌阿寒岳
形式	山小屋泊・民宿泊 4泊5日	グレード	3B
目的	秋の気配漂う道東の日本百名山3座を登る		

費用	約 63,000 円	交通機関	J R、空路、レンタカー	
1 日 目 日 程	我孫子 4:43→日暮里→浜松町 5:34/42→羽田空港第一ビル 6:00/7:30 (JAL565) →女満別空港 9:00 (レンタカー) 9:30→遠音別川河口 11:10 (カラフトマス遡上見学) 11:25→、オシンコシンの滝 11:30/45→道の駅 12:00/(昼食) 40→知床峠 13:00/10→知床五湖 13:30/14:10→買物→木下小屋 16:00 (入浴、自炊・泊) 晴れたり曇ったり	5 日 目	温泉民宿山口 (朝食) 6:50→双湖台 7:10/20→摩周湖 8:05/35→硫黄山 8:55/9:25→能取湖 11:05/30→網走・道の駅流氷街道 12:00 (昼食、買物) 13:30→天都山展望台 14:00/15:30→女満別空港 (レンタカー返却) 20:45 (JAL566 便) →羽田空港 22:30→我孫子駅 24:40 晴れたり曇ったり	
2 日 目	木下小屋 (230m) (起床 3:00、自炊) 4:25⇒オホーツク展望台 5:10/15⇒弥三吉水 6:10/20⇒銀名水 7:20⇒大沢入口 7:45/50⇒羅臼平 (1340m) 8:30/40⇒羅臼岳 (1661m) 10:00/30⇒羅臼平 11:40/50⇒銀名水 12:40⇒弥三吉水 13:50/55⇒木下小屋 15:20/45→買物等→清岳荘 18:10(自炊・泊) <歩行時間 9 時間 40 分> 晴れ後小雨	ルート 状況	・産まれた川に 4 年余でベーリング海から戻って産卵する鮭の命のドラマを見た。 ・道東三山は日本百名山で登山道や標識等は良く整備されている。ハイマツの緑と岩峰の美しい羅臼岳、シルエットの美しい斜里岳、活火山で迫力ある雌阿寒岳とそれぞれ独特の個性ある魅力ある素晴らしい山だった。 ・羅臼平から頂上までの岩稜 320m の急登はきつく時間が掛かったが知床連山、国後島、斜里岳、雌阿寒岳が良く見えた。 ・羅臼岳の水場は 3 ケ所あるが、弥三吉水は冷たく美味でエキノコックスの心配を振り払って飲んだ。他の 2 か所は水量が少なかった。 ・斜里岳は沢の渡渉が多く危険見通しがつかないことを勘案して旧道を避け新道を往復した為きつく時間も掛かってしまったが、頂上の展望は羅臼岳以上だった。 ・雌阿寒岳はオンネトーへの回遊コースで歩き噴火口からの白煙と臭気が漂っていた。	
3 日 目	清岳荘 (660m) 5:15⇒下二股 (800m) 6:35/40⇒熊見峠 (1390m) 8:00/05⇒上二股 9:00/05⇒馬の背 9:45/50⇒斜里岳 (1547m) 10:15/35⇒上二股 11:30/40⇒熊見峠 12:25/30⇒下二股 13:35/40⇒清岳荘 14:55/15:10→民宿山口 17:30(温泉、夕食、連泊) 小雨後晴れ <歩行時間 8 時間 45 分>		山頂から眼下に阿寒湖、雄阿寒岳、斜里岳を望み、希望者は阿寒富士にも登った。 ・2 泊した山小屋で自炊したが木下小屋は温泉の露天風呂があり、清岳荘は綺麗で応対も良かった。民宿に連泊したが温泉付で食事良く女将さんが親切だった。	
4 日 目	民宿山口 (朝食) 6:45→雌阿寒温泉登山口 (708m) 7:10/20⇒四合目 8:40/50⇒雌阿寒岳 (1499m) 10:35/50⇒阿寒富士登山口 11:10 (希望者 3 名阿寒富士往復) 12:15⇒オンネトー登山口 (641m) 14:15⇒雌阿寒温泉→民宿山口 15:20 (泊) 晴 <歩行時間 4 時間 35 分>	参加 者	大平 L 武内 SL 北田 佐藤 白崎 桐生 矢野貞 外崎 布能 男 5 女 4 計 9 名	

<1129>

池の平湿原・竈ノ登山～水ノ塔山
(2227m) (2202m)

小島 徹



水ノ塔山

フランス料理を楽しみ山登り

1日目）家を出た時に曇っていて慌てて折り畳み傘を取りに戻ったほどでしたが、高崎に着く頃には晴れてきて、佐久平ではほぼ快晴になりました。バスの終点の高峰温泉で下車し、トイレ休憩した後池の平湿原入口まで湯の丸高峰林道を車に注意しながら歩きました。道端にはマツムシソウ、アキノキリンソウ、リンドウ等の秋の花が沢山咲いておりこれらを眺めつつ、また富士山や赤岳から蓼科山までの八ヶ岳の山なみを見ることができ、それほど林道歩きは苦になりませんでした。池の平湿原ではこれらの秋の花を楽しみながら進み、昼食休憩を挟んで当初予定していた三方ヶ峰には登らずに見晴歩道に入り「雲上の丘」では穂高連峰、槍ヶ岳、鹿島槍ヶ岳等の北アルプスの山々を眺めることができました。振り返ると、外輪山に隠れてわずかですが煙をたなびかせた浅間山も見ることが出来ました。見晴歩道から湿原入口に戻り小休止した後、湯の丸高峰林道を下つて高峰温泉を見送り宿泊場所の高峰高原ホテルによくやく辿り着きました。入浴後、夕食は豪華なフランス料理でした。男性陣は8時過ぎにほぼ

就寝しましたが、女性陣はホテル主催の天文イベントに参加されたようでした。

2日目）和食の朝食を済ませて、ホテルの車で途中の高峰温泉に入浴用荷物を預けて池の平湿原入口まで送ってもらいました。当初は高峰温泉からの登山を計画していましたが、ホテルの車で湿原入口まで送ってくれることになり、当初とは逆ルートの行程に変更しました。樹林帯を抜けて東竈ノ登山の頂上につきましたが、今日は昨日よりも雲が掛かっていて昨日散策した湿原以外はほとんど見えませんでした。ここから水ノ塔山までは赤ゾレと呼ばれる崩壊地の縁を通りましたが、あちこちにイワインチンが咲いていてとてもきれいで了。水ノ塔山の頂上でもやはり雲のために期待した眺望は望めませんでしたが昼食を取り、岩場を抜けて高峰温泉に着きました。高峰温泉で入浴後、反省会をして帰りのバスに乗り込み佐久平で解散となりました。

今回の山行は当初初夏の花を期待して6月で計画しましたが、日程がとれず9月に変更しました。それでも歩き出しから秋の花をたくさん見ることができます、初日のみではありましたが北アルプスの眺望も楽しむことができました。また高峰温泉での宿泊を計画していましたが予約が取れず、高峰高原ホテルに宿泊しました。お風呂、食事とも内容が充実していて女性陣からもお褒めの言葉を頂きました。

概要

山名	池の平湿原・竈ノ登山～水ノ塔山		
月日	2019年9月14日～15日（土日）		
山域	上信越	地形図 1/25000 嬬恋田代、車坂峠	
形式	ホテル泊 1泊2日	グレード 2B	
目的	<ul style="list-style-type: none">広大な湿原を歩いて豊かな自然を観察する。大展望の2山に登る。		
費用	17,000円 JR代除く	交通機関	JR、JRバス

日程	一日目 我孫子駅 5:41→上野 6:14/50→新幹線→佐久平駅 7:58/8:25→JRバス→高峰温泉 9:25/40 ⇒ 池ノ平湿原入口(兎平) 10:40⇒見晴台 12:10⇒湿原入口 13:40⇒高峰高原ホテル 15:00(泊)
	二日目 高峰高原ホテル 9:00(ホテル送迎バス)→兎平 9:25⇒竈ノ塔山 10:20/10:40⇒水ノ塔山 11:47/12:17⇒高峰温泉(入浴反省会) 13:30/16:17/(JRバス)→佐久平→上野→我孫子 17:25
ルート状況	池ノ平湿原、竈ノ塔山～水ノ塔山共、登山道等整備されているため、迷い等心配ない。但し、高峰高原ホテル～高峰温泉～兎平間の4,5kの湯の丸高原林道歩きはしんどい。(1日目は往復歩き) ・佐久平駅から出る、JRバスは一日2本のため時間、運行日等充分注意したい。
参加者	村松L 小島徹 SL 武内 外崎 高橋芳 中村育 村越 小林安 蟹江 一氏 土田 男4 女7 計11名



東竈ノ登山

<1130>
金峰山
 (2599m)
 田嶋 まり



金峰山

廻り目平から金峰山

今回、私は金峰山山行の提案者の1人としてリーダーの斎田さんの下で計画段階から係わらせて頂いた。

我孫子からレンタカーで金峰山の麓の廻り目平キャンプ場に向かい、そこでテント泊、2日目に金峰山を往復するというプランだ。

決めなければならないことは沢山あった。まずグループ分けと各自の役割分担。車3台の乗車メンバー決め。今回は山行日が雨天の場合の予備日も設定していて、それぞれ参加者が違っていたので予備日に参加出来ない人たちを1台の車にまとめ、との2台はそれぞれ柏のメンバー、我孫子のメンバーの乗車とした。

もう一つ、テント泊1番のお楽しみのキャンプ料理。メニューは参加者の白崎さんの提案も含め、夕食はポトフとバーベキュー、ステーキ、ご飯、朝食は夕食の残りのポトフにご飯を入れた洋風おじやとフランスパン等に決める。準備は試行錯誤しながら着々と進んでいったが、日が近づくにつれて天気の不安が出てきた。1日目は雨80%の

予報。9月からの台風や大雨の被害が甚大で、高速道路も一部通行止め、林道も荒れている等不安要素が多かったが、迷った挙げ句、リーダーの決断で実施が決まる。

果たして当日早朝出発時は猛烈な雨の中車に乗り込むが、軽井沢に入った頃から天気が回復してきて、その後青空が出て一気にテンションが上がる。途中、スーパー「ナナーズ」で買い物をし、蕎麦屋で昼食を取り、無事廻り目平キャンプ場に到着。テント設営後キャンプ場近くのパノラマコースのハイキングを楽しみ、夕食の準備に取りかかる。予定通り美味しい料理を堪能し皆大満足。夜は雨が降ったが雨の中たき火を囲んでの談笑もまた良い思い出だ。

いよいよ2日目、雨も上がり登山日和となる。予定よりゆっくり朝食を楽しみ、2班に分かれていざ金峰山へ出発。最初の林道は聞いていた通り大変荒れていたが、登山道はよく整備されていて歩きやすかった。先行班にかなり遅れをとりながら、登ること約5時間、やっとの思いで登頂。山頂は360度の展望で美しい雲海が見られた。しかし休憩の後下山。先行班がテントを撤収して下さっていたので、駐車料金がかかる17時までにキャンプ場を後にすることが出来た。

クライミングの拠点でもある廻り目平キャンプ場は、奇岩群に囲まれた金峰渓谷の渓流沿いにあり、直火が使える素敵なキャンプ場で、横の金峰山荘で入浴も可能である。ここからの登山は標高差約千メートルで思いの外時間がかかったが、とても良いコースだと思う。今年は暑い日が続いていたせいで紅葉が見頃に達していなかったことが唯一残念ではあったが、結果的に何も問題なく、参加者全員で協力しあった素晴らしいテント泊＆山行となつたことに本当に感謝しています。有り難うございました。

概要

山名	金峰山
月日	2019年10月19日（土）～20日（日）

山域	奥秩父	地形図	1/25000 金峰山
形式	テント泊 1泊2日	グレード	2B
目的	テント泊で紅葉の金峰山を楽しむ		
費用	10,000円	交通機関	レンタカー、自家用車
一日目	19日 車3台 各地より関越道寄居パーキングに集合 → 川上村スーパー集合 10:30 → 昼食（蕎麦屋）→ 廻り目平キャンプ場 12:00 → テント設営 13:30 ⇒ パノラマコース散策 15:00 ⇒ テント泊 <歩行時間：約90分>		
日程 二日目	20日 キャンプ場 7:00 ⇒ 林道 ⇒ 中の沢出会い 8:30 ⇒ 金峰山小屋 11:10 ⇒ 12:00 五丈岩山頂（昼食）12:40 ⇒ 中の沢出会い 14:50 ⇒ 16:00 キャンプ場着 17:00 → 19:30 上里SA集合（夕食）→ 22:00 レンタカー返却 <歩行時間：5時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・パノラマコースは岩を登り展望台もあり周りの山々が見渡せる気持ちの良い散歩コース ・廻り目平キャンプ場からの林道はかなり荒れており、石積み崩れになって林道まで石がなだれ込んでいる箇所もあった。その先の西股沢は水量あるが、渡渉は飛び石があり問題なく渡れた。今まで架かっていた丸木橋は、流されて川岸に置いてあった。 ・登山道は台風の被害はなく、またよく整備されている。 		
参加者	齊田L 郷田SL 本田SL 田嶋 桐生 村越 新谷 矢野裕 石塚 室崎 白崎 板倉 土田 男5 女8 計13名		

<1131>

黒檜山～駒ヶ岳
(1828m) (1685m)

高橋 富美子



赤城山(黒檜山)

ミズナラ・ブナ、ダケカンバ、光輝く
雨のため1日順延して、10月20日、黒檜山～
駒ヶ岳山行に行きました。

朝はどんよりとしたお天気でしたが、前橋駅に
近づくと雲間より日が差す様になり、前橋駅は
青空になっていました。

駅前の6番のバス停は登山客などで長蛇の列が
出来、バスは朝のラッシュの様な混み方で残さ
れた人が大勢いたのですが、臨時バスが出ない
事がわからると、リーダーは6人用のタクシーを見つけて来てくれました。

車窓からは榛名山・妙義山・浅間山などを望む
事が出来て、先に出発したバスも追い越し赤城
神社に着き、登山の安全を祈願して黒檜山へ。
黒檜山は登山口から岩場の急登が続きましたが、
ミズナラ、ブナ、ダケカンバなどが日に照らされ
キラキラ輝き、時折りふく清々しい風が
急登の疲れを癒してくれました。小沼の水量は

多くて、溢れそうに見えました。冬は白魚釣りに行くと、地元の登山者が教えてくれました。黒檜山の頂上からは、上州武尊、皇海山、日光連山などを見渡す事が出来ましたが、富士山は雲に隠れて見えませんでした。登山者は若い人が多く、子供や犬を連れているパーティーも目立ちました。ゆっくり頂上付近で昼食を済ませ



て、駒ヶ岳へ向かいます。鞍部まで下り、木の階段を登ると駒ヶ岳の頂上です。頂上は狭くて混雑していたので、すぐ下山しました。木の階段が整備されていましたが、崩れている所は気を付けながら下山しました。

覚満淵は、野生動物が侵入しないようにフェンスで囲まれていました。水は底にある落葉までハッキリ見えるほど美しく、山の紅葉や草もみじを映す水面を水鳥が泳ぎ、ゆっくりと時が流れていきました。バスの時間が気になり、早々に引きあげ、近くのお蕎麦屋さんで反省会をしました。バス停で暫くすると長い列が出来てきて、ゆっくりしていたら、座れ無いところでした。

バスの中で体調不良の方が、救急車で運ばれましたが、無事前橋駅に到着して予定の電車に乗る事が出来ました。

今夜は、ラグビーワールドカップ。日本対南アフリカ戦が行われます。日本が勝利する事を祈りつつ帰路につきました。

概要

山名	黒檜山～駒ヶ岳		
月日	2019年10月20日(日)		
山域	上州	地形図	1/25000 赤城山
形式	日帰り	グレード	1A
目的	黒檜山山頂の展望と紅葉を楽しむ		
費用	約7,000円	交通機関	JR、タクシー、関越バス
日程	<p>我孫子駅 5:41→上野駅 6:14/26→前橋駅 8:33 タクシー 9:00→赤城神社 9:50/10:10 ⇒ 黒檜山登山口 10:20 ⇒ 黒檜山山頂 12:15 ⇒ 展望台発 12:50 ⇒ 駒ヶ岳山頂 13:50 ⇒ 駒ヶ岳登山口 14:50 ⇒ 覚満淵 15:05 ⇒ 赤城山 ビジターセンター近くで反省会 ⇒ 赤城山 ビジターセンター 16:40 → 前橋駅 18:00/15 ⇒ 上野駅 20:06/17 ⇒ 柏 20:45 ⇒ 我孫子 20:49</p> <p>歩行時間約4時間</p>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 黒檜山登山口から山頂までの登山道は樹林の中、巨石がゴロゴロとした急登で悔れない。下山客が足を滑らせた所に遭遇、ケガはなかった様子も、ここの大下りは細心の注意が必要と実感。我らは逆ルートをとらず正解。 黒檜山山頂は比較的広いが登山客が多く賑やか。その先の展望台も同様だがそこから日光白根山、上州武尊山、谷川連峰などの展望が臨める事が出来満足！ 晴天の為か前日までの雨の影響は余りなく、岩や木道も乾いており比較的歩き易く、ぬかるんだところは余りなかったが、駒ヶ岳を超えた下りは殆どが急な木階段と鉄階段が続く。鉄階段は手すりがあって下り易いが木階段は注意が必要。 全般に登山道、標識も明確で家族連れも多くルートは分かり易い。 		

参加者	森岡L 佐藤SL 高橋富 小山 吉澤 男2 女3 計5名
-----	------------------------------------



展望台より日光白根山を望む

概念図



<1132>

三峰山～妙法ヶ岳 (1332m)

新谷 直恵



奥宮のある妙法ヶ岳山頂で

風情たっぷり、古の道

10月6日、各地に大きな被害をもたらした台風19号は、三峰神社に至る国道も不通にし、神社はそこを訪れる車で修復工事が遅れることがないようしばらくはその門を閉じたほどでした。その被害のために道が崩れて、この季節中止になった山行もありました。心配したここは10月末には開通し、大輪からの表参道も崩れたところは神社の手によって整備されていました。大杉が続く山道は、その歴史を思わせて風情たっぷりのまさにいにしえの道です。

また、武蔵から秩父に至る一帯は、おイヌさま信仰があり、御嶽講が盛んな地でもあります。おイヌさまというのはじつはオオカミで、三峰神社の狛犬はみなオオカミです。大神真神と言われ、威厳あるものから可愛いものまでさまざまなおオカミが鎮座していました。

神社まで2時間余の表参道は登るにつれて大杉から檜や楠、朴などの大木に変わり、深い杜の道に。途中、清淨の滝や薬師堂跡などを経て三峰神社に到着。参拝は後にして奥宮への道を急

ぎます。なにしろ最終バスが4時です。雲取山へと続く道を途中で分かれ、進み行くと辺りは美しく紅葉していて、深い晩秋の杜を楽しみながらみんなで登りました。

約1時間半行程の奥宮は、最後は鎖場のある岩場を登り詰めたところにあり、その奥宮自体が妙法ヶ岳です。三峰山というのではなく、三峯神社のあるいただきを言い、さらに白岩山、雲取山を含めた3山の総称でもあります。狭い奥宮で肩を寄せ合って登頂記念撮影をし、その裏にまわって、しばし目前に広がる絶景、秩父の山並みを楽しみました。

予定通り神社まで戻ることができ、その後はゆっくりと歴史ある神社を思い思いに参拝。久しぶりによく晴れた好日で、じつに気持ちのいい山の一日でした。

概 要

山名	三峰山～妙法ヶ岳		
月 日	2019年11月1日(金)		
山域	奥秩父	地形図	1/25000 秩父
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	古のハイキングコースを歩く		
費用	5200円	交通機関	JR 西武鉄道・バス
行程	我孫子 5:56→新松戸 6:10/14→ 新秋津 7:06→秋津 7:18→飯能 7:47 /53→西秩父 8:43 /9:10(バス)→ 大輪 9:45 (登山口) 登竜橋 10:00 ⇒奥宮拝殿所 12:15 (昼食) 12:45 ⇒妙法ヶ岳 13:55 /14:15⇒三峰神社 15:30 神社参拝 16:30 (バス) →西武秩父 17:50/18:25→(特急) →池袋 19:47 /53→我孫子 20:45 <歩行時間 6時間>		

ルート状況	台風19号で国道140号が一時不通となつたが、23日に開通。表参道も沢付近に土砂崩れがあつたが、応急処置で歩行できるようになつてゐた。思ったほど道は悪くなく、快適な山行ができた。ただ、他はまだ通れないルートがあり、ダムにも流れ着いた倒木が砂州のようになつて集まつていた。
参加者	新谷L 大畠 本田 SL 石塚 北田 蟹江 田嶋 佐藤 小野 千葉（ゲスト） 男2 女8 計10名（ゲスト1）



<1133>

乾徳山
(2031m)

小島 徹



山頂にて

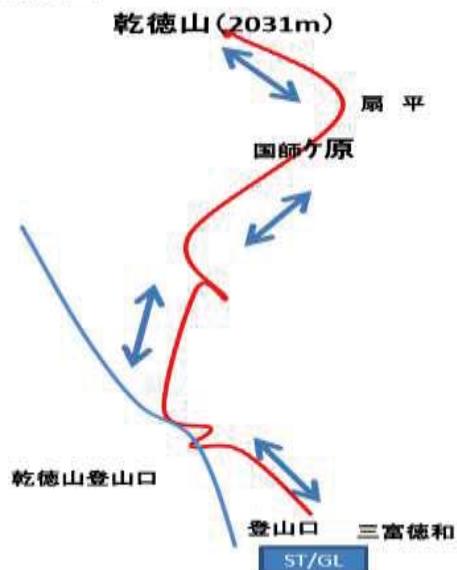
度重なる台風の襲来、豪雨のために、9、10月に予定した山行の多くは中止を余儀なくされました。今回の山行は自分で提案したこともありずっと天気が気になっていましたが、10月下旬になってようやく天候が安定してきました。

1名欠席で、また我孫子駅で2名が予定の電車に乗り遅れましたが（新宿駅から特急に乗って大月駅で合流）、無事7名で塩山駅に着きました。タクシー2台に便乗して登山口に到着して、登山を開始しました。

天気が良く、また途中からはやや汗ばむほどの暑さだったせいか、国師ヶ原を前後にして2名が体調不良を訴えて高原ヒュッテで休息を取ることにして郷田リーダーに付き添いで残つて頂くことになり、残り4名で山頂を目指しました。扇平を過ぎて天狗岩から先は岩場の連続となり、慎重に足場を確認、三点確保に注意して進みました。最後の山頂部の岩場はほとんど手がかりがなく、3名のみ順番に鎖を頼りになんとかよじ登りました。扇平辺りからは富士山を見ることが出来て

いましたが、山頂で眺めた富士山は更に格別でした。山頂にたどり着いた4名は昼食を取ったのち、山頂直下の岩場は避けて迂回路を通り下山しました。高原ヒュッテに着いて休憩していた3名と合流して、全員で下山しました。道満山を過ぎた頃から足元が暗くなってきたのでヘッドランプを付けましたが、ほどなく登山口に到着しました。全員で山頂を踏めなかつたことは残念でしたが、好天にも恵まれて気持ちの良い山行になりました。参加された皆さんに感謝いたします。

概念図



概要

山名	乾徳山		
月日	2019年11月1日(金)		
山域	奥秩父	地形図	川浦
形式	日帰り	グレード	2B
目的	紅葉と岩峰(岩登り)と展望を楽しむ		
費用	約6,500円	交通 機関	電車、 タクシー

行程	我孫子駅 5:34→新松戸→西国分寺→高尾→塩山 8:44/50→ タクシー → 登山口(神社前)9:10/15⇒オソバ沢乾徳山登山口 9:35⇒銀晶水 10:10⇒錦晶水 11:00⇒ 国師ヶ原 11:25⇒扇平(昼食) 12:00/20⇒乾徳山山頂 13:35/46⇒扇平 14:35⇒高原ヒュッテ 15:00⇒登山口(神社前) 17:00→ タクシー →塩山駅 17:00/18:25(反省会) ⇒我孫子 21:43頃
ルート状況	オソバ沢登山口～国師ヶ原～扇台：ゆっくりした登り、良く整備されていて歩きやすい。 扇台～山頂：鎖場が2箇所、山頂直下20mの岩壁、若者が多い理由が解る。迂回路もあり。
参加者	郷田L 小島徹SL 森岡 秋山 布能 小山 一氏 男4、女3 計7名



富士を望む

< 1 1 3 4 >

表妙義自然探勝路（中間道）

村越 百々代



第4石門

上信越道を通るたびに、いつも見える『ぎざぎざの山』の妙義山。登ってみたいけど岩場ばかりで、危ないのかな？そんな思いを見るたびに抱いていました。

松井田駅からタクシーに乗り、妙義山神社参道入り口に8時40分頃着きました。神社の後ろの山の中腹には、白い大の字。神社の大鳥居をくぐるとすぐに上り坂。その先に階段。宝物殿を過ぎるとさらに見上げるような階段。なんとか登り切り石門中間道入り口に出ました。

歩き始めてすぐに急な坂が多く、道幅が狭く片側が崖となっているような所もあります。15分ほどで第一見晴に出ました。ゴツゴツした岩の先に行つてみると少し霞んでいますが、山並みに続く白雲山が見渡せました。登山道に戻り、その先を歩くと大黒の滝です。水の量はちよろちよろといった感じです。滝を横目に見て進むと第二見晴に着きました。ここの見晴は一段と素晴らしい。妙義山を形作る白雲山、金洞山、金鶏山を見渡すことができ、これだけでも来たかいがあったと思え

ました。登るにしたがって道の山側は岩場が多くなり、みんなで声を掛け合って歩きます。

自然石を使って作られた『本読みの僧』の石像を右手に見て少し歩くと四阿（あづまや）に出ました。少し休憩してさらに進むと鉄の階段（170段）、少し緊張して登り、さらに進むと天狗のひょうていと大砲岩への分岐点に着きました。若いお兄ちゃんたちが『めっちゃいいから行った方がいいよ』と勧めてくれたので私もリュックを置いて行くことにしました。降りてくる人が途切れるのを待って岩場を登りました。その先に天狗のひょうていと書かれている大岩がありますが待っている人がまだたくさんいるので今回はそこまでにしました。天狗のひょうていや大砲岩まで行くメンバーもいましたが、私自身はそこまでいかなくともそれなりに楽しめたので満足でした。荷物を置いた場所に戻ってみると「この先危険！ 滑落事故あり！」の札があり、やっぱり危険だったのだと改めて思いました。

次は第4石門へ続く道です。5分ほどで見上げるような石の門に出ました。下から見上げると迫力があり、石門の奥には大砲岩も見えます。どのような経過でこのような石の門ができるのかとても不思議です。この石門の前で集合写真を撮り、広場のベンチで休憩を兼ねてちょっと腹ごしらえ。次の石門へと出発です。第3石門を通り、次の第2石門は通過するのに鎖場を登らなければなりません。今まで鎖が一番長く登りがいがあります。一番上の登りのところで靴がはまってしまい、抜くのに苦心。やっと靴が抜けると今度は向こう側に降りる鎖があり、続いて『かにの横ばい』の鎖場があります。ここも、ゆっくり慎重に進みました。少し歩いて次の第1石門をすぎると、すぐに下山口の石門登山口に13時50分到着しました。道を渡ると無人の管理事務所があり、中はきれいな休憩所になっていてここで休憩した後林道を下り、もみじの湯まで延々と1時間以上歩きました。もみじの湯では妙義山を見ながら露天風呂につかり、みんなで打ち上げをして帰路につき

ました。仲間にも恵まれ、天気にも恵まれ、スリルもあって、「岩登りが楽しい」と思える山行となりました。



妙義山

概要

山名	表妙義自然探勝路（中間道）		
月日	2019年11月9日(土)		
山域	上州	地形図 1/25000	松井田 南軽井沢
形式	日帰り	グレード	2B
目的	1 紅葉を楽しむ 2 岩歩きになれる。		
費用	6,420円 (ジパング) 4,820円)	交通 機関	JR・タクシー
日程	我孫子 5:31→上野→高崎→松井田 8:26→タクシー→妙義山神社参道入口 8:50 ⇒第一見晴 9:15⇒第二見晴 9:42⇒あずまや 10:50⇒大砲岩 12:18⇒第四石門 12:43⇒カニの横バイ 13:26⇒第一石門 13:45⇒登山口 13:50⇒管理事務所 13:55 ⇒もみじの湯 15:30 (温泉) タクシー→松井田 17:29→高崎→上野→我孫子 20:30 <歩行時間5時間>		
ルート状況	妙義山中間道は一般コースです。道は分かりやすいです。しかし鉄階段やカニの横バイと呼ばれるところは安全のため鎖があり、緊張を強いられます。		
参加者	小島洋 L 佐藤 S L 森岡 矢野裕 秋山 本田 高橋芳 村越 石塚 高橋富 布能 富井 土田 細谷 男6 女8 計14名		

<1135>

石垣山

(262m)

箕輪 完二



石垣山(一夜城)二の丸跡

石垣山 (一夜城) 二の丸跡

石垣山は 1590 年、天下統一を目指していた豊臣秀吉が小田原城攻めのため、笠懸山に、わずか 90 日で石垣積みの城を築いたとされている。現在各地に残っている城の原型となっていると思われる。又この城は一夜で完成したように見せかけるため、一夜城とも呼ばれている。

JR 東海道線で小田原駅の 1 つ先の早川駅で降りた。駅前は他の団体も集まり一杯だったので次の広場を求めて案内板に沿って歩くこと 15 分で海蔵寺に着く。ここで役割分担等を行う。ミカンが茂る山道を歩き始めた。ところどころに立て看板があり、豊臣方の大将が紹介されている。途中ミカンを売っている農家のおばさんにかけより早速みかんをゲットする。さらに坂道を登り一夜城の麓にたどり着く。そこには数人のガイドさんがいた。

交渉の結果 1 人のガイドさんが立候補してくれた。南曲輪の石垣、井戸曲輪二の丸曲輪、本城曲輪の石垣、等当時の人力でよく短時間でここまで

造り上げたものだと感心しきり。展望台からは箱根の山々、最後の物見台からは小田原市街地、相模湾、三浦半島が一望できる。約1時間にわたって親切な説明をうけた。その後すぐ向かいの鎧塚ファームに立ち寄り皆ケーキやコーヒー等、思い思いの注文をしてガーデンにておいしく食べた。

下りは来た道とは反対の山道を下り、時間的にも余裕があったので、「生命の星・地球博物館」を見学した。地球の大切さを改めて実感した。

反省会は小田原の「昇玉」という中華に入った。ちょうど午後2時頃。11人で丸テーブルの部屋に案内された。丸テーブルは皆が同じ立場で反省でき非常に良かった。飲み物は全部コップで、会計は自分の飲食した分を会計した。「この会計方式だと自分で飲食した分は自分で払うから思い切り飲めていいよな」という声あり印象的だった。皆さんに感謝です。

概要

山名	石垣山(262m)		
月日	2019年11月30日(土)		
山域	小田原	地形図	1/25000 箱根
形式	日帰り	グレード	1A
目的	1. 相模湾を望む。戦国時代を偲ぶ 2. 鎧塚ファーム、地球博物館に寄る		
費用	約4,000円	交通機関	JR、箱根登山鉄道
日程	新木 5:55→湖北→我孫子 6:12→柏→上野 6:45/54→小田原 8:26→早川⇒海蔵寺 8:55/9:00⇒石垣山 9:48-10:57(一夜城見学)⇒鎧塚ファーム 11:00/57(昼食休憩)⇒生命の星・地球博物館 12:48/13:56⇒入生田 12:04/14:00→小田原 14:06/15:40(反省会)→小田原 16:12→我孫子 18:21		
ルート状況	石垣山へのルートは、ほとんどが舗装路であったため、台風等の被害状況は確認されなかった。 登りはミカン畑が続き、景色もよく相		

参加者	箕輪完L 外崎SL 本田 高橋英 齊田 北田 高橋富 飯塚 一氏 細谷 箕輪力(会友) 男4、女7 計11名(会友1)
-----	--

概念図



城跡から小田原相模湾を望む



石垣山(一夜城跡)

<1136>

手賀沼クリーンハイク

小島 洋子



子の神大黒天

第13回手賀沼クリーンハイク

手賀沼クリーンハイクは12月8日に行われました。この日は最高の冬晴れで、歩いていますと気持ちの良い1日でした。ちょっとぴり良いことをしていると思うと、とてもウキウキします。

しかし、リーダーの私は会の旗を忘れてしまいました。山ですと緊張をして忘れ物はないかと頭の中で整理をするのですが、ゴミ拾いなので、水の館に8時に遅刻をしないで行くことのみを考えておりました。やはり手順どおりにやらなければいけないと反省。

さて、志賀直哉邸跡や旧武者小路実篤邸跡に行きますと高台でその頃は手賀沼が目の前であったのでしょう。素晴らしい景観が偲ばれます。住宅地の家にレモンの木がありレモンが鈴なりになっておりました。我孫子でもレモンがなるのだと感心しました。

ゴミも住宅地を歩いておりますと、やはり落ちております。缶やペットボトル、飴の袋などです。

北ふるさと公園からの手賀沼サイクリング道路はゴミも少なくてとてもきれいでした。沼南道の駅でお昼タイム。足も疲れましたので丁度よい

休憩。北千葉導水第2機場では、ビデオで導水場の役目をしつかり学習しました。

フィッシングセンターを周り滝ノ下公園で今日の成果のゴミの量を量りました。ペットボトル930g、瓶34g、缶630g、もえるごみ5300g。成果は少ないのでしたが、満足の1日でした。

概要

山名	手賀沼クリーンハイク		
月日	2019年12月8日(日)		
山域	我孫子・ 柏	地形図	1/25000 取手
形式	日帰り	グレード	1A
目的	地元手賀沼に親しみ、自然環境に思いを寄せる。		
費用	0円	交通機関	徒步
日程	水の館 8:00⇒子の神社 8:20⇒志賀直哉邸跡 8:40⇒杉村楚人冠邸園 8:40⇒加納治五郎三樹荘 8:55⇒アビスター 9:00⇒旧武者小路実篤邸 9:35⇒根戸城址 10:00⇒北柏ふるさと公園 10:20⇒北千葉導水ビジターセンター10:40/11:00⇒沼南道の駅 11:45(昼食) 12:20⇒フィッシングセンター13:30⇒滝ノ下公園14:20 <歩行時間 約6時間>		
参加者	小島洋L 箕輪SL 村越 石塚 高橋英 大平 小野 矢野裕 富井 室崎 男5 女5 計10名		



<1137>

丹沢大山
(1252m)

本田 愛子



丹沢大山
丹沢大山

初冬の大山からの展望が目的で定例山行を計画する。開山 1200 年、関東随一の信仰山で江戸時代から大山詣で多くの人がお参りに訪れて賑わっていた。

伊勢原からバスにて大山参道入口で下りてケーブル又は石段を登って行くと阿夫利神社下社がある。立派な本殿があり、多くのお社がある。ほとんどの人は此処で御参りして帰るが山頂の奥社までは、そこから表尾根を登って行く。今回は秦野駅からヤビツ峠 (750m) までバスで登る。

緩い登山道を行くと真っ白な富士山が姿を見せた。初冬の富士山はとても美しい！感動して皆さんシャッターを押す。イタツミ尾根を登り山頂直下の分岐で表尾根に合流する。段々と急登になり分岐までの急な木道が続いた。分岐で息を整えて 15 分ほど石段を登り鳥居をくぐると奥社のある山頂に着いた。大山奥社で今年の閉め登山の御参りをした。

今日は快晴で陽だまり山行になった。山頂はたくさんのお参り者がいたが、私達の会は 22 名の団

体で 4 班に分かれて行動した。展望の良い場所でそれぞれお弁当タイムをゆっくりとった。

南側に陽光でピカピカの相模湾、伊勢原や秦野の街並みを眼下に見ながら気持ち良くジグザグ下りて行く。1 時間ほど下りた展望の良い見晴台でコーヒータイムのんびり休む。背景に今下りてきた大山がどっしりと構えている。此処から阿夫利神社下社に下りるコースが一般的だが、今回は関東ふれあい道のコースへ日向薬師まで向かう。

なだらかな下りの尾根道を少し行くと、分岐があつて大きなお地蔵さまが立っていた。手を合わせてから左方の九十九曲という急坂をジグザグ下って行く。30 分くらい行くと、林道に出るが横切って再び山道に入り渓流沿いに下りてくる。木の細い橋を慎重に 1 人ずつ渡った。左手に日向ふれあいセンターがある。ここから舗装道路をだらだら下っていくと日向薬師のバス停に着いた。途中で由緒あるお寺（石雲寺、淨発願寺）を通り過ぎるが、時間があれば立ち寄りたい寺院だった。

バス停にザックを置いてすぐ向かい側の日向薬師の石段を最後の頑張りでゆっくり 15 分ほど上ると薬師の本堂の前にでた。山の中の寺院で本堂も鐘撞き堂も茅葺屋根で気持ちが落ち着く場所だった。予定より一本前のバスに乗れた。伊勢原駅に着いた時はうす暗くなっていた。同行者の一人が知るお店で打ち上げをして、無事に小田急と千代田線で約 2 時間の帰路についた。

概要

山名	丹沢大山		
月日	2019年12月14日(土)		
山域	丹沢	地形図	1/25000
形式	日帰り	グレード	2 A
目的	初冬の大山からの展望		
費用	3,384 円	交通機関	J R、小田急、バス

日程	我孫子 5:42→代々木上原 6:52/55→秦野 8:02/24→ヤビツ峠 9:10/30⇒イタツミ尾根⇒分岐 11:00⇒山頂 11:20 (昼食) 12:00⇒見晴台 13:10/25⇒日向薬師 15:30⇒バス 15:47→伊勢原 16:05 (打上げ) /17:30→柏 19:38→我孫子 19:42 <歩行時間 4 時間 50 分>
ルート状況	登山道が崩壊した場所はロープがあり、迂回するようになっていたが、さほど崩れはなかった。人気の山なので登山道は良く整備されている。 見晴台から関東ふれあい道の日向薬師に下りて行く人は少ないが、静かで由緒あるお寺がある。石雲寺、淨発願寺(五重の塔がある)見晴台から阿夫利神社下社へ下るコースの方が多い。
参加者	本田 L 新谷 SL 箕輪 SL 大平 SL 村越 SL 高橋芳 外崎 矢野貞 齊田 石塚 高橋富 小島洋 小林安 蟹江 田嶋 森岡 一氏 秋山 土田 小島徹 細谷 箕輪カ (会友) 男 7 女 15 計 22 名 (会友 1)



見晴台で大山を振り返る

<1138>クリスマス山行

竜ヶ岳・足和田山
(1485m) (1355m)

齊田 記代美

今年は、大型台風が次々と上陸し、あちこちに大きな被害があり、会山行の中止も多かった中、クリスマス山行も当初日光方面とされていたが道路や山道の通行止め等で、急きょ富士山周辺「竜ヶ岳」・「足和田山」に変更になった。しかしそれも富士山を望むと元気が出る私にとっては嬉しかった。友人からも竜ヶ岳山頂からの富士山は圧巻だと聞いていたのでとてもたのしみでした。

参加者は 6 名。大月でレンタカーを 2 台借り、一路、本栖湖キャンプ場の駐車場へ。広い駐車場には、すでに何台も駐車していた。早速、竜ヶ岳目指して歩き始めた。天気はうす曇りながら空気が澄んでいるでしょう、遠くの山々までよくみえた。冬枯れの山道を歩きながら笠雲のかかった富士山も良く見え、疲れをいやしてくれた。この山が会の山行として初めての山ということはびっくりです。なぜなら、これまで笹に覆われていた山だったからだそうです。今はその笹も刈り取られ、ダイヤモンド富士を見る人気の山になっているそうです。

山頂は、広々とした見晴らし台があり、大勢の人でぎわっていた。迫力ある富士山はもとより、雪をかぶった南アルプス、白根三山やその先に赤石山脈も望める素晴らしい展望でした。

次第に富士山の笠雲が取れてきて明日の足和田山にも登れそうと思っていると、写真を撮っていた方が「ああ、笠雲がなくなった」とがっかりされていた。人の思いは様々です。

風をよけながら昼食をとり、急なコースを本栖湖とその先の御坂山塊を望みながらキャンプ場へと下山した。

ひろびろとした本栖湖キャンプ場は12月から休業中。炊事場とトイレ（暖房されていて快適）が一ヶ所のみ利用できるようになっていた。その炊事場には16時以降、水を止めると書いてある。急いで全員協力のもと、テントを2張り張った後、できるだけ多くの水を汲み置き、食材を買いに行った。テント場に戻ってからも、とても素早い行動で夕飯の準備をしたおかげで、おいしい鍋ができあがりました。

テントの中は、ランタンと鍋とみんなのいきれで、とても暖かい。とはいってもビールで乾杯した後は、ホットワインが人気でした。外崎さんが、サンタの帽子に白いひげ、女性は赤鼻を準備してくださり雰囲気も盛り上がり、クリスマスケーキ入刀、プレゼント交換、そして山の歌を歌いながら楽しい夜は更けました。

二日目、朝食後テントを撤収し、車で足和田山の毛無山登山口を目指した。本来の駐車場は工事中で使えず、その先の空き地に駐車した。毛無山登山口からは、霜もなく乾いた登山道だが急登だったので、天神社方面に下山道を変更してくださり、膝に負担がかからずともうれしかった。また、山頂は展望台があるが樹木が成長し富士山の展望を邪魔していたが、その先を行ったところに立木の邪魔されない眺望が素晴らしいところがあった。下山後、バス停を捜しながら車道を歩いていると、ちょうどバスが来た。そして手を上げると、停まって乗せてくれた。歩くと1時間以上かかったでしょう。

車で5分のところに日帰り温泉があり入浴。さっぱりした後、大月に戻り、反省会をして無事帰宅しました。

冬のテント泊、村松リーダーの体調不良から武内リーダーに交代、天候を考えて一日目は足和田山から竜ヶ岳に、それに伴ってキャンプ場の変更等々、リーダーの的確な判断により、二日目の足和田山にも登ることができとても楽しく快適な山行となりました。リーダー、参加の皆さんのおかげで、とても楽しい二日間でした。



竜ヶ岳山頂にて



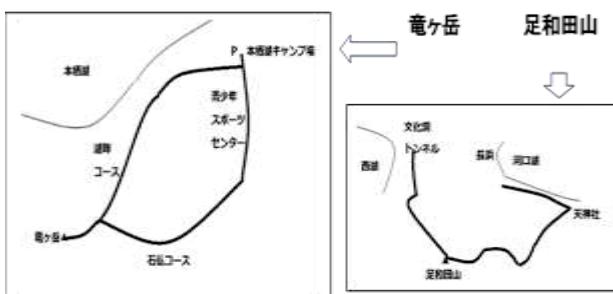
サンタがテントにやって來た

概要

山名	竜ヶ岳・足和田山（クリスマス山行）		
月日	2019年12月21(土)～22日(日)		
山域	富士周辺		
形式	テント泊 1泊2日	グレード	2A
目的	①クリスマスをテントで祝う ②富士山を間近に楽しむ		
費用	13,000円	交通機関	JR、レンタカー
日程	我孫子駅 5:33→新松戸駅→西国分寺駅 →高尾駅 7:26→大月駅 8:12/40→レンタカー→河口湖 IC→本栖湖キャンプ場 9:30/10:00（石仏コース）⇒ベンチ 10:40/45⇒あづまや 11:10/15⇒竜ヶ岳 12:10/30⇒分岐 12:40（湖畔コース） ⇒本栖湖キャンプ 13:45 (歩行時間：約3時間)		

二日目	<p>本栖湖キャンプ場 8:00→文化洞トンネル・毛無山登山口 8:30⇒足和田山 10:20/30⇒1233m ピーク 11:20⇒天神社⇒長浜バス停手前付近 12:30→バス→文化洞トンネル 12:40/45⇒いづみの湯 12:45/14:15→河口湖 IC 14:30→大月駅 15:10/16:33→高尾駅 17:15→西国分寺駅→新松戸駅→我孫子駅 19:15 (歩行時間: 約 3 時間 30 分)</p>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・竜ヶ岳の登山路(石仏コース・湖畔コース共)はよく整備され、歩きやすい ・足和田山の毛無山登山口からのコースは急峻で踏み跡も薄くなっている。最近はあまり歩かれていないみたい。 ・本栖湖キャンプ場は、通常の営業は11月末で終了するが、以降1月中旬までは、トイレ、水場をそれぞれ1カ所に縮小して営業しているとのこと。
参加者	武内 L 大平 北田 佐藤 外崎 齊田 男4 女2 計6名

概念図



< 1139 >

景信山～陣馬山
(727m～857m)

秋山 稔

冬の ほっこり 登山

三連休の中日 1月 12 日。さすがミシュラン五つ星の高尾山登山口駅だ。8時12分発小仏行きバス停に長蛇の列、14人全員乗車出来るか心配だったが、増便あり一安心した。小仏バス停で下車後、リーダーの挨拶、準備体操し、小林 SL を先頭に隊列が組まれ、アスハルトの道を10分歩くと景信山登山口(景信山南東尾根コース)から直ちに急登が始まる。中央高速の騒音も聞こえる。しばらくすると落葉広葉樹林帯に枯れ葉の絨毯が歓迎、明るい山道を進む。今年初めての山行の人も多く、楽しげな話し声、笑い声が聞こえる。

楽しんでいるうちに景信山山頂。筑波山、日光連山の絶景眺め、一休後頂上集合写真。バンザイ掛け声あり。全員で万歳、何故バンザイ? なんで? 令和2年初山行だからかな? 今年の山行の無事を願って727mのバンザイ。ウルフルズのバンザイ歌詞を思い出す。「イエイーこのままずっと、このままずっとハッピー、君に会えてよかったです。きっと、このままずっとハッピー。みんなに会えてよかったです。」でバンザイ!!

景信山山頂から堂所山に向かう。急な下り階段、霜が溶けてタンボ状態この先が心配。堂所山に行くまでに5ヶ所巻道あった。巻道の分岐で「巻道」の声に、すかさず「今日はトレーニング登山」の一喝、マキ道は使われなかった。最後の急登は50m木の根だらけ、足の置き場に集中。ここは降りたくない。夏の堂所山は木に囲まれた見晴らしの無い頂上であるが、木が落

葉し明るい。陣場山が見える。20分程食事時間を取りた。20分の間に北高尾山陵縦走コースから来た登山者はトレラン男女2人だけだった。堂所山から陣場山に向かう縦走コースに戻る道は余り歩かないからか、高尾山山稜にはめずらしく整備されていない。明王峠でトイレ休憩し、途中タンボ状態の道はあったが、心配していたより少なかった。陣場山頂上に武田信玄が陣を張った、広い山頂の白馬の前で記念撮影。

「シャッター押しますよ」と声を掛けてくれた中東の人の掛け声で、みんな笑顔になるまでやり直しハイ、パチリ集合写真。頂上から見える大室山の山容は大きい、今年は是非登りたいものだ。登るぞ！ 山頂から栃谷尾根コースで藤野駅へ向かう。下山道では、今回急遽「トレーニング登山」を企画してくれたリーダーに感謝の言葉が多数。又今年の各々の山行希望を聞いているだけでも楽しくなりました。バス停手前の栃谷川の法面が大きく崩れて、木材と土砂で一部川を塞ぐ現場に自然災害の威力を目の当たりにした。バスの時間に間に合わず藤野駅まで歩く正に「トレーニング登山」なりました。

今日の天気は、立川を過ぎた(7時過ぎ)車窓から朝日に輝く富士山を見たが、再度富士山を観ることができない薄曇りの1日であった。

本日も仲間の協力で気持ちよく山行できた事に感謝、感謝です。



景信山頂上で

概要

山名	景信山～陣馬山		
月日	2019年1月12日(日)		
山域	中央線沿線		
形式	日帰り	グレード	2B
目的	令和2年足慣らし		
費用	2,951円	交通機関	JR・バス
日程	我孫子駅 6:10→新松戸駅→西国分寺駅→高尾駅 7:57/8:10→小仏バス停 8:30/40⇒登山口 8:55/59⇒景信山 9:55/10:10⇒堂所山 11:05/32⇒明王峠 12:00/09⇒富士見小屋 12:28/31⇒陣馬山 12:50/13:09⇒陣馬登山口 14:50⇒藤野駅 15:20/打上げ/16:45→西国分寺→新松戸→我孫子 18:46 <歩行時間5時間30分>		
ルート状況	登山道は標識も有、特に問題なし この時期、数か所ぬかるんでいると ころあり 台風で大木が登山道に倒れていたが 通行に支障なし		
参加者	矢野貞L 小林安SL 村越 細谷 石塚 藤家 秋山 布能 田村 中村育 土田 桐生 外崎 千葉(ゲスト) 男4 女10 計14名(ゲスト1)		

概念図



<1140>

上州武尊山
(2158m)

郷田 進

360度の大パノラマを満喫の
雪山ピークハント

厳寒期の雪山稜線歩きの登山である。登山クラブ入会の利点の一つに山行スタイルの拡大がある。今回の山行は、まさに私の山行スタイルを拡大し、冬でも登山の楽しみを見いだせることを知る山行であった。

二ヶ月前の募集から始まり、「武尊山山行通信」なるメールにより、各人の役割、装備の確認、事前準備の要領等きめ細かい打合せがなされる。参加者全員集合してのミーティングでは、装具のつけ方、服装の細部、登山届準備、行動の細部等の徹底がなされた。参加者は、男子4名、女子4名計8名、実施日近くになると気象状況、山の状況等細部の情報提供がなされる。私は、動画サイトで山行イメージを膨らませ、装備の使用法、ウエアの準備、雪山訓練要領などを学習する。この方法は、経験の浅い山行理解に大いに役立つ手段である。

当日、白崎号＆小林号の2台の車に分乗して川場スキー場に向かう。書類作成等事前準備していたのにも拘わらず登山者多数（ほとんど若者）のため登山届にかなりの時間を要する。また当山域では遭難時の安全対策として「ココヘリ」の装備が義務付けられている。2本のリフトを乗り継ぎトップへ、アイゼンを装着し登山を開始する。村越さんは、残念ながら足を痛めたとのことで雪遊びと眺望を楽しみ、登山は次回のお楽しみとした。当初かなりの強風とガスがかかっていたが、次第に解消し、山頂につく頃には360度大パノラマ

を満喫することができた。雪を被った谷川岳や浅間山、日光連山に尾瀬の山々などの眺望はこの時期ならではの楽しみであろう。

途中最大難所の今年の山（2020m）剣が峰は、登る楽しみとともにマッターホルンを思い起こす素晴らしい景観が、多数の登山者を引き付ける大きな理由であろう。

メンバーの一人は、アイゼンの不調（爪の長さ、ストッパーの甘さ）で、かなり遅れて登頂することとなった（L随伴）が、このことで装備品の重要性を再認識した。

下山後、世田谷区保養所「ふじやまビレジ」に宿泊、山仲間との楽しい夕餉と語らいなど楽しいひと時を過ごす。

二日目は、冬山研修である。冬山登山の装具（ワカン、スノーシュー）の使用法では、かなりの登りをスノーシューでカバーできるなど装具の進歩を体験する。その後、風雪の中、雪テーブル／イスでティータイム、ツェルトを利用して防風・寒さ除けなど模擬雪山生活を学ぶ。イグルー（かまくら）づくりを通じて、雪遊びの楽しさは、子供だけでなく大人でも同様であることを思い起された。雪層チェックは、なだれの仕組みなどを実地に学ぶことができ極めて有益であった。

2日間の雪山登山で多くのことを学ぶことができた。そして雪山登山の魅力、すばらしさを実感する素晴らしい山行であった。小林Lと各種業務を協力してすすめてくれたメンバーに心から感謝する。



さあ出発だ

概要

山名	上州武尊山		
月日	2020年1月19(日)～20日(月)		
山域	上信越		
形式	保養所泊 1泊2日	グレード	3C
目的	雪山登山		
費用	22,000円	交通機関	自家用車

日程	一日目	1/19 柏インター 5:30 集合→外環・関越自動車道→沼田インター→川場スキー場駐車場 (カバシテイ) 7:40/8:40→リフト→リフトトップ 9:20/40⇒剣が峰 10:35/40⇒武尊山 12:30/40⇒剣が峰 13:55/14:10⇒リフトトップ 14:35/45→リフト→カバシテイ 15:00/16:15→ふじやまビレジ (世田谷区民健康村) 16:45<歩行時間 5時間>
	二日目	1/20 ふじやまビレジ 8:00→川場スキー場駐車場 (カバシテイ) 8:10/50→リフト→リフトトップ 9:40/50⇒1880m 地点 10:10⇒雪上訓練 12:20⇒リフトトップ 12:30→リフト→カバシテイ 13:05/15→ふじやまビレジ(入浴)13:30/14:30→沼田インター 15:20→我孫子 18:00<歩行時間 30分>

ルート状況	1日目登頂 ・スキー場リフト利用。 ・積雪量も少なくトレースもあってラッセルなく全行程アイゼンで歩行できた。雪庇の張り出しもまだ小さかった。
	・すぐに急斜面の登り。緩斜面を少し行くとヤセ尾根の先に切り立った剣が峰頂上 (標高2020m)。高度感はあるが幅があるので危険は感じない。 ・剣が峰から岩交じりの急斜面を下る。そのあと幾つか斜面を登り最後のやや急な斜面を5分程登ると頂上に到達。

参加者	2日目雪上訓練 ・リフトトップから約10分の登り (樹林帯の空間を活用して各種の雪上訓練)
	小林隆 L 北田 SL 矢野貞 SL 白崎 郷田 桐生 村越 小林安 男4、女4 計 8名



概念図



<1141>

北八ヶ岳（茶臼山～縞枯山）
(2384m) (2403m)

矢野 裕子



白駒の奥庭はおとぎの国

今回は雪山の入門コース。リフトで2,230mへ上がり、お二人のスノーシューチームに踏んでもらって進む。五辻ルートはよく歩かれているけれど、それでも後ろのアイゼンメンバーはたまにズボッと深く踏み抜いては笑ってしまう。ほぼ平坦な樹林帯は風もなく快適。西側に大きく展望の開ける丘で、澄んだ青空のもとゆっくり眺望を楽しむ。前方南アルプスから中央アルプス、ドカンと御嶽山そして後方北アルプスまで雄大なパノラマは本当に贅沢だった。この角度からだと北岳のバットレスが見事に切れ落ちていると教わる。しかし、氷点下の吹きっさらしでは頬を覆っていないと痛い。そっと手袋の手を当てる。森の中は動物の気配が濃い。鹿、ウサギ、小さい何か…こちら向きに走り抜けたんだねと、足跡観察が面白い。

麦草ヒュッテ到着。薪ストーブの傍でかりんとうと温かいお茶をいただき、ほっと一息入れた後、皆が体験できるようにスノーシューメンバー交代をした。スノーシューチームはアイゼンよりも高く大きく足を持ち上げる分、腿や股関節辺りの負担が大きいようだ。空身で白駒池への散策に出発。

ここは素晴らしい。樹林帯の途中の白駒の奥庭。低木が白く丸く雪をかぶり、まるであのお菓子の家が出てくるおとぎ話のようなメレンゲの国。私は全部がふわふわの甘いクリームに見えて仕方ない。夏は美しい苔だそうだ。それも見てみたい。到着した白駒池は想像よりも大きく、森に囲まれた広い雪原。このところの冷え込みでしっかり凍っているから、ヒュッテで教わった通り初めは恐る恐るだったが、固い足元に安心してみんな自由に歩きまわる。何だか楽しくなってくる。仰向けに寝転んでみた。しーんとした広い空。背中の氷の下に水の流れがあるのか。おやつを食べて至福の時を過ごし帰路につく。最後、ヒュッテ周囲の新雪野原でスノーシューを思い切り楽しむ。シューシューサクサク自由に遊ぶにはもってこいだった。宿は私達とあと一人のみ、ストーブを囲んでとても静かに更けていきました。

翌日は曇り。氷点下の朝の厳しい冷え込みを感じながら茶臼山～縞枯山へ。間もなく上りが始まると体が温まってくる。初めての雪山参加のメンバーに合わせて、分岐ごとにコンパスを合わせるのも新鮮な気分。今日のピークはあるはずの展望もなく真っ白。霧氷やエビのしっぽが冬山らしく、粉雪も舞っていた。アイゼンの足運びに注意して、お湯呑み休憩少々のみで歩き続けた。向こうからは週末らしくたくさんの山スキーの若者や超大型ザックの大学生も隊をしてずれ違った。賑やかなのもまたいい。お昼前に混雑したロープウェイ乗り場に到着。ゆっくりの行程で無事終了。午後に立ち寄った蓼科の湯が源泉かけ流しで体の芯から温まって最高の締めくくりでした。





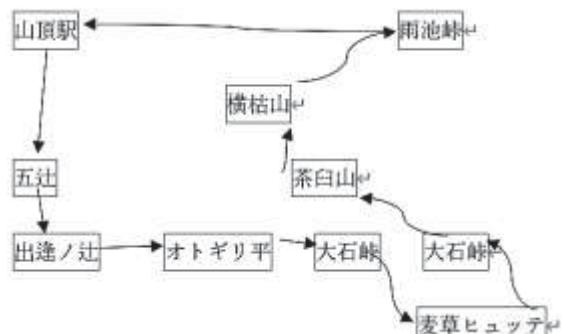
縞枯山山頂にて

概要

山名	北八ヶ岳（茶臼山～縞枯山）		
月日	2020年2月7日～8日(金土)		
山域	八ヶ岳	地形図 1/25000	蓼科・横 岳・縞枯山
形式	山小屋泊 1泊2日	グレート	2B
目的	雪の北八ヶ岳を歩く		
費用	約25,000円(ジ パング使用)	交通 機関	J R・タクシー・ バス
日程 1 日 目	我孫子 5:31→日暮里 6:01/10→新宿 6:33/7:00→(特急)→茅野 9:07/12 タ クシー→ピラタスロープウェイ山麓駅 9:44/10:00→山頂駅 10:07/51⇒五辻 11:54⇒出会いの辻 12:18⇒オトギリ平 12:40⇒大石峠 13:00⇒麦草ヒュッテ 13:20/14:05⇒白駒池 14:40/14:55⇒麦 草ヒュッテ 15:40(泊) <歩行時間 3時間45分>		

2 日 目	麦草ヒュッテ 8:00⇒大石峠 8:22⇒中 木場 8:39⇒茶臼山展望台 9:21⇒茶臼 山 9:26⇒展望台 10:20⇒縞枯山 10:39/45⇒天池峠 11:10⇒山頂駅 11:36/50→ピラタスロープウェイ山麓 駅(食事) 11:57/13:05→バス→プール 平(温泉入浴) 13:20/15:00 バス→茅野 駅 15:40/16:59→(特急)→新宿 19:06/12→日暮里 19:33/36 我孫子 20:05 <歩行時間 3時間>
ルート状況	•雪は例年に比べ少なく、ロープウェイの山頂についてやっと全面雪に覆われた状況だった。 二人がスノーシューで前を歩き、その後をアイゼンの人が続いた。 二日間とも、ルートは立札がポイントごとにあり、わかりやすく迷うことなかった。
参加者	村越 L 本田 SL 矢野裕 小林安 佐藤 細谷 男2 女4 計6名

概念図



<1142>新人卒業山行

幕山～南郷山
(626m) (611m)

土田 義二



幕山集合写真

卒業山行

令和2年2月8日(土)恒例の新会員卒業山行が挙行されました。

新人7人、昨年の卒業山行不参加の為、参加された山行きベテランの白崎さん、それに1年間新人研修を指導してくださった大平さん、外崎さんの総勢10人が参加して、湯河原の幕山を登頂、次の南郷山山頂で今回の課題である、山で料理を作って食べる、そして持参したテントを張り、そのテントの撤収を実習しました。

両山ともいずれも1Aの比較的易しい山でしたが、梅の開花時期と重なり、湯河原駅からのバスと登山口のある幕山公園の梅参観者の混雑を心配していましたが、湯河原駅朝9時出発のバスに乗り込み9時20分頃幕山公園内の登山口を通過したので、梅の花の見学者とほとんど重ならないで済みました。

ここ数日ずっと晴天続きで、この日も快晴。3分咲きの幕山公園の白とピンクの梅を登山口付近で愛でながら一同軽快に、先ず最初の目的地、幕

山山頂を目指します。

梅園が途切れると直ぐ、左側の岩にチャレンジする20～30人近いロッククライマーに感心しきりです。もう少し若ければ！と思った人は、いたようないないようなでしたが。

ほぼ予定通り幕山山頂に着くと、そこはかなり広い休憩場でしたが、快晴の土曜日ということもあり、多数の登山者で賑わっていました。ここは記念写真と10分ほどの休憩をして、一同南郷山に向かって出発。途中、源頼朝が石橋山の合戦に敗れ、池の水面に写し出された自分の無残な顔を見て、自害を決意したが、家来に止められて再起を図ったと伝えられる「自艦水」の池を見て、更に登ります。道が車道に出たり入ったりしてわかりにくい箇所もありますが、笹の生い茂る道をひたすら歩くと、漸く南郷山に到着です。南郷山山頂は、幕山山頂に比べてかなり狭いし、眺望も良くないので、登山客も4組ほどと比較的少ないので予定通り先ず、食事作りを開始です。

外崎さんから重箱入りの寿司飯の提供、白崎さんのガレット作り等も加わり、大満足です。テント張りとその撤収も無事終了。記念写真を撮って下山。下山を始めると直ぐに、眼下に相模湾とそこに突き出た真鶴岬の絶景です。

少し急な下りを降りて行くと、左手にゴルフ場が現れ、比較的広い道路を歩いて予定通り五郎神社前の鍛冶屋バス停に到着、五郎神社のトイレが使えます。湯河原駅へ。

バスの中でペーパーテストの卒業試験。これがまた良く考えられていて、マイッター！

登山口でリーダーから指名され初めて先頭を歩く事になりましたが、いつも人の先導で気楽に登山しているもので、登山道の正確な把握をしておらず、登山口から幕山公園内を抜けるまでは、数種類かの散策路があり、思わずどの道が正解なのかと2、3回迷ってしまいました。また、つい自分のペースで歩いてしまい先生から幾度か注意を受ける始末です。

雪の無い場所、テントが張れて料理が作れる場

所という課題から、決定まで二転三転した場所選びでしたが、全員が楽しく与えられた課題をこなすことが出来たと思います。… 更に恐らく首脳陣の狙い通りだと思える、同期入会者の連帯感もうまく醸成できて楽しい中にも充実した山行ぎでした。(出来の悪かった卒業筆記試験を除けば) 最後に、1年間新人研修を担当してくださった、大平さん、外崎さんそしてそれぞれの単元で講師を務めて頂きました先輩の方々本当に有難うございました。

入会2年目は、これを礎にして更に広く、深く登山を学び、心ゆくまで山行ぎを楽しみ、少しは諸先輩のお手伝いもしたいと思います。



幕山公園三分咲き梅林とクライミングの大岩



テント設営

概要

山名	幕山～南郷山		
月日	2020年2月8日(土)		
山域	箱根	地形図	1/25000 箱根
形式	日帰り	グレード	1A
目的	山の中でテントを張り、食事を作つてみる		
費用	4000円	交通機関	JR、バス
日程	我孫子駅 6:12 → 上野駅 6:45/54 → 湯河原 8:53/9:00 → 箱根登山バス → 幕山公園 9:18/20 ⇒ あづま屋 ⇒ 幕山 10:50/11:00 ⇒ 自鑑水 11:15 ⇒ 南郷山 11:50 / 昼食炊事テント設営 / 13:30 ⇒ 五郎神社バス停留所 14:50/15:19 → 湯河原駅 15:30/54 → 小田原 16:11/17:26 → 品川駅 → 我孫子 19:27 <歩行時間：3時間40分>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 幕山公園から幕山山頂までは整備されていました。 幕山山頂から南郷山までは一部標識が無く倒木がありました。解りづらい場所が数カ所ありました。 南郷山頂上から最初の下り坂が急で狭い。 		
参加者	秋山L 土田SL 富井 飯塚 川村 小山 布能 白崎 大平 外崎 男5 女5 計10名		

<1143>

曾我丘陵
(323m)

小山 三恵



梅林から富士山を望む

梅と富士の絶景を堪能する

このところ日本列島の天候は思わしくない。2月というのに連日16℃である。雨続きだ。当日も天気予報では雨マークが入っていた。しかしこの日だけは雨が降らず、朝から穏やかな曇り空の下広大な梅林を望むことができた。

下曾我駅から歩きだし県道72号を渡るとすぐに曾我梅林が見えた。曾我梅林は、別所、中河原等の梅林からなり富士山と箱根の山々を背景に、約3万5千本の梅畠を誇る。

農道に沿って歩くと、畠の中に手入れが良くされた見事な枝ぶりの梅の木がいくつも見られた。そして畠のみならず、全ての民家の庭に梅木を見る。枝垂れ梅が一際美しい。

振り返ると、早くも富士山を大きく望めた。その手前に矢倉岳。その下に見えたのは足柄丘陵だろうか。さらにその下に相模湾、そして小田原の街がぼんやりと広がって見渡せた。

六本松跡の碑までは舗装道路を登った。六本松は今は無いが「六本松跡の説明板」がある。昔の西からの旅人はここから坂東、奥州へ向かったとされると記されていた。

リーダーの箕輪夫妻はこの日のために2回ほどもこの丘陵を訪れたそうだ。おかげで誰かが誤ったコースに進むと直ぐに「道が違います。」と、後方からカオルさんの声が鈴のように響く。頼もし。頂上近くはまた舗装道路を歩く。コンクリートの建築物があり展望が望めないので少し先に下って昼食を取った。下りに入るとミカン畠やキウイフルーツ畠が見られるようになった。紅梅、白梅、ミカン畠のどかな風景を眺め往路に戻った。下曾我駅に戻り、駅近くで催されていた梅まつりの販売を楽しみ帰路の電車に乗った。

概 要

山名	曾我丘陵		
月日	2020年2月15日(土)		
山域	小田原	地形図	1/25000
形式	日帰り	グレード	1A
目的	梅を見る。富士山と相模湾を望む。		
費用	3,200円	交通機関	JR、御殿場線
日程	新木 5:55→湖北 5:59→我孫子 6:12→柏 6:17→上野 6:45/54→国府津 8:26/31→下曾我駅 8:40/50⇒別所梅林 9:00/30⇒美晴台 9:50/10:00⇒六本松跡 10:35⇒浅間山 11:15/ (昼食) /11:40⇒下曾我駅 12:30/13:13→小田原駅 13:40/14:57→我孫子 17:30 <歩行時間3時間半>		
ルート状況	曾我丘陵のルートはほとんどが舗装され、また腐葉土であったため、歩きやすかった。台風等の被害状況は確認されなかった。		
参加者	箕輪完L 本田SL 高橋英 齋田 矢野裕 村越 室崎 高橋富 田嶋 小島洋 小山 箕輪力 (会友) 男3 女9 計12名 (会友1)		

<1144>

丹沢山
(1567m)

田村 光子



まるで、花が咲いているような樹氷

2月 20 日

雪山に行きたくてY氏にお願いして丹沢山を計画してもらったが、暖冬で雪を期待することは無理かもしれないと思いながら家を出た。大倉からバカ尾根と言われている大倉尾根を行く。初めて大倉尾根を登ったのは20年以上前で、近所の方が花立山荘の小屋番をされていて「一度小屋に泊まりに来て下さい」と誘って下さり、それから何回か塔ノ岳に登ったがいつ行っても階段の多さにうんざりさせられる。

登山道には全く雪がなく、階段と泥んこ道で歩きづらく嫌になってしまう。花立山荘の屋根が見えたときはほっとした。第一関門クリアーである。山荘前のベンチで昼食を取る。

あいにくここからは富士山を見ることができなかつた。「もうひと頑張り」と自分に言い聞かせ塔ノ岳に向かう。尊仏山荘でコーヒーや甘酒などを頬み一休みする。暖かい飲み物が美味しかつた。丹沢山までは下りが多くちょっと気持ちも楽になつた。みやま山荘の周りに2,3日前に降つた雪

がのこつていた。この山荘は綺麗で、食事も美味しいいつも来ても気持ちがいい。この日の宿泊は我々のほか3名でゆっくりすることができた。

2月 21 日

朝外に出ると霧がかかっていて周りがはっきり見えず、辺りが白っぽくなつていて、木のそばまで行って霧氷ができていることがわかり感激。目が慣れてくるとあたり一面に霧氷がついていてびっくりする。雪もちらほら落ちてきた。春に訪れたときは山荘前の豆桜が満開で感激したが、今回はその木にびっしり霧氷がついていてまた違った雰囲気を味わうことができました。下山は北斜面になるので雪が残っているかもしれないと思いストックを出したが雪はほとんどなく、下山早々素晴らしい霧氷が我々を迎えてくれた。足が何度も止まり、誰もが夢中で写真を撮ったり、感激したりでなかなか前に進むことができない。山全体に桜が咲いたようで言葉では言えないくらい素晴らしい景色であった。

昨日は「今回の山行はトレーニングだね」と言っていたが、朝になって一変していて、目的の「霧氷を見る」がピッタリの山行となつた。

2時間近くも霧氷を見ながら下山出来、本当に幸せな気分になりました。

春に来たときはこのルートを登つた為に宮ヶ瀬湖を余り意識しなかつたが、今回は鮮やかなブルーが目の前にはっきりとみることができた。

登山口からバスで本厚木駅に行き、今回の余韻に浸りながら反省会をし、新型コロナウイルスの為にマスク着用で電車に乗つた。大満足の山行をありがとうございました。



丹沢山頂上

	<ul style="list-style-type: none"> 花立～金冷やし間のガレ場には立派な階段と橋が架かり危険が無くなった。 宮ヶ瀬湖への登山道で何か所か、昨春と比べ、橋などが整備されていた。 標識は随所にあり迷うことなし バス停は登山口から3分程の所にある。
参加者	矢野貞 L 田村 SL 深草 小林安 秋山 細谷 男 3 女 3 計 6 名

概要

山名	丹沢山		
月日	2020年2月20～21日(木金)		
山域	丹沢 地形図 1/25000 青野原、大山		
形式	山小屋泊 1泊2日	グレー ド	3B
目的	霧氷を楽しむ		
費用	12,000円	交通 機関	J R、小田急 線、タクシー、バス
日程	一日目	我孫子駅 5:34→代々木上原駅→渋沢駅 8:11/40→大倉バス停 8:55/9:00⇒(休憩 15分)⇒花立山荘 12:00/20⇒金冷やし 12:40⇒塔ノ岳 13:00/30⇒竜ヶ馬場 14:40/45⇒丹沢山 15:20(みやま山荘)宿 <歩行時間 5時間00分>	
	二日目	丹沢山(みやま山荘) 7:00⇒(休憩 5分)⇒瀬戸沢ノ頭 7:55/8:00⇒円山木ノ頭 8:40/50⇒本間ノ頭 9:25/30⇒高畑山 11:30/50⇒登山口 13:15⇒三叉路バス停 13:20/53⇒本厚木 14:40/反省会/15:48⇒代々木上原→我孫子 18:01 <歩行時間 5時間25分>	
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 雪は少なく、丹沢山頂付近にまばらに残っているだけだった。 塔ノ岳から丹沢山の間、登山道の整備(木道化)工事が行われていた。 		

概念図



霧氷の花

<1145>

足和田山
(1354 m)

藤家 一仁



霜柱をサクサクと踏みながら

冬場は山行が少ないこともあり、楽しみにしていた足和田山行でした。

新コロナ禍もあり当初 12 名の参加希望でしたが最終的には 4 名で山行が行われ、当日は絶好の山行日和でした。東京駅へ向かう電車も、河口湖へ向かうバスの車内も空いており快適に河口駅まで行けました。河口湖駅から周遊バスを利用し道の駅かつやまへ、乗り継ぎもスムーズであった。今回の山行は 12 月に行ったクリスマス山行とは反対のコースとなる。登山口の河口湖道の駅かつやまも空いており、手短に身支度を整え山行を開始した。念の為に軽アイゼンを持参したが使用する事無く登れた。

今回の山行目的のひとつでもある、霜柱をサクサクと踏み登る。冬で木々に葉がないことから、右手に湖を、左手に富士山を眺める最高の山行となった。登り初めてすぐに、秋葉原神社、羽根子山、大嵐天神社、段和山、足和田山で昼食、三湖台で休憩、紅葉台入口(国道)へ降りるコース。途中の三湖台山頂の広場からは、富士山とその側火山群や広大な青木ヶ原樹海を展望できるとともに、西湖越しの十二ヶ岳や雪頭ヶ岳を間近に望むこと

ができ、広場周辺には草地もありとても素晴らしい所でした。紅葉台からの下り口を竜宮洞穴入口から、紅葉台入口に変更したが運良く周遊バスの時間にも丁度間に合い、余分な待ち時間等も無く効率的に河口湖駅に着くことが出来た。河口湖駅では、高速バスの待ち時間に、「ほうとう不動」でビールに山梨の郷土料理ほうとうで反省会を行い帰路についた。「ほうとう不動」では、ほうとうのデザインTシャツをおそろいで購入し和気あいあいのとても楽しい山行でした。

概 要

山名	足和田山		
月日	2020年2月28日(金)		
山域	富士周辺	地形図	1/25000 河口湖
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	霜を踏み、雪の富士山の眺望を楽しむ		
費用	約 6,500 円	交通	JR・富士急 機関 高速バス
日程	我孫子 5:31 → 日暮里 → 東京駅 ⇒ 八重洲南口高速バス → 河口湖駅 → (西湖周遊バス) → 道の駅 9:40 ⇒ 羽根子山 ⇒ 大嵐天神社 ⇒ 段和山 (1,233m) ⇒ 足和田山(五湖台) ⇒ 三湖台 ⇒ 紅葉台 ⇒ 紅葉台入口 → (Blue Line) → 河口湖駅 16:30 (高速バス) → 19:00 東京駅 → 我孫子 <歩行時間: 4 時間>		
ルート状況	<ul style="list-style-type: none">凍っていると危ない箇所があるので、軽アイゼン必携としたが、霜がある程度で凍結はなかった。南斜面は霜も融けており、この方が滑りやすかった。山道は整備されているが、いつも登山道があり、巻き道も多く分かれ道では確認が必要。この時期木々の葉が落ちているので見通しがきき、左に河口湖、右に富士山を望みながら気持ち良く歩くことができる。		
参加者	齊田L 藤家 SL 村越 新谷 男1 女3 計4名		

令和初の岳人祭開催



テント組一同



ロープワーク実習



テント展張実習



調理実習

- ・ほっこり芋煮
- ・鶏肉バスク風煮込み
- ・秋を味わう焼きリンゴ
- ・豚肉ロースと
野菜のロース
- ・塩むすびときのこリゾット
- etc



豪華な会食風景



メインディッシュと料理長



点火式



合唱とギター伴奏



岳人 あびこ 富嶽集



桜と富士（南大菩薩嶺縦走山行
深草氏 20180416）



もみじ平から見た桜と富士 土田氏



扇山から見た富士山（2019年3月山
行より）大月富嶽12景第6番

令和 2 年度

2020 年(令和 2 年) 3 月～

2021 年(令和 3 年) 2 月

寄稿 (心に残っている山・個人山行)

<1146>

鋸山
(329m)

白崎 哲史
高橋 富美子

自肃明けのトレーニング山行



霧の稜線歩きに、本降りのおまけ付き

A班 白崎哲史

新型コロナは岳人あびこの山行にも多大な影響を及ぼした。政府の非常事態宣言が発令された4月、5月は、外出の自粛が求められて、すべての山行が中止になった。定例会や運営委員会・山行部会の開催もままならず、オンラインでのミーティングが模索された。

個人的にも、残雪の朝日連峰は再訪したかったが、致し方ない。

新型コロナウイルスは思いの他しぶとく、政府の非常事態宣言が解除されたのは5月25日のこと。ようやく「山に行ける」ことになった

が、新型コロナ禍が収束したわけではない。2020年いっぱい閉鎖することを決めた山小屋もあり、開業する山小屋も人数を制限するために完全予約制にするという、かつてない措置がとられることになった。

会として山行再開を考えたほうがいいだろう……そんな思いから、佐藤山行部副部長が準定例として鋸山山行を計画した。異論があろうハズがない。山行部の副部長の二人がリーダーとなり、二方向から鋸山を訪ねることになった。

鋸山の標高はたったの、329m。A班は関東ふれあいの道コースを浜金谷から保田へと向かうコースだ（B班は逆）。その標高の割に鋸山を従える稜線を辿る関東ふれあい道は意外に長く、累積標高差は500mを超える。6月の下見で、暑いと十分な水分補給が必要であることを確認していた。

7月5日は、あいにくの曇り空。午後には小雨が降りそうな天候で、前日も雨が降ったため、湿度も高めだった。

8時半過ぎに浜金谷駅に集合して出発。観月台への急登で松下さんにトップで登ってもらうとペースが少し速い。すかさず外崎さんが「私が先頭に立ちましょう」と交替してペースを整えてくれた。

山登りを始めてしばらくは、コースタイムよりも遅く歩くと、なんだか負けたような気がして、どうしても速めに歩いてしまう。しかし、重い荷物を背負っているときにオーバーペースで歩くと、どうなるか……その失敗を自ら経験してみないと、コースタイムの呪縛からはなかなか抜け出せない。

しかもみんな、コロナ禍で運動不足気味だ。ここはゆっくりめで歩くのが正解だろう。

やがて、石切場が見えてきた。

むき出しになった岩肌が、古代建造物のように削られている。その高さ40~50m。どうやって石を切り出したのだろうか、と疑問に思う切り跡もある。登山道は切り出された石壁の間へと

続していくが、それは異世界へのゲートであるかのようだ。

間近に迫る「古代建造物」は、何度見ても壮观だった。

石切場を過ぎると、鋸山から連なる稜線へと詰め上げる急登になる。辺りは霧に包まれ始め、岩にステップを刻んだ登山道には鉄製の手すりが設けられているものの、濡れていて滑りやすい。

地球が丸く見える展望台に出ても何も見えなかつた。ここからは、長い稜線歩きだ。

霧の稜線歩きは、ただただ距離をかせぐ感があるが、個人的にはその時間は嫌いではない。わざわざ雨予報を確認してブナの森に出かけることがあるくらいである。しかしながら、針葉樹が混じったここの稜線はブナの森に比べて暗く、雑然としていて面白みに欠けた。

10時半に鋸山山頂到着。相変わらず視界はきかず、風が出てきたので衣類を調整して、稜線歩きの終点、林道口へと向かう。30分ほど歩くと、A班と交錯した。稜線上では誰にも会わなかつたので、思わず笑みがこぼれた瞬間だった。

降り出した雨が、ペースを急かす。林道口で昼食休憩をとると、あとは長い林道歩きだ。前年の台風の影響だろう、数カ所で舗装が剥がれて荒れていた林道は、車両通行止めのままだつた。と、急に雨脚が強くなってきた。本降りだった。すでに車両通行止め区域を抜けていたので、ぬかるみに足をとられる心配はない。ペースはさらに速くなる。そして、12時50分、保田駅に到着した。ここで、そのまま帰るという外崎さんを見送り、残った小林安代さんと松下さんとで道の駅保田小学校に向かって、温泉に浸かってから帰途についたのだった。

一度下見をしていたのでわかっていたが、このコースを歩くとそこそこの運動量になる。スマホに記録された歩数は、18000歩。自肃明けの足慣らしにはちょうどいいレベルであった。ただし、ベストシーズンは冬であろう。



千葉の名山 鋸山

B班 高橋富美子

新型コロナウイルスの影響で、暫く山へ行く事ができませんでした。自肃が続いた難しい時に、鋸山山行を計画してくださいました。やっと山へ行く事が出来たと思い、嬉しくて大声で叫んでしまいました。

6月28日は雨のため延期になり、7月5日漸く実施となりました。車内では時々日がさして東京湾を進むタンカーも見ることが出来たので大いに期待したのですが、保田駅に着くと鋸山の頂上は雲に隠れて見えませんでした。



8時40分 鶯の声を聴きながら歩いていくと、ダムが見えてきました。近くには、アブラギリやねむの木などが自生し、花が咲いていま

した。突然、親子連れの猿が道路を横切り、近くの木の上に止まりました。この辺で猿を見かけるのは、大変珍しいそうです。

山道に入り暫くすると、リーダーの予報通りポツポツと雨が落ちて来ました。次第に大粒になり辺りは薄暗く、他に登山者も無く心細くなつた時に、A班と出会い、とても元気をもらいました。もし雨が降っていなければ、一緒に食事が出来たのに残念でした。

いくつもの石切り場の跡が残っている切通しの道を進むと、水溜まりの近くにモリアオガエルの卵の泡が沢山付いていました。石切り場跡の観音様や岩舞台などは、雨で暗くて見ることが出来ませんでした。地球が丸く見える展望台、観月台は真っ白で何も見えませんでした。下りの階段や登山路は川のように水が流れており、滑らない様に気を付けて歩きました。

パンフレットの石切り場の歴史によると、「鋸山では、江戸時代の後期から職人が鋼のつるはしで房州石を一人8本/日、切り出しました。ねこ車に1本80Kgを3本載せて麓までの運搬は、車力と呼ばれる女性たちでした。房州石は江戸方面の建設材として使われていました。明治時代の産出量は年間56万本、昭和60年を最後に鋸山の歴史は幕を閉じます。」ということです。房州石、その中でも質の良いものが、鋸山から採石され金谷石と呼ばされました。江戸城にも石材は沢山使われており、今でもその存在を自分の目で確認する事が出来るそうです。石を切り出した跡がステキな造形物のように残されていて、職人さんが如何にこの山を大切にしていたかが伺えます。

千葉の名山鋸山は、頂上に一等三角点のある芸術的な山でした。

概念図



概要

山名	鋸山		
月日	2020年7月5日(日)		
山域	房総半島	地形図	1/25000 保田
形式	日帰り	グレード	1A
目的	房州低名山 鋸山に登る		
費用	約4,000円	交通機関	JR・マイカー
日程	<p>〔A班〕 浜金谷 8:30 ⇒ 観月台 8:55 ⇒ 石切り場跡 9:45 ⇒ 地球が丸く見える展望台 10:04 ⇒ 鋸山頂上 10:30 ⇒ 林道口 11:40 ⇒ 保田 12:50 〈歩行時間 3時間50分〉</p> <p>〔B班〕 保田 8:40 ⇒ 鋸山ダム 9:00 ⇒ 林道口 10:03/10 ⇒ 東の肩 10:47/50 ⇒ 11:00 A班 と交差 ⇒ 鋸山頂上 11:20/25 ⇒ 地球が丸く 見える展望台 11:55/12:05 (昼) ⇒ 石切 り場跡 ⇒ 観月台 13:00/05 ⇒ 下山口 13:14 (入浴等) ⇒ 浜金谷 14:16 発電車 (トイレ) 〈歩行時間 4時間4分〉</p>		

ルート 状況	<p>[全体]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関東ふれあいの道コース〈東京湾を望む道〉で、標識はあるが古くなつて見にくくものがあった。(新しいものと取り換える予定で側に置いてあった) ・昨年9月の台風で、何ヶ所か樹木が根元から土砂ごと崩落したところがあり、タイガーロープが張られていた。 ・登山道に、コースではないところへの踏み跡があり、雨でうす暗くなつた状況で迷つてしまふ箇所があつた。首都圏から近くて入山者が多く、正規の登山道を外れてトレッキングしている者がいるからだと思われる。(観光協会の情報) ・林道も、台風で何ヶ所か崩落の跡が残つており徒步のみ通行可であつた。 <p>[A班]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石の階段はまだ雨が降る前であったが、前日の雨で濡れていて滑りやすかつた。 ・石切場から展望台にあがる石段の急登は、金属製の手すりがあるものの、その手すりが濡れていて、つかんでも滑りやすかつた。 <p>[B班]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南側(保田)の山麓は曇りだが、南西のやや強い風が山に当たり標高270mより上は、黒い雨雲がかかり頂上に近づくに従いガスが濃くうす暗くなり雨となつた。 ・北側(浜金谷)は雨で、鋸山名物の石切り場跡付近では一時ドシャ降りになり、下山路は流水で川状態になつたが、下山口ではほぼ止んだ。
参加者	<p>(A班) 白崎 L 外崎 SL 松下 小林安 (B班) 佐藤 L 深草 SL 蟹江 桐生 高橋富 男4女5 計9名</p>

<1147>

日光高山

(1668m)

川村 あき子



A班



B班



C班

滝と花と温泉を楽しむ

今回の山行計画は、高橋芳恵リーダーの下に湯元温泉に向かいました。山行目的として*コロナに打ち勝つ免疫力の向上と安全なグループ登山の実施。*滝と花と温泉を楽しむ。7月19(日)に実行されました。

高橋リーダーが、コロナの影響で山行の中止が続く中、良い日をご検討下さり、是非とも、私のお勧めの山をご一緒しましょう、ということで、「夏山トレーニング」の目的で企画立案して下さいました。

当日は好天に恵まれて、私は計画通りに東武野田線柏駅で、@4,610円の日光フリーパスを購入後、予定の電車に乗り込みました。車内では、三密を避けてマスクを付けて間隔をあけて座りました。8時30分 JR日光駅集合でスタート開始！心配されたお天気が眩しい位に日が差してきました。

バスに乗車して標高差310m（竜頭の滝上から高山山頂）歩行時間4時間30分、予定通り山頂につき昼食をとりました。帰路は爽やかな初夏の風の中をアヤメや日光の花々をめでることができました。湯元温泉では、乳白色の熱めの温泉を楽しむ事が出来ました。その後、湯元温泉からバスに乗り継ぎ、柏駅には9時半過ぎには帰着する事が出来ました。久々に好天に恵まれて、素晴らしい、和気藹々とした楽しい山行が出来まして、心よりお礼申し上げます。皆さんには、お世話になり、大変有難うございました。

リーダーから一言 高橋芳恵

コロナ禍で皆さんの体力・脚力低下が心配される中、昨年に続き日光高山を計画しました。この時期の日光は修学旅行や林間学校の子どもたちでかなりの賑わいを見せています。

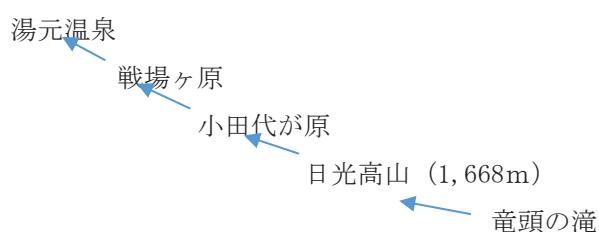
しかし、今年はその賑わいなくお陰で静かな山行を堪能できました。人間がいかなくなつた山には猿やシカやクマが出てきているとのこと。天気が心配される中、青空と花々に皆さん

笑顔で「やっぱり山はいいねー」とニコニコ顔。山歩きがこれほどの幸せだと改めて感じる一日でした。土砂崩れのため迂回した戦場ヶ原ではアザミやシモツケを楽しみました。コロナ禍であるからこそ実際に山に行き、感染しない方法を検証してコロナ対策を考えることが大切だと思います。

概要

山名	日光高山		
月日	2020年7月19日(日)		
山域	日光	地形図 1/25000 男体山	
形式	日帰り	グレード 1A	
目的	滝と花と温泉を楽しむ		
費用	5,000円	交通機関 東武電車、バス	
日程	我孫子駅 5:31/東武柏駅 5:40→東武柏 5:53→春日部 6:34/44→南栗橋 7:01/02→東武日光 8:16→JR日光駅 8:36 (バス) →竜頭の滝 9:37⇒高山登山口 10:15⇒高山山頂 12:00⇒幕張峠 13:45/55⇒小田代が原 13:55⇒泉門池 14:35/40⇒光徳バス停 15:05/24→湯元温泉 15:40/17:20→東武日光駅 18:20/39→南栗橋・春日部→柏 21:45 <歩行時間約5時間>		
ルート状況	概ね良好 小田代橋から湯滝に抜ける道が閉鎖されていて、戦場ヶ原を抜けて光徳入口に出た。		
参加者	高橋芳 CL 深草L 佐藤L 箕輪SL 外崎SL 小林安SL 高橋富 蟹江 田嶋 森岡 田村 矢野朝 本田 小島徹 川村 土田 新谷 北田 男8 女10 計18名		

概念図



<1148>

御岳山～日の出山
(929m) (902m)

土田 義二

森の妖精 レンゲショウマの鑑賞

コロナの為、現地御嶽駅8時30分集合とされたが、結局は我孫子、柏からは同じ電車に乗る事になるので、予め班ごとに車両を指定して密にならないようにスタート。途中駅から合流する人も含め男性3人、女性9人の合計12人は新松戸駅で武蔵野線に乗り換え、西国分寺、青梅で乗り換え御嶽山駅に到着。西東京バスは臨時便も出ていました。私は「山の日」の登山は初めての体験ですが、レンゲショウマが見頃な事もあるのでしょうか、コロナ騒ぎの中での混雑ぶりに驚きです。滝本駅から15分おきに発車する御岳山ケーブルカー乗り場では、混雑と乗車人数制限の為1台待ちして9時15分に乗車。6分ほどで御岳山駅(829m)、その後リフトもありますが、歩いて御岳平を経てお目当ての「レンゲショウマ」が咲き乱れるという富士峰園地に向かいます。9時30分到着。

初めて見るレンゲショウマは、全て恥ずかしげに下を向いて咲いています。今年は7月の雨続きで、日照不足のためこの時点では満開とはいきませんでしたが、それでも可憐な花に囲まれて皆さんシャッターに夢中に。私も後で振り返るとこの花を除くと写真をほとんど撮っていない事に帰宅後に気がつきました。今年は1週間後が満開との事です。さぞかし見応えがある事でしょう。この花を見るだけならスニーカーで十分ですので、ご家族でいつか訪れてください。

レンゲショウマを堪能した後は、立派な飾り、大きな鈴で飾られた武蔵御嶽神社の社殿を

お参り、その神社の直ぐ裏に御岳山山頂の標識があります。知らないと見落としてしまいそうです。10時20分到着。形良く尖った奥の院、大岳山が見えましたが、本に書いてあるような都心のビル群は見えませんでした。ここまででは全て整備された道を通ります。周辺には宿坊がたくさんありますが、テレビでは萱葺が印象的でしたが、改装されてほんの数軒でした。維持するのが大変なのでしょう。

この後はロックガーデンを散策です。七代の滝に続く鉄梯子は、混雑で渋滞しているのでリーダーの判断で避けて、水の音と時折吹き抜ける清涼な風に癒やされながら綾広の滝に着きます。滝の前は沢山の人が休めないのでとの、これもナイス判断でその到着前のベンチの有る場所で昼食休憩。ここでも班毎に分かれての昼食です。コーヒーのご馳走もいただいて元気が出ます。綾広の滝をすぎる頃に、私は知らなかった花ですが、遅咲きの「イワタバコ」が沢山咲いていて、皆で見惚れます。更に何故か紫陽花が咲いていると思っていたら、これはタマ紫陽花というそうです。なるほど、咲く前の蕾が玉になっていました。個人山行では気づけない事が、色々知り得て山行に深みを持たせて頂けます。

帰りは日ノ出山山頂(902m)を経てつるつる温泉に入り汗を流して、バスに揺られ武蔵五日市駅へ。16時48分ホリデー快速秋川で帰途につく。温泉は男性陣は混んでいたが何とか入れたが、女性陣は混んでいて大変だったそうです。

コロナと真夏の低山登山という事で心配しましたが、樹蔭と涼風に助けられて満喫できた山行でした。ロックガーデン～日の出山を経てつるつる温泉に至る道は階段も適当にあり登山としても楽しめるコースでした。長いお盆休みも山行計画のない身には何よりの山行でした。企画していただいたリーダー、参加者の皆様ありがとうございました。次は晩秋にでも奥の院、大岳山へも行ってみたいと思わせるよう

な山行でした。



集合写真(綾広の滝)

概要

山名	御岳山～日の出山		
月日	2020年8月10日(月)		
山域	奥多摩	地形図	1/25000 奥多摩
形式	日帰り	グレード	1A
目的	森の妖精レンゲショウマの鑑賞		
費用	5,000円	交通機関	JR、バス
日程	集合時間 御嶽駅 8:30 駅前バス停 8:36→ケーブル下 8:46/9:15→御岳山駅 9:21⇒富士峰園地 9:30/50⇒御岳山山頂 10:20/25⇒ロックガーデン 11:15/40⇒綾広の滝 11:55⇒日の出山 13:38/53⇒ツルツル温泉 15:10 現地解散 <歩行時間3時間>		
ルート状況	・山の日で混雑が予想されますので七代滝除外 ・鉄梯子、鎖場無し。危険なところは有りません。		
参加者	秋山 L 本田 SL 北田 高橋 富一氏 矢野 裕 佐藤 石塚 蟹江 大畠 土田 吉川 飯合 (会友) 男4 女9 合計13 (会友1)		

<1149>

半月山～阿世潟峠・切込湖～刈込湖
(1753m)

矢野 朝水

半月山

新型コロナウイルスとの戦いは長期戦を覚悟せざるを得ない。じっと家に閉じこもっていては個人も社会経済も疲弊するばかり。山行についてはコロナを前提にしっかりした予防措置を講じつつ、山歩きを楽しむことが求められていると言える。このような観点に立って高橋会長のリーダーシップにより、半月山山行が計画された。

<1日目> 東武柏から春日部、南栗橋を経て東武日光駅に到着。駅前からバスに乗車。中禅寺温泉で乗り換え、10:20 半月山駐車場に到着する。ササの繁るカラマツや白樺の林を登る。青葉若葉が目に沁み、吹く風が心地よい。11:00 半月山展望台に到着。眼下には中禅寺湖が広がる。眼前には男体山がそびえ、左手に日光の山々が連なる。絶景！

『白樺の林を抜けて涼気過ぐ 夏雲や湖水に聳ゆ男体山 雲の峰日光連山けぶり立つ』

11:10 半月山を下る。早やモミジが色づき始める。11:35 半月峠に到着し、昼食を摂る。昼食後、社山方向へ尾根を歩く。カラマツや白樺の林を通り抜ける風が涼しい。

『ありがたや色づき初むる薄紅葉 涼しさや湖(うみ)を見下ろす風の尾根』

12:55 阿世潟峠 (1417m) に到着する。社山 (1828m) の登山は時間がないので断念し、中禅寺湖へ向けて山を下りる。中禅寺湖畔に到着すると男体山には黒雲がかかり、雷鳴がとどろく。湖は鈍色にざわめく。『雷鳴や黒雲覆ふ男体山 鈍色にざわめく湖や遠雷す』

八丁出島、イタリア大使館別荘記念公園を経て中禅寺温泉バスターミナルに到着。15：30 バスに乗車し、今夜の宿泊所「アストリアホテル」に向かう。途中、突然の豪雨。16：00 ホテル着。感染症対策完備のホテルだ。18：00 夕食。牛ステーキやイワナのから揚げが美味。

<2日目>朝食後 8：30 ホテルを出発し近くの光徳牧場でアイスクリームをいただく。ホテルのサービスだ。ミズナラの森に入る。青葉若葉の森は清々しい。登るにつれてカラマツ、白樺と樹林が変わる。10：20 笹の茂る山王峠に到着する。『笹の葉のなびく峠や秋近し』

アキノキリンソウやリンドウを見ながら峠を下り、10：57 潤沼に到着する。かつて沼だったが、乾燥して草原となっている。鹿の食害で草花がめっきり少なくなったのは残念。

やがて木々の間から切込湖が見える。群青の沼は神秘的だ。その隣が刈込湖。湖畔に下りる。緑の峰に囲まれた山の湖は幻想的だ。砂浜で昼食を摂る。

『群青のしづまる湖や青葉闇 万緑を映して峡の湖静か』

刈込湖を経ち、コケの多い急坂を上る。13：30 小峠に到着。山を下りていくと硫黄の臭いがしてくる。14：22 湯元着。湯元温泉の源泉だ。湯煙が立ち昇り、湿原が広がる。

14：27 温泉寺に到着し、白濁のやや熱めの温泉に入る。疲れがとれ気持ちいい。雨が降り始め、雷鳴がとどろく。15：45 東武日光駅行のバスに乗車。次第に雨は激しくなる。昨日と今日いずれもバスの中にいて豪雨を免れたのは幸運だった。

17：05 東武日光駅着。特急に乗り、17：23 東武日光駅発。春日部を経て 19：33 柏着。好天に恵まれ、豪雨も免れて夏山を満喫できた。参加者の笑顔、笑顔。感謝！感謝！



集合写真(半月山展望台)

概 要

山名	半月山～阿世潟峠・切込湖～刈込湖		
月日	2020年8月21日(金)～22日(土)		
山域	日光	地形図 1/25000 日光男体山	
形式	旅館泊 1泊2日	グレード	2A
目的	秋山トレーニング・避暑・リフレッシュ		
費用	宿泊 約2万円日 帰5,000円	交通 機関	電車・バス
日程	我孫子駅 5:31 発/東武柏駅 5:40→東武柏 5:47→春日部 6:34/44→南栗橋 7:01/02→東武日光 8:16→JR日光駅 8:42 (バス) →中禅寺温泉 9:30/10:00→半月山駐車場 10:20⇒半月山展望台 11:00⇒半月峠 13:35/55 ⇒中禅寺山⇒阿世潟峠 13:00⇒阿世潟 13:30/40⇒イタリア大使館 14:25⇒15:10/30 中禅寺温泉→日光アストリアホテル 15:45・ 東武日光 16:10 (日帰り) 歩行時間 4時間30分		
二日目	アストリアホテル 8:30⇒光徳牧場 8:55/9:00 ⇒山王峠 10:20/30 ⇒潤沼 11:00/10 ⇒切込み湖 11:50⇒刈込湖 12:15/45⇒小峠 13:30/40⇒湯元温泉 14:25 (入浴) 15:45→東武日光駅 17:05/23→柏 20:00 →我孫子 歩行時間 4時間		
ルート状況	両日とも整備されたハイキングコースであり問題はなかった。 半月山駐車場へは季節運行で中禅寺温泉からバスがあり、徒歩30分で稜線に出る。		

参加者	高橋芳 CL 北田 L 箕輪 SL 外崎 SL 桐生 本田 小島洋 齊田 川村 矢野朝 吉川
	日帰り 高橋富 蟹江 白崎
	男3 女11 計14名

<1150>

高妻山～乙妻山・飯縄山
(2353m) (2318m) (1917m)

北田 仁則



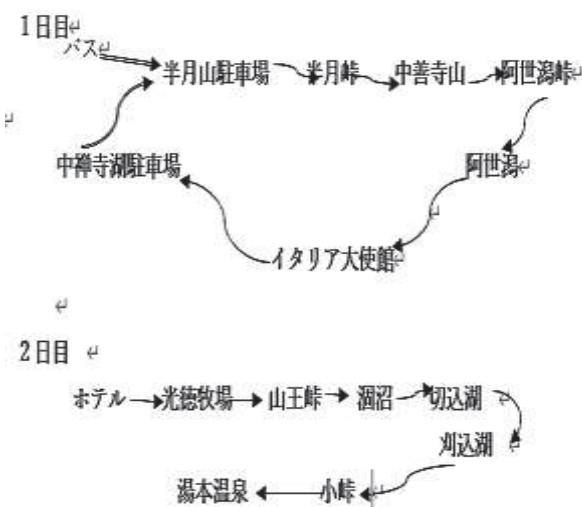
切込・刈込湖にて



十三虚空藏(菩薩)(乙妻山山頂)

コロナ禍中でのハードな戸隠山行

概念図



佐藤リーダーによるこの山行は去年悪天候による中止で、1年越しに実現したものだった。リーダーは昨年、中止を決めてからわざわざ宿泊予定の戸隠キャンプ場のバンガローに1泊したうえ、買い出し場所、昼食予定の戸隠そばの名店、下山後の温泉場所など今年のリベンジに備えて下見をしてきたとのこと、それを聞いてこの山行に対する熱意と並々ならぬ意欲を感じた。だからコロナによる相次ぐ会山行中止の中で、なんとしても実現したかったに違いない。

初日は長野でレンタカーを借りて、男女が1台ずつ分乗り戸隠神社中社にあるそばの名店「うずら屋」に向かった。ここはかなり有名店で、平日しかもコロナで観光客が少ない中で30分も待つことになった。しかし、待った甲斐がありみな大満足だった。

2日目は麓のキャンプ場から高妻山、さらにその先の乙妻山までコースタイムで約11時間、累積標高差1750メートルもある長丁場で、行動時間は13～14時間の予定だ。朝はまだ暗い4時半

に出発、急な登りの連続する弥勒尾根でかなり体力を消耗した。主尾根にとりつく五地蔵山（六弥勒）までの登りで、女性1人が遅れだした。そのためパーティを組みなおして、男性4名が先行し女性4名は彼女をカバーしてペースダウンした。五地蔵山から晴れていれば、後立山連峰が眼前に広がるはずだが曇ってみえない。また、目指す高妻山もガスに包まれていた。高妻山の登りは通称「髭剃り尾根」と呼ばれる急登。私は頂上直前で足がつりました。それでも、頂上にはほぼ予定通り9時半に到着した。私はここで待つことにしたが、3人は往復2時間の乙妻山を目指した。男子に遅れること30分で女子2人が高妻山に登頂してきた。あの2人は、ミロク山手前で1人が足がつって動けなくなってしまったので、サブリーダーが付き添って下山したという。高妻まで登ってきた2人は、男子3人を追いかけて乙妻を目指したが、小1時間で戻ってきた。登山道に藪が覆いかぶさっているうえに、崩落箇所があるので途中で引き返したこと、先行した男子3人が心配になった。3人はコースタイムより30分遅れて無事帰ってきた。高妻～乙妻間の登山道は、あまり登山者が入らずに荒れているようだ。高妻頂上から6人そろって12時過ぎに下山を開始した。しかし、乙妻の往復で体力を消耗した1人が遅れだした。彼にはリーダーが付き添ったので、あの4人は日没までにキャンプ場にもどろうと先を急いだ。ゴールの牧場に着いたのは16時を過ぎていて、雷が鳴り今にも降り出しそうな空模様だった。牧場につくとすぐ、先に下山していたサブリーダーに出会った。彼女はリーダーからスマホで救援要請があり、水を途中まで持つて上がるという、あと1時間くらいのところで1人が水不足で動けなくなったとのこと。この日のサブリーダーは自分の登山を犠牲にして、メンバーのためにフルに動いてくれた。リーダーはじめメンバー全員はその行動に頭が下がった。

3日目は車で飯縄山登山口に移動し、頂上を往

復した。この日は土曜日なので登山者が多かった。飯縄山は前日の高妻山に比べると実に楽だった。祠が1合目から10合目まで短い間隔で配置されており、それを確認しつつ楽しみながら登ることができた。一不動、二釈迦、三文殊、四普賢、五地蔵、六弥勒、七薬師、八觀音、九勢至、十阿弥陀、十一阿閍、十二大日、十三虚空藏という標識が、登り、下りですっかりおなじみになった。下山後はリーダーが前年わざわざ下見して探してくれた「むれ温泉天狗の館」で気持ちよく汗を流すことができた。

今回はグレード「3C」で事前にハードな山行を覚悟していたものの、予想以上のきつさで、様々なアクシデントが発生した。しかし、リーダー、サブリーダーの機敏な対応で全員がケガや事故を起こさずに山行を楽しむことができた。2人には心からお礼を申し上げる。

概要

山名	高妻山～乙妻山・飯縄山		
月日	2020年9月10日(木)～12日(土)		
山域	北信	地形図	1/25000 高妻山・若槻
形式	バンガロー泊 2泊3日	グレード	3C
目的	「戸隠富士」に登り十三仏を巡る		
費用	約28,000円	交通機関	JR・レンタカー
日程	1日目	上野駅あさま607号集合/上野9:50→長野11:33/50→〈レンタカー〉→うずら家12:30(戸隠そば昼食)→信濃町第一スーパーで買い物→戸隠キャンプ場15:30 16:30～17:10 弥勒新道入口まで偵察	

	<p>戸隠キャンプ場 4:43⇒弥勒新道入口 4:56 ⇒ブナ仙人 5:28⇒ 1596m 地点 6:06 (女1人が遅れだしこ から男女別行動、さらに足をつり SL が サポートで残り、女2人は先発を追う。 この後 SL と女は五地蔵山直下で登山継 続を断念し下山開始 10:00、登山口に13 時前に到着した) ⇒六弥勒（五地蔵山）7:10/30⇒七薬師 7:30/50⇒八観音 7:57/8:27⇒九勢至 8:13/39⇒十阿弥陀 9:25/49⇒ 高妻山頂上 9:35/55⇒頂上発 9:50/10:13 (男1人頂上に残る/女2人乙妻山をめ ざす) ⇒十一阿闍 10:00/36 (11:00 女2人引き 返す) ⇒十二大日 10:30 ⇒乙妻山（十三虚空蔵）10:53/11:02 (男3人頂上へ) ⇒高妻山 12:13/18 (男1人遅れはじめる 4人は先行) ⇒五地蔵山 14:00/43 (15:28 L から SL に TEL。電波なし/15:53 L から SL に給水の 要請メッセージ/15:56 SL から L にTEL、 状況説明) 16時すぎ(先行4人下山、牧場でSLすれ 違う) 16:35 (ブナ仙人の上、SLと合 流、水を供給後、回復) ⇒弥勒新道入口 15:58/16:55 ⇒キャンプ場 16:15/17:12 (先行の4人夕食の買い出しへ。全員 無事下山で「夕食会」19:00)</p> <p style="text-align: center;"><歩行時間 約10時間30分></p>	
2 日 目		<p><戸隠キャンプ場～高妻山> 弥勒新道は、中間点の 1596m ピークか ら少しの下りがあるのみで、ほとんど登 りが連続し、急登には3本のクサリがかかる。五地蔵山直下はかなり急登でクサ リなし。五地蔵山（六弥勒）からはアッ プダウンをくり返しながら標高が上がっ ていく。九勢至から山頂まで標高差30 0m、頂上直下の急斜面“ヒゲスリ”を直 登するが、4本のロープがかかっている。十阿弥陀の岩場を越えて頂上へ。登 山道の草刈りがしてあり、標識もしっかり している。</p> <p><高妻山～乙妻山> 踏み跡は明瞭だがあまり入山者はいない のか、草刈りはされておらず、ササ、シ ダのやぶ漕ぎを強いられた。途中の十二 大日は小さな高層湿原だった。</p> <p><飯縄山南登山道> 十三仏その他に標高の表示が多数あり、 登山道の整備も標識もしっかりしてい た。</p>
3 日 目		<p>佐藤 L 田村 SL 土田 小林安 郷田 高橋富 矢野貞 北田 男4 女4 計8名</p>

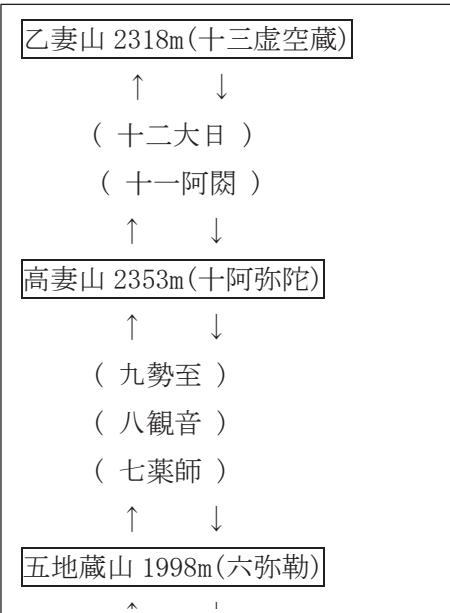


戸隠キャンプ場にて



戸隠山雄姿

概念図



< 1151 >

磐梯山 (1816m)

藤家 一仁



磐梯山山頂にて

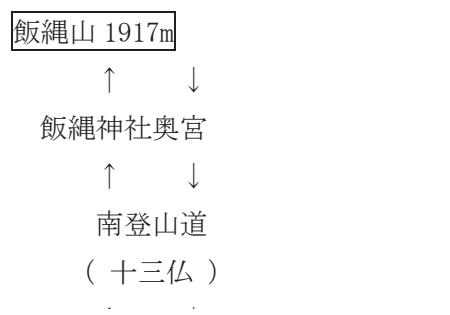
「宝の山 磐梯山」を登る

美しく雄大な姿で、古くから山岳信仰の対象とされた磐梯山。当初、市民登山で計画した山行であったが、コロナ禍の影響で準定例山行として実施した。貸切りバス山行として計画し、コロナ対応として二座席を1名で利用する等ソーシャルディスタンスを考慮した計画とした。コロナ・割高な山行もあり、参加人数等心配されたかが、会員の皆様のご協力のおかげで22名と多くの参加者で実施 cameた。

当日は、台風12号が温帯低気圧に変わり、曇り空のはっきりしない天気の中の山行となる。

計画では、磐梯山の表側と違った様子を見ることが出来ることから、裏磐梯登山口から登り、銅沼や荒々しい磐梯山の噴火壁を見ながら登るルートを計画していたが、天候も怪しい事から、急遽、バスの中で参加者の同意を得て八方台登山口からのピストン山行に変更した。

磐梯山へは6ルートから登ることが出来るが、山行計画変更により山頂までの高低差も少なく



比較的登りやすいルートとなる。ブナ林に癒やされ、中ノ湯温泉跡へ。変化する植樹帯を感じながら弘法清水、昼食後、山頂へと臨んだ。途中、桧原湖や五色沼の眺望が広がったが、残念ながら山頂は雲の中となり早々に下山することとなった。

下山途中少し雨に降られたが、下山後は短時間であったが温泉で汗を流すことが出来、ほぼ計画通り山行を終えた。天候、ルート変更もあり、もう一度は登りたい山のひとつとなった。



ブナ林を歩く



五色の森

概要

山名	磐梯山		
月日	2020年9月27日(日)		
山域	会津	地形図 磐梯山・猪苗代	1/25000
形式	日帰り	グレード	1B
目的	雄大な磐梯山に登る		
費用	10,200円	交通機関	貸切りバス
日程	我孫子駅北口公園付近 5:40→北柏駅南口 5:50→柏 IC→友部 SA 6:45/55→いわき JCT 8:00→阿武隈高原 SA 8:35/45 →猪苗代磐梯高原 IC 9:18→八方台登山口 9:50/10:00 ⇒中ノ湯跡分岐 10:30/40⇒弘法清水 12:05/25⇒磐梯山山頂 13:00/10 ⇒弘法清水 13:40/45⇒中ノ湯跡分岐 14:55/15:00 ⇒八方台登山口 15:25/40→裏磐梯レイクリゾート五色の森 15:50/16:45→猪苗代磐梯高原 IC 17:15→阿武隈高原 SA 18:00/10→いわき JCT 18:40→友部 SA 19:45/55→柏 IC 20:37→北柏駅南口 19:55→我孫子駅北口公園付近 20:05		
<歩行時間：4時間30分>			
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 山頂までの高低差が少なく、比較的初心者でも登りやすいルート。 八方台から中ノ湯跡までは、磐梯山噴火の影響を受けていないブナの森、癒やされる。 中ノ湯跡から弘法清水までは尾根づたいを歩く、途中眺望が良い場所あり。 弘法清水から山頂までは急峻になる。 		
参加者	藤家 L 外崎 SL 高橋芳 矢野貞 本田 中村育 齊田 村越 大山 石塚 林 北田 深草 小林安 田嶋 小野 矢野朝 一氏 土田 布能 細谷 吉川 男8 女14 計22名		

概念図



< 1152 >

焼岳
(2445m)

中村 育子

絶景、大パノラマの山頂

焼岳は岩稜帶のゴツゴツした山だが、紅葉の季節は素晴らしい山だと思う。数年前に登った時は紅葉が始まっていた。草紅葉が斜面一面に広がり、反対側に点在する白樺の白い木肌が陽に照らされて輝いていたのを思い出し、早速今回の山行を申し込みだ。

今回の山行の魅力はもう一つ。桐生さんの定宿ペンション「しるふれい」に泊まること。しるふれいは会山行でも何度かお世話になった宿。食事のおいしさ、さりげないサービスを提供するオーナーご夫妻の温かいお人柄、そしてかけ流しの温泉。清潔な白いタイル張りの、玉砂利の敷かれた湯船に入ると心身ともに温まってゆく。コロナ禍の今は一日 10 人の泊り客に限定しているという。今夜は私たち5人の他には女性二人とガイドさんの3人連れの客のみ。彼らは北アルプスの縦走を終えて明日帰宅するのだという。

また、往復ともに林さんの乗用車に乗せていただいたことも大変有難かった。長時間一人で運転した林さんはさぞやお疲れになってしまったことと思う。

1日目は、午後早い時間に沢渡に着いたので、乗鞍高原まで足を延ばし温泉に入ることになった。湯けむり館のお湯は乳白色。じわじわと体の疲れが取れてゆく。9月末、紅葉は始まっていたにもかかわらず、ウイークデーの乗鞍高原に人影はなかった。コロナの影響はここにも及び、寂しい観光地になっていた。土日はもう少し賑わうのだろう。夕食にはまだ間があったの



頂上でバンザイ



中の湯跡分岐

で、運転でお疲れ様の林さんを置いて皆で散歩。梓川の流れに沿って沢渡のバスター・ミナル周辺を1時間ほどぶらぶら歩く。そして待っていた夕食。奥さん心づくしのフレンチ料理で、食べきれないほどのおいしい料理がテーブルに並んだ。



焼岳山頂にて

2日目。空は快晴、素晴らしい登山日和。朝食後、しるふれいのご主人が登山口まで車で送ってくれた。有難いサービスである。中の湯温泉の少し先、安房峠を超える旧国道沿いに駐車場と登山口がある。しばらくはゆるやかなつづら折りの登山道。タイヤや壊れた車の大きな部品が捨てられているのを見て、なぜここに?と皆で首をひねる。次第に木の根が多くなり、登りがきつくなる。所々に湿地帯。雷に打たれて黒焦げになった木も立っている。前半は樹林帯だが、ほぼ中腹のりんどう平からは森林限界を超えて見通しがよくなる。右手に北アルプス連峰がきれいに見える。北田さんの撮った写真には穂高岳のつり尾根がうまく捉えられている。真っ青な空に紅葉したナナカマドがよく映える。

瓦礫を歩くようになる。石塚さんから植物の名前を時々教えてもらう。シラタマノキの白い小さな実の高山植物が一面に生えて、目を楽しませる。あそこにも、ここにも。こっちの方の群落がきれい!と騒ぐ。山頂からあがる噴煙も見えてくる。雲も湧いてきたが、まだ大丈夫と安心していた。稜線に出ると噴煙はますます間近に感じられる。山頂直下の急坂を登りきると、360度の大パノラマの景色が広がっていた。

眼下には上高地。梓川の河岸が光り、蛇行して流れているのが大きく見える。槍、南岳、穂高連峰、右手に霞沢岳、振り向くと乗鞍岳。左手には笠ヶ岳。山頂のカルデラ湖は青緑色をして煙が恐ろし気に立ち昇っている。そのエリアの南峰は立ち入り禁止、行けたのは北峰のみ。上から恐る恐る湖をのぞき込むと焼岳は活火山だと実感する。さて昼食、北アルプスを眺めながらのんびり休憩しようと腰を下ろして間もなく、みるみるうちに雲が広がり、周辺の山々が完全に雲に覆われて何も見えなくなってしまった。山頂に着いてから10分もしなかったと思う。あまりの急展開に驚いた。桐生さんと私以外の3人が初山行で焼岳の素晴らしい景色を見られたのは幸運としかいいようがない。山の天候は油断してはいけないと実感した。

下山後、再びしるふれいのお風呂で汗を流し、帰路も林さん運転の車にお世話になった。リーダーの桐生さんはもう一泊するので、しるふれいで手を振ってお別れする。Go to Travelの手続きを始め桐生さんには大変お世話になった。好天に恵まれ、楽しい山行を有難うございました。林さん、北田さん、石塚さんにも心から感謝申しあげます。

概要

山名	焼岳		
月日	2020年9月29日(火)~30日(水)		
山域	北アルプス	地形図	1/25000 上高地・焼岳・笠ヶ岳
形式	ペンション泊 1泊2日	グレード	2B
目的	アルプスの紅葉・展望		
費用	約6,000円 (GOTO適用)	交通機関	JR、自家用車
日程	一日目	乗鞍高原「ゆけむり館」(白濁)で入浴 →ペンション	

二 日 目	<p>ペンション（沢渡）7:40→8:05 烧岳登山口（新中の湯ルート）8:10⇒りんどう平（広場）10:00/20⇒山頂・北峰（昼）12:05/25⇒りんどう平 13:40/45 ⇒焼岳登山口 15:15/20（送迎車）→沢渡</p> <p>行動時間 6 時間 30 分 休憩 4 回</p>
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・登山口からすぐ急登が始まる。 ・よく整備された道で、迷うことは無い。 ・ト伝の湯の脇から始まる「中の湯ルート」途中で崩壊地有。今は使用しない。 ・下山時りんどう平で間違わないよう気を付けるようにと注意を受けた。
参加者	<p>桐生 L 北田 SL 中村育 林 石塚</p> <p>男 2 女 3 計 5 名</p>



稜線まで最後の登り



乗鞍高原湯けむり館

< 1153 >

日光白根山
(2527m)

細谷 秀次



日光白根山を望む

関東最高峰からの眺望を楽しむ

今年3件の山行希望を出させて頂いたが、皇海山は林道通行止めで中止、谷川岳は新型コロナで中止となってしまい、日光白根山が初めて実現できた。初めての山行計画作成で佐藤しに指導頂き、初日は湯元温泉から切込湖、刈込湖への足慣らし、2日目に日光白根山へ登る行程となつた。

初日は朝柏駅に集合し、東武線で日光まで下り電車なので、空いていると予想していたのだが、通学の学生が多く、春日部駅からしばらく満員状態、南栗橋でようやく座れる状況になつた。予想が甘く大変失礼いたしました。

東武日光からバスで湯元温泉へ。いろは坂では紅葉している樹木はまだ少なく 10月末頃がピークだろうか？ 湯元温泉に到着後、宿の食堂を借りて昼食、荷物をデポし刈込湖、切込湖へ向かう。湯元温泉の源泉から急な階段を上り、国道を横断、蓼ノ湖のそばを通り小峠に向かうルートについていたが、YAMAP ではある道が無い！

やむを得ず、蓼ノ湖から少し離れたルートを通り小峠へ。樹林の中をしばらく歩き刈込湖へ。

好天にも恵まれ湖、山、紅葉の始めの絶景を楽しむ。切込湖へ移動。湖水の水位が低くなってしまっており、刈込湖と切込湖が別の湖であることが確認できた。刈込湖、切込湖付近で自生しているヒカリゴケを発見！エメラルドグリーンに輝く姿を見て感動！！切込湖から湯元温泉に戻り、湯ノ湖を散策。ビジターセンターを見学後、宿に戻る。宿では源泉かけ流しの温泉（熱い！）に入り夕食。

2日目は、朝8時半のバスで丸沼高原へ。ロープウェイで一気に標高を稼ぎ山頂駅へ。日光白根山は圧倒的な存在感で現れた。

しばらく樹林帯の中を進む。標高が上がるにつれて紅葉が増えていく。樹林帯を抜け山頂を見ると大勢の登山者が列をなして山頂に向かっている。さながら、富士山の様。山頂では登頂待ちの行列！雲が多く、今回の目的であった山頂からの絶景は望めなかった。山頂から少し下った所で昼食。宿で手配したお握りと固ゆで温泉卵を食べる。

山頂から、避難小屋を経由し、紅葉の中を五色沼へ。避難小屋から五色沼までが思ったより長く少し時間が気になりだす。五色沼で小休止、前白根への登りは、距離は短いのだが、ほぼ直登かつ急登で、登りごたえあり。

前白根から外山を経由し、五色沼の荒れた道を下る。木の根につかり、木のはしごを下り、湯元スキー場へ。ここで、17時20分のバスに間に合わない為、佐藤からの指示で急ぎ宿に向かう。

途中スキー場では鹿の群れ30頭以上いたように見えた。宿に到着後、ジャンボタクシーを依頼。日光からは迎車に1時間かかる。この時間に再度温泉に入浴。帰り支度を整えゆっくりタクシーを待つ。下今市からの特急に間に合い、無事帰宅できた。Go To トラベルで宿代が割引、地域クーポンもあり、東武の特急も半額で

大変お得な山行となった。

反省点としては、通学の時間帯は下りも混るので注意、活動開始時間を早めて時間にゆとりを持つ必要がある。この点については今後の山行計画策定時に考慮するようしたい。

最後に計画を支援していただいた佐藤L、つたない計画に参加していただいた皆様、荷物のデポ、朝食時間の前倒し、下山後の入浴（時間外の日帰り入浴かつ料金半額）に対応していただいた、「かつら荘」の方に感謝したい。



山頂から五色沼を望む

概要

山名	日光白根山		
月日	2020年10月2日(金)～3日(土)		
山域	日光	地形図	1/25000 男体山・丸沼
形式	旅館泊 1泊2日	グレード	2B
目的	関東最高峰からの眺望を楽しむ		
費用	14,610円	交通機関	東武電車・バス・タクシー
日程	東武柏 6:52 → 春日部 7:34/38 → 東武動物公園 7:43/45 → 南栗橋 7:55/8:04 → 東武日光 9:18/45 → 日光湯元 11:10 ⇒ かつら荘(昼食と荷物をデポする) 日光湯元温泉 11:50 ⇒ 蓼ノ湖分岐 12:05 ⇒ 小峠 12:52/58 ⇒ 刈込湖 13:32/38 ⇒ 切込湖 14:00/20 ⇒ 小峠 15:07/13 ⇒ 蓼ノ湖分岐 ⇒ 湯ノ湖 ⇒ 日光湯元ビジャーセンター 16:13/30 ⇒ かつら荘 16:40 (歩行時間 3時間55分)		

二 日 目	<p>かつら荘 7:55 ⇒ 日光湯元温泉バス停発 8:30 → 日光白根ロープウェイ山麓駅 9:07/15 → 山頂駅 9:30 (トイレ) 山頂駅発 9:45 ⇒ 七色平分岐 10:20 ⇒ 日光白根山 12:10/45 (昼食) ⇒ 五色沼避難小屋 13:35 ⇒ 五色沼 13:50/14:00 ⇒ 前白根山分岐 14:35 ⇒ 前白根山 15:00/05 ⇒ 五色沢 17:00 ⇒ かつら荘 17:35 (入浴) /18:25 → (タクシー) → 東武日光 19:10/35 → 下今市 19:46/53 → (特急きぬ 152号) → 春日部 21:01 → 北千住 21:22/38 → 柏 21:56 → 我孫子 22:00</p> <p>〈歩行時間 7時間〉</p>
ルート 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・日光湯元～刈込湖・切込湖 標識がしっかりしており問題なし。 ・日光白根山 ロープウェイ山頂駅からしばらくは、砂利を敷き詰めてある。(自然破壊?) ・森林限界から頂上手前のザレた登山道は足がとられやすい。 ・五色沼から稜線への登りは短いが急登である。 ・前白根山から五色沢(湯元スキー場)への下りは長い急坂で、ガレ場や木の根で歩きにくい。 ・全体に、標識がしっかりあり、問題はない。
参加者	佐藤L 細谷SL 小島洋 小林安布能 新谷 千葉 土田 矢野朝男 4 女5 計9名



女峰岳遠望

<1154>

那須岳(沼原湿原)
(1917m)

大山 冬臣



姥ヶ原の紅葉勢揃い

紅葉の那須岳

超巨大迷走台風14号の影響をギリギリまで確認に確認を重ね催行に漕ぎ着けた山行だ。誰もがほぼ諦めていたと思うが、村越しがこの4年間毎年、那須山行を計画、その都度台風や悪天候の影響等々によって中止を余儀なくされた思い入れの強い山行であったと思う。私達もコロナ禍に依って宿泊を伴う山行は殆ど壊滅状態にあった中での台風による中止の瀬戸際にあつたこの山行への強い期待があった。SLの本田さんから前日朝9:00のメール連絡にハラハラだったがGOサインにヤッタと云う思いだった。

新幹線那須塩原駅からタクシー二台に分乗して登山口の沼原に向かった。トップはLだ。既に此処は標高約1,200m。足慣らしを兼ねて草紅葉が最盛期、湿原の遊歩道を一周してから落葉の絨毯の径を登る。霧雨が降ったり止んだり、台風の余韻が残っているのかな?分岐点になるとスマホのヤマップが大活躍、アナログとばかり思っていた本田SLが鮮やかな手さばきでの小さなスマホに展開するヤマップのページをドンドンめくり、縮小、拡大自在に操り、現在地

の標高、これから登る標高差、地形等を伝えて呉れる。私に取っては処女峰であるこの山はガイドブックやネットで調べて判っているつもりではあったが、情報共有をさせて呉れて有難い。今日は三斗小屋温泉に直行の予定であったが、時間的にかなりの余裕があったので、那須には何度も登っている大畠さんを交えてL、SLが協議の末、茶臼岳の麓の姥ヶ平へ立ち寄ることになった。高度が上がる都度、紅葉の色が一段と冴えてくる。樹高が低くなり、這松が現れ、白砂を踏み、石楠花が多く見られるようになると山肌の紅葉が一気に鮮やかに燃えだした。これ以上の紅葉があるのか?と思えるほどであった。全員の口からため息が洩れた。此処は標高約1,600m。茶臼岳がガスの切れ間から時折その噴煙を上げる姿が見える。昼食休憩に60分も割いて呉れたL、SLに感謝!だから時間的に余裕のある山行は嬉しい。姥ヶ平にも小さな池があり、木道を歩いて往復する。あとは三斗小屋へ直行あるのみ。若干の登りはあるが全体的には標高差約250mの下りだ。大きな沢を横切り、暫く行くと岳権の森が現れ、Tの字の分岐に着いた。右に行けば茶臼岳、朝日岳方面、左に取れば今宵の宿、三斗小屋温泉だ。ガンガン下ると標高1,350mの三斗小屋温泉に着いた。意外と長く感じた。煙草屋と大黒屋の二軒の温泉旅館があり、我々は大黒屋のお世話になった。ナンと! Go to トラベル適用旅館だ! 10人くらいは入れる大浴場と3~5人でいっぱいになってしまいそうな岩風呂が男女交互の入替制になっている。山のいで湯・・・たまらない響きだ。あの心地好いぬるさが、“鳥の行水”の私に30分もの入浴、いで湯の心地よさを堪能させて呉れた。

二日目は早朝から小雨。5時起床、6時朝食、7時出発。那須連峰の主峰、標高1,963m三本槍岳を目指す。SLの本田さんから「隠居倉迄はキツいから頑張ってね」と早速一発飛んできた。今日のトップは本田さんだ。隠居倉まで標高差

470mくらいかな? ゆっくりお願ひします! 溫泉神社への急な階段を登り、神社に手を合わせ、暫く登るとガスを吹き上げる源泉だった。雨が小降りになつたり止んだりの繰り返しの中を尾根上に出た。薄日が差してくると虹が現れたが直ぐに霧雨が降り出しその後、止むことはなかった。「この天気では三本槍ヶ岳に登るのは中止したい」 Lの断腸の思いの決断だったに違いない。お天気の良いときに又、来たい。

今山行の最高到達点となった隠居倉1819mに着いた。小雨の煙る熊見曾根の稜線から左に行けば三本槍岳、右手の朝日岳、鎖場の続く急な崖、岩場を慎重に避難小屋のある峰ノ茶屋跡方面へ下る。峰ノ茶屋跡の避難小屋で簡単な昼食休憩。中は満員、バーナを炊いて調理をしているグループの皆さんもいたが吐く息が白くなるほど冷えていた。表の方が温かかったかも知れない。ロープウエイの麓の駅で小休止、大丸温泉への行き方を確認。車に注意をしながら車道を何回も横切り大丸温泉を目指す。土産物店や温泉旅館が現れた。一番奥まったところにある大丸温泉旅館で入浴。雨で濡れ、冷えた躰にナンとも云えず心地好い温泉だった。1,000円の入浴料は三斗温泉大黒屋で貰った「地域共通クーポン」が使えた。路線バスの発車時間に合わせて温泉を出発、全員無事下山、将に紅葉といで湯三昧のGotoトラベル? だった。

新しい山仲間と知り合うことが出来た素晴らしい山行に感謝。



姥ヶ平の紅葉の始まり



霧雨の中出発

概要

山名	那須岳（沼原湿原）		
月日	2020年10月11日(日)～12日(月)		
山域	那須	地形図 1/25000	那須岳
形式	旅館泊 1泊2日	グレード ト	2B
目的	紅葉の那須連山を歩く ランプの宿 三斗小屋温泉に泊まり、北温泉で入浴する		
費用	約18000円(ジパングGOTO利用)	交通機関	JR・タクシー・バス
1 日 目 日 程	我孫子 5:31→上野 6:04/26→特急→那須塩原 7:32/40→タクシー→沼原駐車場 8:25/35→沼原湿原展望デッキ 9:00 ⇒日の出平分岐 10:15⇒三斗小屋分岐 11:28⇒姥ヶ平 11:50/12:50⇒三斗小屋分岐 13:28⇒沼原分岐 14:15⇒三斗小屋温泉大黒屋 14:35 <歩行時間：4時間46分>		
2 日 目	三斗小屋 7:15⇒三斗小屋温泉神社 7:35⇒隠居倉 9:15⇒熊見曾根分岐 10:15⇒朝日の肩 10:27⇒峰の茶屋 11:10/40⇒峠の茶屋 12:22⇒ロープウェイ駅 12:45⇒大丸温泉 13:15/14:05 ⇒大丸温泉バス停 14:10/20→那須塩原 15:38/16:02→特急→上野 →17:10/23→我孫子 18:00 <歩行時間：4時間36分>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 三斗小屋温泉大黒屋 (090-1045-4933) 一日目、沼原湿原でコースを間違え一度戻ったほかは立札などしっかりしていた。姥が平の紅葉がきれいだとの情報があり、予定していなかった姥が平に立ち寄った。 二日目、朝から霧雨小雨が続いた。 <ul style="list-style-type: none"> ①隠居倉へ向かう登りはきつく、道も雨で削られて大きな段差が続いた。 ②前日「北温泉へ降りる道が崩れていてネットが貼ってあり、危険」という情報。 ③雨のため視界が悪く登頂しても景色は望めないだろうということ ④歩行時間が予定よりかなり遅れそうだった。 ①～④の状況により、熊見曾根で三本槍岳の登頂はあきらめ、峰の茶屋へ直接降りるコースに変更した。 朝日岳分岐からのコースは鎖場があり、足元も濡れていたので慎重に歩いた。
参加者	村越L 本田SL 外崎 大畠 箕輪 大山 田嶋 秋山 布能 男3 女6 計9名



三斗小屋大黒屋まえにて

<1155>

信越トレイル
(涌井～鍋倉山～関田峠)
秋山 稔



紅葉と仲間たち

飯山のうなぎ

台風の迷走により、飯山の天気も信越トレイルに対する気持ちも迷走気味！信越トレイルは南の起点、飯山市斑尾山(1382m)から北の起点十日町天水山(1088m)までの80Kmで、関田山脈にある日本初のロングトレイルコースです。

10月15日

今回は紅葉を求めて3～4セクションをトレッキングする。コロナ対策の為飯山駅8:20に集合し、宿の送迎バスにて登山口涌井に到着。R292の左が2セクション、右が3セクションの登山口です。バスのワイパーが時々動いていた。どうより雲空だが、雲は低くなく悪化する様な空模様では無いと思った。トレイル開始、直ちに急登。前日の雨で濡れた落ち葉、ステップ幅が広く滑り易うるので慎重に登る。紅葉は色づいていないが、きのこが沢山生えてる。天候の影響らしく、紅葉する前に落葉した葉を踏み締めて富倉峠を目指す。富倉峠には立派な石積が残っており、北信濃と越後の交易交流が盛んであったことを偲ばせる。その先には、上杉謙信が陣を張った大将陣と呼ばれる史跡もあり、飯山盆地が望めました。途中、紅葉の名所ソブの池

を見下ろしたが、紅葉は観られなかった。ブナの自然豊かな林道を歩くとクサギの実、ツクバネソウやオオイワカガミの葉も目につきました。大きなホオバの葉、山栗の小さな実を踏みしめて黒岩山(911m)に到着。眺望を楽しんだ。雪解け後にミズバショウが咲くという桂池に到着。句碑が有った。

『峠越え ちょっと一服 かつら池』 太郎
我々もちょっと一服し、昼食を食べました。

今日の終着点の仏ヶ峰は戸倉スキー場の頂きに有り、そこまでは杉林が続きました。スキー場下部に宿の車が来るので、スキー場を下りましたが、途中で道が分からなくなりました。この時期のスキー場はすすきの原で、ヤブコキならず、ススキコキをしました。すすきの原から脱出して振り返ると後続の人が見えない程の、丈の高いすすきでした。今日トレкиングで出会った人は誰もいませんでした。

10月16日

昨日の迎車場所まで送ってもらい、仏ヶ峰登山口を目指しました。すすきの原にはう回路があり、昨日を思い出し、笑いをこらえながら真っ青な空に向かって登りました。仏ヶ峰登山口から飯山盆地を見下ろすと一面の雲海、雲海。青い空に全員一気にテンション上がりました。いつの間にか超元気になり、やっぱ、山って絶対に何か解らないけれど【パワーが有る】昨日に比べて全員のテンションが上がっています。

4セクション。トレイル開始、紅葉も色づいている。青い空にウロコ雲、ブナの美しい林が映えます。飯山盆地を望みながら豪雪地帯特有の倒木や弓なりに曲がった木、根曲り木を避けながら、避けきれず頭を何度もぶつけ、痛みを伴う山行でした。ここはかつて塩の道(北条間道)で自然と歴史を堪能しました。鍋倉山(1289m)手前では樹齢100年前後のブナが整然と並んだ美林、原生林に出会いました。感動して歓声が上がる。雪国の白いブナ林が明るい日差しに映える。明るい林で、皆ブナ林に負けない明るい笑

顔で記念撮影をしました。【気持ちが良すぎる】

【癒される】。鍋倉山まではアップダウンが続くヤセ尾根が連続したので、足元に気をつけた。山頂からは妙高山、火打山が望め、黒倉山(1242m)からは日本海も望めた。黒倉山から終着点の関田峠まではあと少しです。急にペースが変わりました。ブナの美林は今回のビュウポイント。ヤセ尾根を通り過ぎるまではたっぷり時間を取り、下りの林道歩きになつたら、ペースを上げ、到着予定時間に着くように歩かされました。リーダーの卓越したコントロール能力に感心しながら関田峠で宿の車に乗りました。今日、出会った人は2組5人でした。乗車後、直ちに本多にうなぎ弁当を注文しました。(勿論地域共通クーポン利用)新幹線の車内でうなぎを食し、山行は無事終了致しました。

今回の山行は只々信越トレイルの名に憧れ。30年来の飯山への郷愁。名物本多の『うなぎ』を食べたい一心のヨコシマな参加でありましたが、山のパワー深い森、自然、ブナの美林に感動した山行になりました



樹齢 100 年以上の大木

概要

山名	信越トレイル (涌井～鍋倉山～関田峠)		
月日	2020年10月15～16日 1泊2日		
山域	信越	地形図	1/25000 飯山 猿橋、野沢温泉
形式	民宿泊 1泊2日	グレード	2B
目的	ブナの里を歩く		

費用	約 20,000 円	交通機関	J R、送迎車
一日目	我孫子駅 5:31→柏→上野 6:04/34 新幹線→飯山 8:19/20→送迎車→涌井 8:35/43→富倉峠 9:47/52→黒岩山 11:35/38→桂池避難小屋 12:08/37→仏ヶ峰登山口 14:20→駐車場 14:40→送迎車→民泊 14:55 歩行距離 13.4km <約 6 時間>		
日程	民宿 6:50→送迎車→仏ヶ峰登山口駐車場 7:05/10→仏ヶ峰登山口 7:40/42→仏ヶ峰 8:52/9:01→小沢峠 9:25/38→鍋倉山 11:15/47→久々野峠 11:55→黒倉岳 11:59/12:08→関田峠 11:59/13:10→送迎車→民宿 13:45/15:00→飯山駅 15:20/16:05→新幹線→上野 17:46/18:02→我孫子 18:35 歩行距離 9km <約 5 時間>		
ルート状況	道標は随所にあり迷うことはない。 涌井から仏ヶ峰登山口間は途中林道と合流する所あり。 上杉謙信が見張り台として陣を張った所を通る。飯山の市内が良く見通せた。 桂池にはトイレが整備されている。 仏ヶ峰登山口は戸狩スキー場の上部で、ゲレンデを 20 分程下る。 仏ヶ峰登山口からはブナ林や、ゲレンデを登りブナ林を尾根伝いに歩く。飯山の市内が見下ろせた。3～4回アップダウンを繰り返すと小沢峠に出た。 鍋倉山への登りは樹齢100年以上のブナ林を行く。複雑にうねったブナの枝を跨いだりくぐったり、頭にぶつけたりと歩行に注意が必要。		
参加者	矢野貞 L 小林安 SL 大畠 田村 桐生 石塚 一氏 秋山 土田 吉川 男 2 女 8 計 10 名		

概念図



<1156>

檜洞丸
(1601m)

外崎 蓮

ゆっくり～ゆつたりと

西丹沢ビザーセンター行きのバスは思いのほか混んでいた。今日は、つつじ新道を約 1050m 登って檜洞丸に登頂後、直下に建つ青ヶ岳山荘へ下る行程である。新道入口の薄暗い沢に入り、ほどなく沢と別れて 100mほど登って稜線に出ると緩やかになってくる。この付近の紅葉はまだ3分ほど。蕾をつけたミツマタの林を過ぎると広い河原に出た。ゴーラ沢の出合だ。ここからの長い急登に備えて、流木に腰を下ろしてエネルギーを補給する。コース中で唯一平坦地と思われる展望園地でさえも猫の額ほどの広さだ。テーブルがあり、ここでもんびりとティータイム。温かい飲み物が体の芯までしみ渡る。リーダーの掲げた “行動時間をたっぷりとて、ゆっくり歩こう” に惹かれて参加したのだから、このペースはとても有難い。展望園地は山頂まで半分登ったあたりにある。あの半分を踏ん張ってやっと9合目付近の板の階段にこぎ着けた。高床式のような平坦な木道を快適に進んで、3時頃ようやく山頂に到着。大倉尾根から登ってきたという登山者が一人、黙々とおにぎりを頬張っていた。彼に教えられ、西丹沢で唯一展望のいい場所へ下りて行くと、北西の空に富士山が見えた。大室山は目の前に。日差しが消えると急に寒くなり、急いで青ヶ岳山荘へ下った。

引き戸を開けると、屈強そうな男性が私たちの到着を待っていてくれた。女性の管理さんは不在だった。何よりも石油ストーブと炬燵が

置かれていてホッとする。荷物をほどき、練炭の炬燵に入って小屋のサービスのコーヒーを頂く。薄暗くなると豆電球が灯った。電源は玄関先のソーラだ。水は天水に頼り、ストーブのやかんのお湯も 100CC 100 円也。隣の蛭ヶ岳はヘリコプターで荷揚げをするそうだが、ここは人力とか。食事も質素だが、不満は何もない。登山者にとって貴重な小屋だからだ。寝る前のひと時、ストーブを囲み、臨時の管理人さんと談笑した。夜は二階に布団を敷いてもらってゆつたりと休めた。

<大室山に来年を誓う>

二日目の朝、外は靄に包まれ細かい雨が降っている。朝食後、雨具を着て、とりあえず犬越路を目指すことにする。今回のメンバーの中では誰も歩いたことがないコースだ。檜洞丸の直下から急斜面に架けられた板状の階段をかなり下の平坦地まで慎重に下る。鞍部から緩やかに登ると熊笹の峰だ。唯一、安心して歩くことのできたピークかも知れない。坂を下った神ノ川分岐付近から鎖場が登場してきた。大笄・1510mのピークに立つと、岩場に長い鎖が2本垂れ下がっていて思わずドキリとする。だが、足場がしっかりとあるので鎖を手繩り寄せ、岩角につかまって下りる。先に下りた人が次の人へ足場を教えていく。その先の鎖場も慎重にこなし、両側が切れ落ちた稜線も無事にクリア。大笄から小笄・1288mまで1時間半もかかって岩場を下ると、一仕事を終えたかのようにどつと疲れが出てきた。これから向かう大室山が重くのしかかってくる。そこへ救世主が出現した。「時間切れなので、大室山は止めにしませんか？」SLがLに伺いを立てた瞬間、全員、歓声をあげた。

そうと決まれば気分も晴れ、草むらでゆつたりとティータイム。犬越路に着いたのは 11 時ちょうど。ついでに新しくなった避難小屋を覗くと、途中出会った鹿よけの柵を工事していた作業員たちの宿泊所として使用されていた。大室山に来年を誓い、犬越路から地形の壅んだ広い

沢を下る。台風によるものだろうか、崖が大きく崩壊していて、崩れた山砂に足をとられ、ロープを辿って迂回しながら、やっとの思いで用木沢に下りた。あとは左手に沢を見下ろしながら、滑りやすい沢沿いの道を下る。用木沢出合に着いたのが13時半、犬越路から2時間かかった。西丹沢ビジターセンターに戻ってバスを待ち、中川温泉のぶなの湯に直行した。



集合写真(檜洞丸山頂)

概要

山名	檜洞丸			
月日	2020年10月21日(水)~22日(木)			
山域	丹沢	地形図	1/25000 西丹沢	
形式	山小屋泊 1泊2日	グレード	2B	
目的	秋の花々と木々の紅葉を楽しむ			
費用	約14,000円	交通 機関	JR, 小田急、富士急湘南バス	
日程	一日目	我孫子 5:34 → 代々木上原 6:44/47 → 相模大野 7:22/24 → 小田急新松田駅 8:10/25 → バス → 西丹沢ビジターセンター → 9:36/10:00 ⇒ 11:10 ゴーラ沢出会い 11:30 ⇒ 展望園地 12:35/50 ⇒ 檜洞丸 14:55/15:25 ⇒ 15:30 青ヶ岳山荘泊 <標高差約1,000m 歩行時間4:30 行動時間約5.30>		
	二日目	青ヶ岳山荘 6:30 ⇒ 熊笹ノ峰 7:20 / 25 ⇒ 大笄 7:35 ⇒ 9:00 小笄 ⇒ 犬越路 11:00/15 ⇒ 用木沢出会い 13:15 ⇒ 西丹沢ビジターセンター 13:50/14:40 ⇒ バス → 14:50 中川温泉「ぶなの湯」 15:33 ⇒ 新松田駅 16:50 / 18:05 ⇒ 代々木上原 → 20:45 我孫子 <歩行時間5:20 行動時間7:20>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> 富士急湘南バス新松田駅前出札窓口にて、中川温泉「ぶなの湯」セット券¥2,330（二日間有効往復バス）利用 高度が上がるにつれてぶなやヤシオツツジの紅葉が見頃になってきた。花も、イワシャジン、キキョウ、ヨメナのように紫の花、ダイモンジソウ、シロヨメナのような白い花、ミツマタのつぼみなど楽しむことができた。 二日目、前日の夜露と朝露で木製の階段が濡れていて滑りやすかつた。 大笄から小笄は鎖、岩場、やせ尾根が続き、通過するのに時間がかかり、大室山の登頂は中止にした。
参加者	齊田L 佐藤SL 外崎 高橋芳 本田 中村育 矢野朝 男2 女5 計7名



岩場を登る



<1157>

大杉谷～大台ヶ原（日出ヶ岳）
(1695m)

高橋 芳恵

大杉谷～大台ヶ原
ユネスコ自然パークへの誘い

1日目 快晴

コロナによる緊急事態宣言発出のため5月に予定したこの山行を10月29日～11月1日に実行した。当初13名だった参加者が6名となり、コロナ禍での山行としてはやむを得ないことと思う。集合は名古屋駅として希望者は名古屋城見学を予定した。名古屋城では新たに御殿が復元されて、内部の装飾も当時の繁栄をしのぶことができる見ごたえのある見学コースだった。名古屋発ワイドビュー南紀5号は三瀬谷に14時45分到着となり宿の送迎車で奥伊勢フォレストピアに到着となった。第三セクターで運営されているこの宿はホテル。コテージ・野外活動・温泉と多目的に利用されており、レストランは有名な志摩観光ホテルのシェフが監修しているだけに気が利いた味わいの食事が提



桃ノ木山の家へのつり橋

供され、Go to 割引にGo to クーポンで皮肉にも山小屋よりかなり安価なホテル代金となつた。

大杉谷のクライマックスの始まり

2日目 快晴



日出ヶ岳頂上にて

予約したタクシーで1時間余、大杉谷登山口に9：45到着。運転手さんはかつて昨夜泊まったホテルの従業員で宿からの指名で特別担当されたとのこと。コロナ禍もあり、この地での経済もかなりの打撃になっている話を聞いた。私は3度目の大杉谷となるが、谷と岩稜コースだけに緊張して入山するのは最初と変わりがない。昨年にはなかった1,000円の入山料を支払い、最初から岩稜を越えながら設置された鎖を頼りに登って行く。この辺りを大日嵐という。時には足が上がらないような高さの岩があったが、概ね鎖があるので安全である。2時間ほどで千尋の滝に到着し、昼食とした。5月のこの滝はゴーゴーと幅広の大滝で見事であったが、今回は小さく整った面持ちで流れていた。同じ滝でも季節によりこれほど違うものかと思った。

さらに1時間程岩を乗り越え、岩の間で水に濡れながら下りたところが有名な獅子ヶ淵である。この景観を撮影するために多くのカメラマンが訪れるスポットであり、私たちもしばし撮影タイムとした。ライオンの横顔はまさにライオンキングであり、ニコニコ滝の様が本当に美しい。何度訪れても飽きない大杉谷の素晴らしい様に感動する。さらにつり橋を幾度か繰り返

して巨岩が屹立する平等嵒に到着。ここからは谷から離れて山中を歩くことになる。2018年5月に準定例での体調の悪くなったY会員の様子を参加者に説明しながら、あの時のYさんとリーダーのOさんは実によく対応したと改めて思った。ここからでは帰るに帰れない場所であったのだ。今夜の宿の桃ノ木山の家迄15分の所でしっかり休憩、予定通り、15時に小屋到着となった。小屋では20名程の個室をわがグループ6名だけの使用となり、密を避けた感染予防対策が取れた。

3日目 快晴

小屋を7:00に出発、本日は栗谷小屋までの半日コースと時間に余裕がある。七ツ釜までの30分は険しい岩道が続き、注意が必要。休憩所がある七ツ釜の滝は三段に分かれて落ちる優美さが魅力的であり名瀑100選



七ツ釜滝

に選ばれている。この先も急傾斜のよじ登るような岩稜帯が続くが岩にかけられた鎖が助けてくれる。へつり部は滑りやすく注意を要するが幸い天気が良く岩が乾いているので助かった。行く手には山のように重なる巨岩の山がある。これが崩落地ですっかり名所となっているが、2008年の台風の水害のため巨岩が崩落し、流れ積み上げられた自然の猛威を感じる場所である。2008年から数年、大杉谷は通行止めとなっていた。桃ノ木山荘前のつり橋が流されたというからものすごい水の脅威であったと想像した。崩落地の巨岩には赤線や矢印が記されているのを頼りに越えていくと迷わず越えることができた。急に谷水が消え、その先から川が流れる箇所があり、伏流水となってまた谷をなす、自然の面白さを感じた。

沢から急登を登ると、現れた光滝は落差40mの美しい滝であり、その先に広がりを持った滝に続き落差15mの隠れ滝が名の通りに大釜を抱くように現れる。すっかり滝のマイナスイオンに浸り、渓谷の美しさやコバルトブルーの淵の色に魅了されながら進むと、次に現れた与三郎の滝もまた男性的な魅力がある。最後に堂倉の滝に至り、ここで滝は終了するが、どっしりした威厳のあるこの滝も見応えがある。ここで場所を空けてくれる先客があり、礼を言ってゆっくりと休憩とする。ほとんど会う人もなく歩いてきたが大台ヶ原から大杉谷に下るという方だった。大杉谷は滑落、転倒事故が多いが、ほとんどは下りでの事故である。

堂倉滝からは山道となりこれも急坂の登りの連続でシャクナゲの木々が現れる。2時間近く登り切ったところに今夜の泊り宿の栗谷小屋が現れた。時間は丁度昼であり、小屋でカップラーメンを求めて昼食とした。こんなに早い時間に着いてどうしたらと思っていると佐藤S.L.が近くの栗滝に行ってみよう誘ってくれ、管理人から水晶取りの情報を得て早速出かけることにした。林道は全く使用できないほど荒れ果てていたが、栗谷近くで水晶取りの箇所があり、水晶は掘り出すものと思っていたが、石をひっくり返して見つけるものとは初めて知った。暖かい日差しと美しい紅葉の中でのんびりゆったりと時を過ごした。帰り道に栗谷に向かったが先に偵察に出かけたS.L.が巨岩を越えるのに時間を要するとのことで引き返した。小屋でオーナーに水晶を見せると「ただの石ころでしょう」と笑われたが、私たちにとって大切な記念品となつた。この栗谷小屋のオーナーは若いころ音楽を勉強して柏に住んでいたことがあると最後に聞いた。若いオーナー夫婦の手作りの食事や翌日のお弁当、グループごとに風呂の順番に声をかけて湯加減を確認するなど愛想はそれほどでもないがなかなか気の利いた小屋の魅力的なご夫婦だった。

いざ大台ヶ原へ 大台ヶ原は遠かった

4日目 曇りのち晴れのち霧

小屋を6時出発。気の早い同行者はかなり前から戸外で待っている。若女将から「熊が其処ら中を走っていますよ」と言われ、まだ暗い山道をヘッデンをつけて歩くこと30分で堂倉避難小屋からの道に合流。東の空から明るみ夜明けが美しい。シャクナゲ平は文字通りのシャクナゲの木が茂り、2年前には美しいシャクナゲに歓声を上げたが、今は緑一色、オオダイシキミの赤い実がかわいく咲いていた。熊を心配しながら、今排泄したばかりの糞を見つけたときにはドッキリ！「やはり熊が走っているのは本当だ。」

原生林の道を登り続け、1525mからはなだらかに平地、さらに登り日出が岳(1694.9m)に到着した。小屋から約2時間の登りだった。日出が岳展望所から台高山脈や大峰山脈の山々を眺め、眼下には熊の灘と尾鷲湾を見下ろす絶景の展望ではあるが、急に温度が下がり冷たい風に早々に退散した。正木嶺、尾鷲辻を通り本日の目的地、大蛇嵐に到着。オーバーハングし、斜めに落ち込んだ岩の上からの紅葉は今が絶高であり、思わず「ヤッホー！よかった！」と叫びたくなった程だった。大杉谷は紅葉には早く、春ではないのでシャクナゲの花はなく、これで紅葉が見られなかつたらと心配していたからだ。大蛇嵐近くで昼食をとり、小屋で作ってもらった弁当を食べたが、若女将の作ってくれたお弁当の美味しかったこと。とても600円といえない程気持ちが込められていた。栗谷小屋のやさしさが伝わったひと時であった。ここからシオカラ橋を渡り、駐車場のあるビジターセンターまではかなりの登り、通常であれば2時半のバスがあるところだが、コロナ禍で3時半のみ。3時間近くバス停近くのレストランで待つことになったが、地元で作られた柿の葉寿司やスマートチーズは絶品だった。駐車場で待つ間に霧が出て、冬の寒さの中バスを待った。大和上市ま

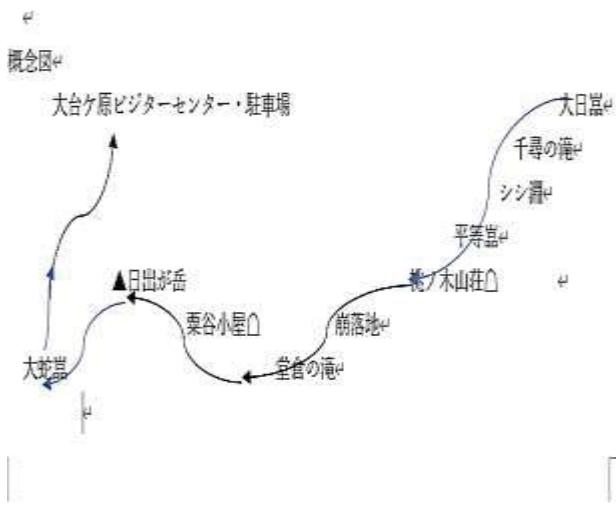
でのバスからの原生林の紅葉は素晴らしく今年の紅葉の見納めとしてふさわしい美しさであった。電車を乗り継いで京都までたどり着き、ひかり組、のぞみ組に分かれて解散としたが、我孫子到着23時19分。実に帰路8時間を要した。後日長崎に出かけたが13時半に空港をたち、17時過ぎには我孫子に到着したことを比較しても大台ヶ原は本当に遠かった。よく皆さんに同行いただけたものと、その物好きさと4日間の晴天、無事故で終われたことに大いに感謝した。これほどの遠さを三年連続で実施した自分自身に大いにあきれ果てたことは言うまでもない。

概 要

山名	大杉谷～大台ヶ原（日出ヶ岳）		
月日	2020年10月29日(木)～11月1日(日)		
山域	南紀 台高山脈	地形図	1/25000 大台ヶ原
形式	山小屋泊 3泊4日	グレード	3B
目的	秘境大杉谷の渓谷美と紅葉の大台ヶ原を訪ねる		
費用	50000円 (ジパング)	交通機関	JR・新幹線・特急・バス・近鉄・Taxi
一日目	我孫子 5:31→日暮里 6:01/06 東京 6:18/6:27→名古屋 8:18→名古屋城観光→名古屋 12:58→三瀬谷 14ワイドビュー南紀 14:45→宿送迎車 奥伊勢フォレストピア宮川荘（泊）		
二日目	宮川荘 8:30→（タクシー）大台登山口 9:45/55⇒千尋ノ滝 11:55/12:15⇒猪が淵 13:13/30⇒平等嵐 14:04⇒桃ノ木山荘 15:00（泊り） <歩行時間5時間35分>		
三日目	桃ノ木山荘 7:00⇒七ツ釜滝 7:34/44⇒崩壊地⇒光滝⇒堂倉滝 10:00/20⇒栗谷小屋 11:50 昼食（水晶探し）泊 <歩行時間4時間>		
四日目	栗谷小屋 6:00⇒シャクナゲ平 7:30/35⇒日出ヶ岳（1694.9m）8:35/9:00⇒正木嶺⇒尾鷲辻⇒大蛇嵐 9:35/11:20⇒		

	シオカラ谷つり橋⇒ビジターセンター・バス停 12:45/15:21⇒近鉄大和上市 17:11⇒樅原神宮 18:00/07⇒京都 19:18/33（新幹線）⇒品川 22:05/24 ⇒柏・我孫子 23:19 <歩行時間 4 時間 55 分>
ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大杉谷は今年から一人 1000 円の協力金が必要となった。登山口の最初から急な岩稜が続くが鎖の手掛かりがあり、岩を上る際にも大きな助けとなる。桃ノ木山荘までは標高差はないがアップダウンの累積標高差がかなりある。 ・栗谷小屋近くではクマが走り回っているとのこと。同宿者が遭遇したと話していた。シャクナゲ平で新しい熊の糞を見つけた。まだ近くに居そうな感じだった。
参加者	高橋芳 L 佐藤 SL 矢野貞 村越 小林安一氏 男 1 女 5 計 6 名

概念図



<1158>

横尾山・瑞牆山
(1818m) (2230m)

郷田 進

横尾山は、奥秩父山系の西端に位置し、展望一流の山である。瑞牆山は、百名山の一つで岩登りと山頂から眺望が楽しめる人気の山である。麓の小屋を利用して 2 日間、紅葉と温泉、展望を楽しむ山行である。

参加者 4 名（郷田、室崎、森岡、布能）のため、コロナ対策もあり私有車（室崎号）で我孫子から現地に向かう。都心を抜けるのに少し時間を要したが、ほぼ予定通りの時間に須玉 IC に到着、夕食などを調達後、横尾山登山口である信州峠に向かう。信州峠には既に 5 台ほど先行車が止まっていた。絶好の行楽日和・人気のハイキングコースを感じさせる。最初の樹林帯では真っ盛りの紅葉を楽しむ。樹林帯を抜けた先が周りの景色が楽しめるカヤトの原である。展望を楽しみながら昼食休憩後荷物を置き山頂に向かう。室崎 SL はここで荷物番を兼ね昼寝という贅沢な時間を過ごす。山頂までの道は瑞牆山や金峰山、南アルプスなどの山山を眺めることができる。山頂では目の前に雄大な八ヶ岳全景と川上村の町並みとレタス畑が広がる景色を楽しめる。

信州峠から車で今夜の宿「金山山荘」に向かう。途中黒森集落手前で紅葉一色に染まる秩父山系を眺める。

金山山荘では、焼きたてのピザとワインでまずは乾杯、山談議に花を咲かす。ゆっくり入浴後須玉で準備した夕食を美味しく頂く。今夜のメニューは、コロナ禍のためレトルト中心の食事（おでん、カレー、フルーツなど）である。

2 日目 朝食（パンとスープ、サラダ、フルーツ

など) 後 5:30 に出発するも、絶好の行楽日和と紅葉、そして GO TO トラベルの影響もあり瑞牆山荘付近は駐車場待ちの車で既に混雑していた。いよいよ瑞牆山を目指す。最初の目標地の富士見平小屋は、当会の登山基礎講習 (BOM) のテント実習場所である。ここにテントを張り、瑞牆山・金峰山という二つの日本百名山を登る魅力的な研修山行である。少し休憩後ヤナギ坂に向かう。ここが小川山への分岐点だが上級者向けということ、いつか登ってみたいと思っている。ヤナギ坂から一旦沢まで降り渡渉後、岩稜帯の登山が始まる。岩をかき分けの山登りは子供みたいにワクワクする。危険箇所には、梯子やクサリがあり、注意深く登れば家族連れでも楽しめるコースである。稜線に出たところで、目の前に目指す山頂が突然姿を現す。天然のサグラダファミリアである。大勢の「ワー」という大歓声が上がるのも当然の景色である。また途中、桃太郎岩や大ヤスリ岩などの花崗岩の石柱も楽しめる。

山頂では、富士山、南アルプス、八ヶ岳、上信高原、奥秩父山系などまさに 360 度の大パノラマが広がる。大自然そして山のパワーを頂く。山に登れて良かったという感謝の気持ちが自然と湧き出る。メンバーで紅一点の布能さんはモデルばりに様々なポーズを決め写真をとり、早速友達に配信していた。森岡さん、足の不調を乗り越え登頂を果たし得たことに感激しているようだった。ゆっくり休憩後、室崎さんの待つ登山口を目指す。瑞牆山荘から増富の湯までの道は、まるで青森の奥入瀬渓谷を彷彿させる素晴らしい紅葉景色であった。

ラジウム温泉で有名な増富温泉にゆっくり浸かり 2 日間の疲れを癒した後、我孫子に向かう。

秋晴れに恵まれた 2 日間、瑞牆エリアで紅葉や岩登り、山頂での眺望と見所満載の山行だった。楽しい 2 日間をご一緒してくれた参加者それぞれに感謝申し上げます。



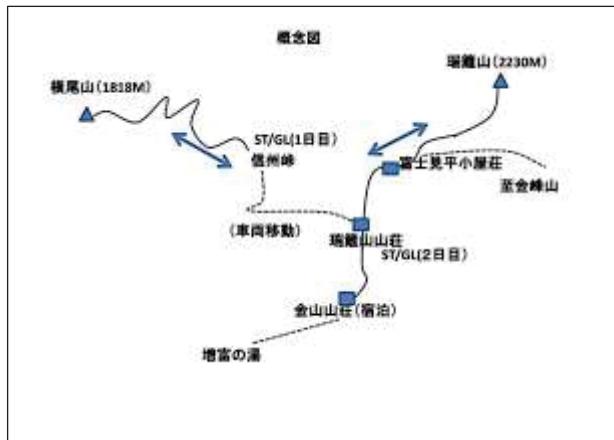
横尾山集合写真

概要

山名	横尾山・瑞牆山		
月日	2020 年 10 月 30 日(金)～31 日(土)		
山域	奥秩父	地形図	1/25000 瑞牆山、金峰 山
形式	山小屋泊 1 泊 2 日	グレード	2 B
目的	岩峰と紅葉・温泉を楽しむ		
費用	14,000 円	交通機関	自家用車
一日目	我孫子駅 5:30→柏 IC6:00→（常磐道・首都高・中央道）→須玉 IC9:30（買い物 30 分）→信州峠（横尾山登山口）10:45/50⇒カヤトの原 11:50⇒横尾山 12:15/30⇒カヤトの原 12:55⇒信州峠 14:00（車）（途中写真撮影 20 分）→金山山荘 15:00 <歩行時間 約 3 時間>		
二日目	山荘発 05:30→瑞牆山荘 05:45/50⇒富士見平小屋 06:40⇒ヤナギ坂⇒瑞牆山 09:15/50⇒ヤナギ坂⇒富士見平小屋 11:30/12:00⇒瑞牆山荘 12:40/55→（途中写真撮影 20 分）増富の湯（入浴・昼食）13:50/14:45→須玉 IC→柏 IC19:30→柏駅→我孫子駅 20:10 <歩行時間 約 5 時間 20 分>		
ルート状況	<横尾山>カヤトの原までは、なだらかな道と後半少し急登の樹林帯の中を進む。カヤトの原から前後左右に展望が広がる稜線を進む。全体的に危険箇所等のない快適なハイキングコースである。登山口(信州峠)に		

	10台程駐車可 <瑞牆山>瑞牆山荘から富士見平小屋までは、かなりの急登、ヤナギ坂まで上がった後沢まで降りる。その後山頂まで岩稜帯が続く。途中各種の石柱がある。山頂付近、鎖、階段等あり確実な3点確保等十分な注意が必要。
参加者	郷田 L 室崎 SL 森岡 布能 男3 女1 計4名

概念図



瑞牆山山頂にて



<1159>

滝子山
(1590m)

吉川 みよ子



滝子山山頂

10月31日、滝子山山行に行ってきました。その日は朝から雲1つない快晴。否が応でも気分が上がる良いお天気でした。

中央線笹子駅で降りた後、まずは皆さんと一緒にみどりやさんで、名物の笹子餅を買い込み、その後30分ほど歩いて登山口へ。南陵の寂ショウ尾根コースは、急な登りに途中からは岩場もあって少し苦労しましたが、メンバーの方に声をかけていただいたりして楽しく登ることができました。

帰りは広く防火帯になっているなだらかな下りを降り、また沢伝いを歩いたり沢を渡ったりと、行きとは違ったコース。景色が楽しめました。よく晴れて、富士山、周辺の山々、午後の日差しに金色に光る紅葉…、ホントに素晴らしいかったです。

2時を過ぎた頃から日なたと日陰で気温や明るさが全然違ってきて、山の陰に入ると空が狭くなり晴れていますのに夕暮れどきかと思うほど暗くなり驚きました。山の秋は本当に日が短いですね。帰りのコースは初狩駅に出る予定から笹

子駅に戻るコースに変更しましたが、お陰で皆さん、酒造の売店、笹子餅のお店で買い物を楽しめたようでした。

朝、スマホ忘れに気づいて途中で戻ったため、駅には時間ギリギリになってしまい我孫子駅から同行のメンバーの方にはご心配をおかけしました。

リーダーさん、同行メンバーの皆さん、大変お世話になりました。ありがとうございました。

概要

山名	滝子山		
月日	2020年10月31日(土)		
山域	中央線 沿線	地形図 1/25000	笹子・大月
形式	日帰り	グレード	2B
目的	圧倒的な存在感のある山に登る。		
費用	3,000円	交通機関	JR
日程	我孫子駅 5:42→新松戸駅→西国分寺駅→笹子駅 8:36/50⇒桜森林公园 9:10 ⇒ 鉄塔下 ⇒ 浜立山分岐 12:55/13:25⇒滝子山 14:00⇒鎮西ヶ池⇒すみ沢⇒道証地蔵⇒桜森林公园 16:30 ⇒ 笹一酒造 ⇒ 笹子駅 17:30/41→西国分寺駅→新松戸駅→我孫子駅 20:30 <歩行時間：約7時間>		
ルート状況	<登り：南陵・寂ショウ尾根> ・桜森林公园から車道を100mほど進んだ先で分岐する未舗装路が登山道入口。 ・バリエーションルート：岩場あり。踏み跡あるが一部道不明瞭。 ・甲府盆地と南アルプス方面の眺望あり。 <下り：すみ沢・道証地蔵> ・道標あり。すみ沢の美しい渓流や滝が見られるルート。 ・途中、すみ沢沿いの登山道は難路（表記あり）のため迂回コースを下る。		
参加者	藤家L 矢野裕 SL 大山 石塚 深草 田嶋 矢野朝 小島徹 土田 秋山 細谷 吉川 男8 女4 計12名		

概念図



先ずは力餅(笹子で有名な笹子餅屋)



大月富岳 12景(4番の滝子山からの富士山)

<1160>

大菩薩嶺
(2057m)

蟹江 和子

南アルプスと富士山の展望「大菩薩嶺」



混雑する介山荘前にて

大菩薩嶺は、中里介山の小説「大菩薩峠」で人気となった山で、南アルプスの山々と富士山のみごとな展望で、私の大好きな山なので山行をとても楽しみにしていました。天気の関係で、実施が1日延びたことで、当初14人の参加予定者が6人となり、こじんまりの山行になりました。

甲斐大和のバス停では多くの登山者が長い列でバスを待っていたので、乗れるか心配をしましたが、臨時便が出るとの事で一安心しました。さすが、「人気の山だなー」と実感した次第。

上白川峠～福ちゃん荘～雷岩まで、老若男女、子ども連れなど多くの登山者が途切れることなく登っていました。雷岩～頂上～雷岩で昼食を摂ったところ、今まで小春日和のポカポカ陽気が、突然一変し冬支度に変わる寒さとなり、身体が震え上りました。昼食時の美味しい挽きたてのコーヒーとブランディー入りチョコで身体が暖まり、山の上のホットなコーヒータイムを味わうことができました。また、霧

で視界がなかった空に青空が広がるようになり、富士山の姿を垣間見た時は、「富士山だー！」と歓声が上がり、私も感動しました。美味しいコーヒーと富士山の眺め。至福のひと時でした。

昼食後は、介山荘のある大菩薩峠に下りましたが、介山荘では、大勢の登山者が休憩をとっていました。大菩薩峠からの樹林帯の登山道はとても歩きやすかったので、予定通り15時のバスに間に合うことができました。

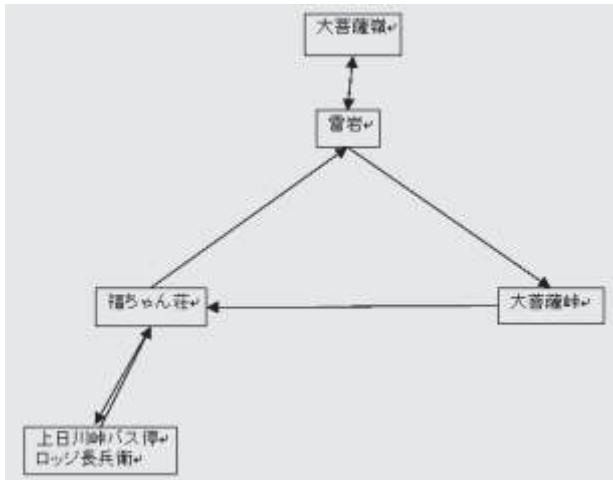
バスの車窓からの、ナナカマドの赤、いちょうの黄色、常緑樹の緑など紅葉のコントラストの美しさに、窓に顔を押し付けて見入ってしまったほどでした。

コロナ禍で自粛を余儀なくされていた私には、最高の山行で、紅葉、富士山、楽しい山仲間、充実したひと時を楽しむことができて、準備をしていただいたリーダー、同行していただいた皆様に感謝です。

概要

山名	大菩薩嶺		
月日	2020年11月8日(日)		
山域	大菩薩	地形図	1/25000 大菩薩峠
形式	日帰り	グレード	1 A
目的	・晩秋の稜線を歩く　・富士山、南アルプスを眺める		
費用	約5,000円	交通機関	J R、バス
日程	我孫子 5:42→新松戸→西国分寺→高尾→甲斐大和駅 8:42/9:30 栄和交通バス→上日川峠登山口 10:20/30⇒福ちゃん荘 11:00⇒雷岩 12:20⇒大菩薩嶺山頂 12:30⇒雷岩 12:40/13:10 昼食休憩⇒大菩薩峠 13:45/50⇒福ちゃん荘 14:30⇒上日川峠登山口(バス停) 14:55/15:00→甲斐大和駅 15:55/16:04→柏駅 19:03 <歩行時間3時間50分>		
ルート状況	多くの人が賑わっており、大変分かりやすい。トイレも各所にある。		
参加者	矢野裕L、蟹江SL、土田、秋山、田嶋、一氏 男2、女4 計6名		

概念図



一瞬の間の景色



唐松尾根を見上げたら

<1161>

北高尾山稜

森岡 正和



八王子城本丸跡

予報通りの穏やかな秋の晴天に恵まれ、(小春日和と言うらしい) 高尾駅北口バス停に現地集合する。

コロナ禍がぶり返しつつある中ではあるが早朝のバス停には大勢の登山客が集まっており、バス会社の係員が手際よく誘導してくれている。総勢18名のパーティということもあり、リーダーが事前にバス会社へ帰りの便も含め連絡してくれていたので臨時便の対応等配慮されていた。7時55分発の八王子城跡行きに乗車し、10分程度で到着。一名の方が高尾駅までの乗り換え問題でバスに乗り遅れたようであるが、リーダーと共にタクシーで追いかけ、八王子城跡バス停に間もなく合流。

いよいよ8時30分に登山口より八王子神社、本丸跡に向かう3班に別れ登山開始。本丸跡までの高度差230mを林の中を葛折りの道を登って行くが、賑やかだった女性陣の声も少くなり、それなりの登り応えがある。関東屈指の山城との触れ込みに納得がいく。途中には大きな

古木があり歴史を感じさせてくれる。

八王子神社到着後、矢野朝さんより、八王子城落城が北条氏滅亡の決め手になった事や、壮絶な戦いがあった事など縁起説明を受け、より一層想いを馳せる。

富士見台まで約1時間半のアップダウンを繰り返すが途中眺望もなく、紅葉も楽しむには至らずであったが、漸く雪を冠した富士山を望む事が出来、身も心も癒され周りからも歓声が聴こえる。先々週の瑞牆山山頂からの富士山もううだが何処から眺めても富士山は美しい。

富士見台でゆっくりと昼食休憩をとり、11時15分再出発。杉沢の頭、高ドッケ、板当峠、狐塚峠、杉ノ丸、黒ドッケ迄2時間15分。途中何回かの小休止を取りながら急なピークのアップダウンを繰り返しながら枯葉の登山道を進む。

山は樹林に囲まれているが、紅葉は所々色付き始めた程度で途中出会う登山客やトレランの人も疎らで、山行目的の通り「静かな山歩き」である。途中植林地では実習で使うチェーンソーの音が響き渡っていたが・・。高尾駅バス停の登山客は別方面に向かったものと思われる。黒ドッケからふれあいの里までの1時間はひたすら下りて行くが、枯葉と砂利が混ざった道なので気を緩めずに進んだ。

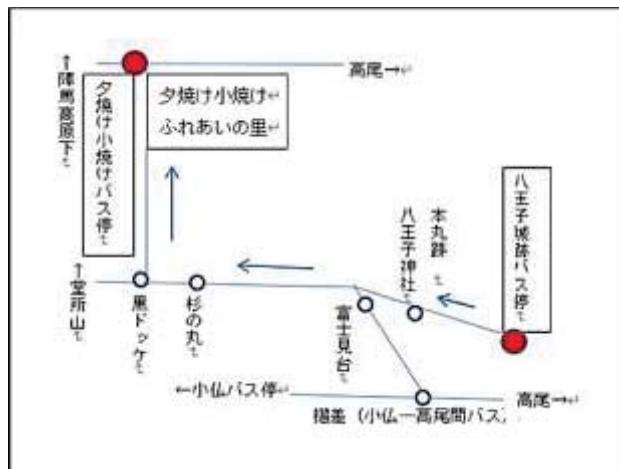
静かな地味な山行であったが、リーダーの事前の案内通りアップダウンが多い樹林の登山道は心地良く、北高尾山稜を充分楽しむ事ができた。後の情報によると大小ピーク21座であったらしい。今回の山行メンバーは18名と多く、バスの手配や全体の行動統制等リーダーのご苦労を推察する。改めて中村育子さんに感謝申し上げます。

楽しい山行となりました。有難うございます。

概要

山名	北高尾山稜		
月日	2020年11月14日(土)		
山域	中央線 沿線	地形図	1/25000 八王子・与瀬
形式	日帰り	グレード	1A
目的	静かな山歩き		
費用	4,000円	交通機関	JR、西東京 バス
日程	高尾駅北口 7:55→八王子城跡 8:05⇒ 登山口 8:30⇒八王子神社・本丸城跡 9:20/51⇒富士見台 10:45 (昼食休憩) /11:15⇒杉沢の頭 11:20⇒高ドッケ 11:40 ⇒板当山 12:10⇒板当峠 12:20⇒狐塚峠 12:30⇒杉ノ丸 13:10 /13:20⇒黒ドッケ 13:30/40⇒ふれあいの里 14:35/夕焼け小焼けバス停 15:30⇒高尾駅 16:15 (解散) <歩行時間3時間50分>		
ルート状況	・標識はしっかりと設置されている。 ・アップダウンが多く、ゴロゴロと石の転がる登山道は歩きにくい。 ・痩せ尾根や急坂箇所があり、濡れている時は要注意。		
参加者	中村育L 矢野裕SL 小島徹SL 桐生 蟹江 藤家 川村 大平 石塚 矢野朝 布能 千葉 北田 外崎 本田 村越 森岡 渡邊香 男6 女12 計18名		

概念図



<1162>県連交流山行

筑 波 山
(877m)

深草 茂美

県連交流山行 筑波山

県連交流山行は、県連会員の交流の場として2018年から行われていて、3回目の開催である。各参加団体が行う会山行または個人山行の一つを、県連が交流山行として取り上げ、参加者を募る形式で行なわれる。今回は“かがり火山の会”が開催する交流山行である。県連加盟の8団体から総勢29名が参加した。当会は初めての参加である。参加者の中には、房総ロングハイクやウィーデー山行等の県連ハイキング委員会活動の中で顔見知りの方々が多く参加していた。又同行の小島さんも、県連の海外山行に参加経験があり顔見知りの方々がおれた様で和気あいあいとした雰囲気の中で山行をおこなった。

当会の参加者は、白崎さんの自家用車で集合場所のつくし湖“そば処つくし停”駐車に向かった。主催者の“かがりび山の会”伊東さん、川口さんより挨拶とコース説明を受けた後、薬王院に向け川口さんを先頭にして駐車場を出発した。西暦720年建立の古刹薬王院を参拝し、境内の日本庭園の脇を通り寺の裏参道を上り林道に出る。青天下に紅葉の筑波連峰の眺望が美しく目に映る。男の川、女の川の登山口を通過して筑波高原キャンプ場へ到着した。閉鎖中の為、誰もいないキャンプ場で休憩を取り集合写真撮影をした。その後少し傾斜の強い山道を登って、筑波山神社から御幸ヶ原を経由する道と、つつじが丘方面からの道が合流する女体山山頂手前の地点に到着した。ハイカーでごった返している合流点から、女体山山頂に登り、山頂からの眺望を一瞬だけ楽しみ後から来る人達

に早々に頂上を明け渡し合流点に戻った。その後女体山から御幸が原に出て、人で一杯の御幸が原で昼食後男体山山頂に向った。途中、樹齢800年の紫峰杉や、親鸞の碑、立身石、横瀬夜雨碑等の筑波山の史跡を、川口さんに案内され、一つ一つの謂れを説明して頂いた。いつもの筑波山登山では何気なく通過する場所を、そうだったのかと思い拝聴した。男体山の山頂から樹林の中の急な山道を下山すると、坊主山に到着した。全員が一緒に写るには余りにも小さい、労山のマークに似ているというピークの岩の前で、男女別々に集合写真を撮った。再び樹林の中を下山すると突然目の前が開け紅葉の筑波山の稜線、そして笠間アルプスの愛宕山、難台山、吾国山等が連なるやまなみが一望できる場所に出た。ここで暫くこの眺望を楽しむ。その後薬王院へ通じる林道を歩き筑波山のもう一つ小さなピークを川口さんに案内された後、駐車場へ戻った。

筑波山は自宅から一番近い百名山でもあり気軽に行ける山なのでトレーニングを兼ねて時々登る山である。今回裏筑波と呼ばれるコースを初めて歩いた。このコースはケーブルカーが発着する喧噪な御幸が原側と異なり、ハイカーが少ない静かなコースであった。また表側の関東平野を眺望する景色と異なり、笠間アルプス等のやまなみが見える景色は表側と一味違う筑波山の景色が楽しめた。晴天下、紅葉の裏筑波山を歩く楽しい山行であった。

概 要

山名	筑 波 山		
月日	2020年11月15日(日)		
山域	筑 波 山 系	地形図 1/25000 筑波	
形式	日帰り	グレード	1A
目的	千葉県連他会との交流山行・裏筑波の自然を楽しむ		
費用	1,500円	交通機関	自家用車

日程	柏 6:00→柏 I C→土浦北 I C→つくし湖駐車場 7:30/45⇒薬王院（本殿・三重の塔）参拝 8:10/15⇒林道舗装路入口⇒筑波高原キャンプ場⇒女体山御本殿参拝 11:30⇒御幸ヶ原（昼食）11:45/12:15⇒紫峰杉⇒身立て岩⇒男体山御本殿参拝 13:05⇒松岩⇒坊主山 13:40⇒林道舗装路⇒山道⇒薬王院（仁王門）⇒つくし湖駐車場 15:40/16:00→柏駅西口 18:00
ルート状況	林道から外れて女体山へ上るコース、男体山から坊主山を経て林道へ降りるコースは共に、標識が無、地図にも記載されていない細い道を通過するため、慣れてないと迷う可能性が有る。 他のルートは通常の筑波山のハイキングコースであるので整備されている。
参加者	深草 L 白崎 SL 小島洋 男2 女1 計3名 県連交流山行（他会参加者） かがりび山の会5名、千葉こまくさハイキングクラブ4名、東葛山の会7名、千葉山の会3名、松戸山の会2名

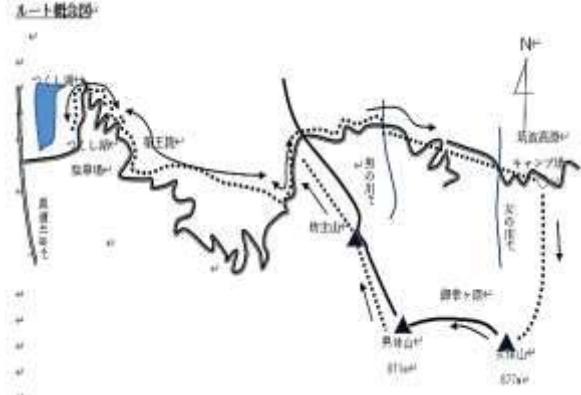


坊主山下山中にブナの大木の前を通過する



参加者全員の集合写真(筑波高原キャンプ場)

概念図



<11 6 3>

手賀沼クリーンハイク

高橋 英雄

11月22日（日）天気が気になったが、良さそうなので、親水公園に8時30分に集合した。リーダーの挨拶後、参加者でラジオ体操を行い、準備を整え、出発した。

若松の交差点を過ぎた辺りからごみを拾い始める。道路脇にはタバコの吸い殻、空缶などがあつたが、昨年より少ないような気がする。

子の神神社では階段を登り境内の3等三角点の所で記念写真を撮った。境内の銀杏木が見事に黄色に色づいていた。

例年と同じコースを通り、志賀直哉邸跡地に寄る。さらに道なりに行き、嘉納治五郎別荘跡（天神山緑地）に寄った。柔道の父として、昨年はなかつた嘉納治五郎の立派な銅像が出来ていた。天神坂下りは、大正時代我孫子に集まつた文人達が愛した坂だそうです。

やがて、アビスタに到着。トイレタイム取り、昨年と同じ道を進んでいくと、やがて旧武者小路実篤邸に到着した。見学する為中に入ろうとしたら近所人出てきて、家宅侵入罪で訴えるような事を言われ、平謝りして、すごすご退散した。

手賀沼側の公園で柏組と合流した。沼の柏側道を歩き進んだが、昨年より煙草の吸い殻、瓶、缶等が余りない。天気が良いので自転車、ランナー達が大勢行き来していた。途中で巡回パトロールの方や、一般の人達にご苦労さんと声をかけて貰いました。ありがたい限りです。

やがて沼南道の駅で昼食を食べて、集合写真を撮りました。ここで2人が午前の部で帰りました。残った者でフィッティングセンターまで一目散に歩きました。

ごみはあまり落ちていませんでした。風が少

しある中、フィッティングセンターに到着し休憩しました。フィッティングセンターの周りには缶、瓶等が少しあり、拾いながら滝の下に到着。ここで拾ったごみを選別して計量しました。ペットボトルは980g、瓶が1,400g、缶が1,500g、燃えるゴミは6,230gでした。

例年だと、希望者だけで反省会を行うのですが、今年はコロナの関係で蜜を避けるため中止となり、即解散となった。ちょっと寂しい。

小生の感じでは、ごみは毎年少なくなっている様な気がする。



手賀沼大橋手前の土手にて全員集合

概要

山名	手賀沼クリーンハイク		
月日	2020年11月22日（日）		
山域	我孫子・柏	地形図 取手	1/25000
形式	日帰り	グレード	1A
目的	地元手賀沼に親しみ、自然環境に思いを寄せる。		
費用	0円	交通機関	集合場所から解散まで徒歩
日程	水の館 8:00⇒子の神社⇒志賀直哉邸跡⇒杉本楚人冠邸園⇒アビスタ⇒旧武者小路実篤邸跡⇒北柏ふるさと公園⇒北千葉導水第2機場（ビジターセンター）⇒沼南道の駅（昼食）⇒フィッティングセンター⇒滝ノ下公園 14:00（回収仕分け計量） <歩行行動時間 約6時間>		
参加者	小島洋 L 外崎 SL 高橋英 新谷石塚 室崎 小林安 大平 北田藤家 蟹江 松下 千葉 吉川 男6 女8 計14名		

<1164>

小堰川（四郎治沢）

千葉 有子



川廻し無事通過

始まり

「房総の沢登りのシーズンは冬だそうです。
是非計画してください」

こんな無責任な私の提案に、白崎さんが誠実に応えてくれた。

「水は冷たくない？」「ソールはラバーじゃダメですかね？」と参加希望の人たちから質問される。しまった。提案をしておきながら、房総の沢に行ったのは一度きり。それも9年も前のこと。「ああ、もっと考えて提案するんだった」といつもの後悔。しかし、当日は来てしまった。私の後悔をあざ笑うような高く青い空……。

しかも、足もとがなんとも心もとない。数年前、沢遡行後にぱっかりとソールがはがれた沢シューズ。一度自分で接着して使用したところ、またちょっとはがれてきたので、もう一度接着。「こんなのでもつかな？」。不安なのでザックに結束バンド、どうしてもだめな場合の代わりの沢サンダルと地下足袋をしのばせる。

メンバーの足ごしらえはそれぞれ。外崎さんは、倉庫にしまい込んでいた往年の沢足袋を

引っ張り出してきたという。細谷さんは新品のモンベルラバーソール。四郎治沢の滑床はラバーでは滑るというのでフェルト底を装着。こんな便利なアイテムが登場している。布能さんは長靴。聞けばネットで注文した沢シューズが沢登り当日の今日届くことになり、急遽ワークマンで購入したそうだ。

さあ、出発

8:40 亀山湖畔公園（滝原地区）で沢装備をすませ出発。この公園には立派なトイレがある。公園駐車場から小櫃川畔のコンクリート岸に降り、ちょっと上流に向かうと前方に滝原橋、対岸に四郎治沢の出合が見えてくる。「水がすごく冷たいかも……」と誰もが躊躇するが、先頭のリーダーが「えいやっ」と勇気を出して小櫃川に一步を踏み出す。小櫃川は広いが、川床はナメで足首程度の水深。

9:00 小櫃川を渡り四郎治沢に入る。川床には一面、紅葉の落葉が絨毯のように敷き詰められている。ここからは先頭を歩く。久しぶりの沢で緊張する。もみじ絨毯は美しいが、川床が見えないので注意深く歩かなければならない。

しばらく行ったところで、「ちょっと待って」と後ろから声がかかる。

布能さんの長靴が滑り、何度か転んだらしい。メンバーからすかさず滑りにくくするためのビニルバンドや麻縄が提供され、長靴に巻く。機転の利くメンバー、素晴らしいチーム力！！

10:15 林道の橋の下をくぐる。ここまで1時間あまり。予想していた以上に時間がかかっている。

10:35 今日最大の見どころ、川廻しを通過。川廻しとは、川だった部分を水田化させるため、蛇行した河川の流路を、トンネルや切り通しを通るように変更・短絡化したもの。千葉県上総地方南部で見られ、手掘りの工事で行われている。

川廻しの下流側は淀みになっていて、膝上まで水につかりながら近づく。川廻し内部も深い甌穴が不気味に口を開けている。足場らしきものも削ってあるが、とにかく滑りやすいので、

慎重に、慎重に……。

房総の沢は地層が見えることでも知られている。岸の断面に地層がはっきりわかる場所がたくさん出てくる。断面から川床に地層がつながっていたりして興味深い。

ネットで読んだ、どの遡行記録にも「延々と続くナメ床」と綴ってあった。がしかし、繰り返し繰り返し、深い淀みが出てきて何度も高巻きを強いられる。泳ぐほどの淀みではないから、夏は腰までつかりながら通過しているのかもしれない。しかも、この山の荒れようは……。斜面から流れ出た土砂や倒木が何度も行く手を阻む。きっと1年前、千葉県東部を襲った台風のせいだろう。

一度高巻いた斜面で、イノシシが掘り返した跡を見つけた。そこに残された蹄跡の大きいこと。こんなイノシシに直接出くわしたら……と思うと背筋が寒くなつた。

四郎治沢は何度か蛇行を繰り返していて、その都度メンバーで地図を出してどの曲がり角だろうと話し合う。思った以上に時間がかかっている。

沢装備解除

12:00 また前方に淀みが現れた。すかさず全員が高巻くルートを左岸の斜面を探す。「ほら、ここから登れそう」「こっちに登った跡がある」……。

時間を考え、「このまま尾根まで詰めあげましよう」とリーダーから指示が飛ぶ。

後で確認したところ、予定していた詰めあげ地点まで、まだ3分の1を残すポイントだった。外崎さんが先頭になり、左岸の藪の斜面を詰めていく。途中数本の樹の幹にナンバリングしたテープが貼られていた。杣人の道なのだ。

12:30 積線に出て、大きな岩や高い木の散在する尾根を歩く。「これ道だよね?」「いや、違うか」と惑う不安定な状況だが、しばらく行くと、それまでのルートが嘘だったかのような開けた広場に出た。前に明瞭な林道が続いている。林道の終了地点だ。この林道は、朝下をくぐった

橋につながっている。広場で沢装備を解除して昼食休憩。

国土地理院の地図で確認すると、林道とは別にここからは点線の道が尾根伝いに小櫃川まで続いている。すっかり今日の難解部分は終わつた気持ちで、みんなのんびりする。

しかし、昼食を終え、歩き始めてすぐにそれは甘い判断だったと思い知らされる。点線の道を道だと思ってはいけない。尾根を忠実に進んでいこうとするが、いくどもルートを外れそうになり、左の土沢に下る尾根に入ってしまいそうになる。その都度貞子さんと白崎さんがスマホで確認してルート修正。GPSがなかったらとんでもないことになっていたかもしれない。

「これ道だよね?」「いや、違うか」の逡巡を繰り返しながら倒木を越え、急な斜面を下り……。

14:30 やっと前方に今朝歩いた四郎治沢の入り口が見えてきた。ホッとするのも束の間、道は沢へと下っているが、その先には道がない! 四郎治沢の対岸は尾根の突端となっているが、道らしきものは確認できない。沢シューズでそのまま下ってきた細谷さんが尾根を回り込んで偵察するが、先にルートはない。このかなり急な斜面の尾根を越えなければならないようだ。ヘタレの私は、(沢靴に履き替えて、沢づたいに行つた方がいいんじゃない?)と小声で呟くが、



難所 川廻し

勇猛果敢なメンバーは急な滑りやすい斜面に次々と取りついていく。

置きざりにされては困る。登りやすそうな部分を捜し、木の根っこ、木をたよりにとりつく。すっかりへっぴり腰になった私は、安代さんに助けてもらい、貞子さんに「ほら、そこまで来たら左に下る道があるでしょう?」と教えてもらひながらなんとか尾根を乗り越え、橋の袂に出ることができた。最後が今日の行程の中で一番危険を感じた部分だった。

橋までの道の左側斜面を見下ろすと、四郎治沢へと下りる踏み跡がいくつか確認できた。ここから入渓したり、最後にこの踏み跡を伝って沢を脱出するパーティーがいるのだろう。

15:15 亀山湖畔公園へと戻る。無事怪我もなく今日の行程を終えたことを、全員で拳を突き合わせ祝う(コロナのせいで握手もままならない)。沢遡行の途中、心配していたとおり私の沢シューズははがれてきて幾度か立ち止まり、結束バンドで補強した。メンバーに迷惑をかけてしまつたことを反省し、暖房の効いた車内へと乗り込んだ。

概要

山名	小堰川(四郎治沢)		
月日	2020年12月19日(土)		
山域	房総半島	地形図 坂畑	1/25000
形式	日帰り	グレード	2B
目的	読図しながら房総のナメ沢を歩く		
費用	約4400円	交通機関	マイカー・レンタカー
日程	我孫子 5:40→市原 SA7:15(朝食) 7:50→亀山湖畔公園(滝原地区) 08:40/9:00(入渓)⇒休憩 10:15/20⇒橋 10:25⇒川廻し 10:35⇒チェックポイント 11:30⇒休憩 11:45/50⇒ツメ 12:00⇒林道 12:30⇒昼食 12:30/13:05 ⇒尾根道合流 13:30⇒休憩 14:05/10⇒橋 15:00 ⇒亀山湖畔公園(滝原地区) 15:15/40→我孫子(柏) 19:30 <歩行時間 5時間>		

ルート状況	<ul style="list-style-type: none"> ナメ床のヌメリに落ち葉が加わり、とても滑りやすい状態であった。フェルト底だとそこそこ安定して歩けたが、それでも滑ることも。ラバーソールの沢靴だと、フェルト底への変換ツール(モンベルのサワーサンダルフェルト等)が必須であった。 山行前の天候が良かったのであり、水量は通常程度で、水温も冷たさに悩まされるレベルではなかった(数分浸かっていても問題ないレベル)。 甌穴があちこちに存在し、流れの狭まった所ではとても深く、底が見えない甌穴もあった。甌穴の淵をへつて通過するしかない場所もあった。 川廻しの下流側に大きく抉れた甌穴が二つあり、膝上まで水に浸かりながらの遡行した。 昨年の台風の影響だろうか、流木が折り重り沢を塞いでいる所が数か所あり、高巻きを余儀なくされた。 当初予定した尾根とは異なる尾根を稜線に向けて詰め上がったが、一部に踏み跡らしき痕跡が確認されたが、大半は藪漕ぎを強いられた。 地理院の地図の「道」(尾根道)は、登山道よりも作業道。地図に無い舗装道路が尾根を横断していた。尾根道を降りて再び四郎治沢に降りた所で、「道」が不明瞭になった。沢の対岸の斜度50度ほどの崖を詰め上がって舗装道路へと抜けた。
参加者	白崎L 矢野貞SL 千葉SL 外崎 小林安 布能 細谷 男2 女5 計7名

概念図



心に残ってる山・個人山行を 寄稿して頂きました。

- 1 心に残っている山
岩と雪の殿堂 「剣岳ハツ峰」 登攀
村松 敏彦
- 2 心に残っている山
思い出の山「八ヶ岳」
石垣 吉朗
- 3 心に残っている山
日本百名山制覇達成を目指し
15日間の「東北・北海道の山旅」の
思い出
矢澤 節雄
- 4 個人山行
奥利根 檜俣川本流遡行
小林 隆
- 5 個人山行
秋田森吉山
桃洞沢遡行～赤水沢下降
白崎 哲二

心に残っている山
岩と雪の殿堂 「剣岳ハツ峰」 登攀

村松敏彦

プロローグ

自然をフィールドにしている、登山というスポーツには多くの形態があります。ピークハント、縦走、沢登り、岩登り、これらをミックスした方式等好みに応じた楽しみ方があります。特に経験を積んでくると、より高く、より困難なルートを選ぶため、岩登りと雪山を選びます。私も一時期、剣岳の岩峰に魅せられ、夏休みに10年間通い、本峰（剣岳の名称）及びその周囲の魅力を堪能しました。その中の3回トライして2回失敗して、3回目にやっと完登したハツ峰登攀の記録です。



長次郎谷にて

ハツ峰

前夜、上野発寝台急行「能登」に揺られ富山経由で昼過ぎに着いた室堂平は観光客で賑わっているターミナル前の延命水を飲んで、賑わいを、よそに逃げる様に剣沢に向かって出発する。約3時間ほどで別山乗越に着く、ここからの剣岳周辺の展望は素晴らしい。左から別山尾根、源次郎尾根を従えて剣岳の本峰がどっしりと我々を迎えてくれる。右には真っ白な雪を抱いた長次郎谷の先には、ハツ峰が鋸の歯の様に鋭角的な八つの峰々を天空に突き出していた。ハツ峰とは、長次郎谷の左岸と三の窓雪渓に挟まれた1峰から8峰

までの連続して続く岩峰です。眼下には日本3大雪渓の剣沢がまだ豊富な雪を抱いていた。今晚お世話になる剣沢小屋に向けて降りる。

翌朝4時、山友のIさんと岩登り装備（ロープ、カラビナ、ハーネス、エイト管、その他と真夏でもこのルートに挑戦するにはアイゼン、ピッケルが必要です。）と弁当（早朝のため）持参して、剣沢小屋の友邦さんに見送られて剣沢に向かって下降する。剣沢雪渓の入り口でアイゼンを付け、先般、登った、源次郎尾根取り付きを見送り、長次郎谷の出合で朝食を取る。

ハツ峰の取り付けは、長次郎谷を約1時間半ほど登り、5峰と6峰のコルを目指して右側から取り付く。

ハツ峰は1峰から5峰を上半〈かみはん〉、6峰からハツ峰の頭迄下半（しもはん）と云われている。

中間が5、6のコルです。

天気は良く、ダイナミックな快適な登攀を繰り替えして1峰迄降り、再度ハツ峰の頭迄に挑戦する。

厳しい岩登り、懸垂下降など繰り返し、出発点のコルで昼の食事をとる。下半も岩稜中心の厳しい登攀が続く。ハツ峰の頭に着いた時には頭が真っ白になって充実感で満ちあふれていた。

ハツ峰の頭からは本峰、三ノ窓ノ頭、チンネ周辺のダイナミックな岩の峰々と長次郎谷と三の窓雪渓の白さのコントラストが素晴らしい。

ハツ峰の頭を超えて池の谷（タンと云う）乗越までのルートも気が抜けない。緊張の連続です。

帰りは大きな岩のある熊岩脇を通って長次郎谷を下降する。当然、剣沢小屋についてからは3回目の挑戦で完登した祝いのビールで沢山乾杯した。



IV 峯の頭からのハツ峰の頭、山の窓の頭

概念図



心に残っている山 思い出の山 「八ヶ岳」

石垣 吉朗

岳人あびこに入会したのがちょうど 20 年前の西



暦 2000 年。それから約 15 年間、一会员から始まり会長職まで努めさせていただいた誠にありがとうございました。

その間多くの山仲間との山行が叶い、また私の登山人生にピリオードを打つことが出来たことは幸いでした。私の登山人生は、八ヶ岳山行に始まり、本会の「八ヶ岳山行」で終わったと思っています。

高校生時代、友人と日光戦場ヶ原を歩き光徳牧場で、雨中の布引きテントキャンプが登山の発端でした。その後奥武蔵、奥多摩、丹沢と日帰りコースの山登りを友人又は単独で行っているうちに、遠くに見える八ヶ岳連峰や南アルプスのどちらかをとても登りたくなり、高校 3 年生の夏、単独で 3000M 級の赤岳に挑むことになりました。コースは夜行電車で茅野→美濃戸口→行者小屋→赤岳→県界尾根→野辺山駅まで夜行日帰りでした。当日、天気は曇り眺めもないので頂上を踏むと一気に下山、途中登山道が雑草で不明瞭、牧

場の中に消えているなど、やっと駅にたどり着いたことを思いだします。(一歩間違えれば遭難です。若気の強行軍でした)

それから、かれこれ 40 年大きなかがもなく 2010 年定例山行で八ヶ岳「赤岳」山行があり参加させ



ていただきました。美濃戸口～赤岳鉱泉～硫黄岳石室（泊）と計画も体調も万全。順調に登っていました。夜が明けて赤岳を目指すころには前日の雲もなくなり、絶好の登山日和となり横岳を通過しながら赤岳を目指していました。横岳は岩場もありバランスが崩れると危険なコースで慎重に足場を探しながら歩いていたのですが、何か思うように足が動かない違和感があり、これまで経験したことのない微妙な恐怖心が常に歩いているあいだ中つき纏い、頂上を経て下山するまで続きました。

その後、日常生活においても歩行時・立位時は特にバランスが悪くなり、原因が難病と判明し、山登りを断念しなくてはならなくなってしまいました。

八ヶ岳は超初心者の私が、本格的に登山者の一員として第一歩を踏み出した記念の山です。また幕を閉じるにふさわしい山だと思っています。

アイゼンを無くした雪の横岳・地蔵尾根、コマクサ咲き乱れる硫黄岳、蓼科山からの八ヶ岳連峰縦走、本澤温泉の露天風呂、オーレン小屋の忘年会、炎天下の編笠山から小淵沢駅、雨（2 月）に震えた天狗岳、北八ツの山スキーなど四

季折々何度も尋ねましたが、いつもたくさん楽しませていただきました。

私の山旅で一番印象に残る山と尋ねられると「八ヶ岳」と返します。是非、会員の皆さんも一度は行ったことはあるとは思いますが、別コース、違う時期にお出かけください。新たな発見が待っています。



2010 年赤岳から阿弥陀岳



山心に残っている山

日本百名山制覇達成を目指し 15 日間の「東北・北海道の山旅」の思い出

矢澤節雄

満 66 歳の直前に山登りを再開した。初めは日本百名山を目指していなかったが、踏破した百名山の数が 40 座を超えて来ると、何時しか百名山を目指す気になった。日本百名山制覇も 85 座を超えて、遠方の北海道 7 座と東北 3 座が残った。これらの山を 1 座か 2 座ずつ登っていたのでは遠方であり、日数も費用も掛かる。そこで車で一気に制覇する計画を立てた。



山旅の第一歩 早池峰山 登山口

約二週間の長期間の山旅なので、6 月中旬から 7 月下旬で連続して天候の良い日は続くのは、何時ごろか。過去 10 年間の天気を調べた。どの日も平均すると晴れ 1/3、曇り 1/3、雨 1/3 で、北海道は、梅雨はないが、特別に天気の良い日が連続して続く期間も無いことが分った。登山ルートの情報の他に、登山口から次の登山口までの車のルート・距離・時間、また食料調達のコンビニ・スーパーの場所と営業時間や、コインランドリー・道の駅、駐車場などの情報収集で、計画には二ヶ月掛かり、山行計画の資料は 5 センチの厚さになった。移動も含めて 15 日間で日本百名山 10 座の制覇する計画とした。

一緒に山旅する 5 歳年下の会社元同僚 GN 君は、

計画書を見せると、「こんな密なスケジュールは無理です」。私は、「この計画で出来るところまでチャレンジして、途中で計画変更して山行を止めても良いではないか。やれるところまでやろう」と説得して行くことにした。

7人乗りライトワゴン車の山行スタイルは、何時も同じである。プラスチック製衣装ケース2個に登山道具や食料などを入れ、登山口や道の駅の駐車場で、このケースはテーブルの代用にし、小さな折りたたみ椅子に掛けて、夕食を摂り、夜は、雨避け用ブルーシートを被せて紐で縛り、外に置く。後部座席をフラットにし、二人または三人が頭と足を互い違いにして寝る。夜明けの一時間前に起床して出発準備、調理無しの朝食とり、登山を開始する。

6/26 早朝我孫子出発、東北道を北上し、早池峰シャトルバスの発着場「岳」駐車場に泊まる。

6/27 一番のバスで出発。小田越～早池峰山頂～河原坊へ。早池峰山頂上での眺望は無かったが、山はハヤチネウスユキソウやコマクサなど花の季節であった。次の八甲田山の登山口に早く尽きたいので、走って下りたが、数分違いでバスに間に合わず1時間程待つ。バス停の管理人から初めて見る男性用携帯トイレの効能を聞かされたが、使う人はいるのだろうかと思う。

明るいうちに酸ヶ湯温泉に着く。十和田には何遍か来ているが、独特の雰囲気のある酸ヶ湯温泉の入浴は初めてである。酸ヶ湯キャンプ場の管理人が親切にも、管理棟の会議室に泊まらせてくれた。

6/28 山菜摂りの地元女子中学生が火山性ガスに巻かれて死亡した事故(6/20)があり、パトカーが登山道を閉鎖していた。急遽、八甲田山と岩木山の登山を中止し、下北半島に向かう。恐山の異世界に驚き、仏ヶ浦を遊覧した。大間から函館に渡る。夕暮れの大沼から望む渡島駒ヶ岳の景色

は美しかった。大沼公園には青春時代の思い出がある。昭和35年(21歳)の夏に友達3人で約1か月の北海道・東北旅行をした。列車で函館を出発し、大沼公園に着く。早朝で涼しく、沼越しの駒ヶ岳の綺麗な景観に感激した。水なし、食料なしで駒ヶ岳を登ったが、夏の暑さに参り、堪らずボウフラの湧いている水溜りの水を皆で飲んだ。そんな懐かしい思い出がある。

羊蹄山の俱知安コース登山口の半月湖野営場に泊まる。この野営場でスズメバチに刺された事件が起きた直後で、少々心配した。

2/29 羊蹄山のお鉢めぐりの途中、雲の切れ目から、島が浮ぶ洞爺湖が望まれ満足した。山頂から携帯電話で利尻北麓野営場バンガローの予約が運よく取れた。ニセコを通過し、日本海側に出る。留萌の道の駅「おびら鯨番屋」で車中泊をする。

6/30 宗谷岬平和公園を散策し旧海軍望楼などを見学する。車を稚内駐車場に置き、鴛泊港に渡る。利尻北麓野営場への緩やかな舗装道路を、午後の日差しの強い中、一時間の徒歩は厳しく、タクシーを使えばよかつたなと思う。フェリーと一緒に降りた100キロマラソンをするという女性は遙か先をどんどんと行く。

7/1 夜明け前、100キロマラソンの女性の鼾が聞えるテントの脇を通り利尻山頂へ向う。途中で100キロマラソンの女性にさっと抜かれた。山頂直下の急なズルズルと滑るガレ場を登る。頂上はガスでロウソク岩が微かに見えるだけであった。フェリーからは往きも帰りも楽しみしていた利尻富士は望めなかつたのが残念に思う。

7/2 道の駅「さるふつ公園」のコインランドリーで洗濯する。日本で三番目の大きい、汽水湖としては日本最大のサロマ湖を、砂洲の突端の三里浜キャンプ場竜宮台から眺める。オホーツク海岸に沿って砂洲湖と原生花園が点在するのを楽しみ

ながらのドライブである。小清水原生花園の観光地化を残念に思う。50年前は、我々3人だけで他に観光客は誰もいなかつたし、ばんえい競争もこぢんまりと村人達だけで楽しんでいた記憶がある。知床五湖の整備された遊歩道に驚かされる。2006年來たときの自然な遊歩道の方が好きである。知床連山が眺められた。ホテル「地の涯」の小さく浅い落ち葉が浮ぶ、しかもぬるい無料露天風呂に寝そべって入る。木下小屋の駐車場はトイレの臭いが強く、ホテル前の駐車場に泊まる。

7/3 今回の山行で初めてアイゼンを履き、大沢雪渓を登り羅臼岳山頂を目指す。昨夜、駐車場で山やGPSなどの情報交換した石川県在中の登山者がアイゼンを履かずに余裕で下りてきた。山頂は風雨が強く、一分も居られず、登頂記念写真を一枚撮るだけであった。

斜里町のコインランドリーで洗濯しながらゆっくりと夕食をとる。斜里の登山口の清岳荘はカーナビに載っていない。斜里岳を目指すと道端に登山口の案内板あり、そこを進むとネットヘンスにあった。扉を開けて中に入り更に進んだが山荘は見つからず、熊がいる雰囲気なので、怖くなり引き返す。(三井コース方面であった。) 調査ミスである。偶然、畑作業をしている人に出遭い、尋ねたら、道順が難しいと親切にも作業を止め、山荘への一本道出会いまで30分も掛けて先導してくれた。日が暮れていたので大変助かった。山荘は立派ではあったが、駐車場での車中泊とした。

7/4 斜里岳の清里コースを行く。幾つものなめ滝が楽しめる沢登りの旧道コースを行く。斜里岳山頂もガスで眺望がなく残念。帰りは新道の尾根コースを下る。雨が降り出し、下二俣出会いでは沢の水嵩がかなり増していた。沢の道は雨が降ると怖いと改めて思う。雌阿寒温泉登山口駐車場に泊まる。

7/5 久ぶりの晴れである。清々しさを感じ、鳥の

さえずりを聴きながら、山頂を目指す。大きなお鉢を巡って山頂に至る。山頂から綺麗な阿寒富士が望まれ、その美しさに惹かれて阿寒富士を登ることにした。阿寒富士からの雌阿寒岳は雄大であるが女性的ではない。眼下に神秘的なオンネトー湖が森の中にみえた。オンネトー登山口に降り、湖畔沿いを歩く。雌阿寒温泉登山口への戻り道は、綺麗な林の中の緩やかな尾根越えで、下山後にはひと踏ん張りの登りであった。トムラウシ短縮コース登山口に駐車する。暗くなり、マイクロバスの運転士がツアー客の下山が遅れていると、首を長くして待っていた。着いたツアー客はかなり疲れていた。

7/6 トムラウシ公園でツアーの登山者に「遅いですね」と抜かれる。トムラウシ山頂は残念ながら霧の中で旭岳は見えない。頂上で休んでいるツアーディレクターにガイドが雷雨があるかもしれないと説明していたが降雨はなかった。帰路が長く感じられ、特にカムイ天井からの泥濘の道は平坦でも嫌になる。幸いにも予約無しで東大雪荘に泊まれた。今回の山旅で唯一の旅館泊である。

7/7 今日は休養日と決めて、山荘のコインランドリーで洗濯して9時半ごろに山荘を出る。富良野・美瑛をノンビリと散策する。一面のラベンダー畑が美しい。途中に寄った望岳台から十勝岳は雲に阻まれて見えない。十勝温泉登山口に駐車する。下山してきた一人の外国人が、ライトバンの後部座席に作られたベッドの下から、1mぐらいのたらい桶を出して身体を洗い出したのを興味深く暫し眺めていた。

7/8 朝起きたら風が強い。急遽、富良野岳～十勝岳のコースを止めて、望岳台から十勝岳をピストンすることにした。またも山頂はガスで眺望無し。下山後「青い池」に立ち寄る。池の中の枯れ立ち木の林立が、池の景観を素晴らしいしている。しかしやがて立ち木は無くなるであろう。昭和38年、

焼岳と大正池の景観に感激したが、今はその面影がない大正池と同じ運命をたどるであろう。

樽前山を登る。樽前山は、前述の昭和35年の夏休み旅行で、支笏湖の対岸から樽前山を眺め、登りたいと思った山で、50年後に願いがかなった。

苫小牧からフェリーで八戸に渡り八甲田へ行くつもりであったが、満席で乗れない。急遽、函館から青森に渡ることにした。函館の街中でラーメンを食べた。ビールが呑みたい。相棒にガマンしてもらい一人で呑む。青森の下船後自分が運転する約束である。相棒が運転してフェリー乗船場に着くと、予定の便より一本前のフェリーが出航直前で、係員が乗れと促すのでそのまま乗船してしまった。青森に早く着いた。まだ酔いが醒めていないので、酸ヶ湯温泉まで、相棒が仕方なく深夜を運転する。相棒は、こんなはずではないと言う。深夜に酸ヶ湯キャンプ場に着く。今回は管理棟ではなく車中泊である。

7/9 酸ヶ湯温泉登山口⇒仙人岱⇒大岳⇒井戸岳⇒赤倉岳⇒毛無岱⇒酸ヶ湯温泉登山口へと周遊した。途中女性登山者に「遅いですね」とまた言われて抜かれた。疲れを感じる。岩木山に行く。9合目までリフトで登り、頂上へ。頂上で山の管理人から雷でリフトが止まるかも知れないと脅されて急いで下山する。途中パーキングエリアで仮眠を取りながら、睡魔と闘い我孫子に着いたのは、翌7/10の昼頃であった。やはり疲れた。思い返してみると、この山旅は、山の景色を楽しむのではなく、山を登り続けるチャレンジを楽しむものになっていた。

北海道は、我々と同じように登山口や道の駅で車中泊をし、登山を続ける人が非常の多い。

同じパーティーによく出会い、お互いに山に関する情報交換をする。

この山旅の後、8/8 白馬三山～不帰剣～唐松岳の縦走、9/2 八ヶ岳の縦走（硫黄岳～横岳～赤岳～阿弥陀岳）、9/18 本白根山・高妻山の登山を終え、10/12 最後に残しておいた蔵王山（刈田岳～

熊野岳）を嫌がる家内を無理に連れて、日本百名山登頂達成した。



岩木山頂上にて



百名山達成記念(家内と)蔵王熊野岳

個人山行

奥利根 檜俣川本流遡行

2020年8月14~15日

小林 隆



毎年のように暖かくなると沢に行く友人4人で、「やっぱり、沢は明るくてきれいな方がいいなあ」と意見がまとまり、奥利根の檜俣川本流を詰めることにした。源頭にある赤倉山(1,959m)は、「特選マイナー12名山」に認定されている名山?で、猛烈な藪こぎで到達が難しいというのも興味をそそる。

初日の早朝、奥利根スキーパークの駐車場に集合してから車一台に乗り込み出発。奈良俣ダムのゲートから荒れた林道を徒步なら2時間ほど進んで、狩小屋沢出会いを過ぎて沢に降りる。明るい茶系の岩とエメラルドグリーンの水が美しい。連続するナメや小滝を気持ちよく登る。釣り人も結構来ている。入渓点から距離7km、標高差300mの南沢出会いの上の左岸に良いテント場があり早々に設営して釣りに向かう。4人で2時間ほどのうちにイワナを7尾釣り上げた。こうなると焚き火が待ち遠しく、流木を集めて準備を始める。それぞれが担いできた様々なアルコール類をイワナの塩焼きを頬張りながら嗜む。沢登りならではの至福を感じる。日が落ちると焚き火の炎がみんなを照らし出し、昔のように議論して笑う顔がまぶしい。

2日目、燐火を起こして朝食を取りハーネスや

最小限のガチャを着けて7時に出発。2万五千地図の沢種沢と書いてある箇所を過ぎると両岸が切り立って、4~5mの滝や小ゴルジュが続いて面白くなる。いずれも適当なホールド、スタンスがあって快適に飛ばしながら遡行していく。1761m標高点から南にのびる小尾根をはさんだ左股の入り口に7mの滝。登るのはいいが下りはいやらしそうだ。

その先は次第に傾斜もきつくなり水量が少なくなると同時に沢に木や笹が覆いかぶさってくる。そのうち笹だらけのトンネルになり視界も効



かない。笹をかき分かつて登る手が痙攣してくる。予想以上にきびしい藪漕ぎだが誰も引き返すと言わない。やたらに時間が長く感じて苦痛が頂点に達したころようやく草付きの壁の上に稜線が見えた。しばらく行くときれいな草地が広がっていて大休止とする。尾瀬、日光や上州の山々が良く見える。

せっかくここまで來たので赤倉岳に向かうが、身の丈ほどのうっそうとした笹に倒木が行く手を阻み時間切れで、ピークを目の前にして引き返すことにした。

上りでいやらしく感じた7m滝はやはりクライムダウンは危なそうなので、スリングで笹を束ねて支点を作り懸垂下降する。あとは入渓点まで12km、標高差800mをひたすら下る。暑さも加わり疲労が増して足がすすまない。水はたくさんあるのにやたらにのどが渴く。足元がふらついているの

で小滝も気を使う。楽しい沢登りが苦行になってきた。18時、11時間行動の末に入渓点に到着。とにかく明るいうちに終了できたことを喜び、みな体力の衰えに笑いが止まらない。あとは林道をひたすら歩くだけ。

檜俣川本流は美しくも長く、決して忘れえない沢の一つとなった。



概念図



個人山行

秋田森吉山 桃洞沢遡行～赤水沢下降

2020年10月23～24日

白崎哲史



桃洞滝

感嘆の言葉しか出てこない、

紅葉のゴールデンルート紀行

「小雨予報だけど、小雨なら大丈夫です。ただ、寒気団が南下していますから、十分にあったかい恰好をしてきてください」

「そちらの紅葉はいかがですか」

「もう、ばっちり。クライマックスを迎えていきます。期待してください」

秋田訛りでそう言って切れた電話の相手は、現地ガイドの宮野さんだった。

秋田・森吉山の東北部には広大なブナ林（アカガラの森）が広がっている。そして、その先には、錦に染まった桃洞沢と赤水沢が待ってくれているに違いなかった。

ぼくは、この山行の同行者である、矢野貞子さんと千葉有子さんに「決行です」とメールした。

※ コロナ禍でどこへも出かけられなくなつた2020年4月。ネットで各地の山の様子をチェックした方は少なくないだろう。ぼくもその一人だ。

細谷さんが計画し、ぼくがサポートすることになっていた皇海山は、コロナ禍がなくとも栗原川林道の閉鎖で皇海橋からの登山が難しくなっていた。ならば、林道を歩くか?と考えたときに、栗

原川を遡行するというはどうなんだろう、という思いが頭をよぎった。

YamaRecoで調べてみると、栗原川は「ナメが美しい」とある。写真を見ても、気持ちよく歩けそうだ。ただし、いくつかの滝（大膳滝・円覚の滝など）がある。小林隆さんにメールで「こういう滝って、初心者には難しいですか?」と聞くと、案の定「難しいんじゃない」との返答。「当たり前か」と思う一方で、「だったら、沢登りを習おうか」という思いがぼくのなかに湧いてきていた。

その前の年、福島の只見町のブナ林「癒しの森」を訪ねた際に、武内さんから「秋田の赤水渓谷のほうがスケールが大きい」という話も聞いていたので、赤水沢も調べてみた。すると、そこで目にした写真の数々に、ぼくの目はくぎ付けになった。

「何この沢は。ナメがずっと続いているって、どういうこと?」

「こんなところ歩いたら、ぜったいに気持ちいいじゃん」

「スグーッ、こんな紅葉、見たことない」……

ぼくのなかで、「ここはぜひ、紅葉シーズンに訪ねてみなければ」という思いがふつふつと湧き上がってきたというわけだ。

道具を揃え、初心者でも参加できる講習会を探し、丹沢・秦野地区の遭難救助隊の隊長、後藤真一氏が主宰している講習会に参加した。そしてその2回目の講習会で、ぼくは沢登りの洗礼を受けた。

丹沢の初心者向けの沢として知られる「マスキ嵐沢」。その最後の詰めに 10m の岩棚が立ちはだかっている。右側には巻き道もあるが、ほぼ垂直にそり立つその岩棚を登る、と言う。

後藤さんにしてみれば、受講者の技量を評価し、問題が判明すればその問題を指摘して自助努力を促すためであったのだろう。結局、ぼくはその岩棚を登れず、こう指摘された。

「君は、クライミングの基本ができていない。その基本とは、①足の親指の腹に全体重を乗せて体を支えること、②体は垂直もしくは後傾させて

登るとき以外腕には力をいれないこと、③ゆっくりとした体重移動で一步一歩確実に登っていくこと、の3つ。これはクライミングジムに通うと、自ずと学べる」

乗りかかった船だ。クライミングジムに通って課題を少しずつクリアしていくと、後藤さんが言っていた意味が理解できた。なるほど、である。

しかし、それだけでは沢登りの入り口に立てたというだけだ。その後も後藤さんの講習会に参加し、ロープワークに特化した講習も受けた。

こうして、桃洞沢・赤水沢の周遊が身近になってきたわけだが、一人で周遊ルートを歩けるわけではない。現地ガイドを頼むことにして、何名かの方に一緒に行きませんかと声をかけてみた。すると、千葉有子さんと矢野貞子さんから、興味があるとの回答を得られた。こうなってくると、すべてに感謝したい気持ちになってくる。

10月24日午前7時。待ち合わせ場所である森吉山野生鳥獣センターに現れたガイドの宮野さんは、がっちりとした体つきの快男子であった。歳はぼくと同じくらいだろうか。

小雨はずっと降っていて、外気温は5度程度。雨具を着込み、沢装備をすべて着用して出発すると、周囲の森全体が明るいイエローゴールドの光に包まれ始めた。ブナの黄葉である。

「Woo!! 圧巻ですね。こんな光景見たことがありません」「ここは特別なさ。前の天皇もここに来て、よくぞ残してくださいました、と言ってくれました」

雨の日は葉の発色が良くなるので、実は紅葉の撮影日和であったりもする。ぼくは予め、宮野さんに写真も撮りたい旨を知らせてあった。その宮野さんがぼくのカメラを見ると、「同じ、同じ。ワシもCanon使っている」などと言う。そして、わざわざ自分が見つけた撮影ポイントに立ち寄り、この地に特徴的な植物やその名前の由来、活用方法などを丁寧に説明してくださるのだった。

「この辺に熊はいないのでしょうか」

「森吉山にはいるけど、この辺にはほとんどい

ない。熊はブナの実も食べるけど、メインじゃないんだよね。メインはミズナラのほう。ブナの実の出来は年ごとに変動するから、そんなの当てにしていたら、お腹いっぱいにならんわな。だから、この辺に出てくるのはハグレ熊くらいさ」

マタギの経験もある宮野さんはこうも言う。

「熊鈴はうるさいだけで、あんまり効果ないとと思う。野鳥の声もそれで聞こえなくなってしまうからね。熊がいそうなら、これからそっちへ行くよと声をかけるように『ウォッ』『ウォッ』って声を出すことだね。そっちのほうがよっぽど熊除けには効果がある」

明るい黄金色に輝く森はどこまでも続き、宮野さんの話も尽きない。

桃洞沢の入渓ポイントに達したのは8時半を回っていた。水は最初だけ冷たく感じたが、明らかに気温よりは高かった。沢床は、すでに一面のナメ。それが沢の終了点まで続くのだ。

周囲の山容も、どこまでも嫋やかな曲線を描いている。この景観がすべて一枚岩で形成されているとは信じがたいが、その岩肌にはそれまで少なかった赤い色が増えていく。気分はすでにハイだ。

こここのナメは、フェルトソールでもラバーソールでもまったく滑らない。でも、そんなことに安心してよそ見をしていると、甌穴に落ちることになる。甌穴を避けながら、ナメ沢を歩き続けると、突如、目の前に大きな滝が現れた。

桃洞滝である。女陰を思わせるその形状はとてもユニークで印象的だ。ここまでが一般登山道で、その上部が、いよいよのバリエーションルート。ここで数枚の写真を撮らせてもらって、沢登りをスタートさせた。

「マタギのステップ」と呼ばれる、人の手で掘られた岩溝を慎重に登っていく。怖さを感じることはないが、登り終わつたあと振り返ると、そこそこの高さがある。その上部は、小滝が連続して現れるものの、ロープの出番は男滝まではない。

「ここはさあ、玉川温泉辺りを中心としたカルデラ噴火でできたんだよ。噴火で吹き上がった溶

岩の温度が高かつたようで、上空で冷えて固まらなかつた。ドロドロのまま溶岩が地面に落ちてきたり、ダーッと横に広がるわな。こここのナメがズーッと続くのはそのためさ」

そうなのか。玉川温泉を中心としたカルデラ噴火。いまそんな噴火が起きたら……なんてことは想像したくない。

やがて現れた男滝は、「ん? どうやって登るんだ」と考えてしまうほど傾斜している。しかし、左岸をよく見ると、ステップらしくものが掘られている。宮野さんはロープを携えてそのステップを登ると、岩盤に設置されたアンカーを利用してフィックスロープを垂らした。

ゴボウで登るのか……結局、桃洞沢の遡行は、ロープで確保してもらっての登攀はなかつた。アンカーも宮野さんが設置したもので、赤水沢の下降においても随所に設けられたアンカーが下降を容易にしてくれることになる。

それにしても、桃洞沢の遡行ルートは思っていた以上に長い。その後もいくつもの小滝を越えていって、ようやく赤水沢への乗越へと向かう枝沢に入った。



ここで、宮野さんの秋田弁が我々を悩ませた。こちらには、「ゆずこう」と聞こえるのだが、「はて? 何のことなのか?」。しばらくして判明した答えは「U字溝」。思わず3人でほくそ笑んでしまった。

沢床は相変わらずナメが続くが、大きめの淵を高巻きするのに時間をとられ、赤水沢への乗越に到着したのは、12時を少し回っていた。

沢がヌメっているとその下降は慎重を要する

が、幸いヌメリはない。昼食休憩は、赤水沢の本流まで降りてからになった。

太陽は一時だけ顔を覗かせてくれたものの、しばらくして隠れてしまい、いまはまた小雨がパラついている。男滝まで出していたカメラも、その後はザックのなかにしまい込んだままだ。

昼食を終えて赤水沢本流の下降を始めたのは午後1時。標準的なタイムより遅れている。宮野さんは甌穴に落ちないよう、自分の後ろをそのままたどるように指示してスタッタとナメ沢を降りていく。しかし、それでも我々3人はそれぞれ一回ずつ、甌穴に落ちてしまうことになるのだが。

赤水沢下降の醍醐味は、何と言っても懸垂下降だろう。デバイスをセットしたロープに体をあづけ、利き手でスピードをコントロールしながら滝を降りていくのは、スポーツというよりは遊びの感覚に近い。

いまでは、懸垂下降のデバイスとして利用されるのは、ATCガイドのほうが多いが、宮野さんのツアーやエイト環が必須だ。その理由は赤水沢下降の最後の滝、うさぎ滝で判明する。



懸垂下降

というのは、うさぎ滝を懸垂下降するためには、ロープは45m以上の長さが必要だが、宮野さんが持ってきてるロープは30mロープと20mロープ。それらを必要に応じて選択し、うさぎ滝まで下ってきた。ときにはデバイスをセットし、ときにはロープをそのまま手に持って。

宮野さんはうさぎ滝の手前で、30mロープと20mロープとをダブル・フィッシューマンズ・ノット

で結び、50mロープに仕立てたのだった。このロープを使って懸垂下降していくためには、ロープのつなぎ目の手前で立ち止まり、つなぎ目をエイト環の輪つかのなかを手で通してあげなければならない(ATCガイドはこれができる)。

幸い、うさぎ滝の途中には、立ち止まれる場所があったが、慣れないその作業に時間をして、うさぎ滝を降りたときには3時になっていた。

急がなければならない。必然的に、歩行スピードはあがる。しかし、赤水沢の水量は桃洞沢よりも多く、すでに7時間以上もナメ沢のなかにいる。そのため、我々はそろそろ沢歩き自体でお腹がいっぱいになりつつあった。そんなこちらの気持ちを察したのか、宮野さんからこんな声が飛ぶ。

「あと、1時間だよ」しかし、その1時間は沢から上がるまでの時間だった。沢から上がったあとも、1時間弱の登山道歩きが待っていた。

結局、森吉山野生鳥獣センターに戻ってきたのは午後5時少し前。沢装備を解除しているうちに、周囲は暗くなっていく。

宮野さんとの別れを惜しみ、我々は玉川温泉へと向かった。しかしながら、心地よい疲労感に身を委ねられたのは、ようやく玉川温泉で食事にありつけた後だった。

(周遊ルートの距離 17.2km／スマホに記録された歩行距離 20.1km)



赤水沢



資料

山行実績

活動の記録

山行一覧表

平成 31 年度（第 24 期）定例・準定例山行実績

NO	山名	山域	月日	形態	G	L (企画)	参加者名	会員	一般
1102	奥日光スノーキング	日光	3/9～10	民宿泊	1 A	中村八	中村八 L 北田 SL 矢野裕 田嶋 村越 藤家	6	
1103	愛宕山～比叡山	京都北西部	3/9～11	宿坊泊	2 A	室崎	室崎 L、外崎 SL、小野、石塚	4	
1104	伊豆ヶ岳～子ノ権現	奥武藏	3/17	日帰り	2 A	本田	本田 L 箕輪 SL 北田 大平 田村 矢野裕 森岡 石塚 秋山 蟹江 高橋富 小島徹 矢野朝 大畠 田嶋 小野 箕輪力 (会友)	16	1
1105	百蔵山～扇山	中央線沿線	3/24	日帰り	2 A	郷田 (一氏)	郷田 L 一氏 SL 小島徹 深草 小林安 蟹江	6	
1106	宝篋山 (新人歓迎山行)	筑波山系	4/7	日帰り	1 A	藤家 高橋富	1班 藤家 CL 外崎 SL 矢野貞 郷田、田嶋 小野 板倉 小島徹 川村 2班 北田 L 高橋芳 SL 箕輪 森岡 矢野裕 小島洋 室崎 増田 飯合 (会友) 3班 小林安 L 武内 SL 中村八 中村育 大平 佐藤 松下 富井 4班 蟹江 L 桐生 SL 高橋英 村越 深草 白崎 一氏 秋山 5班 高橋富 CL 村松 SL 本田 林 齊田 石塚 小林隆 土田 布能	42	1
1107	神成山 (県連ウイークデー山行)	西上州	4/11	日帰り	1 A	深草	深草 L 高橋芳 SL 齊田 石塚 川村 箕輪力 (会友)	5	1
1108	御岩山～高鈴山	常陸	4/12	日帰り	1 A	新谷	新谷 L 大平 SL 武内 矢野貞 本田 林 中村育 矢野裕	8	
1109	笹子雁ヶ腹摺山	中央線沿線	4/13	日帰り	2 B	佐藤	佐藤 L 北田 SL 外崎 小島洋 小林安 一氏 布能	7	
1110	加波山～筑波山	筑波山系	4/14	日帰り	2 A	大畠	大畠 L 高橋 SL 田村 SL 矢野貞 桐生 郷田 石塚 小野 藤家 高橋富 秋山	11	
1111	日光高山	日光	4/19	日帰り	1 B	桐生	桐生 L 蟹江 SL 矢野貞 常井 村松 林	6	

1112	城山～発端丈 山 ・沼津アルプ ス	伊豆	4/21 ～22	旅館泊	2 B	高橋芳	高橋芳 CL 大畠 L 田村 L 箕輪 SL 室崎 SL 北田 SL 齊田 石塚 本田 新谷 高橋富 一氏 矢野朝 箕輪力 (会友) ・日帰り 矢野貞 林 小島徹 松下	17	1
1113	堂所山～景信 山	中央線沿 線	5/14	日帰り	1 A	中村育	中村育 L 村松 高橋英 中村八 矢野貞 SL 本田 石塚 林 高橋富 北田 佐藤 SL 森岡 矢野朝 小山 高橋芳 桐生 新谷 矢野裕 秋山	19	
1114	丹沢山～蛭ヶ 岳～檜洞丸	丹沢	5/17 ～18	小屋泊	3 B	矢野貞	矢野貞 L 佐藤 SL 田村 小林安 秋山	5	
1115	玉原高原	上信越	5/18	日帰り	1 A	村松	村松 L 武内 箕輪 本田 SL 中村育 齊田 高橋富 深草 新谷 田嶋 布能 坪田 (講師)	11	1
1116	那須茶臼岳～ 朝日岳 (市民山行)	那須	6/2	日帰り	1 B	藤家	藤家 CL 村松 CL <1班>佐藤 L 村越 SL 箕輪完 小山 齊田 深草 <ゲスト>福山智 福山幸 <2班>大平 L 矢野裕 SL 外崎 一氏 <ゲスト>水牧 富田 吉本 <3班>桐生 L 中村八 SL 板倉 布能 田嶋 <ゲスト>李 何 <4班>郷田 L 高橋芳 SL 小林安 富井 小野 <ゲスト>東別府 伴田 山下 <5班>森岡 L 矢野貞 SL 増田 高橋富 高橋英 <ゲスト>塩原 向治 向智 <6班>北田 L 田村 SL 新谷 松下 <ゲスト>飯合 (会友) 吉川 小林廣 小林真 <7班>武内 L 本田 SL 石塚 常井 蟹江 小島徹 <ゲスト>朔晦 内藤	37	19
1117	庚申山	足尾山系	6/16 ～17	小屋泊	2 B	大平	大平 L 高橋芳 SL 矢野朝 秋山 桐生、矢野貞 石塚 小野	8	
1118	岩手山	奥羽山脈	6/20 ～21	小屋泊	2 B	北田	北田 L 佐藤 SL 本田 齊田 石塚 高橋富 小林安	7	
1119	和賀岳・女神山	真昼山塊	7/4 ～6	避難小 屋・テ ント泊	3 B	武内	武内 L 大平 郷田 佐藤 外崎 桐生 矢野貞 高橋富 小島洋 小林安	10	

1120	天狗岳（八ヶ岳）	八ヶ岳	7/20 ～22	小屋泊	2 B	林	林 L 森岡 村越 小島洋 布能	5	
1121	日光高山	日光	7/21	日帰り	2 A	高橋芳	高橋芳 L 矢野裕 SL 深草 SL 吉澤 富井 飯塚 秋山 飯合（会友） 金（ゲスト）	7	2
1122	白山（御前峰）	白山	7/21 ～23	小屋泊	2 B	齊田	齊田 L 新谷 SL 桐生 石塚 蟹江 田嶋 佐藤 小野 箕輪力（会友）	8	1
1123	鳥海山	出羽山地	7/25 ～27	小屋泊	3 B	高橋芳	高橋芳 L 矢野朝 SL 常井	3	
1124	黒部五郎岳～笠ヶ岳	北アルプス	7/28 ～31	小屋泊	4 C	矢野貞	矢野貞 L 佐藤 SL 小林安 秋山	4	
1125	会津駒ヶ岳	南会津	8/4 ～5	小屋泊	2 B	石塚 (藤家)	石塚 L 矢野貞 SL 外崎 桐生 藤家 小野 田嶋 土田 渡辺香 秋山	10	
1126	北岳～間ノ岳	南アルプス	8/24 ～26	小屋泊	3 B	田村 (松下)	田村 L 高橋芳 SL 大畠 桐生 深草 松下 布能	7	
1127	木曽駒ヶ岳～越百山	中央アルプス	8/24 ～27	小屋泊	4 C	佐藤	佐藤 L 北田 SL 矢野貞	3	
1128	道東三山 (羅臼岳・斜里岳・雌阿寒岳)	北海道	9/5 ～9	小屋・ 民宿泊	3 B	大平	大平 L 武内 SL 北田 佐藤 白崎 桐生 矢野貞 外崎 布能	9	
1129	池の平湿原 ・竜ノ登山～水ノ塔山	上信越	9/14 ～15	ホテル 泊	2 B	村松 (小島徹)	村松 L 武内 外崎 高橋芳 中村育 村越 小林安 蟹江 一氏 土田 小島徹 SL	11	
1130	金峰山	奥秩父	10/19 ～20	テント 泊	2 B	齊田 (田嶋)	齊田 L 郷田 SL 本田 SL 田嶋 桐生 村越 新谷 矢野裕 石塚 室崎 白崎 板倉 土田	13	
1131	黒檜山～駒ヶ岳	上州	10/20	日帰り	1 A	森岡	森岡 L 佐藤 SL 高橋富 小山 吉澤	5	
1132	三峰山～妙法ヶ岳	奥秩父	11/1	日帰り	2 A	新谷	新谷 L 大畠 本田 SL 石塚 北田 蟹江 田嶋 佐藤 小野 千葉（ゲスト）	9	1
1133	乾徳山	奥秩父	11/1	日帰り	2 B	郷田 (小島徹)	郷田 L 小島徹 SL 森岡 秋山 布能 小山 一氏	7	
1134	表妙義自然探勝路（中間道）	上州	11/9	日帰り	2 B	小島洋	小島 L 佐藤 SL 森岡 矢野裕 秋山 本田 高橋芳 村越 石塚 高橋富 布能 富井 土田 細谷	14	
1135	石垣山	小田原	11/30	日帰り	1 A	箕輪	箕輪完 L 外崎 SL 本田 高橋英 齊田 北田 高橋富 飯塚 一氏 細谷 箕輪力（会友）	10	1
1136	手賀沼クリーンハイク	我孫子・柏	12/8	日帰り	1 A	小島洋	小島洋 L 箕輪 SL 村越 石塚 大平 高橋英 小野 矢野裕 富井 室崎	10	

1137	丹沢大山	丹沢	12/14	日帰り	2 A	本田	本田 L 新谷 SL 箕輪 SL 大平 SL 村越 SL 高橋芳 外崎 矢野貞 齊田 石塚 高橋富 小島洋 小林安 土田 蟹江 田嶋 森岡 一氏 秋山 小島徹 細谷 箕輪力 (会友)	21	1
1138	竜ヶ岳・足和田山 (クリスマス山行)	富士周辺	12/21～22	テント泊	2 A	武内	武内 L 大平 北田 佐藤 外崎 齊田	6	
1139	景信山～陣馬山	中央線沿線	1/12	日帰り	2 B	矢野貞	矢野貞 L 小林安 SL 村越 細谷 石塚 藤家 秋山 布能 田村 外崎 中村育 土田 桐生 千葉 (ゲスト)	13	1
1140	上州武尊山	上信越	1/19～20	旅館泊	3 C	小林隆	小林隆 L 北田 SL 矢野貞 SL 白崎 郷田 桐生 村越 小林安	8	
1141	北八ヶ岳 (茶臼山～縞枯山)	八ヶ岳	2/7～8	小屋泊	2 B	村越	村越 L 本田 SL 矢野裕 小林安 佐藤 細谷	6	
1142	幕山～南郷山 縦走 (新人卒業山行)	箱根	2/8	日帰り	1 A	秋山	秋山 L 土田 SL 富井 飯塚 川村 小山 布能 白崎 大平 外崎	10	
1143	曾我丘陵	小田原	2/15	日帰り	1 A	箕輪	箕輪完 L 本田 SL 高橋英 齊田 矢野裕 村越 室崎 高橋富 田嶋 小島洋 小山 箕輪力 (会友)	11	1
1144	丹沢山	丹沢	2/20～21	小屋泊	3 B	矢野貞	矢野貞 L 田村 SL 深草 小林安 秋山 細谷	6	
1145	足和田山	富士周辺	2/28	日帰り	1 B	齊田	齊田 L 藤家 SL 村越 新谷	4	
計	44回山行							445	32

令和2年度（第25期） 定例・準定例山行実績

NO	山名	山域	月日	形態	G	L (企)	参加者名	会員	一般
1146	鋸山	房総半島	7/5	日帰り	1 A	佐藤・ 白崎	〔A班〕白崎L 外崎SL 松下 小林安 〔B班〕佐藤L 深草SL 蟹江 桐生 高橋富	9	
1147	日光高山	日光	7/19	日帰り	1 A	高橋芳	高橋芳CL、深草L、佐藤L、箕輪SL、 外崎SL、小林安SL、高橋富、蟹江、 田嶋、森岡、田村、矢野朝、本田 小島徹、川村、土田、新谷、北田	18	
1148	御岳山～日の出山	奥多摩	8/10	日帰り	1 A	秋山	秋山L 本田SL 北田、佐藤 高橋富 一氏 石塚 蟹江 大畠、 矢野裕 土田 吉川 飯合（会友）	12	1
1149	半月山～阿世潟峠・切込湖～刈込湖	日光	8/21 ～22	旅館泊	2 A	高橋芳	高橋芳CL 北田L 箕輪SL 外崎SL 桐生 本田 齊田 小島洋 川村 矢野朝 吉川 日帰り 高橋富 蟹江 白崎	14	
1150	高妻山～乙妻山・飯縄山	北信	9/10 ～12	バンガロー泊	3 C	佐藤	佐藤L 田村SL 土田 小林安 郷田 高橋富 矢野貞 北田	8	
1151	磐梯山	会津	9/27	日帰り	1 B	藤家	藤家L 外崎SL 高橋芳 矢野貞 本田 中村育 齊田 村越 大山 石塚 林 北田 深草 小林安 田嶋 小野 矢野朝 一氏 土田 布能 細谷 吉川	22	
1152	焼岳	北アルプス	9/29 ～30	ペンション泊	2 B	桐生	桐生L 北田SL 中村育 林 石塚	5	
1153	日光白根山	日光	10/2 ～3	旅館泊	2 B	佐藤 (細谷)	佐藤L 細谷SL 小島洋 小林安 布能 新谷 千葉 土田 矢野朝	9	
1154	那須岳（沼原湿原）	那須	10/11 ～12	旅館泊	2 B	村越	村越L 本田SL 外崎 大畠 箕輪 大山 田嶋 秋山 布能	9	
1155	信越トレイル (涌井～鍋倉山～関田峠)	信越	10/15 ～16	民宿泊	2 B	矢野貞	矢野貞L 小林安SL 大畠 田村 桐生 石塚 一氏 秋山 土田 吉川	10	
1156	檜洞丸	丹沢	10/21 ～22	小屋泊	2 B	齊田	齊田L 佐藤SL 外崎 本田 高橋芳 中村育 矢野朝	7	
1157	大杉谷～大台ヶ原（日出ヶ岳）	南紀台高 山脈	10/29 ～ 11/1	小屋泊	3 B	高橋芳	高橋芳L 佐藤SL 矢野貞 村越 小林安 一氏	6	

1158	横尾山・瑞牆山	奥秩父	10/30 ～31	小屋泊	2 B	郷田	郷田 L 室崎 SL 森岡 布能	4	
1159	滝子山	中央線沿線	10/31	日帰り	2 B	藤家	藤家 L 矢野裕 SL 大山 石塚 深草 田嶋 矢野朝 小島徹 土田 秋山 細谷 吉川	12	
1160	大菩薩嶺	大菩薩	11/ 8	日帰り	1 A	矢野裕	矢野裕 L 蟹江 SL 土田 秋山 田嶋 一氏	6	
1161	北高尾山稜	中央線沿線	11/14	日帰り	1 A	中村育	中村育 L 矢野裕 SL 小島徹 SL 桐生 蟹江 藤家 川村 大平 石塚 矢野朝 布能 千葉 北田 外崎 本田 村越 森岡 渡邊香	18	
1162	筑波山	筑波山系	11/15	日帰り	1 A	深草	深草 L 白崎 SL 小島洋	3	
1163	手賀沼クリーンハイク	我孫子・柏	11/22	日帰り	1 A	小島洋	小島洋 L 外崎 SL 高橋英 新谷 石塚 室崎 小林安 大平 北田 藤家 蟹江 松下 千葉 吉川	14	
1164	小櫃川(四郎治沢)	房総半島	12/19	日帰り	2 B	白崎	白崎 L 矢野貞 SL 千葉 SL 外崎 小林安 細谷 布能	7	
計	19回山行							193	1

活動の記録

	年	月	日	行 事	場 所	
第1期 会創立	1996年 平成8年	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案等
		10	12~13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊
		10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認

創立から平成21年（2009）2月までの活動の記録はやまなみ第10号、平成21年（2009）3月から平成29年（2017）2月までの活動の記録はやまなみ第16号を参照。それ以降は対象年度を参照。

	年	月	日	定例集会	日	運営委員会・山行部会議	備 考
				行 事			
会 議	2019年 平成31年 (令和元年)	3	3	湖北台近隣センター	19	市民プラザ	
		4	3	アビ스타	16	市民プラザ	
		5	8	アビ스타	21	市民プラザ	
		6	5	アビ스타	18	市民プラザ	
		7	3	アビ스타	23	市民プラザ	
		8	7	パレット柏	20	市民プラザ	
		9	4	アビ스타	17	市民プラザ	
		10	5	五本松公園	15	市民プラザ	
		11	6	アビ스타	19	市民プラザ	
		12	4	アビ스타	17	市民プラザ	
	2020年 令和2年	1	8	アビ스타	21	市民プラザ	
		2	5	アビ스타	13	市民プラザ	
						市民プラザ	(拡大委員会)
第 2 4 期	年	月		行 事	場 所		備 考
	行事	3	3	第22回総会	湖北台近隣センター		
		4	7	新人歓迎山行	宝篋山		
		5	21	市民登山説明会	市民プラザ		
		6	2	市民登山	那須岳		
		7	3	山行文集「やまなみ」第17号発行			
		10	5~6	岳人祭	五本松公園		
		12	3	忘年山行	石割山		
教育 研修	2019年 平成31年 (令和元年)	2	14	入会説明会	市民プラザ		
		年	月	机上研修		実技研修	
		3		オリエンテーション	奥日光	スノーシュー歩き	
		4		読図と地図、アプリで径迷い防止	宝篋山	新会員を歓迎し、山の経験を語る。	
		5		山行の準備（持ち物、パッキング他）	北高尾山稜	静かな山歩き、地形図を読み高尾山を知る	
		6		山登りのための体力づくり	庚申山	山小屋に泊まり、コウシンゾウ・コザクラ等を愛する	
		7		ブナの生態、環境による林相の差（坪田氏）	会津駒ヶ岳	湿原に咲く花を知る	
		8		丸山山行転倒事故、事例検討からの実習			
		9		緊急時の対応（山岳事故における法的責任）	羅臼岳他	北海道の山に登る	
		10		①テント設営②地図読み③ロープワーク	金峰山	紅葉とテント泊を楽しむ	
		11		植物を楽しむ	乾徳山	岩場と展望	
		12		私の写真撮影術2019	丹沢大山	陽だまり山行、大山からの展望	
	2020年 令和2年	1		事故事例に学ぶ。県連事故一覧。 落雷事故報告と対策	上州武尊山	雪山登山	
		2		一年を振り返って（グループ討議）		新人による山行計画と山行の実施	

活動の記録

会議 第 2 5 期	年	月	日	定例集会	日	運営委員会・山行部会議	備 考
	2020年 令和2年	3	1	湖北台近隣センター	17	市民プラザ	
		4					
		5		コロナ流行によりにより中止			コロナ流行により三密回避のため中止
		6					
		7	1	アビ스타	21	市民プラザ	
		8	7	近隣センター（並木本館）	17	市民プラザ	
		9	3	近隣センター（並木本館）	15	市民プラザ	
		10	7	アビ스타	20	市民プラザ	
		11	4	アビ스타	17	市民プラザ	
		12	3	近隣センター（並木本館）	15	近隣センター (並木本館)	
	2021年 令和3年	1	6	zoom会議	21	市民プラザ	
		2	3	zoom会議	21	アビ스타	拡大運営委員会
行事 第 2 5 期	年	月		行 事	場 所		備 考
	2020年 令和2年	3	3	第22回総会	湖北台近隣センター		
		4		新人歓迎山行（中止）			
		6	2	市民登山（中止）			
	2021年 令和3年	2	21	入会説明会	アビ스타		
教育 研修 第 2 5 期	年	月		机上研修			実技研修
	2020年 令和2年	3		オリエンテーション	湖北台近隣センター		
		4					
		5		集会中止のため研修も中止			
		6					
		7		山の天気を知る			
		8		緊急時の対応（法的対応）			
		9		登山時の体の異常と事故対応			
		10		山での食事のとり方			
		11		体力づくりと山のグレーディング (登りたい山に登るために)	北高尾山稜	静かな山歩き	
		12		植物の雄雌	大菩薩嶺	大菩薩峠を訪ねる	
		1		集会がzoom会議により中止			
	2021年 令和3年	2					

編集後記

コロナ禍にあっても会山行は活発に実施され、会は益々盛況だと感じた。四季折々の美しい山を、みんなで安心して登ることの出来る時が早く来るよう願うばかり。編集長の矢野貞子さんにはすっかりお世話になった。貞子さんのテキパキとした作業、段取りの良さは見事で、編集の遅い私を温かく見守っていただき、感謝でいっぱいだ。

中村育子

「やまなみ編集」は山にたとえれば小生にとって3クラスで、慣れないものですから諸先輩に叱咤激励されながら何とか登頂できました。

矢野朝水

コロナに負けるな コロナ禍で運営に取り組まれ岳人あびこの皆さんは、どんな状況下でも負けていません。今編集後記を書いていますが、特にこの一年は、何だったんだろうと自問自答しています。

結論、編集担当として、山行が激減して何ら担当役割を果たせなかつたことが非常に心残りです。その中で貞子編集長は、各項目の取りまとめに苦労された事と推測いたします。

この状況下の<やまなみ>をご理解の上、楽しんでください。

林 敏生

作業の中で一文字一文字読ませてもらうと、書き手の皆様の思いが直に伝わり、まだ見ぬ頂への妄想が広がり、得をした気分です。

矢野裕子

今回「やまなみ」の校正を担当しました。そして、私は以前どの山の「やまなみ」を書いたかなあと、気になりました。最初に書いたのは、2002年11月の権現山、「やまなみ」4号。そして会を離れる最後に書いたのが2010年9月の津梅川～追良瀬川、「やまなみ」12号です。読み直してみると、当時の自分の山への思いが呼びさまされます。これぞ「やまなみ」のよいところ。発行前に全ページを読むことができ、みなさんそれぞれの山への思いを感じさせていただきました。

千葉 有子

コロナ禍で、登山に行けない状況で、楽しみ方がNHK「にっぽん百名山」や「山カフェ」などテレビやラジオでの視覚、聴覚によることが多い中で、やまなみ編集により、岳人あびこの皆様と繋がりを持てたことは大変嬉しく、また、楽しく読ませていただきました。ありがとうございました。

富井 容

やまなみ発行にあたり原稿を書いて頂いた方及び山行のリーダーに感謝いたします。今号はコロナ下で山行も少なくて発行を迷いましたが、編集経験ある先輩達に励まされ纏めることができました。

少ない原稿を補うべく、村松氏、石垣氏、矢澤氏に原稿をお願いしたら快く引き受けてください、面白い冊子にすることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

矢野 貞子

千葉県勤労者山岳連盟

岳人あびこ

山行文集 やまなみ第18号

発行日 令和3年6月1日

発行者 岳人あびこ 会長 高橋芳恵

千葉県我孫子市白山 2-19-20

編集者 会報部 やまなみ編集係 中村育子 林 敏生 矢野裕子
矢野朝水 富井容 千葉有子 矢野貞子

印刷所 太平洋印刷株式会社

(会員限り 非売品)